

武蔵野市障害者計画・第7期障害福祉計画策定のための  
武蔵野市障害者福祉についての実態調査  
報 告 書

令和5年3月

武 蔵 野 市



# 目次

第1章 調査の概要	1
1. 調査の概要	3
2. 調査結果を見る上での注意事項	3
第2章 調査結果のまとめ	5
第3章 調査結果の詳細	17
1. 回答者について	19
(1) 回答者	19
2. 本人について	20
(1) 年齢、性別、居住地域	20
(2) 現在の生活場所	22
(3) 同居者	23
(4) 収入源	23
(5) 世帯収入	25
3. 本人の状況について	26
(1) 手帳の所持状況	26
(2) 手帳の種類と等級	26
(3) 身体障害の種別	30
(4) 医療費の助成状況	31
(5) 受けている障害や疾患の診断	33
(6) 介助や支援の必要性	34
(7) 必要とする介助や支援	36
(8) 主な介助者	39
(9) 主な介助・支援者がいない際の代理者の有無	41
4. 保健・医療について	43
(1) かかりつけ医師の有無	43
(2) 健康・医療面での困りごと	47
(3) 介護保険の認定状況（40歳以上の方）	49
(4) 要介護度（40歳以上の方）	50
(5) 利用中（利用経験あり）の介護保険サービス	51
5. 相談や情報入手について	52
(1) 日常生活で困っていること	52
(2) 相談相手〔家族や友人を除く〕の有無	54
(3) 相談相手	56
(4) 相談する際に不便なこと	60

(5) 相談相手がいない理由	64
(6) 市の生活支援に関するサービスの情報入手源	65
(7) 相談でのコミュニケーションや情報取得をするうえで配慮をしてほしいこと	69
6. 通園・通学について	72
(1) 通園・通学状況	72
(2) 保護者の就労状況（通園・通学者）	73
(3) 通園・通学先（通園・通学者）	75
(4) 通園・通学する上で困っていること（通園・通学者）	76
(5) 日中・放課後・休日などのサービス利用状況（通園・通学者）	78
7. 就労について	81
(1) 就労状況（通園・通学者以外）	81
(2) 現在の職場へ就職した時期（通園・通学者以外）	83
(3) 就職の際に利用した機関（通園・通学者以外）	85
(4) 今後の就労意向	87
(5) 就労の際に心配なこと	90
(6) 必要な就労支援	92
8. 災害時の対応について	95
(1) 災害時要援護者対策事業への登録状況	95
(2) 災害時の不安	97
9. 外出の状況について	99
(1) 外出頻度	99
(2) 外出の際の移動手段	101
10. 趣味の活動や地域の活動について	104
(1) 趣味などの活動への参加状況	104
(2) 参加していない理由	106
(3) 特に用事のないときの過ごし方の満足度	109
(4) 参加したい活動（現在参加中も含む）	111
(5) 周囲の人たちとの会話頻度	114
11. サービスの利用等について	120
(1) 障害福祉サービスの利用状況	120
(2) 障害福祉サービスを利用する際の不便	122
12. 感染症拡大における影響について	125
(1) 感染症拡大による生活や行動の変化	125
(2) 新型コロナウイルス感染症が流行したときに、あなたの生活で経験したこと	127
(3) 新型コロナウイルス感染症に関する情報の入手先	130
13. 障害者差別について	133
(1) 障害者差別解消法の認知状況	133
(2) 合理的配慮が不十分だと感じる場面	135
(3) 差別を受けたと感じたときの相談経験	138

(4) 相談しなかった(できなかった)理由	140
14. 武蔵野市地域自立支援協議会の活動について	141
(1) 武蔵野市地域自立支援協議会の認知	141
(2) 武蔵野市地域自立支援協議会の活動への参加意向	143
15. 人々とのつながりについて	145
(1) 自分には人との付き合いがないと感じることの有無	145
(2) 自分は取り残されていると感じることの有無	146
(3) 自分は他の人たちから孤立していると感じることの有無	147
16. 今後のことについて	150
(1) 成年後見制度の認知	150
(2) 将来の暮らし方	152
(3) 武蔵野市での暮らしの満足度	155
(4) 充実すべき障害者福祉施策	157
(5) 回答者からの意見・要望(自由記述)	160
第4章 調査票	169



# 第1章 調査の概要





## 1. 調査の概要

- ◇調査目的 令和5年度に武蔵野市障害者計画・第7期障害福祉計画を策定するにあたり、基礎資料及び日常生活を送る上で必要になるサービスを検討する資料として活用するために実施した。
- ◇調査対象者 身体障害：身体障害者手帳所持者で「つながり」送付対象者  
知的障害：愛の手帳所持者で「つながり」送付対象者  
精神障害：精神障害者保健福祉手帳所持者と自立支援医療（精神通院）受給者で「こころのつながり」送付対象者  
難病・特定疾患：医療費助成（難病・肝炎・小児慢性）受給者  
児童：障害児通所支援サービス受給者（児童発達支援・放課後等デイサービス）  
※令和4年11月1日現在の状況。児童の区分については令和4年度調査から新規追加
- ◇調査期間 令和4年11月22日から12月16日まで
- ◇調査方法 郵送配布・郵送回収またはWEB回収併用（督促を兼ねたお礼状を1回発送）
- ◇回収状況 配布数3,000件（無作為抽出）  
回収数1,878件 回収率62.6%（令和元年度回収率56.4%）

### <区分別の回収状況>

区分	発送数（件）	有効回収数（件） （うちWEB回答）	有効回収率 （うちWEB回答率）	前回回収率
身体障害	1,396	902(179)	64.6%(19.8%)	58.1%
知的障害	445	294(90)	66.1%(30.6%)	63.4%
精神障害	588	320(121)	54.4%(37.8%)	47.1%
難病・特定疾患	420	279(96)	66.4%(34.4%)	60.8%
児童	151	83(46)	55.0%(55.4%)	-
合計	3,000	1,878(532)	62.6%(28.3%)	56.4%

## 2. 調査結果を見る上での注意事項

- ・表、グラフ中の「n」は、各設問に対する回答者数を示している。
- ・百分率（%）の計算は、「n」を分母とし、小数第2位を四捨五入して表示している。したがって、単数回答（1つだけ選ぶ問）においても、四捨五入の影響で、%を足し合わせて100%にならない場合がある。
- ・複数回答（2つ以上選んでよい問）においては、%の合計が100%を超える場合がある。
- ・本文、表、グラフ中は、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合がある。
- ・回答者数が30未満の場合、比率が上下しやすいため、傾向を見るにとどめ、本文中では触れていない場合がある。



## 第2章 調査結果のまとめ



### 1) 本人について

年齢は「75歳以上」が28.5%で最も多く、「65～74歳」は15.7%で65歳以上の高齢者は44.2%となっている。

調査区分別にみると、身体障害者では「75歳以上」が50.6%を占める。知的障害者では6歳から29歳の若年層、精神障害者では50歳から64歳の年齢層、難病・特定疾患では50歳から64歳及び75歳以上が多くなっている。児童では0～5歳が43.4%、6～18歳が50.6%となっている。

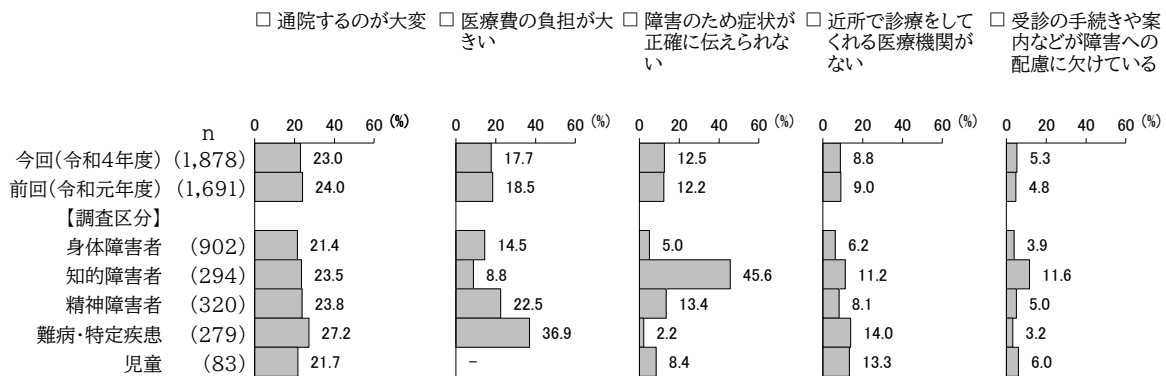
	n	0～5歳	6～18歳	19～29歳	30～39歳	40～49歳	50～64歳	65～74歳	75歳以上	無回答
全体	1,878	2.9	7.2	7.1	7.4	11.2	19.3	15.7	<b>28.5</b>	0.7
身体障害者	902	0.3	1.1	1.8	2.7	7.1	14.3	<b>21.7</b>	<b>50.6</b>	0.4
知的障害者	294	4.8	<b>25.2</b>	<b>26.2</b>	15.3	16.7	9.5	2.0	0.3	-
精神障害者	320	-	1.6	9.1	15.3	16.9	<b>38.8</b>	13.1	5.0	0.3
難病・特定疾患	279	0.4	1.4	3.9	7.5	15.8	<b>29.4</b>	17.9	<b>22.6</b>	1.1
児童	83	<b>43.4</b>	<b>50.6</b>	-	-	-	-	-	-	6.0

※網掛けはその各区分で20%以上の数値

### 2) 保健・医療について

○健康管理や医療で困ったり不便に思うことは、「通院するのが大変」はいずれの調査区分でも2割台となっている。知的障害者では「障害のため症状が正確に伝えられない」が45.6%、難病・特定疾患では「医療費の負担が大きい」が36.9%と他の調査区分より多くなっている。

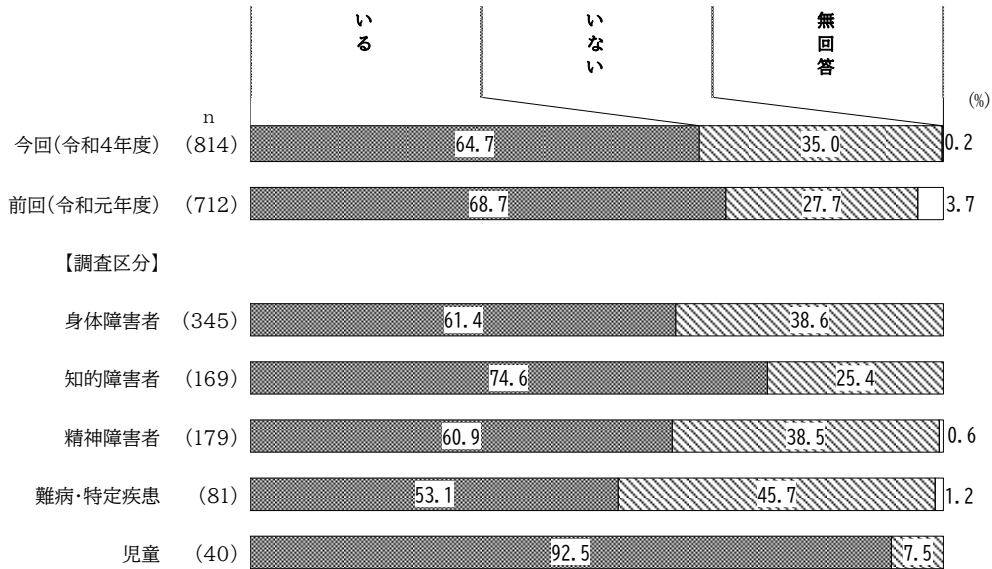
#### <健康管理や医療の面で困ったり不便に思うこと>



### 3) 相談について

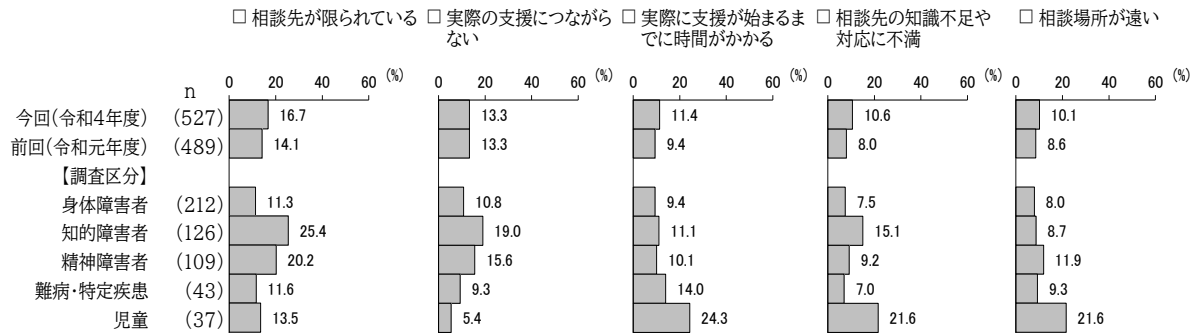
○困っていることを相談する人が「いる」は身体障害者、知的障害者、精神障害者、児童で6割以上となっており、特に児童では92.5%を占めている。

<相談相手>



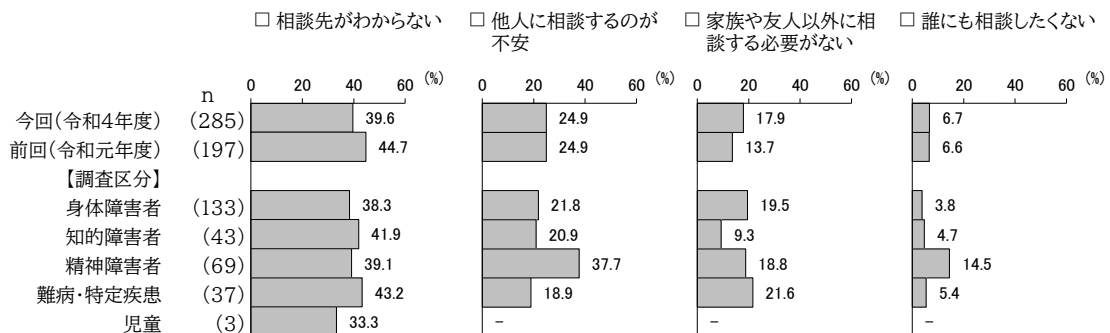
○相談する際に不便に感じていることは、「相談先が限られている」、「実際の支援につながらない」、「実際に支援が始まるまでに時間がかかる」、「相談先の知識不足や対応に不満」、「相談場所が遠い」が1割台となっている。

<相談する際に不便に感じていること>



○相談相手がない理由は、「相談先がわからない」は難病・特定疾患、知的障害者で4割台、「他人に相談するのが不安」は精神障害者で37.7%と他の調査区分より多くなっている。

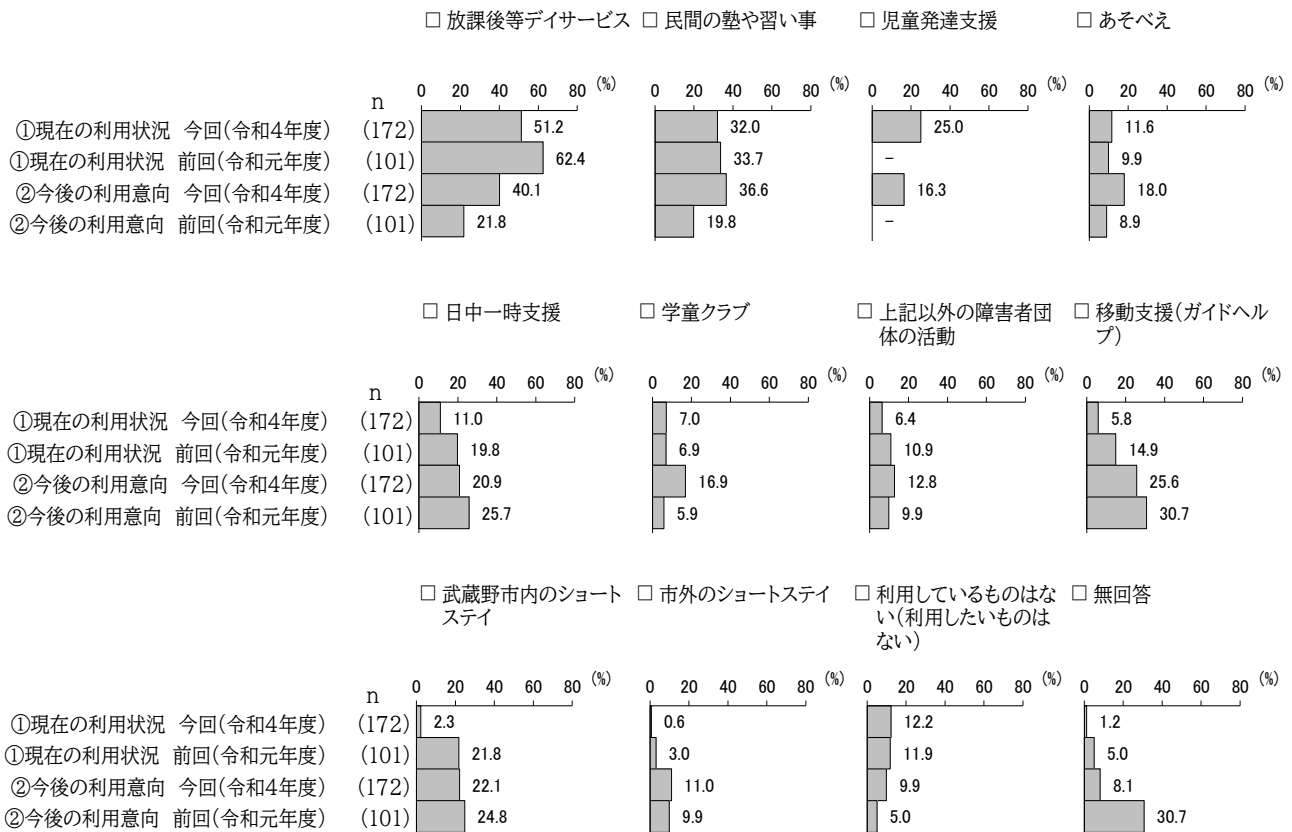
<相談相手がない理由>



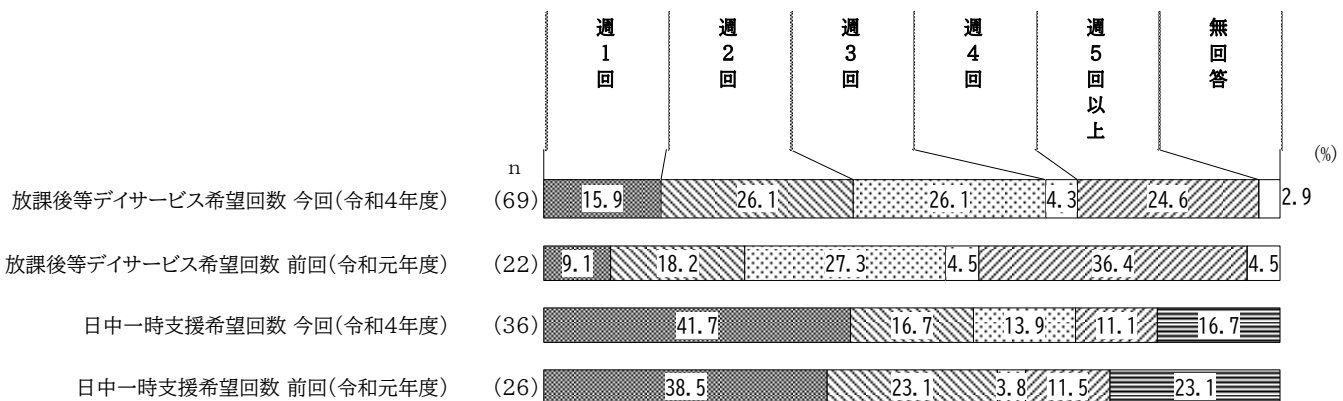
### 4) 通園・通学している障害児(0歳から18歳まで)の日中・放課後・休日などのサービス利用状況について

○現在の利用状況、今後の利用意向ともに「放課後等デイサービス」が特に多い。また、「放課後等デイサービス」の利用希望回数は週2～3回及び5回以上、「日中一時支援」では週1回が多くなっている。

#### <日中・放課後・休日などのサービスの利用状況>



#### <希望する利用回数>

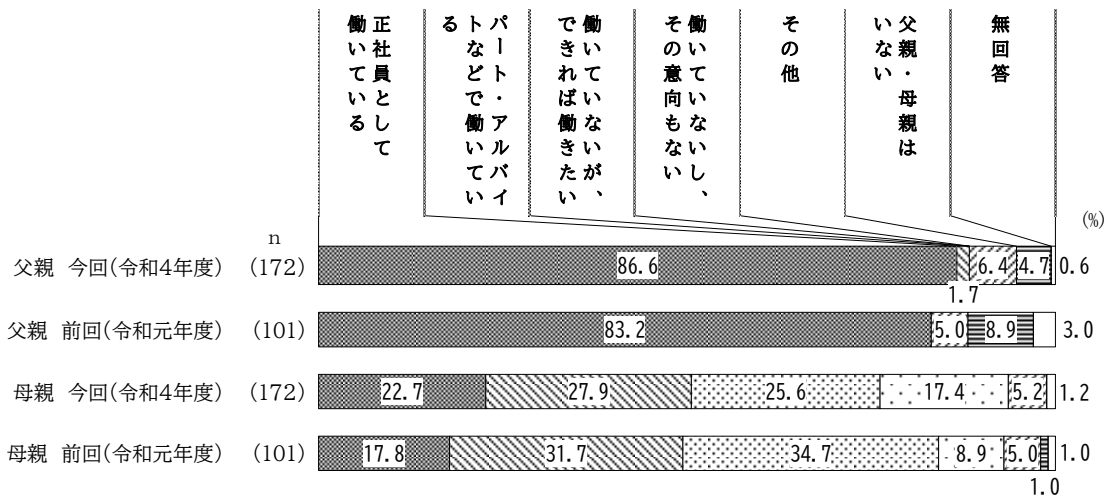


### 5) 通園・通学している障害児(0歳から18歳まで)の父母の就労について

○父親の就労状況は「正社員として働いている」が86.6%を占め、「パート・アルバイトなどで働いている」をあわせた《就労中》は88.3%となっている。

○母親の就労状況は「正社員として働いている」が22.7%で、「パート・アルバイトなどで働いている」をあわせた《就労中》は50.6%となっている。「働いていないが、できれば働きたい」は25.6%となり、前回調査より9.1%減少した。

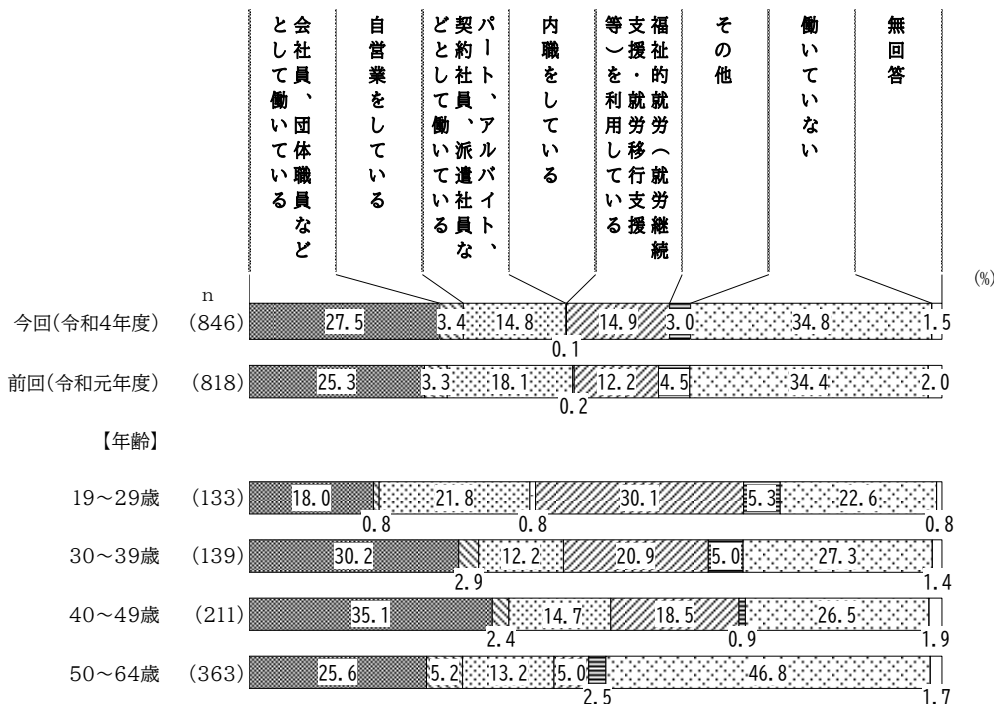
<父親・母親の就労状況>



### 6) 本人の就労について

○本人の就労状況は、19歳～64歳の間では何らかの形で働いている人は63.7%、就労の形態としては、「会社員、団体職員などとして働いている」が3割弱、「福祉的就労（就労継続支援・就労移行支援等）を利用して働いている」、「パート、アルバイト、契約社員、派遣社員などとして働いている」が1割台半ばと多くなっている。

<本人の就労状況>

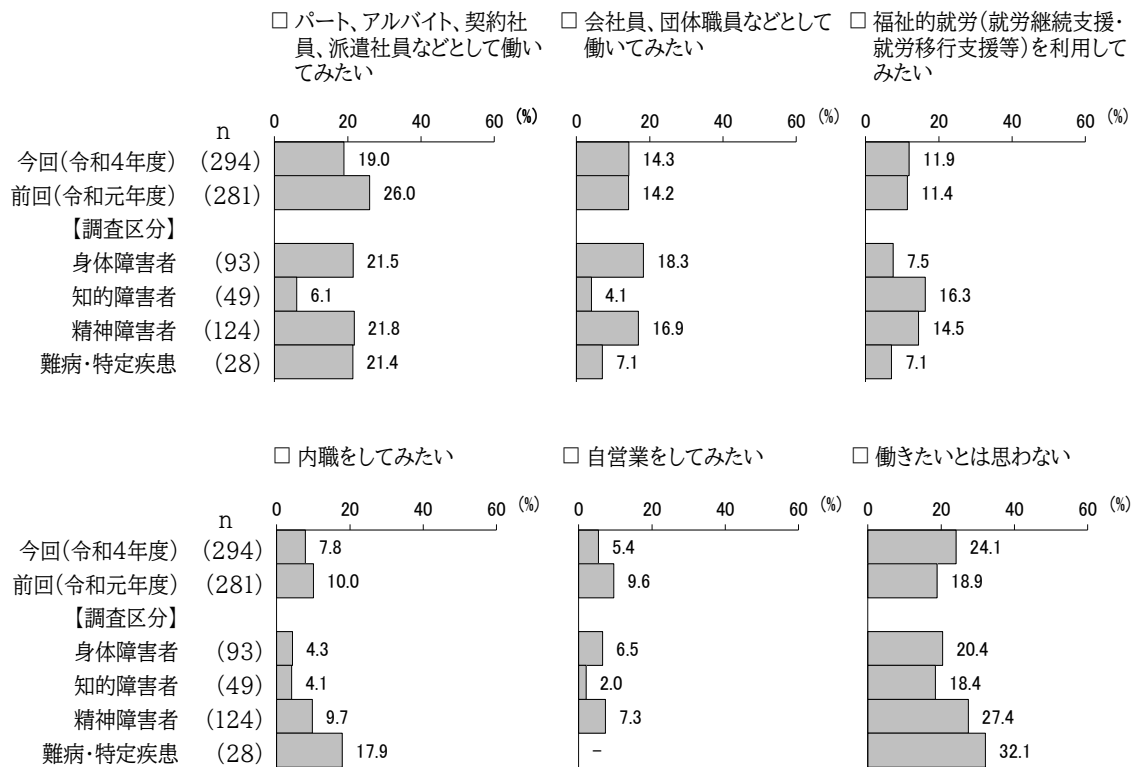


※上図は19～64歳の勤労世代に絞って表示しています。



○今後の就労意向としては、身体障害者、精神障害者、難病・特定疾患では「パート、アルバイト、契約社員、派遣社員などとして働いてみたい」が2割台と多くなっている。知的障害者では「福祉的就労（就労継続支援・就労移行支援等）を利用してみたい」が16.3%と多い。「働きたいとは思わない」は難病・特定疾患で32.1%と多くなっている。

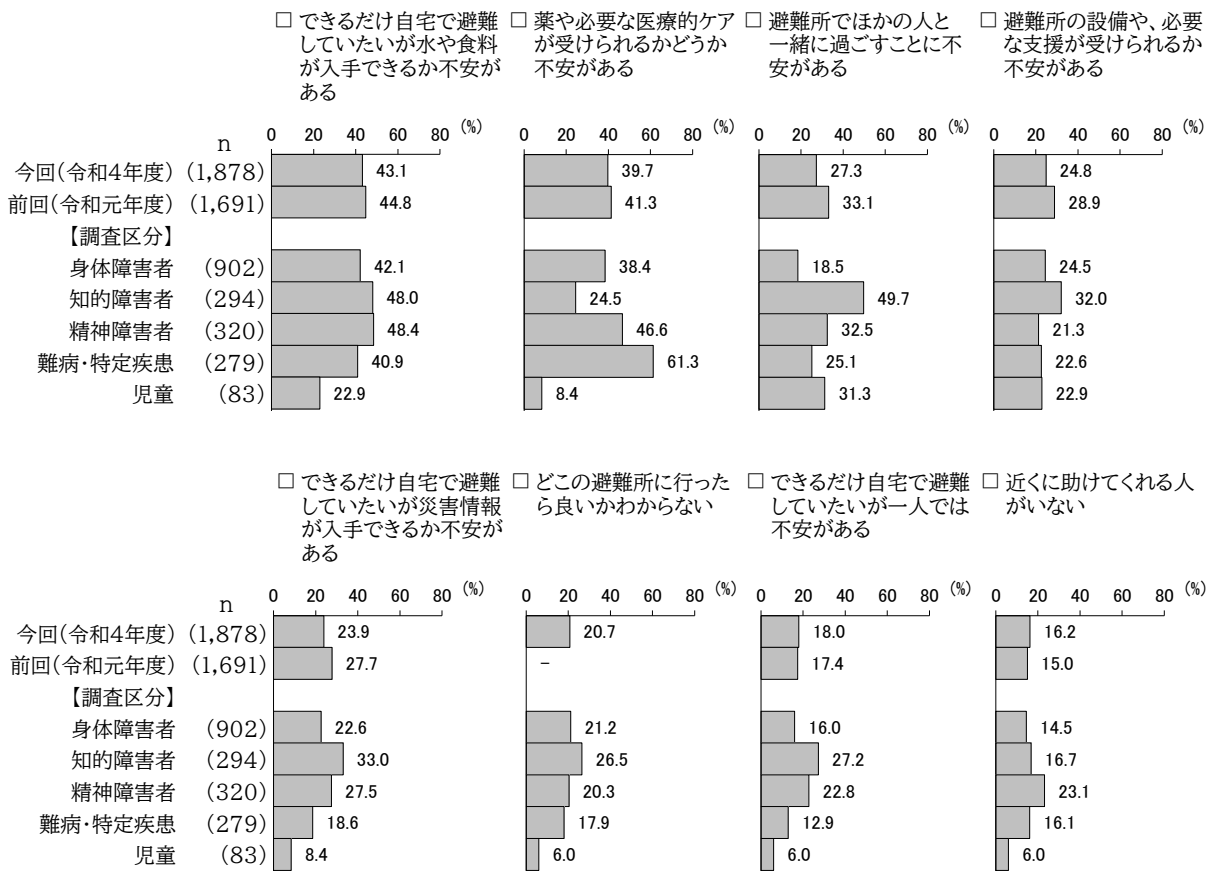
<今後の就労意向>



### 7) 災害時の対応について

○災害時の不安は、「できるだけ自宅で避難してきたいが水や食料が入手できるか不安がある」は児童以外の調査区分で4割台と多くなっている。「薬や必要な医療的ケアが受けられるかどうか不安がある」は難病・特定疾患と精神障害者が多い。「避難所でほかの人と一緒に過ごすことに不安がある」は知的障害者で49.7%と特に多くなっている。知的障害者ではこの他、「できるだけ自宅で避難してきたいが災害情報が入手できるか不安がある」、「避難所の設備や、必要な支援が受けられるか不安がある」、「できるだけ自宅で避難してきたいが一人では不安がある」と多岐にわたる不安が示されている。「近くに助けてくれる人がいない」では精神障害者が23.1%と2割台となっている。

<災害時の不安>

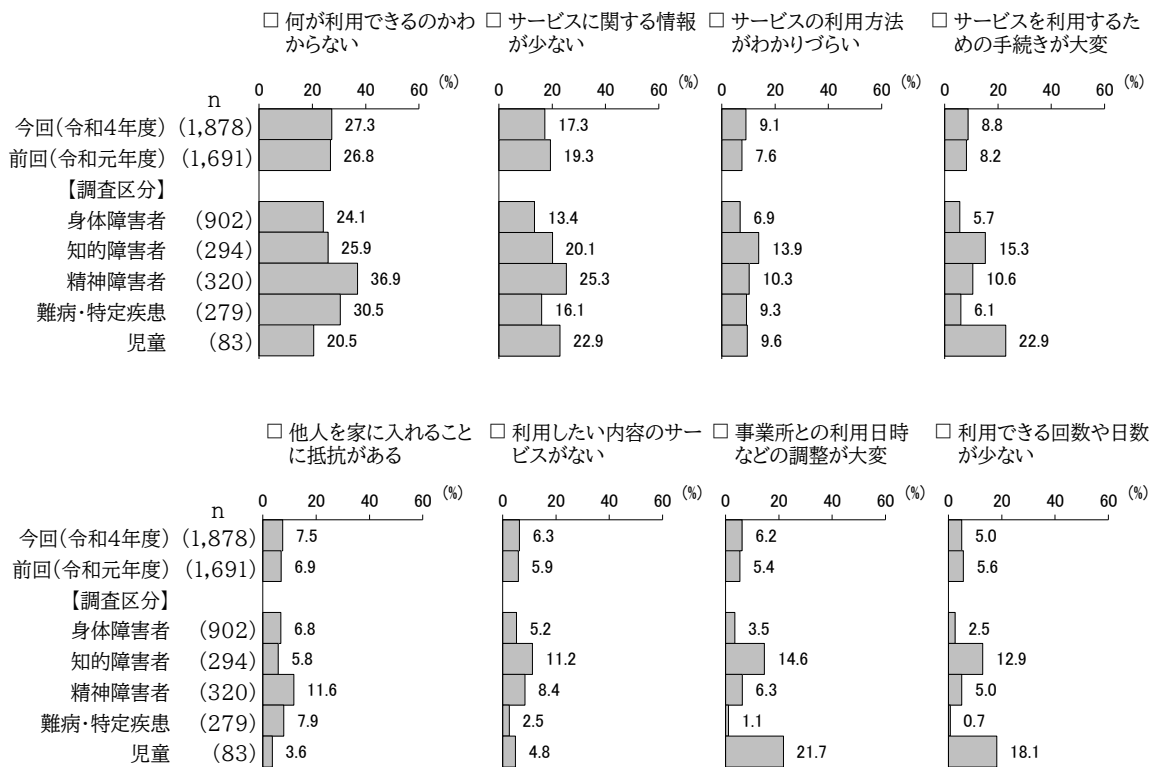


※「どの避難所に行ったら良いかわからない」は今回調査から新規で追加

### 8) 障害者福祉サービスの利用について

○障害福祉サービスの利用の際に不便だと思うことでは、いずれの調査区分でも「何が利用できるのかわからない」と「サービスに関する情報が少ない」が多い。特に精神障害者では「何が利用できるのかわからない」、児童では「サービスを利用するための手続きが大変」が多くなっている。また、知的障害者と児童では「事業所との利用日時などの調整が大変」、「利用できる回数や日数が少ない」も他の調査区分より多くなっている。

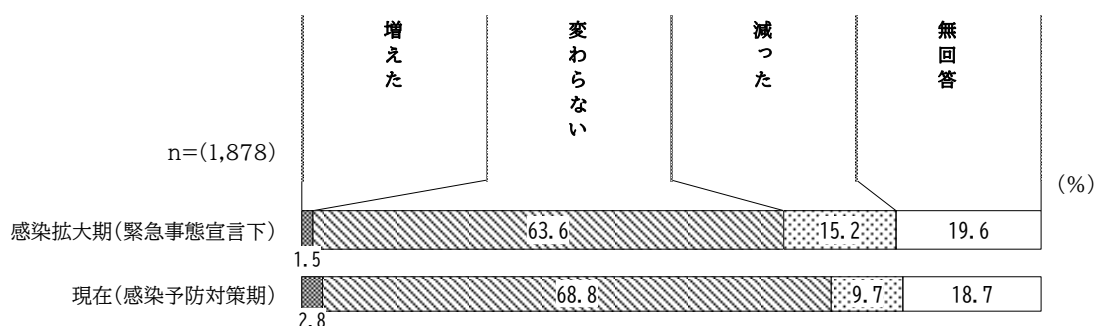
<障害福祉サービスを利用する際の不便>



### 9) 新型コロナウイルス感染症の影響について

○感染症拡大による生活や行動の変化を聞いた。障害福祉サービスの利用は、どちらの時期も「変わらない」は6割台となっており、感染拡大期（緊急事態宣言下）に「減った」は15.2%、現在（感染予防対策期）に「減った」は9.7%となっている。

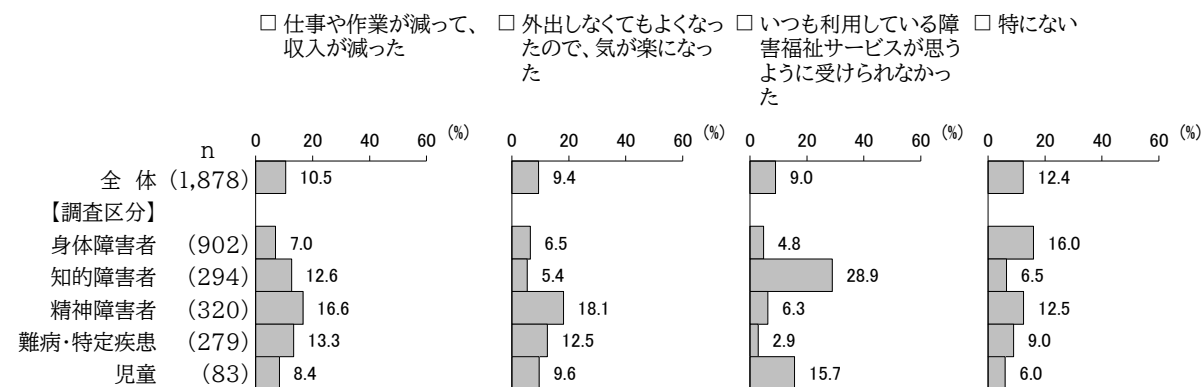
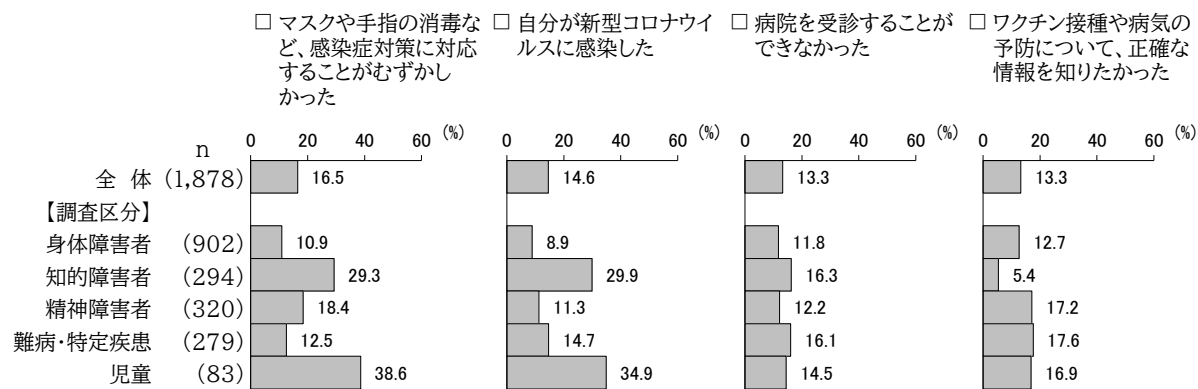
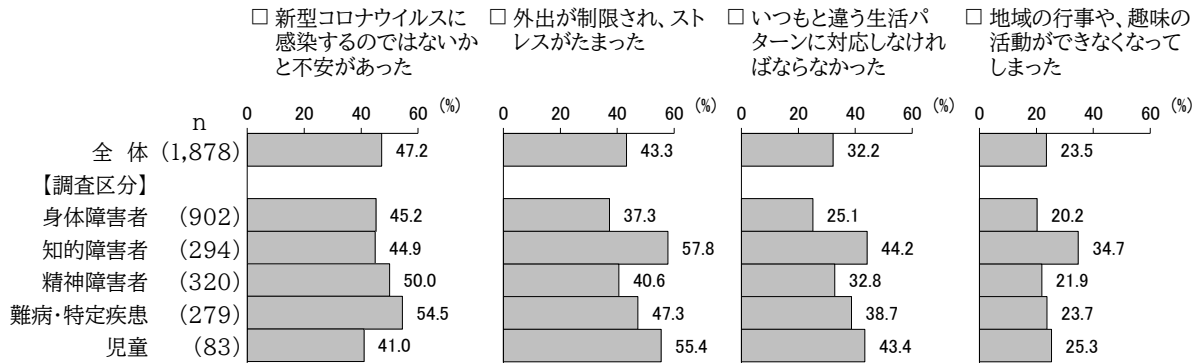
<障害福祉サービスの利用>



## 第2章 調査結果のまとめ

○新型コロナウイルス感染症拡大時の経験は、難病・特定疾患、精神障害者では「新型コロナウイルスに感染するのではないかと不安があった」、知的障害者と児童では「外出が制限され、ストレスがたまった」が5割台と多い。知的障害者では「いつも利用している障害福祉サービスが思うように受けられなかった」が28.9%と他の調査区分より多くなっている。

### <新型コロナウイルス感染症拡大時の経験>

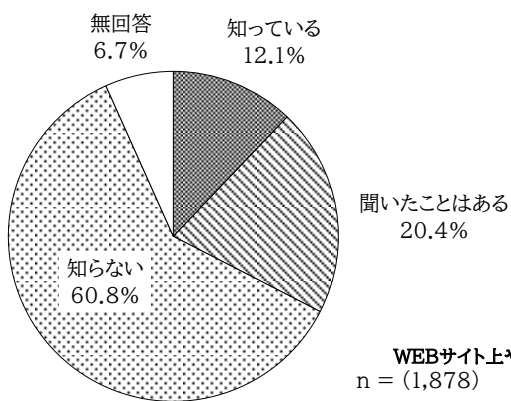


### 10) 障害者差別解消法について

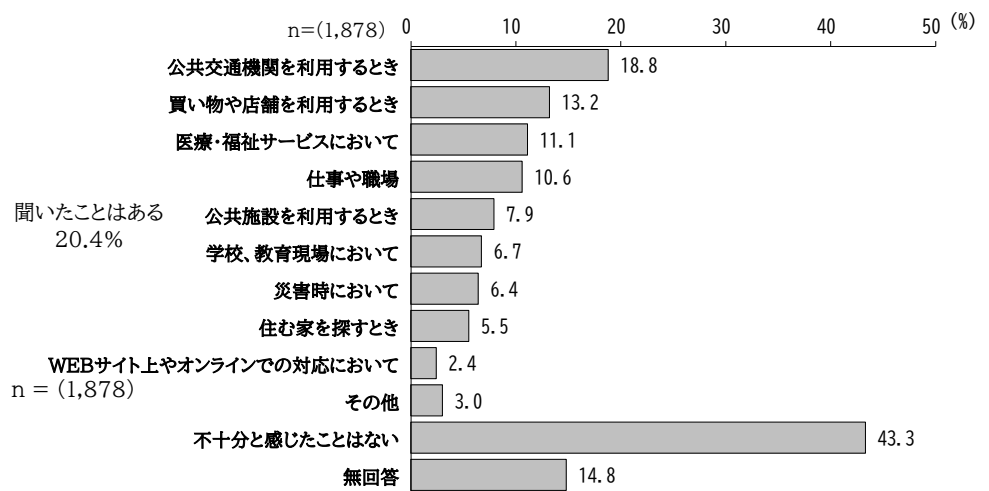
○障害者差別解消法を「知っている」は12.1%、「聞いたことはある」は20.4%となり、両者をあわせた《認知》は32.5%となっている。

○合理的配慮が不十分だと感じる場面があるかを聞いたところ、「不十分と感じたことはない」が43.3%と多くなっている。感じたことがある場面では、「公共施設や交通機関を利用するとき」、「買い物や店舗を利用するとき」、「医療・福祉サービスにおいて」、「仕事や職場」が1割台となっている。

<障害者差別解消法の認知状況>



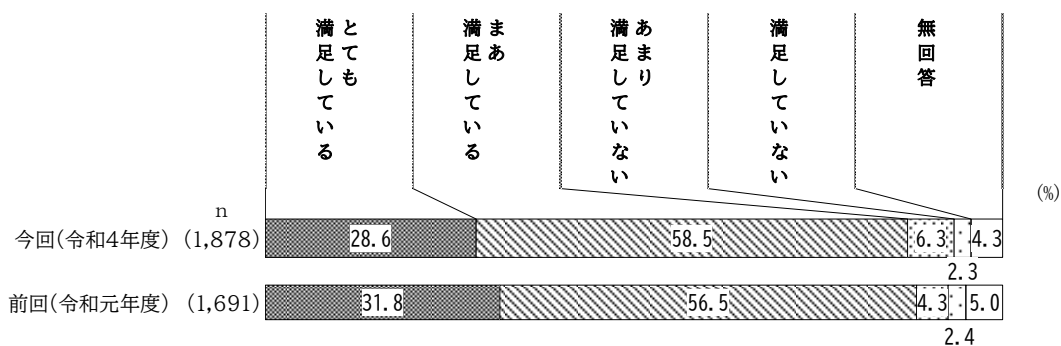
<合理的配慮が不十分だと感じる場面>



### 11) 今後のことについて

○武蔵野市での暮らしに「とても満足している」は28.6%で、「まあ満足している」をあわせた《満足している》は87.1%となっている。《満足していない》は8.6%となっている。

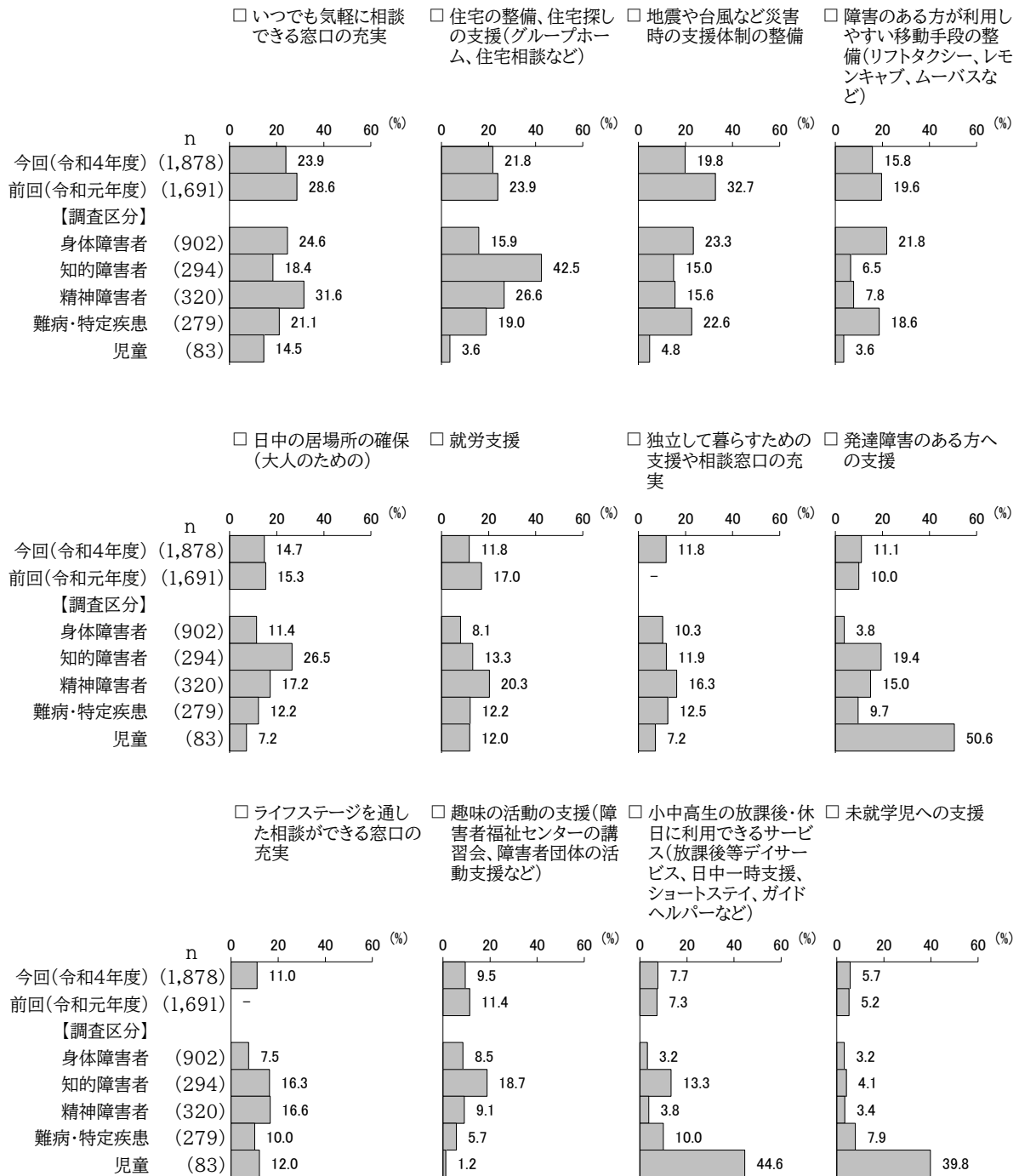
<武蔵野市での暮らしの満足度>



12) 施策の要望

○施策要望では、「いつでも気軽に相談できる窓口の充実」、「住宅の整備、住宅探しの支援」が2割台で多く、以下、「地震や台風など災害時の支援体制の整備」、「障害のある方が利用しやすい移動手段の整備」、「日中の居場所の確保」、「就労支援」、「独立して暮らすための支援や相談窓口の充実」、「発達障害のある方への支援」、「ライフステージを通じた相談ができる窓口の充実」が1割台が続いている。

<施策要望>



## 第3章 調査結果の詳細

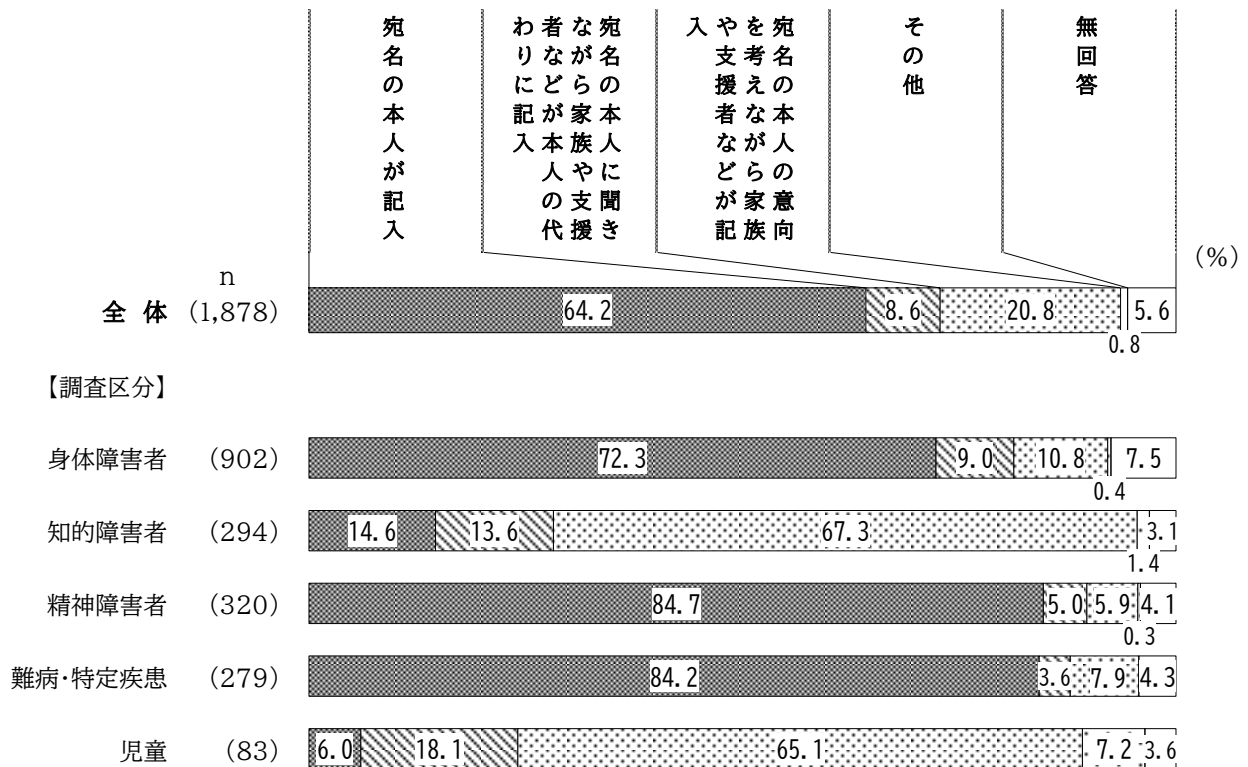




# 1. 回答者について

## (1) 回答者

問1 回答されている方はどなたですか。(1つに○)



調査票の記入者は、「宛名の本人が記入」が最も多く64.2%となっている。

調査区分別にみると、「宛名の本人が記入」は精神障害者（84.7%）、難病・特定疾患（84.2%）が8割台、身体障害者が72.3%となっているが、知的障害者は14.6%、児童は6.0%と少なく、「宛名の本人の意向を考えながら家族や支援者などが記入」がどちらも6割台となっている。

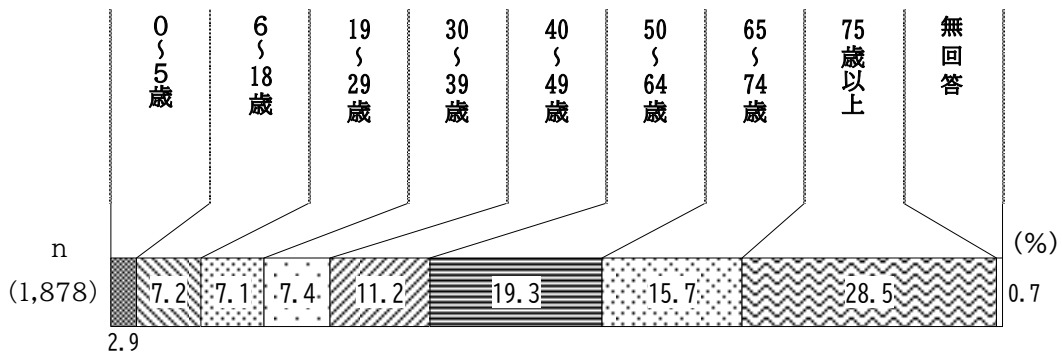
以降の分析をみる場合には、上記の点に留意する必要がある。

## 2. 本人について

### (1) 年齢、性別、居住地

問2 あなたの年齢、性別、お住まいをお答えください。(それぞれ1つに○)

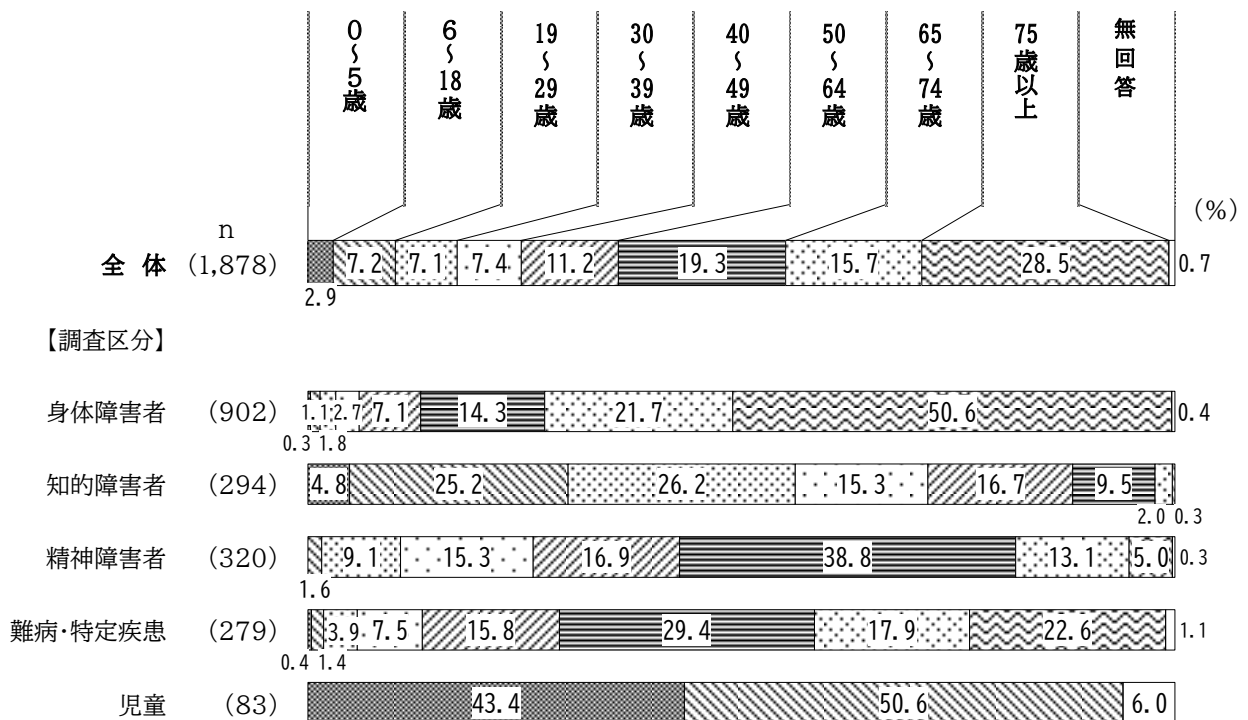
#### ①年齢（令和4年11月1日現在）



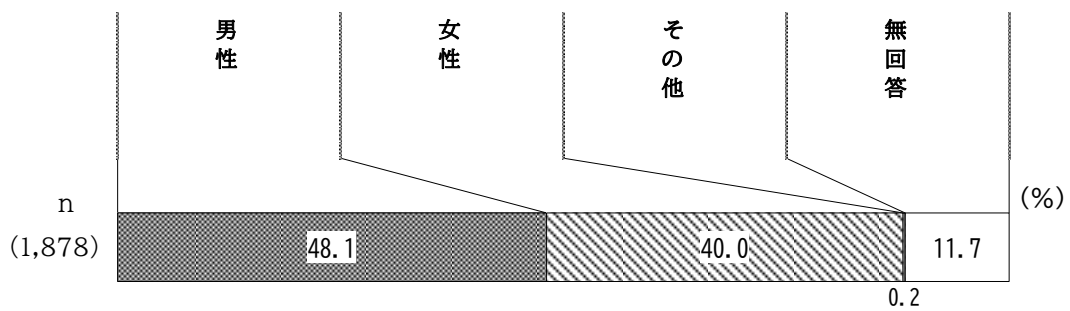
年齢は「75歳以上」が28.5%で最も多く、「65～74歳」は15.7%で65歳以上の高齢者は44.2%となっている。

調査区分別にみると、身体障害者では「75歳以上」が50.6%を占める。知的障害者では6歳から29歳の若年層、精神障害者では50歳から64歳の年齢層、難病・特定疾患では50歳から64歳及び75歳以上が多くなっている。児童では0～5歳が43.4%、6～18歳が50.6%となっている。

#### 調査区分別

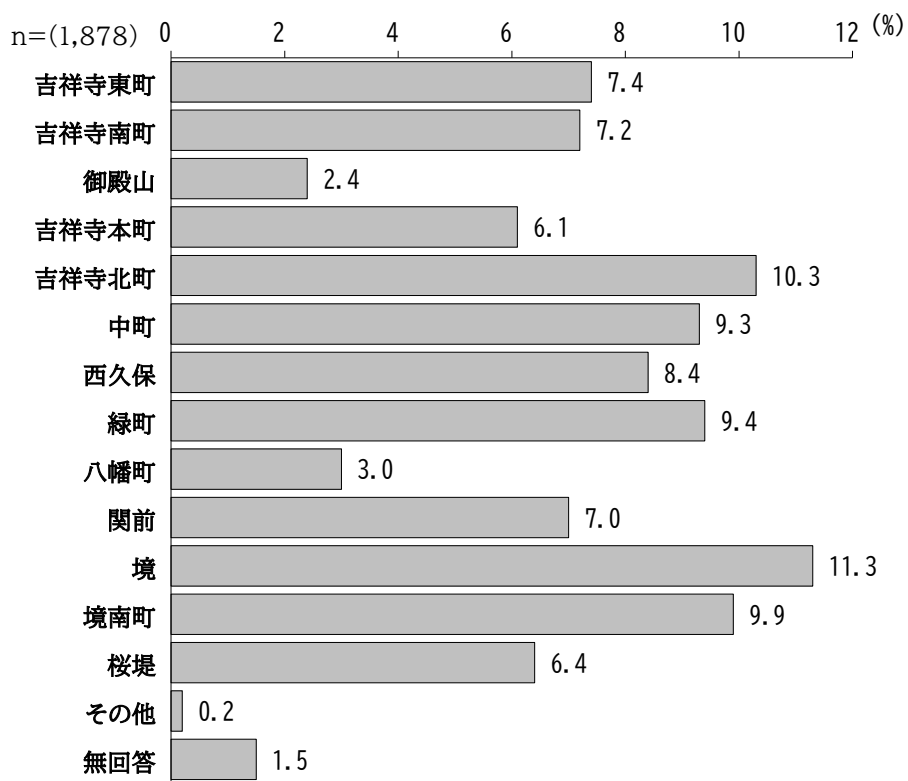


②性別



性別は、「男性」が48.1%、「女性」が40.0%、「その他」が0.2%となっている。

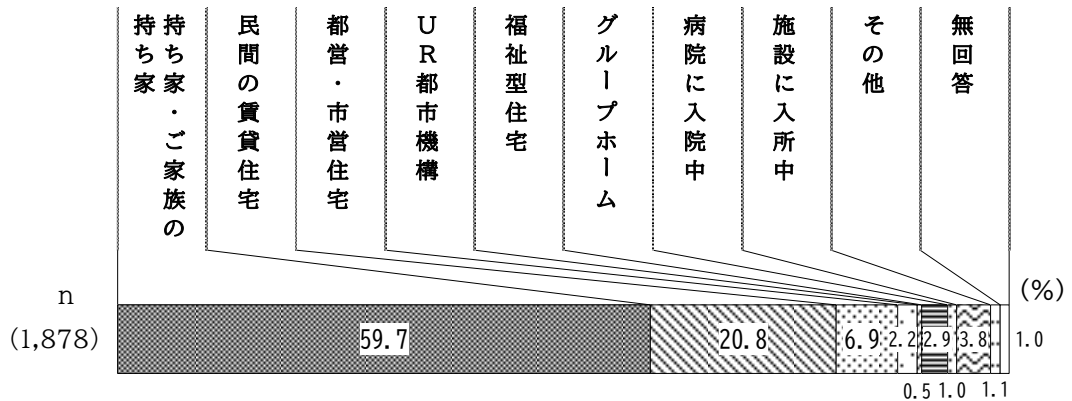
③居住地域



居住地区は、「境」(11.3%)、「吉祥寺北町」(10.3%)、「境南町」(9.9%)が1割前後となっている。

(2) 現在の生活場所

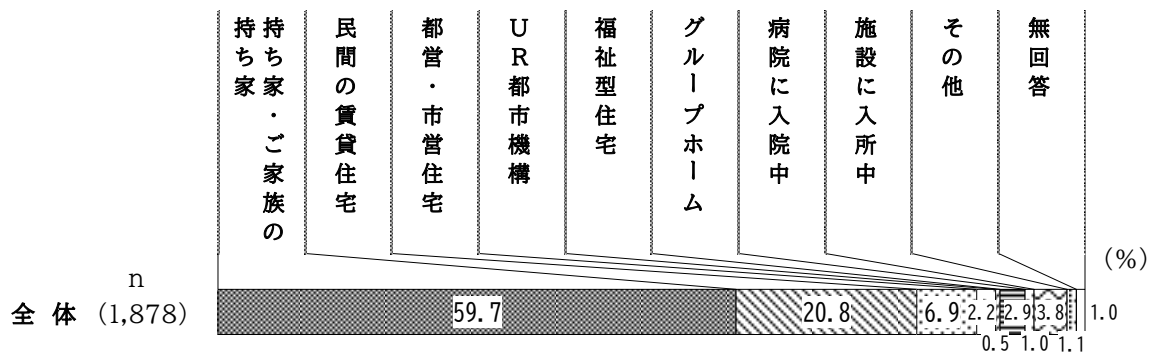
問3 あなたは現在どこで生活していますか。(1つに○)  
 ※週末だけご自宅に戻られている方などは、週のうち一番長く居る場所をお答えください。



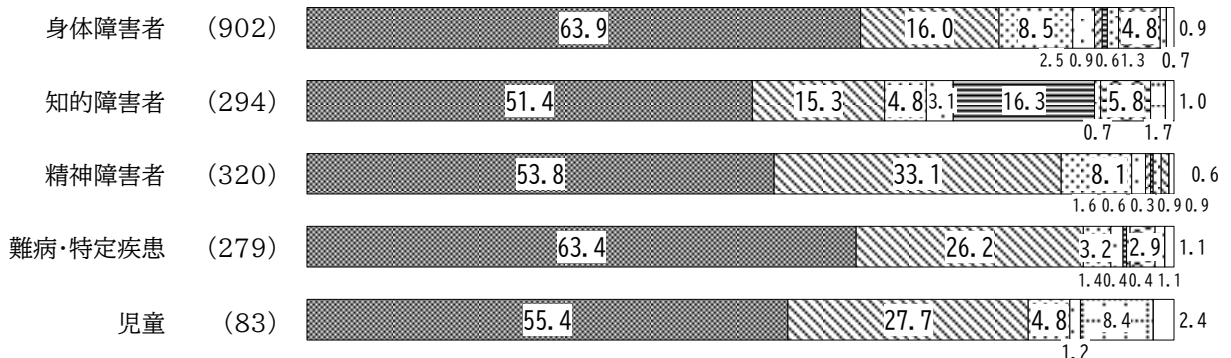
現在の生活場所は、「持ち家・ご家族の持ち家」が59.7%で最も多く、これに「民間の賃貸住宅」が20.8%で次いでいる。

調査区分別にみると、いずれの調査区分でも、「持ち家・ご家族の持ち家」が5割以上となっている。

調査区分別

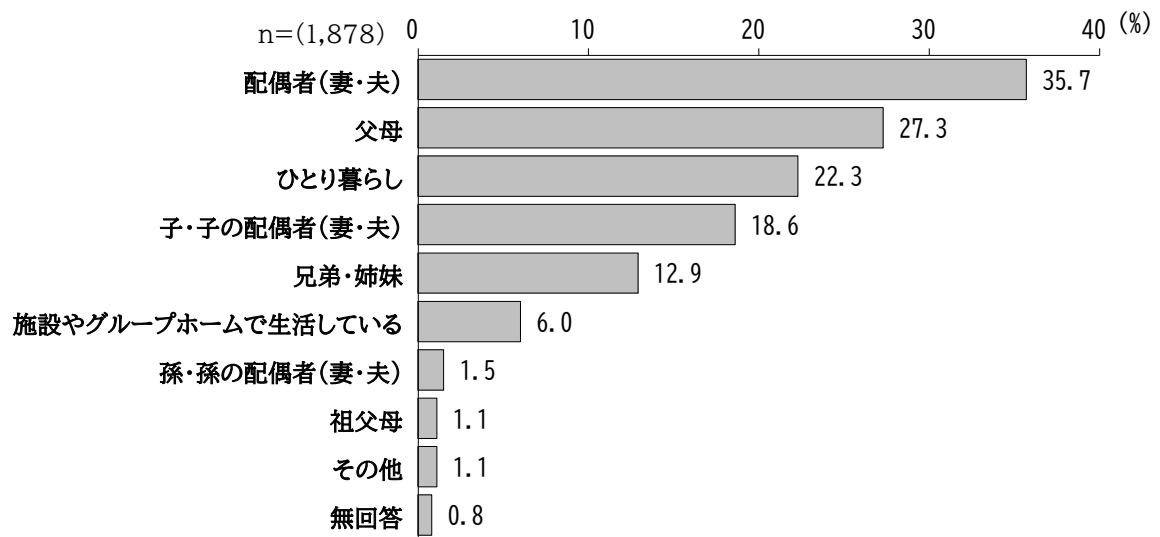


【調査区分】



## (3) 同居者

問4 あなたはどなたとお住まいですか。(あてはまるものすべてに○)

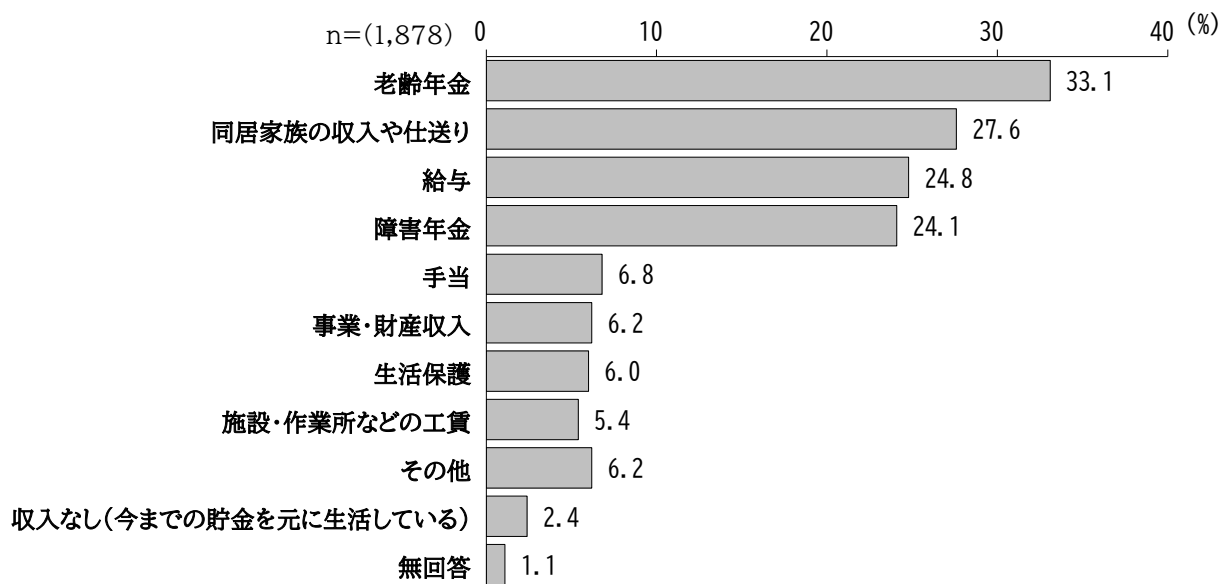


同居者は、「配偶者(妻・夫)」が35.7%で最も多く、以下、「父母」(27.3%)、「ひとり暮らし」(22.3%)が2割台、「子・子の配偶者(妻・夫)」(18.6%)、「兄弟・姉妹」(12.9%)が1割台で続いている。

## (4) 収入源

問5 あなたが生活するためのお金(収入源)は、次のうちどれですか。

(あてはまるものすべてに○)

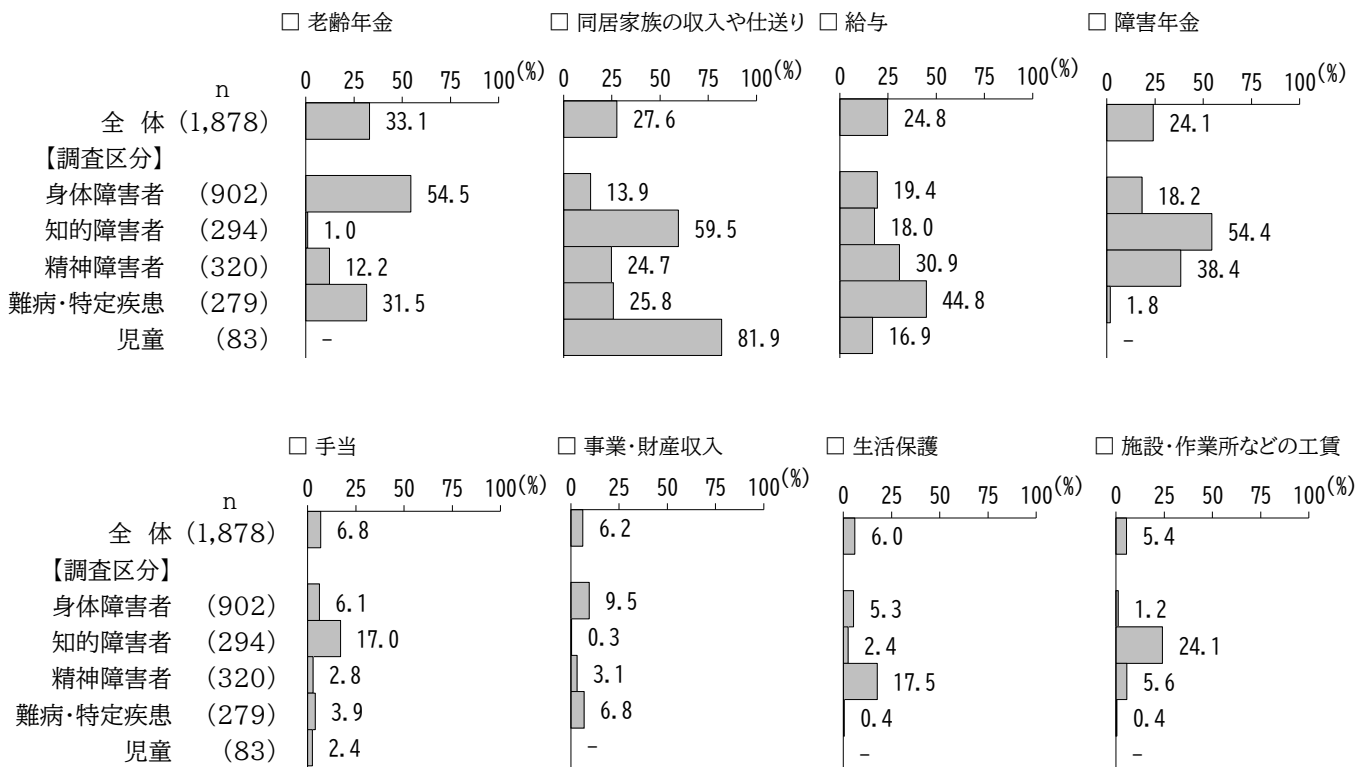


収入源は、「老齢年金」が33.1%で最も多く、以下、「同居家族の収入や仕送り」(27.6%)、「給与」(24.8%)、「障害年金」(24.1%)が2割台となっている。

### 第3章 調査結果の詳細

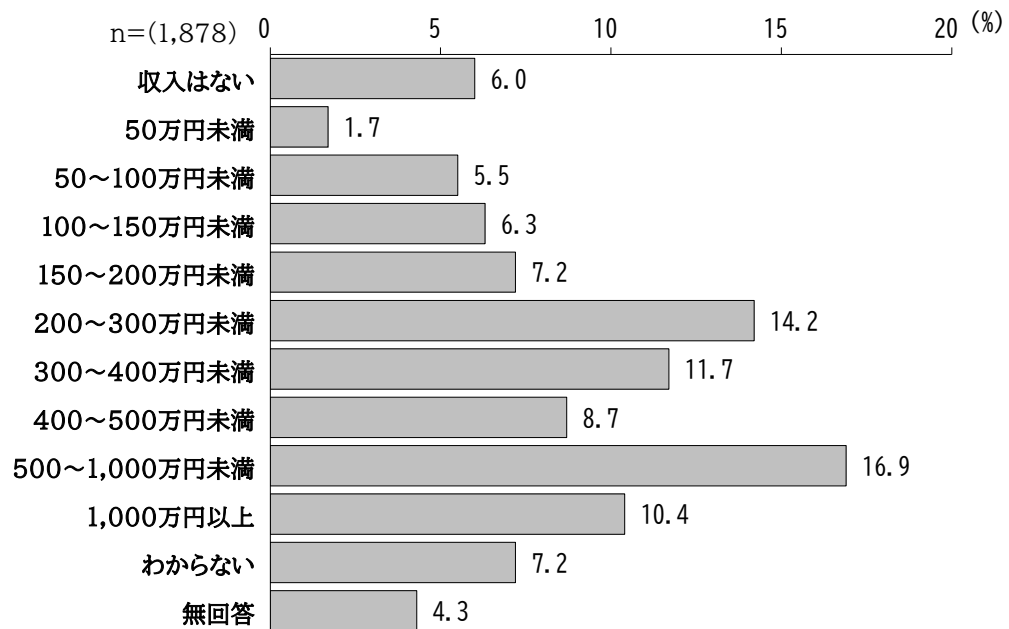
調査区分別にみると、「老齢年金」は身体障害者が54.5%、難病・特定疾患でも31.5%となっている。知的障害者では、「同居家族の収入や仕送り」(59.5%)、「障害年金」(54.4%)が多くなっているが、「施設・作業所などの工賃」(24.1%)、「手当」(17.0%)も他の調査区分より多くみられる。精神障害者では「障害年金」、「給与」が3割台、「生活保護」が17.5%となっている。難病・特定疾患では「給与」が44.8%と他の調査区分より多くなっている。

#### 調査区分別



## (5) 世帯収入

問6 あなたの世帯全体の令和3（2021）年中の収入額はどのくらいでしたか。（1つに○）  
 ※収入には福祉手当や年金を含め、世帯で同居されている方全体の収入（税金を引かれる前の金額）でお答えください。

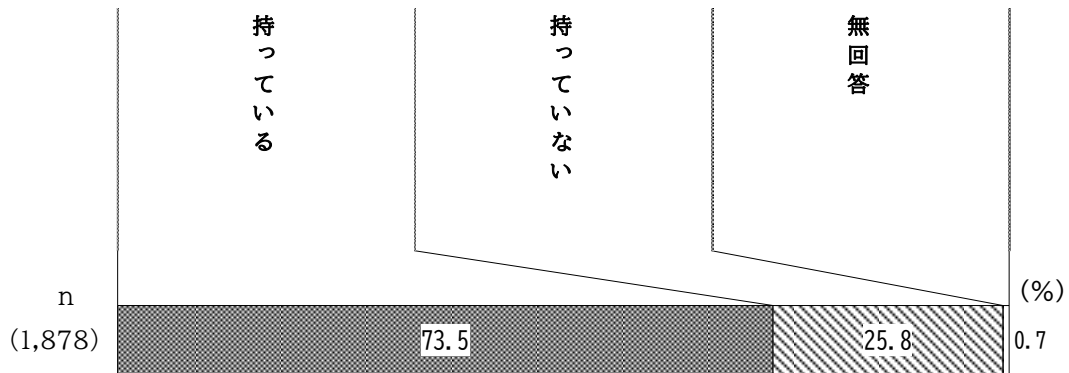


令和3年中の世帯収入額は、「500～1,000万円未満」が16.9%で最も多くなっている。以下、「200～300万円未満」（14.2%）、「300～400万円未満」（11.7%）、「1,000万円以上」（10.4%）が1割台となっている。

### 3. 本人の状況について

#### (1) 手帳の所持状況

問7 あなたは、障害者手帳や愛の手帳をお持ちですか。(1つに○)



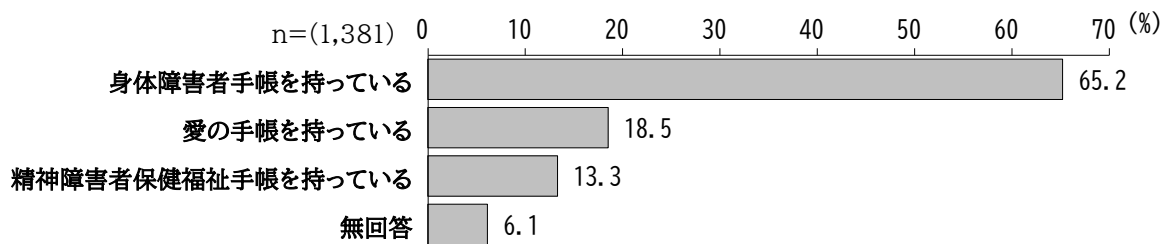
障害者手帳や愛の手帳を「持っている」は73.5%、「持っていない」は25.8%となっている。

#### (2) 手帳の種類と等級

【問7で「持っている」と回答した方にお聞きします。】

問7-1 お持ちの手帳の種類と等級をお答えください。

(あてはまるものすべてに○をつけて記入)



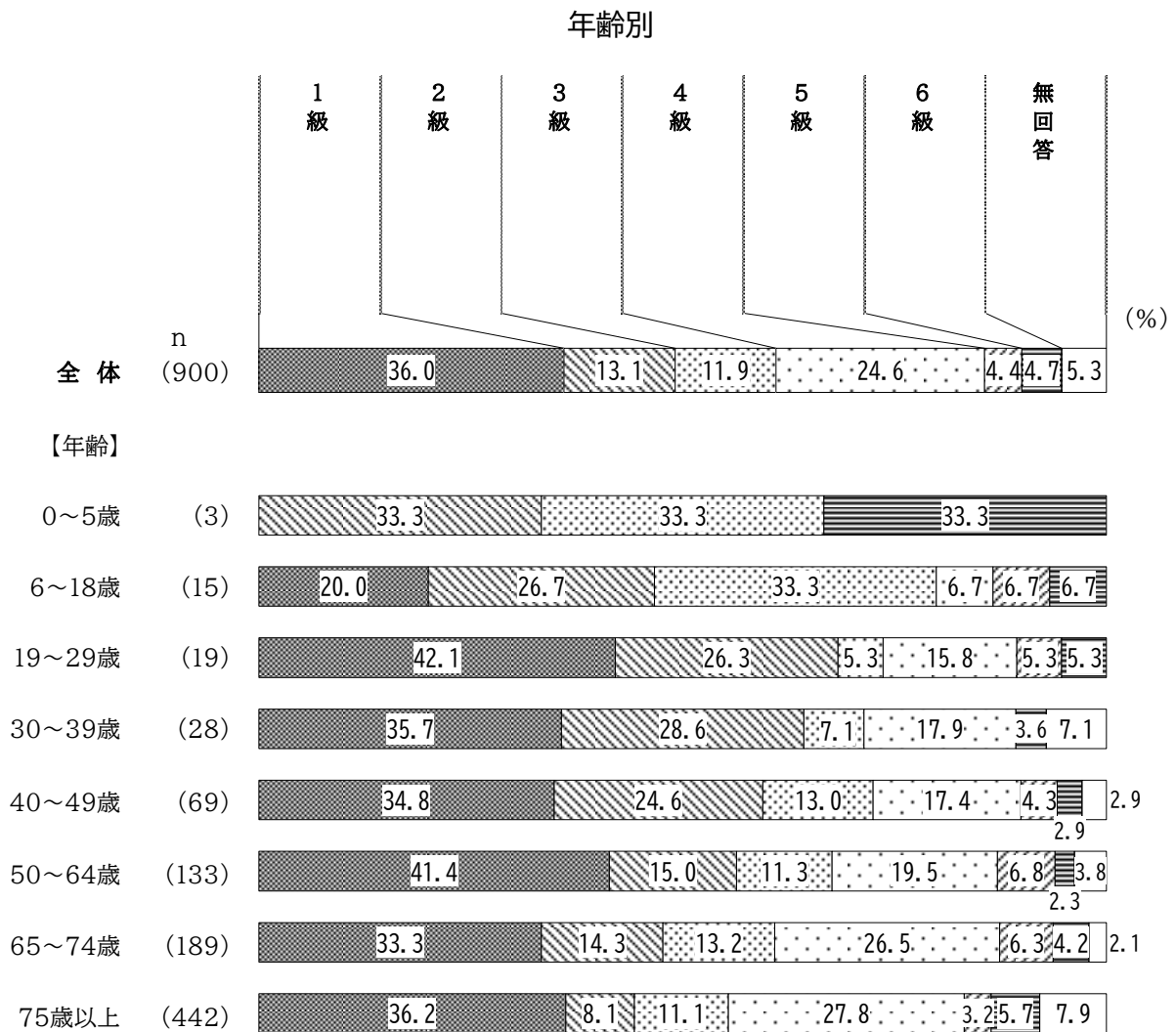
「身体障害者手帳を持っている」は65.2%、「愛の手帳を持っている」は18.5%、「精神障害者保健福祉手帳を持っている」は13.3%となっている。



①身体障害者手帳等級

身体障害者手帳の等級は、「1級」が36.0%と特に多く、「2級」が13.1%で合わせて49.1%を占める。また、「4級」も24.6%と多い。

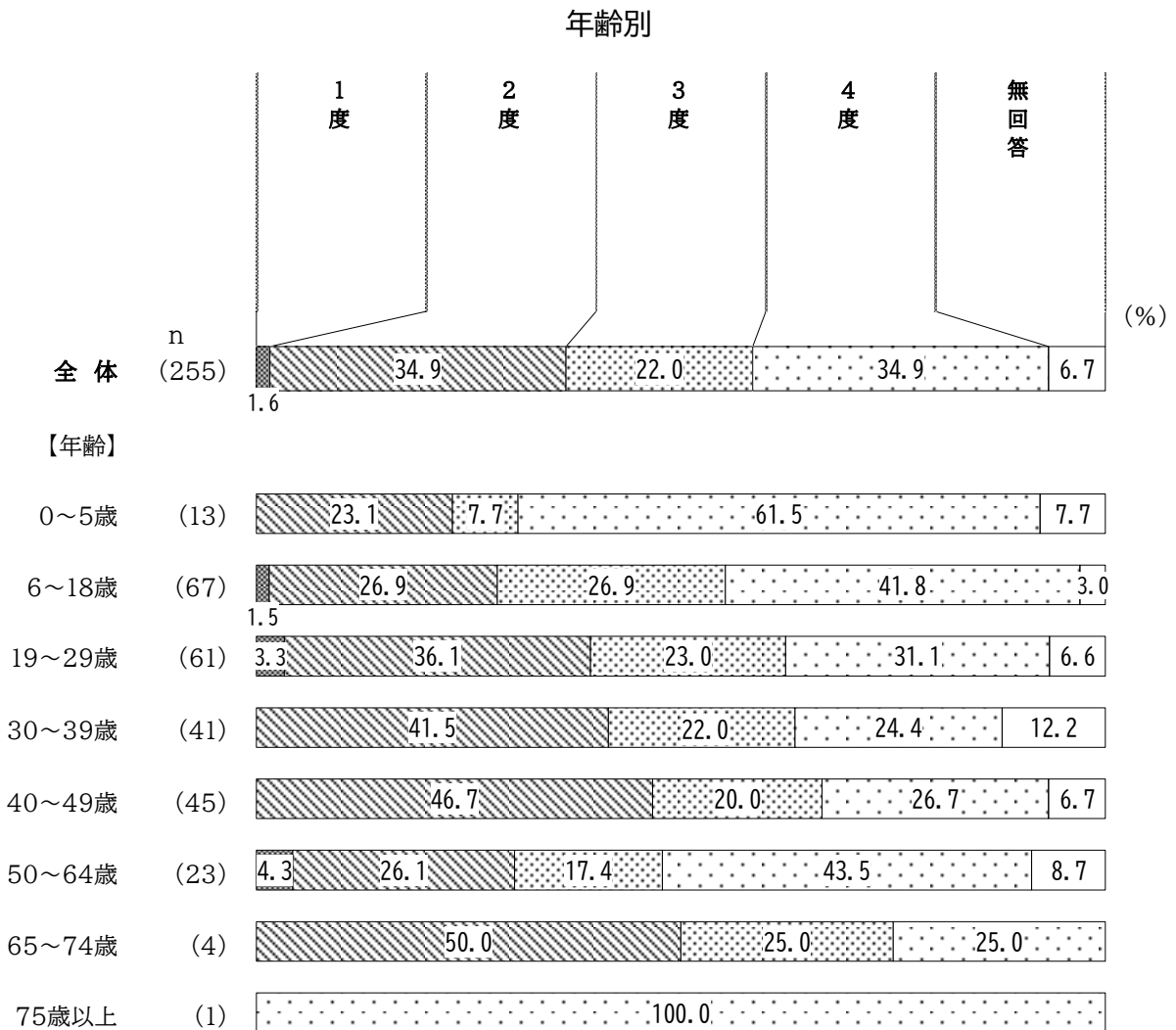
年齢別にみると、19～29歳は「1級」・「2級」で68.4%を占めている。



②愛の手帳等級

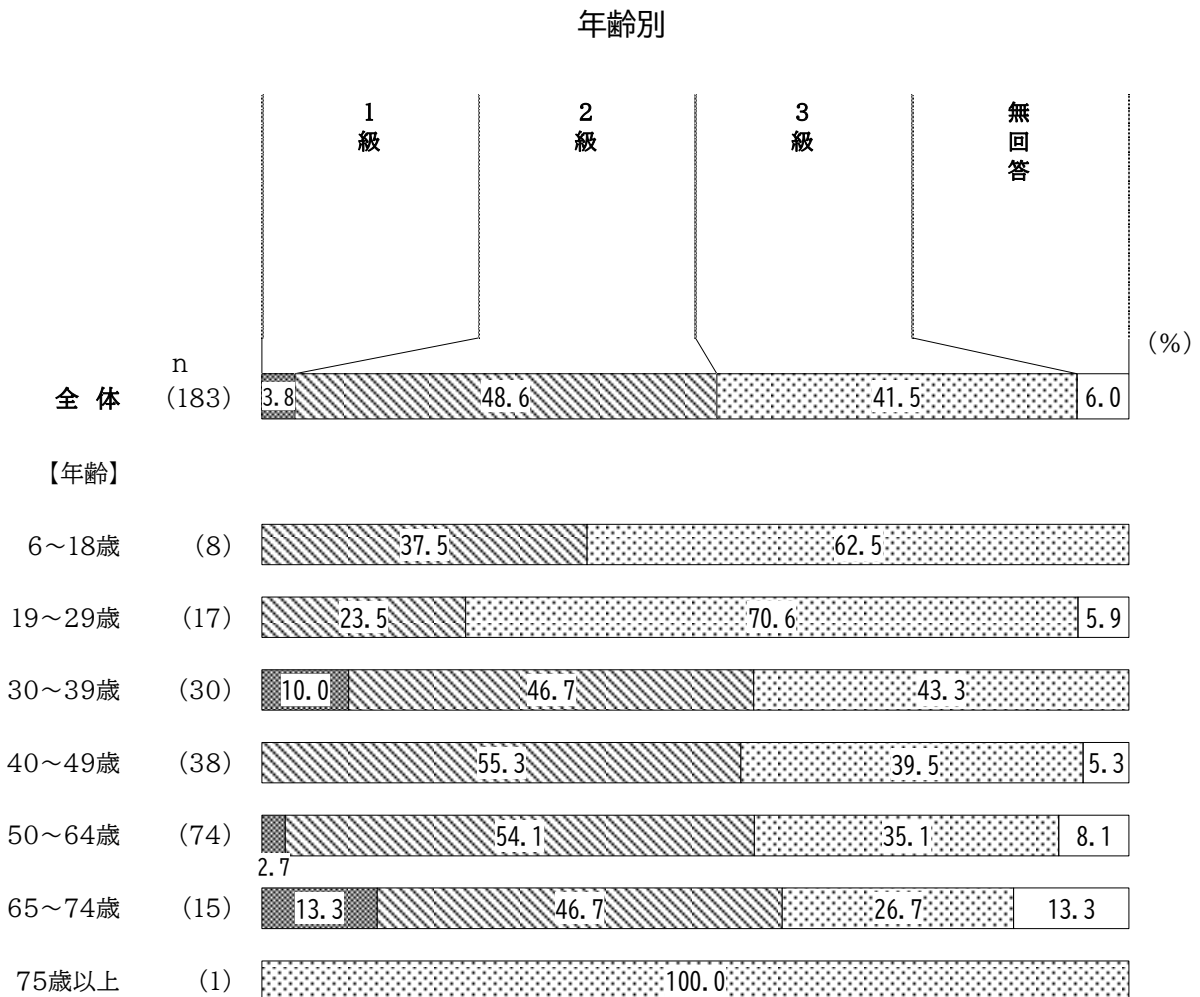
愛の手帳の等級は、「2度」が34.9%、「3度」が22.0%、「4度」が34.9%となっている。

年齢別にみると、0歳から49歳の年齢にかけては「2度」と「3度」が多く、特に40～49歳では「2度」が46.7%と多くなっている。また、65歳から74歳でも「2度」と「3度」が多くなっている。



③精神障害者保健福祉手帳等級

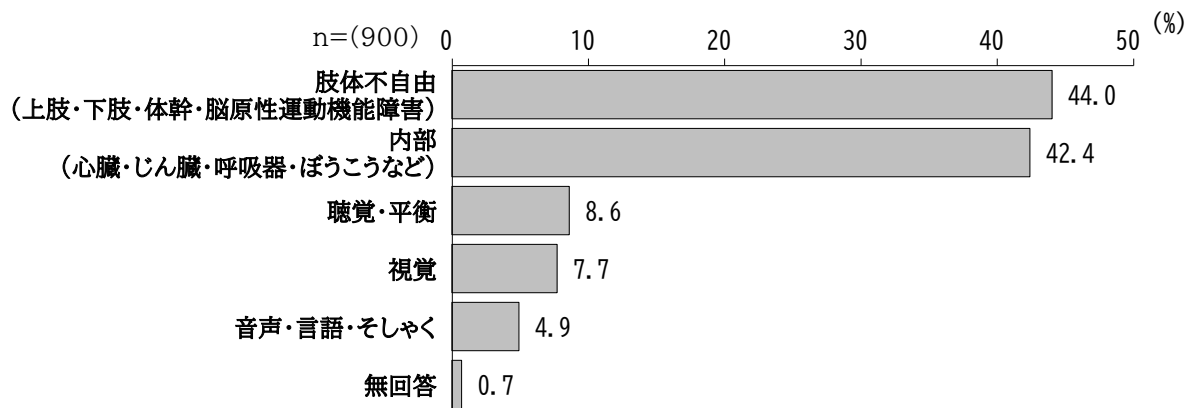
精神障害者保健福祉手帳の等級は、「2級」が48.6%、「3級」が41.5%となっている。  
年齢別にみると、6歳から74歳の年齢にかけて、「2級」と「3級」が多くを占めている。



※0～5歳は回答者なし。

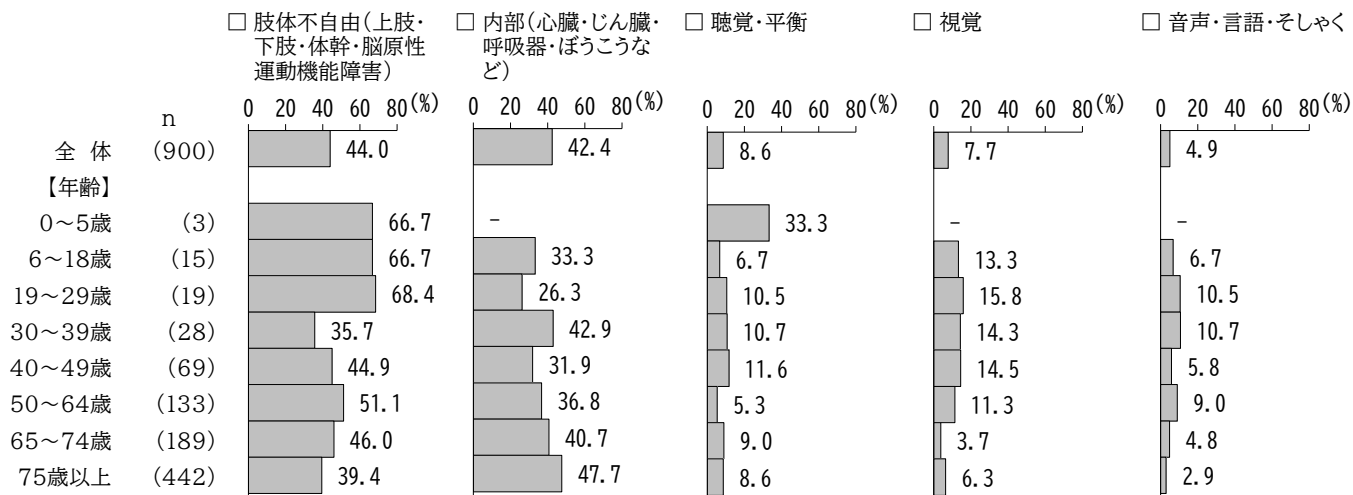
(3) 身体障害の種別

【問7-1で「身体障害者手帳を持っている」と回答した方にお聞きします。】  
 問7-2 障害の種別はどれにあてはまりますか。(あてはまるものすべてに○)

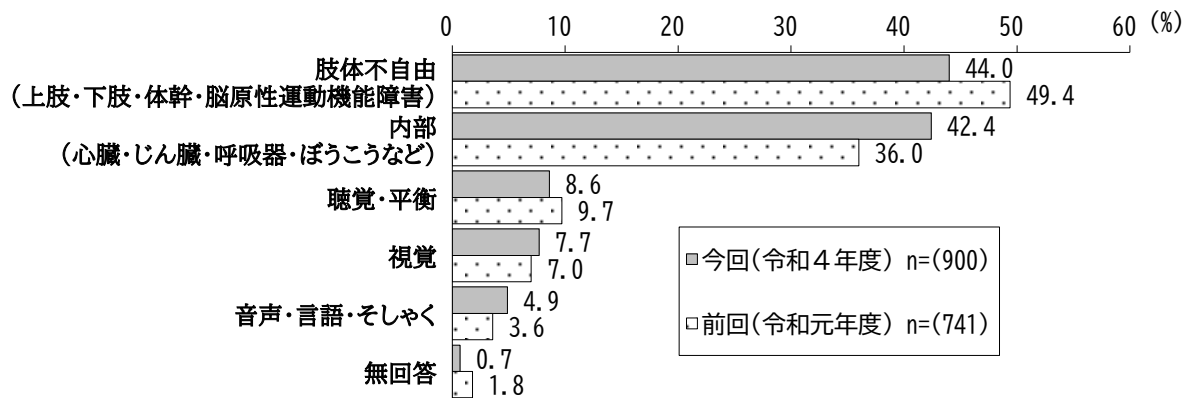


身体障害の種別は、「肢体不自由」が44.0%で多く、これに「内部」が42.4%で次いでいる。年齢別にみると、「肢体不自由」は0～29歳で6割台、40～74歳で4割から5割台、「内部」は6～18歳及び30歳以降で3割から4割台となっている。

年齢別



## 令和元年度調査との比較



令和元年度調査と比較すると、「肢体不自由」は5.4ポイント減少し、「内部」は6.4ポイント増加している。

## (4) 医療費の助成状況

問8 あなたは、医療費の助成を受けていますか。(1つに○)

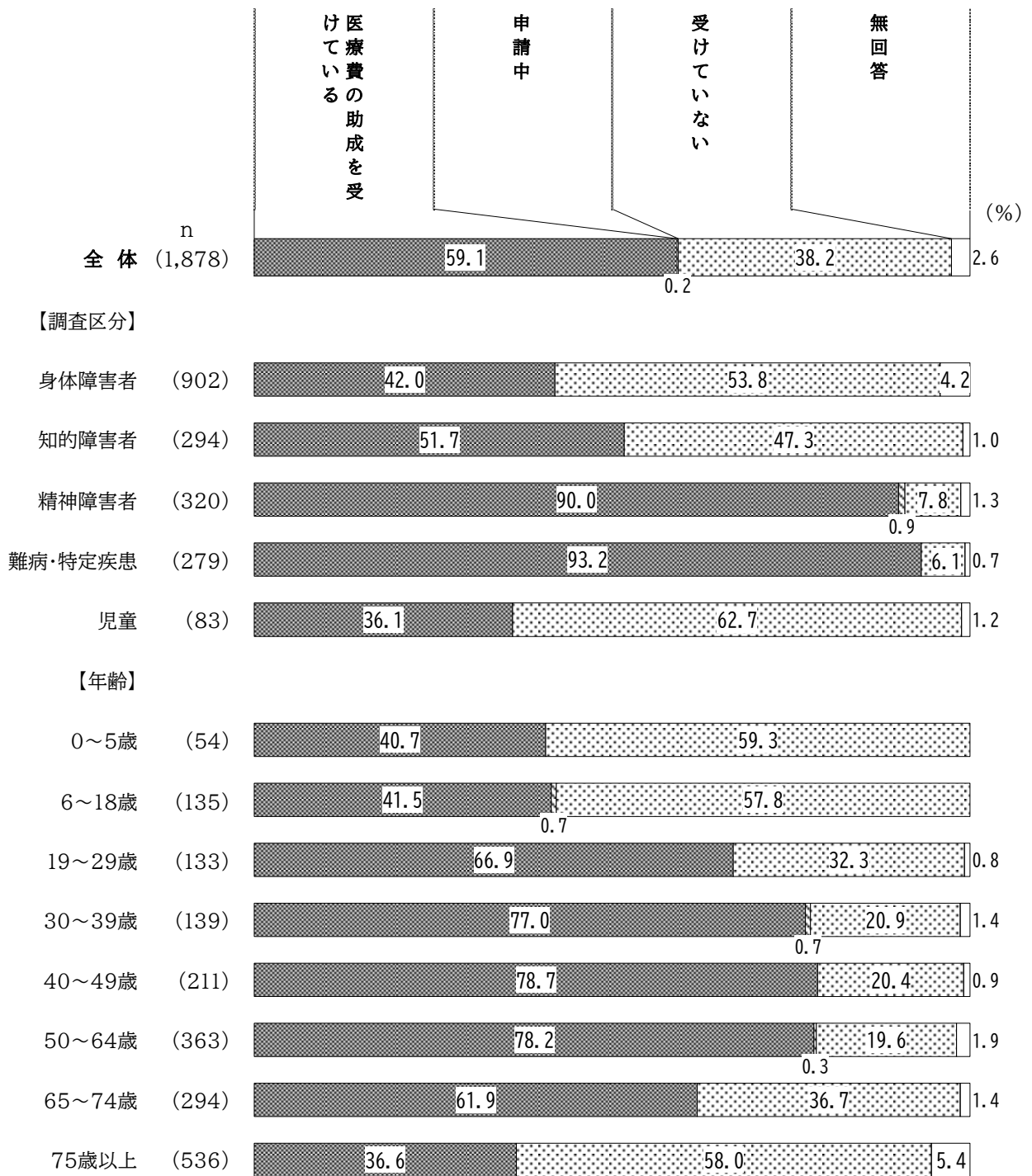
※医療費の助成には、自立支援医療、マル障、難病、人工透析、肝炎、小児慢性疾患医療などが含まれます。

医療費の助成状況は、「医療費の助成を受けている」が59.1%と多く、「受けていない」は38.2%となっている。

調査区分別にみると、「医療費の助成を受けている」は難病・特定疾患で93.2%、精神障害者でも90.0%を占めている。知的障害者では「受けている」と「受けていない」がそれぞれ半数近くとなっており、「受けていない」は児童が62.7%、身体障害者が53.8%となっている。

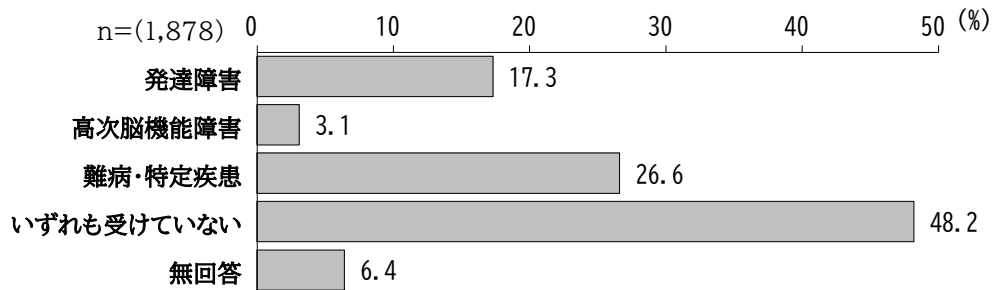
年齢別にみると、「医療費の助成を受けている」は19歳から74歳の年齢にかけて半数を上回っている。「受けていない」は、0～18歳、75歳以上で半数を上回っている。

調査区分別、年齢別



(5) 受けている障害や疾患の診断

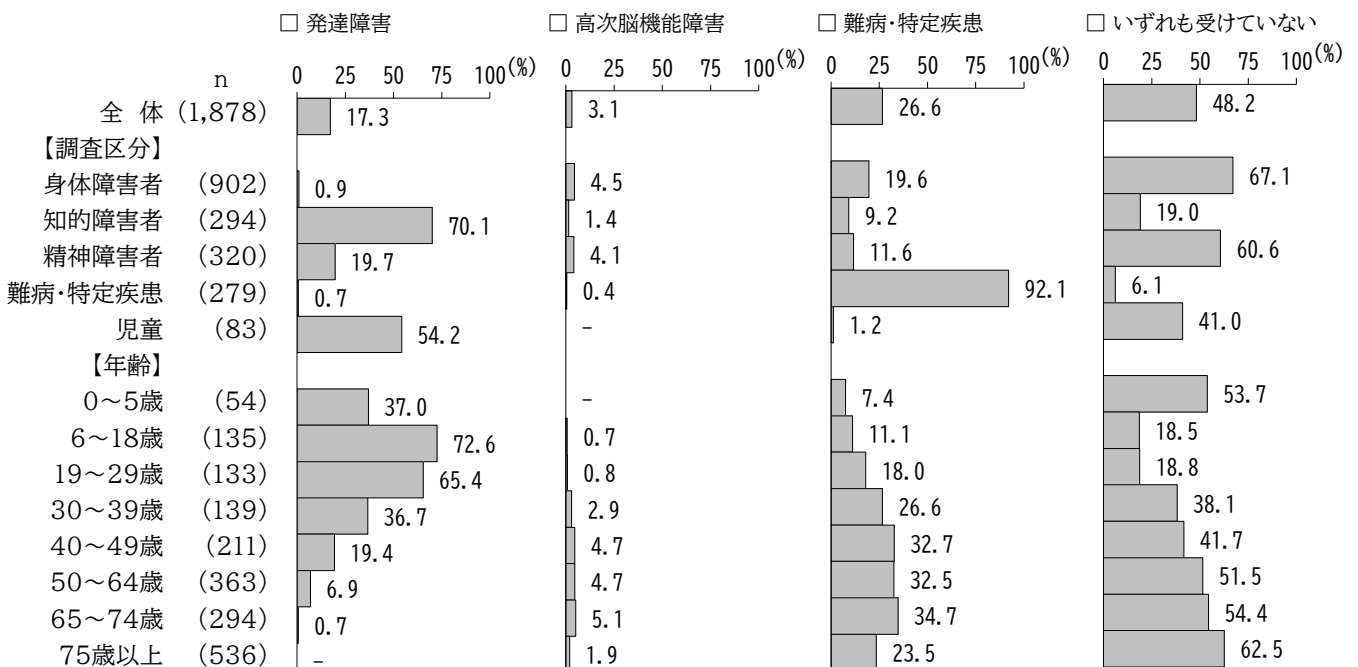
問9 現在、以下の診断を受けていますか。(あてはまるものすべてに○)



現在、上記の診断を受けているか聞いたところ、「難病・特定疾患」が26.6%、「発達障害」が17.3%、「高次脳機能障害」が3.1%となっている。

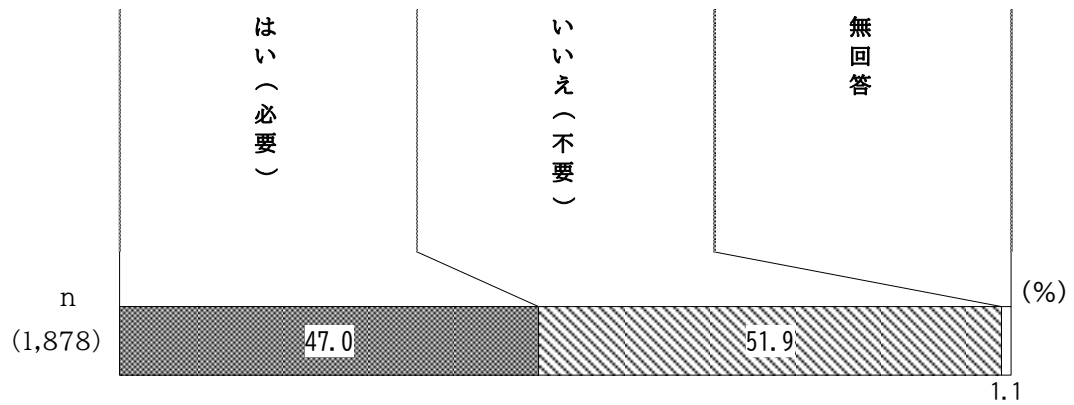
年齢別にみると、「発達障害」は6～18歳（72.6%）を中心に多く、「難病・特定疾患」は40～74歳が3割台となっている。

調査区分別、年齢別



(6) 介助や支援の必要性

問10 あなたは普段の生活の中で、何らかの介助や支援を必要としていますか。(1つに○)



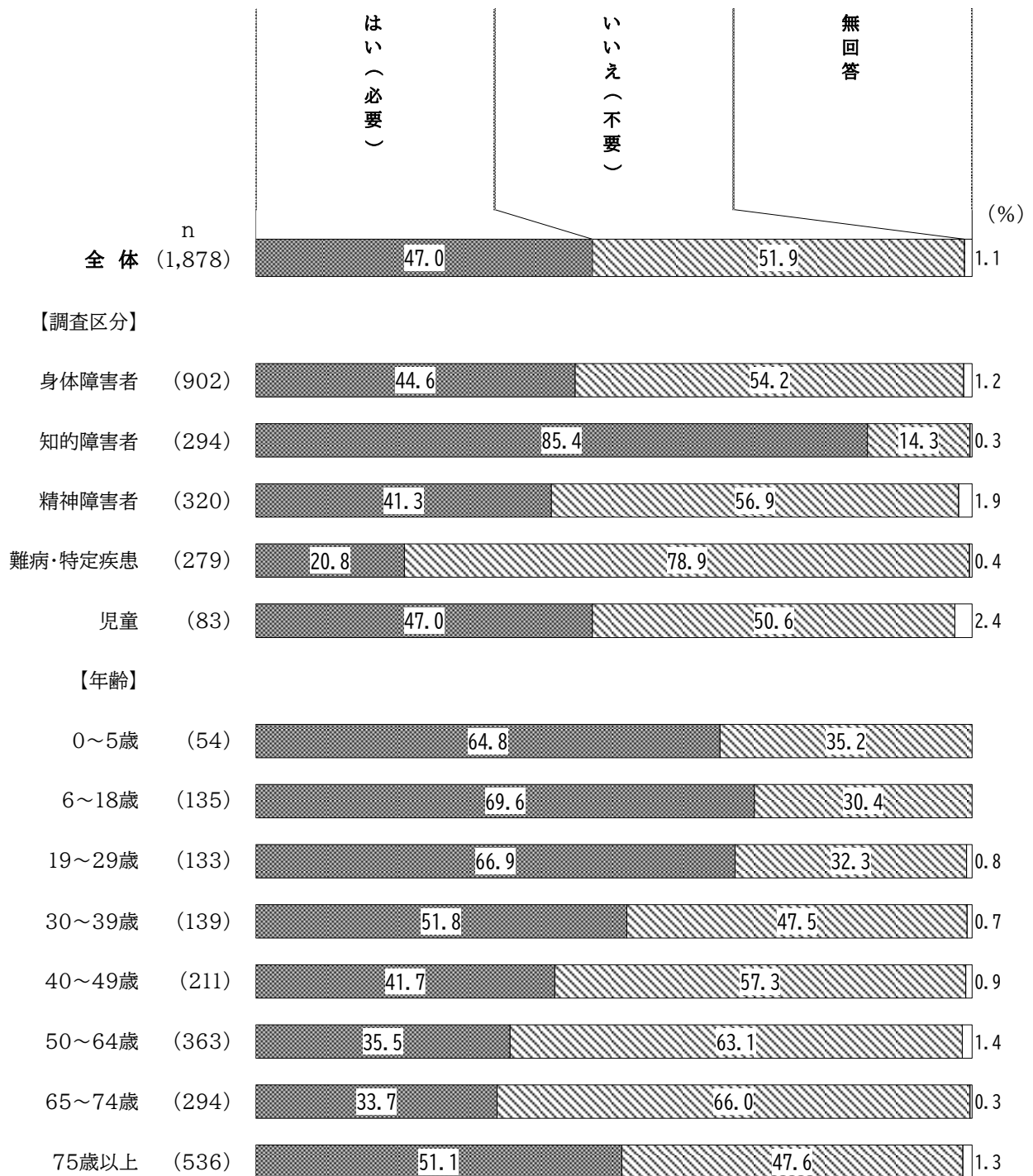
普段の生活の中で、何らかの介助や支援が「必要 (はい)」は47.0%、「不要 (いいえ)」は51.9%となっている。



調査区分別にみると、「はい（必要）」は知的障害者で85.4%を占めており、唯一、区分別の中で「いいえ（不要）」を上回っている。

年齢別にみると、「はい（必要）」は0歳から29歳までは6割を超えている。40歳から74歳までは半数を下回るが、75歳以上では51.1%が介助等を必要としている。

調査区分別、年齢別

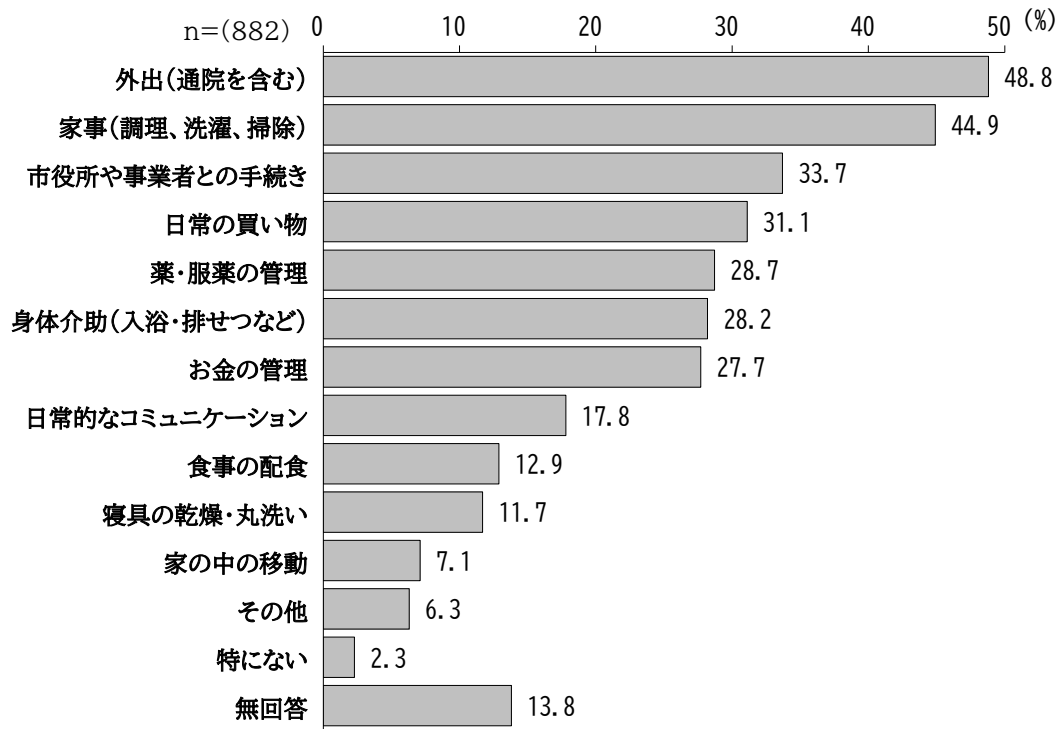


(7) 必要とする介助や支援

【問10で「はい（必要）」と回答した方にお聞きします。】

問10-1 介助が必要な場面や、必要な支援の内容は何ですか。

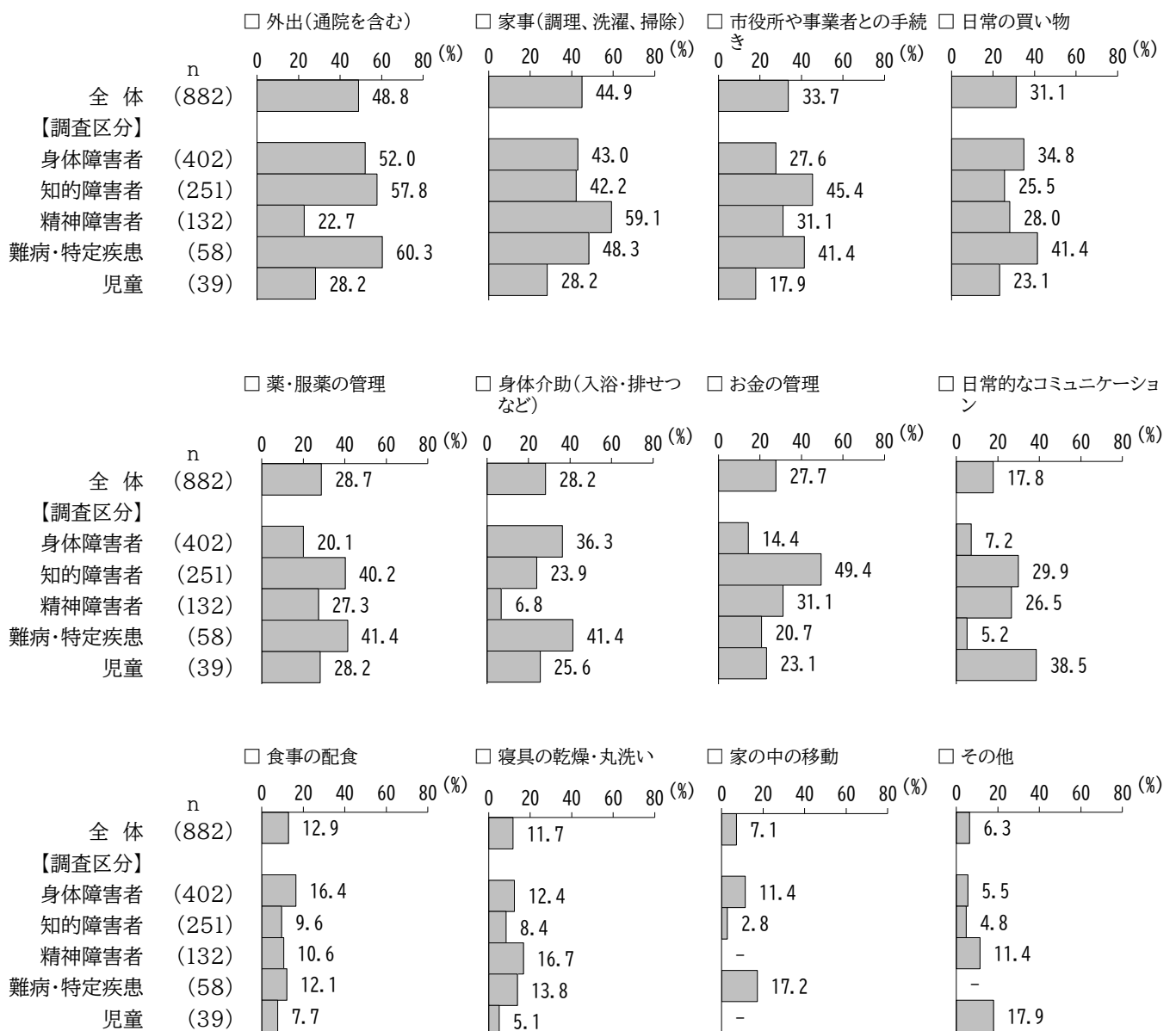
(主にあてはまるもの5つまでに○)



介助や支援が必要になる場面や必要な支援の内容は、「外出」(48.8%)、「家事」(44.9%)の2項目が4割台で多くなっている。以下、「市役所や事業者との手続き」(33.7%)、「日常の買い物」(31.1%)が3割台、「薬・服薬の管理」(28.7%)、「身体介助」(28.2%)、「お金の管理」(27.7%)が2割台で続いている。

調査区分別にみると、「外出（通院含む）」は身体障害者、知的障害者、難病・特定疾患で5割を超えている。「家事」は児童以外のすべての調査区分で4割から5割台となっている。知的障害者では「お金の管理」、難病・特定疾患では「日常の買い物」、「市役所や事業者との手続き」では知的障害者、難病・特定疾患のどちらも4割台となっている。児童では「日常的なコミュニケーション」が38.5%と他の調査区分より多い。

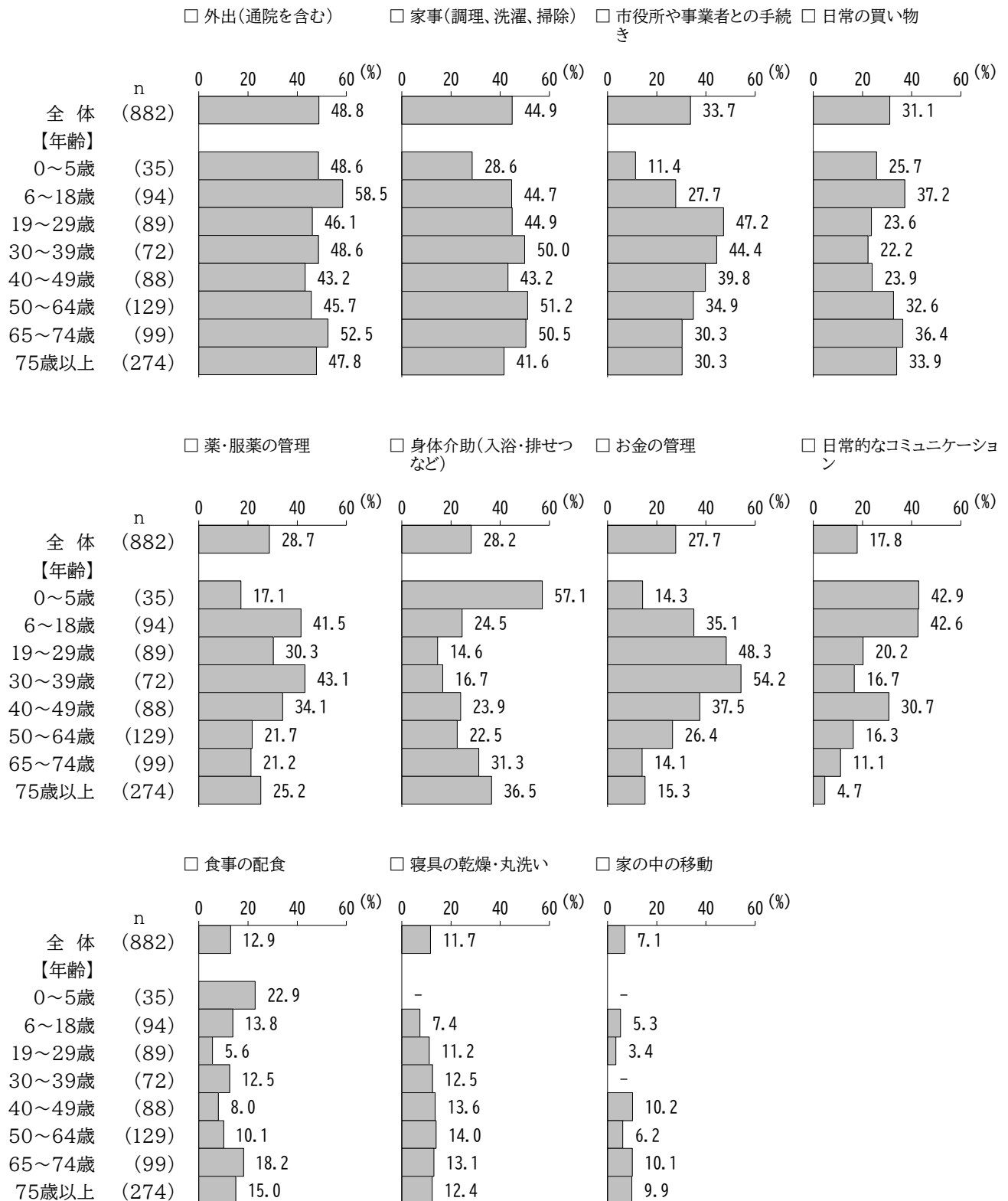
調査区分別



### 第3章 調査結果の詳細

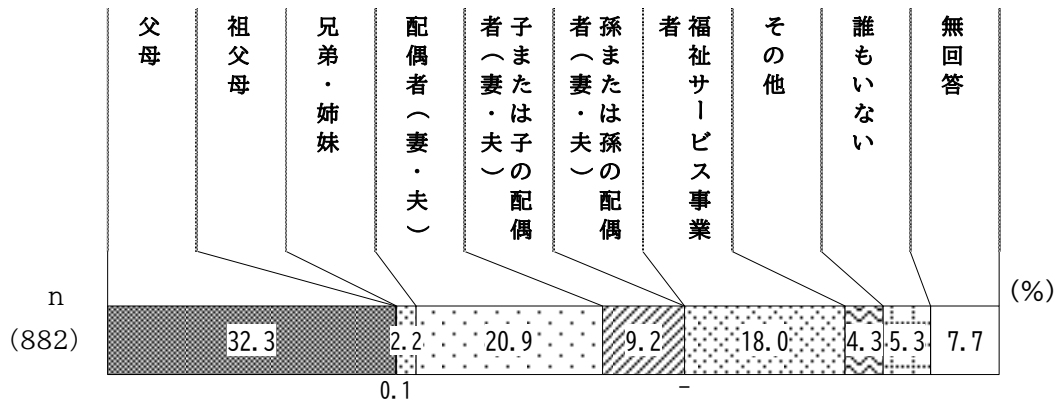
年齢別にみると、すべての年齢において「外出(通院を含む)」では4割以上と多くっており、特に6～18歳では58.5%と多い。また、0～5歳では「身体介助(入浴・排せつなど)」が57.1%と最も多く、30～39歳では「お金の管理」が54.2%と多くになっている。

#### 年齢別



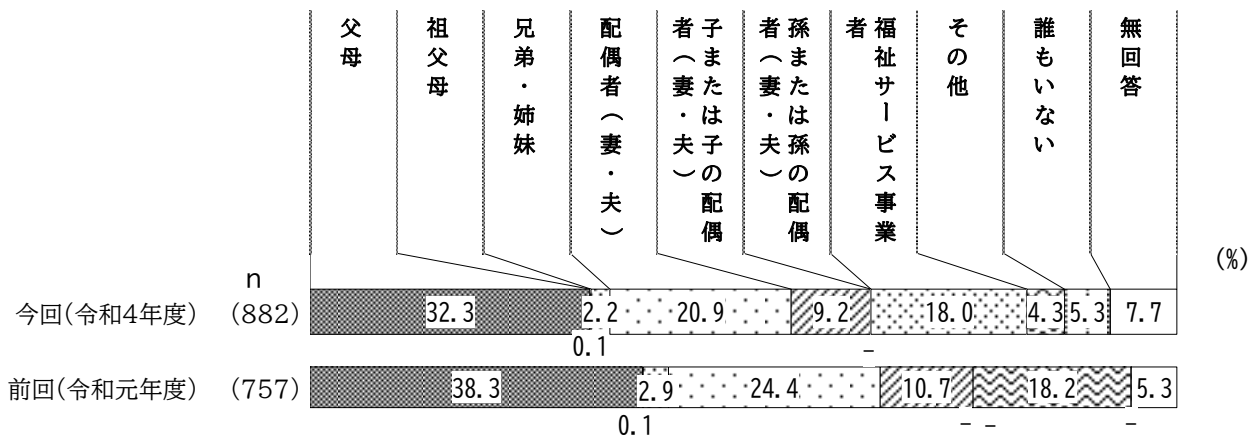
(8) 主な介助者

【問10で「はい（必要）」と回答した方にお聞きします。  
問10-2 主に介助しているのはどなたですか。（1つに○）



主な介助者は、「父母」が32.3%、「配偶者（妻・夫）」が20.9%、「福祉サービス事業者」が18.0%となっている。

令和元年度調査との比較



※「福祉サービス事業者」「誰もいない」の選択肢は今回から新規追加

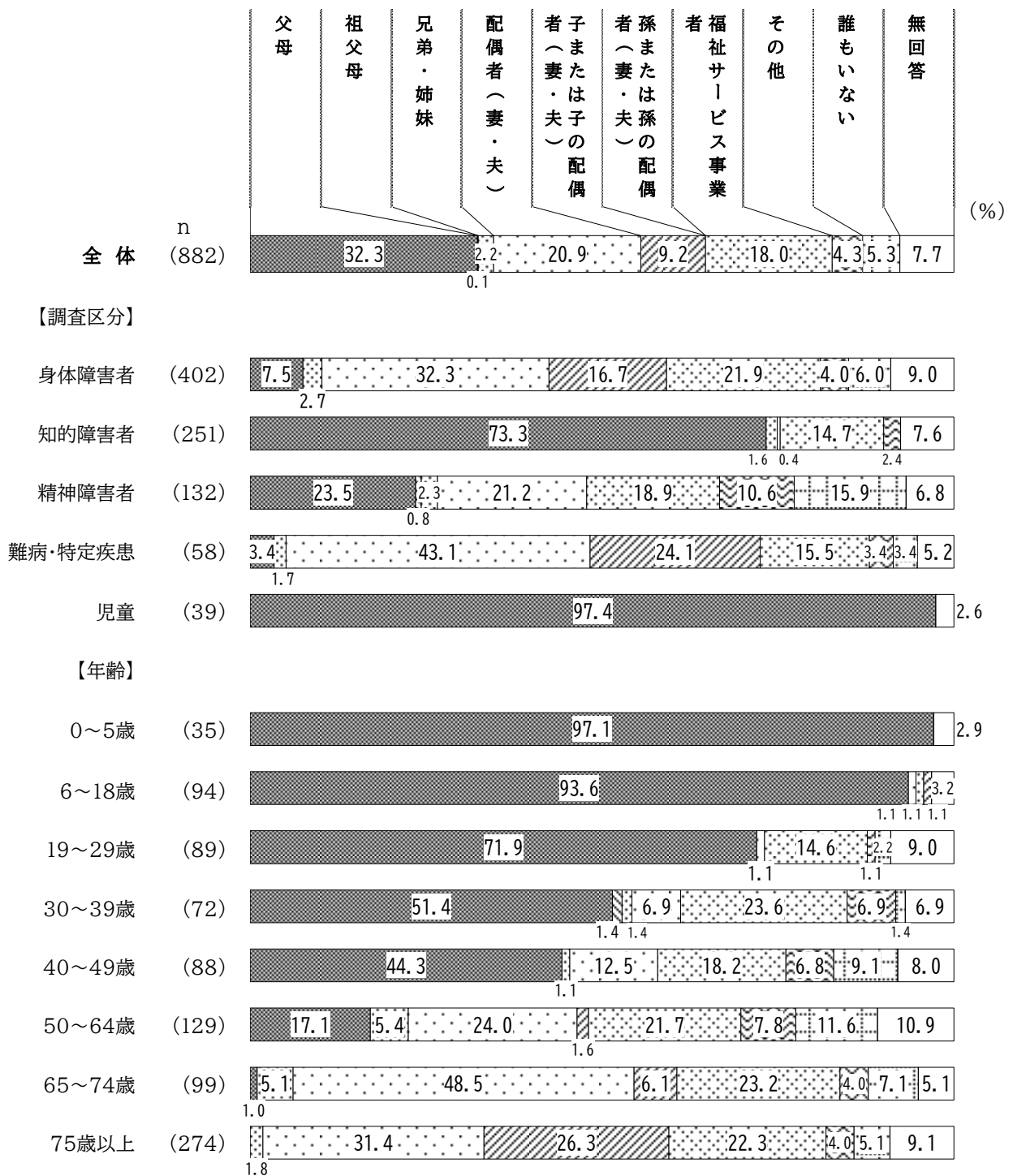
令和元年度調査と比較すると、新規選択肢である「福祉サービス事業者」が2割弱を占め、「父母」は6.0ポイント、「配偶者（妻・夫）」は3.5ポイント減少している。

### 第3章 調査結果の詳細

調査区分別にみると、「父母」は児童でほぼ全数を占めており、知的障害者でも73.3%と多い。「配偶者（妻・夫）」は難病・特定疾患で43.1%、身体障害者で32.3%となっている。

年齢別にみると、「父母」は未成年を中心に49歳までで多い。50歳から74歳では「配偶者（妻・夫）」が多く、65～74歳では48.5%となっている。

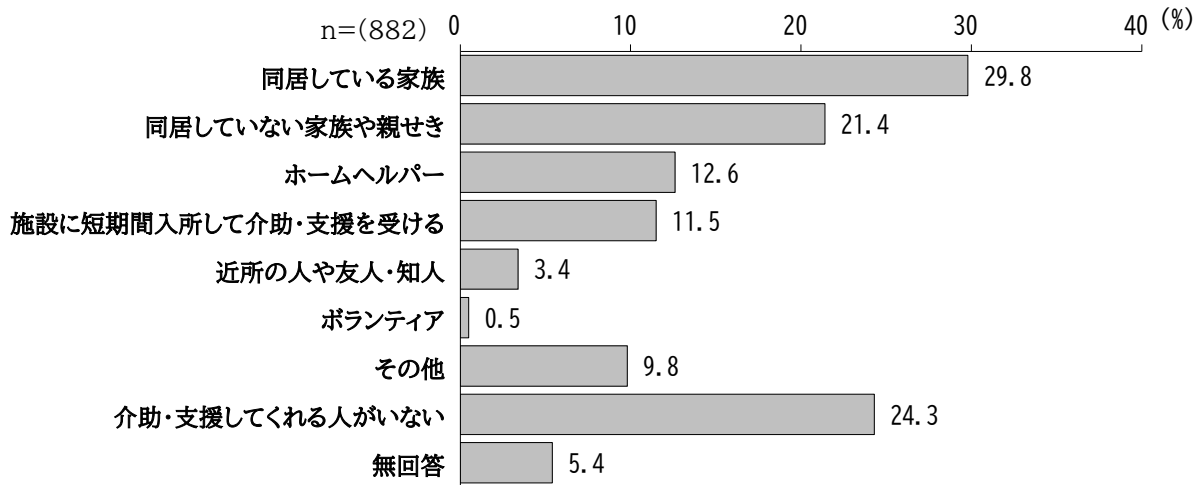
調査区分別、年齢別



(9) 主な介助・支援者がいない際の代理者の有無

【問10で「はい（必要）」と回答した方にお聞きします。】

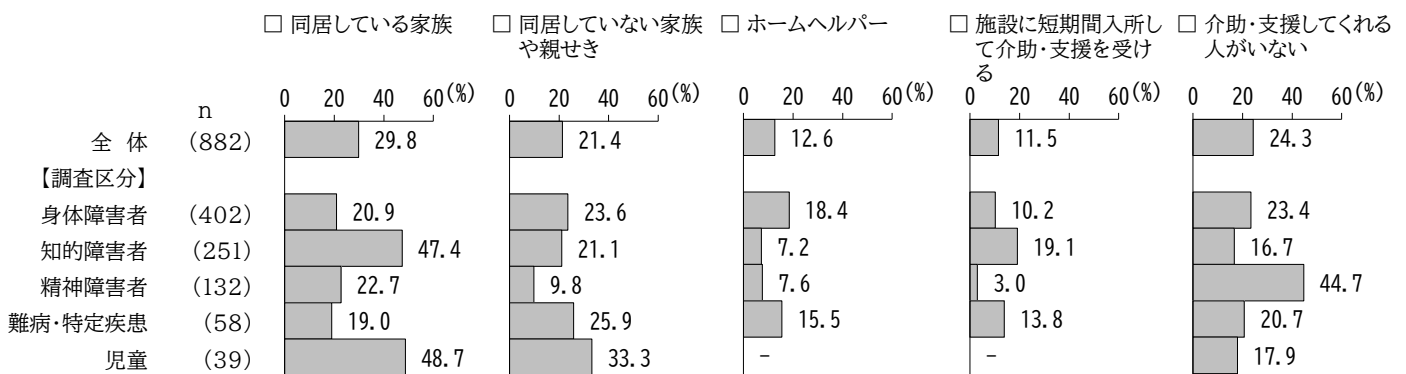
問10-3 あなたを主に介助・支援している方が、病気のときや外出をしなければならないときなどは、代わりにどなたが介助していますか。（あてはまるものすべてに○）



主な介助・支援者がいない際の代理者は、「同居している家族」が29.8%で最も多く、以下、「同居していない家族や親せき」が21.4%、「ホームヘルパー」(12.6%)、「施設に短期間入所して介助・支援を受ける」(11.5%)が1割台で続いている。一方、「介助・支援してくれる人がいない」が24.3%と多くなっている。

調査区分別にみると、知的障害者と児童では「同居している家族」が4割台と特に多く、児童では「同居していない家族や親せき」も33.3%と多い。身体障害者と難病・特定疾患では「ホームヘルパー」が比較的多くなっている。一方、精神障害者では「介助・支援してくれる人がいない」が44.7%と多くなっている。

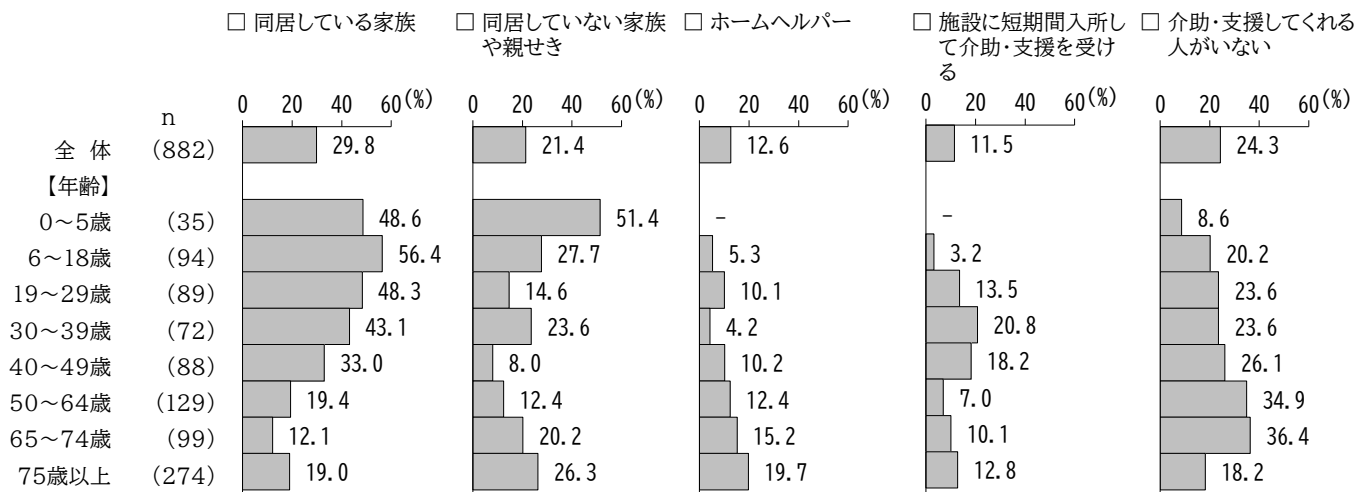
調査区分別（上位4項目+「介助・支援してくれる人がいない」）



### 第3章 調査結果の詳細

年齢別にみると、「同居している家族」は6～18歳（56.4%）を中心に、0歳から39歳までの年齢で4割以上と多い。0～5歳では「同居していない家族や親せき」が51.4%と特に多く、65歳以上でも2割台となっている。30～49歳は「施設に短期間入所して介助・支援を受ける」で2割前後と多い。

年齢別（上位4項目+「介助・支援してくれる人がいない」）

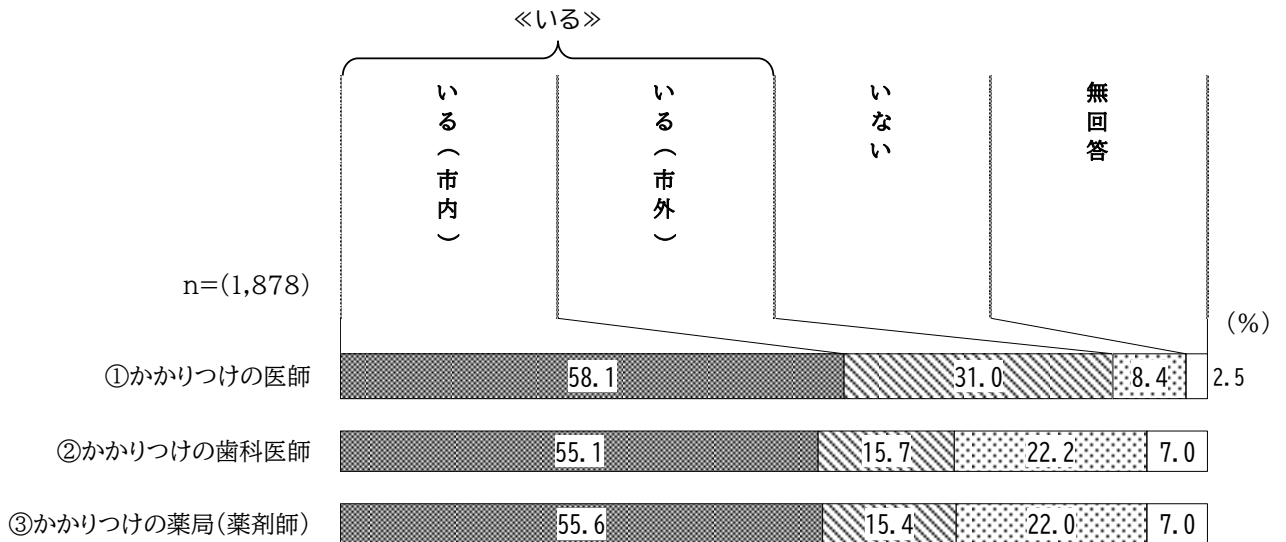




## 4. 保健・医療について

### (1) かかりつけ医師の有無

問11 普段から治療を受けたり、日常の健康についての相談を受けてくれるかかりつけの医師・歯科医師・薬局（薬剤師）はいますか。（それぞれ1つに○）



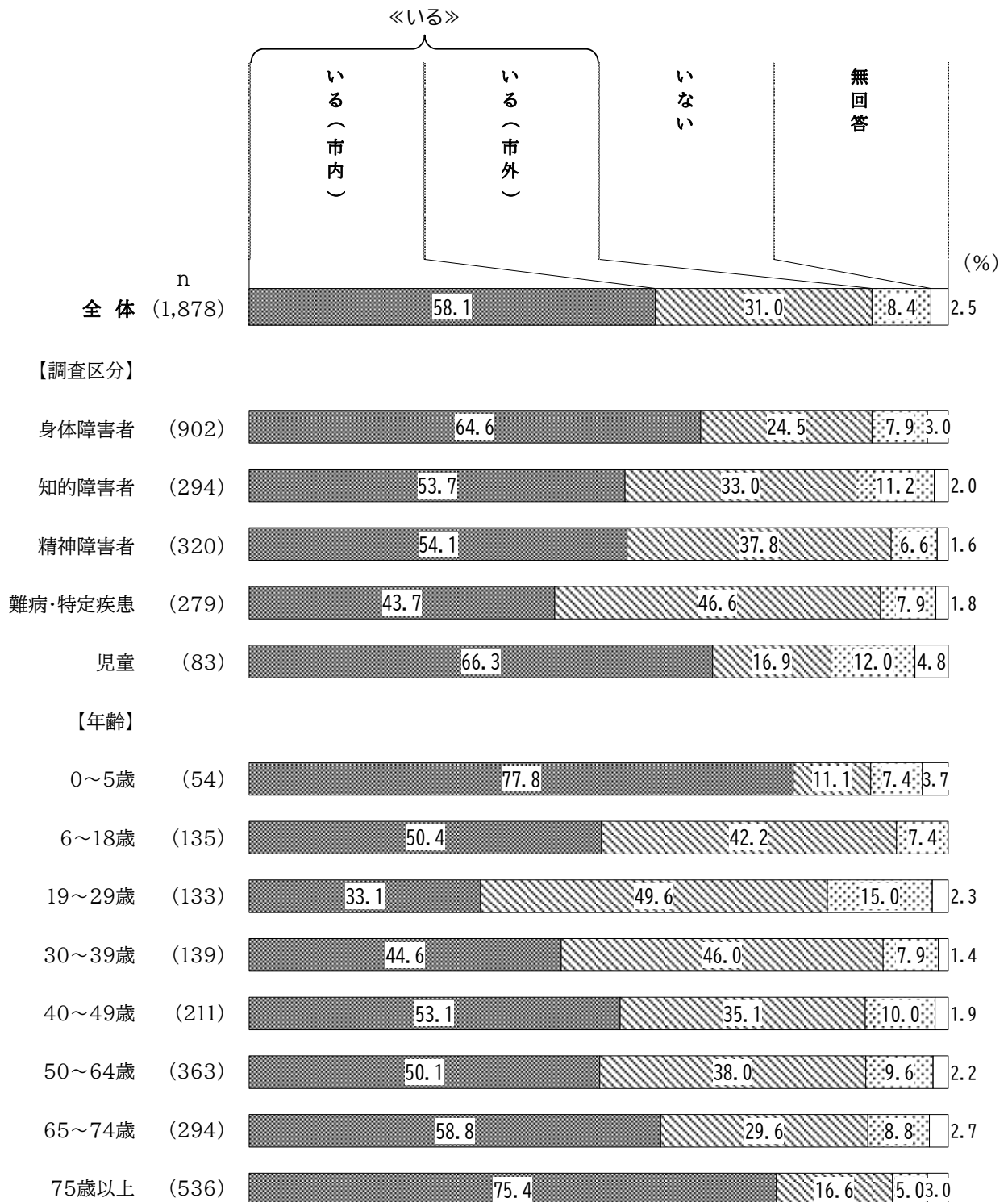
普段から治療を受けたり、日常の健康について相談を受けてくれるかかりつけ医師の有無を聞いた。“①医師”、“②歯科医師”、“③薬局（薬剤師）”いずれも市内に「いる」が5割台となっている。市内外をあわせた《いる》で見ると、“①医師”は89.1%と多く、“②歯科医師”は70.8%、“③薬局（薬剤師）”は71.0%となっている。

### 第3章 調査結果の詳細

調査区分別に①かかりつけの医師をみると、市外も含めた《いる》は、いずれも8割以上となっている。また、市内に「いる」は児童（66.3%）、身体障害者（64.6%）で6割台と多くなっている。

年齢別にみると、市外も含めた《いる》は、いずれも8割以上となっている。また、市内に「いる」は0～18歳、40歳以上で5割以上となっており、特に75歳以上では75.4%となっている。

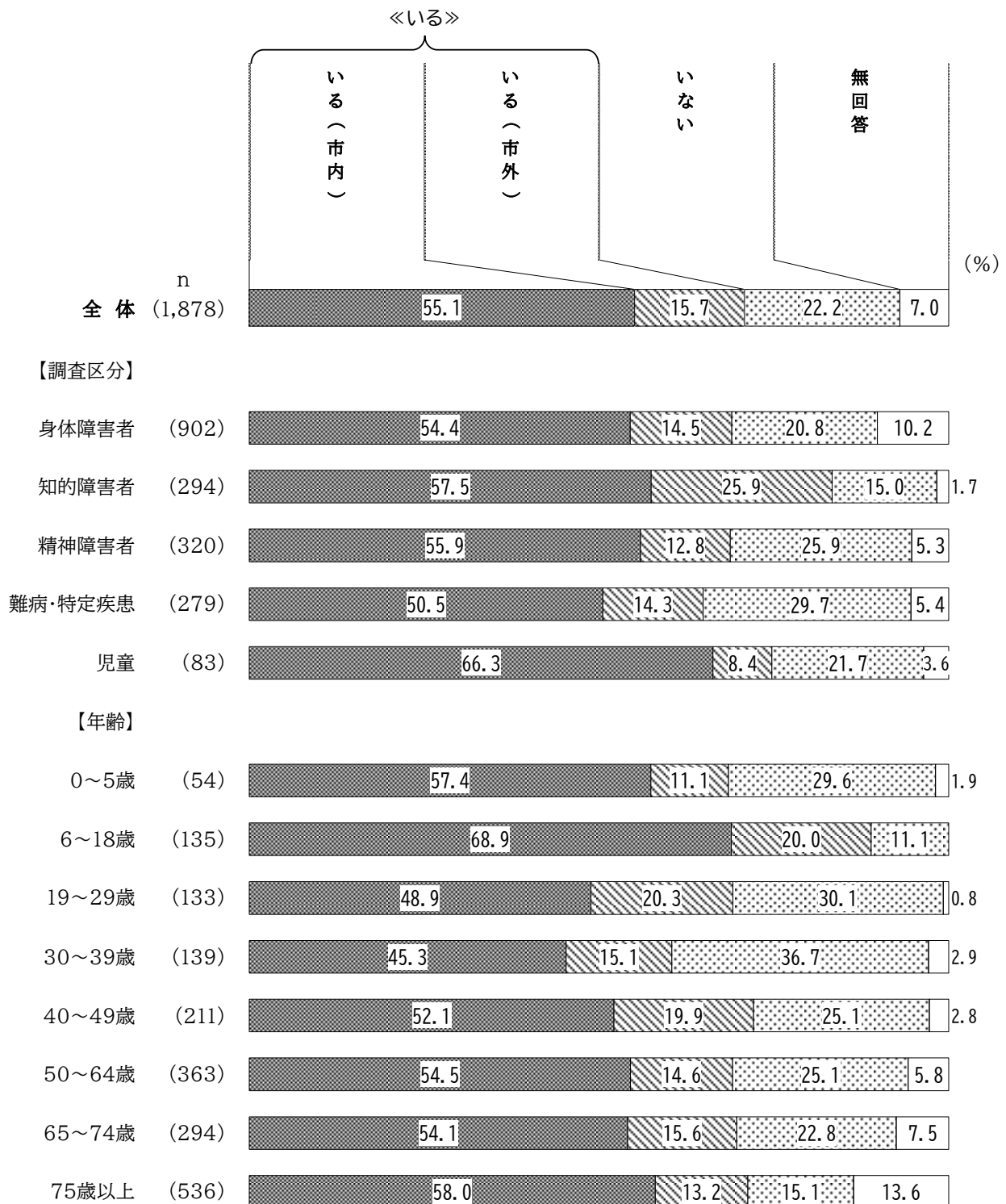
調査区分別、年齢別（①かかりつけの医師）



調査区分別に②かかりつけの歯科医師をみると、市外も含めた《いる》は、いずれも6割以上となっており、特に知的障害者では83.4%と多くなっている。

年齢別にみると、市外も含めた《いる》は、いずれの年齢でも6割以上となっており、特に6～18歳では88.9%と多くなっている。

調査区分別、年齢別（②かかりつけの歯科医師）

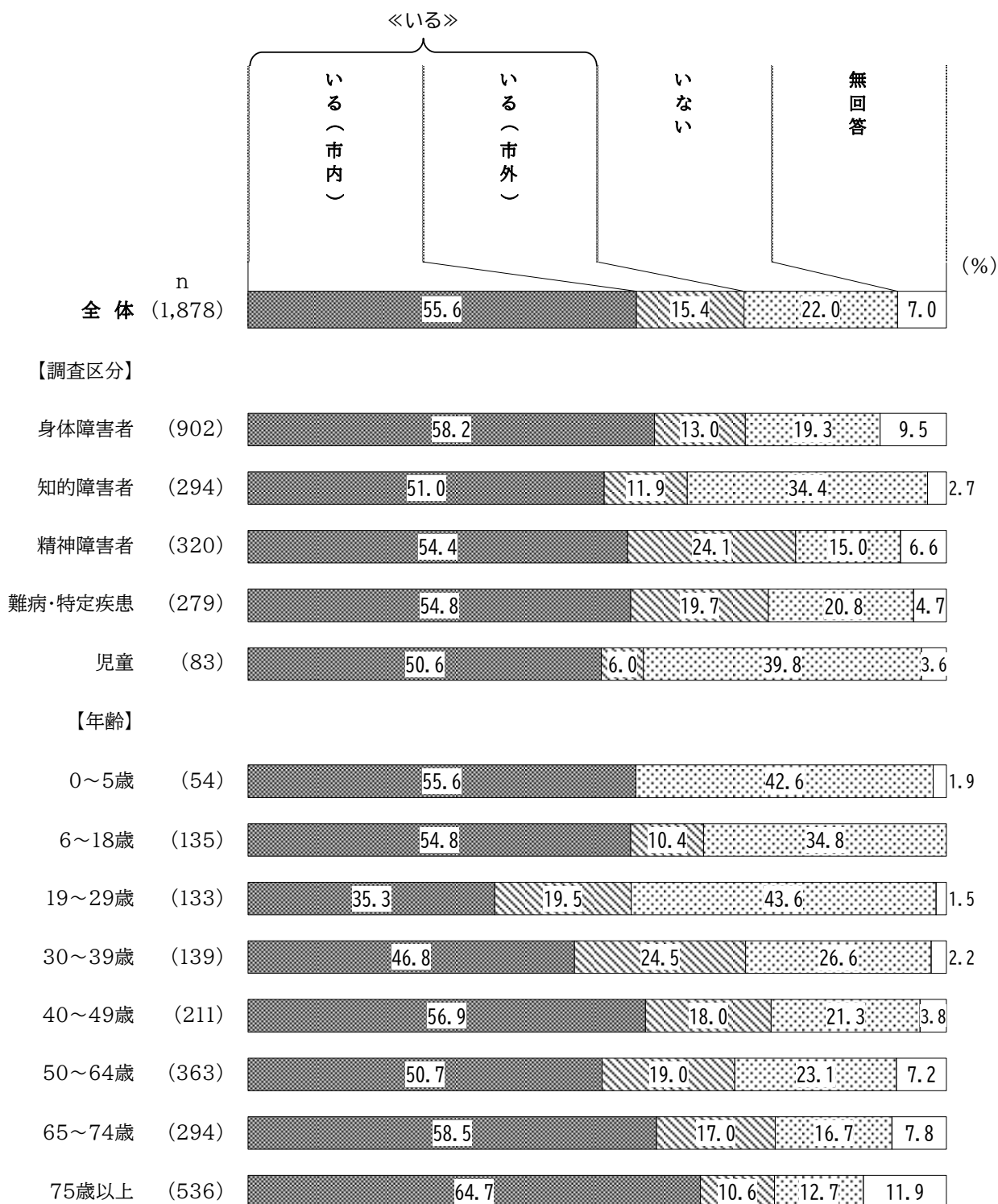


### 第3章 調査結果の詳細

調査区分別に③かかりつけの薬局（薬剤師）をみると、市外も含めた《いる》は、身体障害者と難病・特定疾患、精神障害者では7割台、知的障害者では62.9%、児童では56.6%となっている。

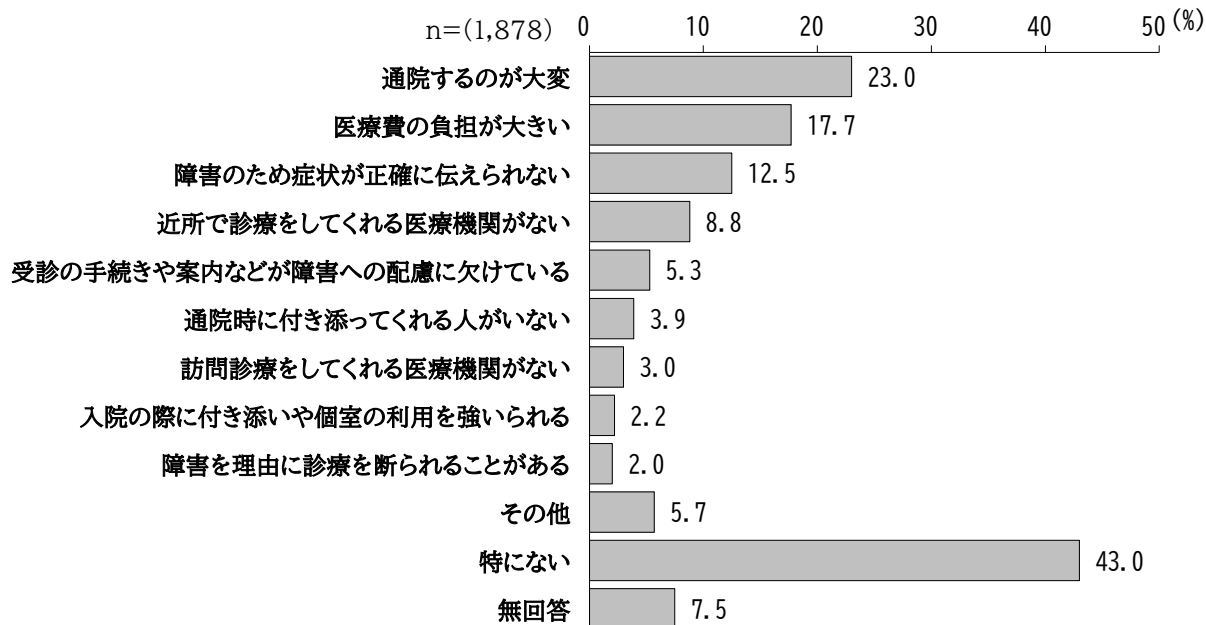
年齢別にみると、市外も含めた《いる》は、年齢が上がるにつれて概ね多くなる傾向となっており、30歳以上でおおむね7割以上となっている。また、市内に「いる」は多くの年齢で5割以上となっており、特に75歳以上で64.7%となっている。

調査区分別、年齢別（③かかりつけの薬局 [薬剤師]）



(2) 健康・医療面での困りごと

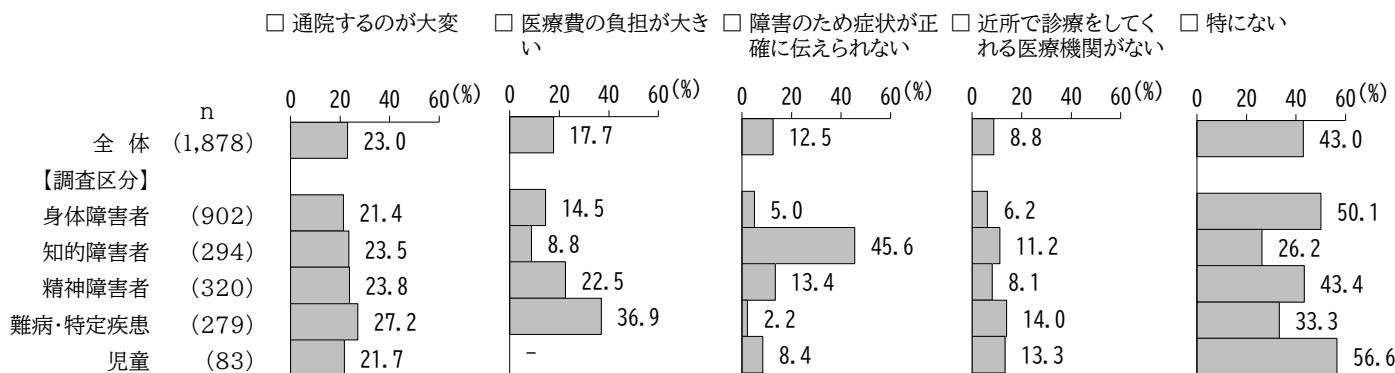
問12 健康管理や医療について、困ったり不便に思うことはありますか。  
 (主にあてはまるもの3つまでに○)



健康管理や医療で困ったり不便に思うことは、「特にない」が43.0%で最も多くなっている。困りごと等があるものでは、「通院するのが大変」が23.0%、「医療費の負担が大きい」が17.7%、「障害のため症状が正確に伝えられない」が12.5%となっている。

調査区分別にみると、「通院するのが大変」はいずれの調査区分でも2割台となっている。知的障害者では「障害のため症状が正確に伝えられない」が45.6%、難病・特定疾患では「医療費の負担が大きい」が36.9%と他の調査区分より多くなっている。

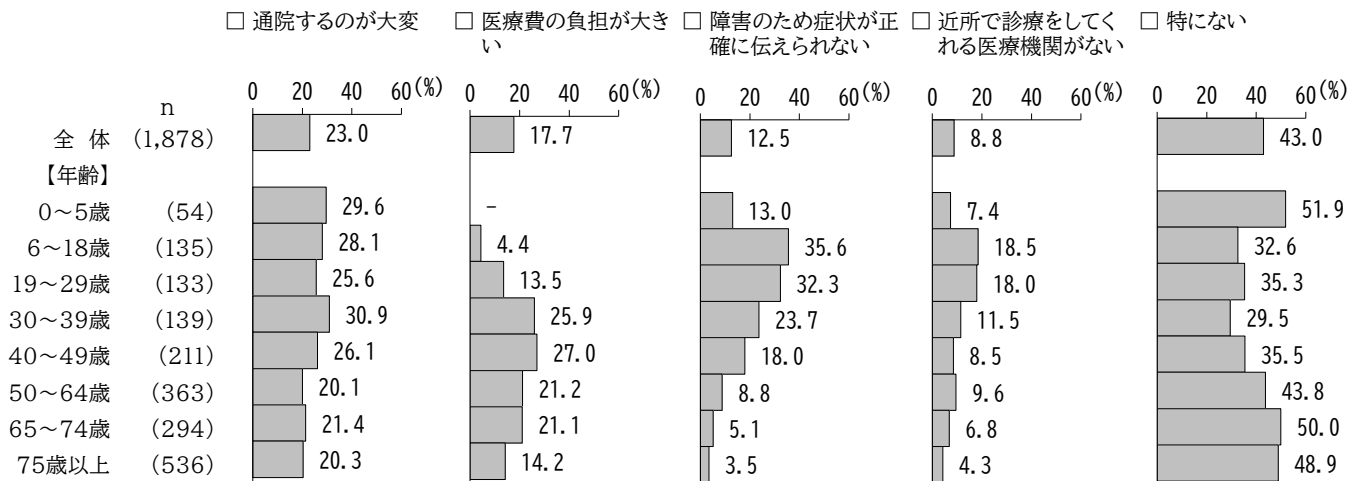
調査区分別（上位4項目+「特にない」）



### 第3章 調査結果の詳細

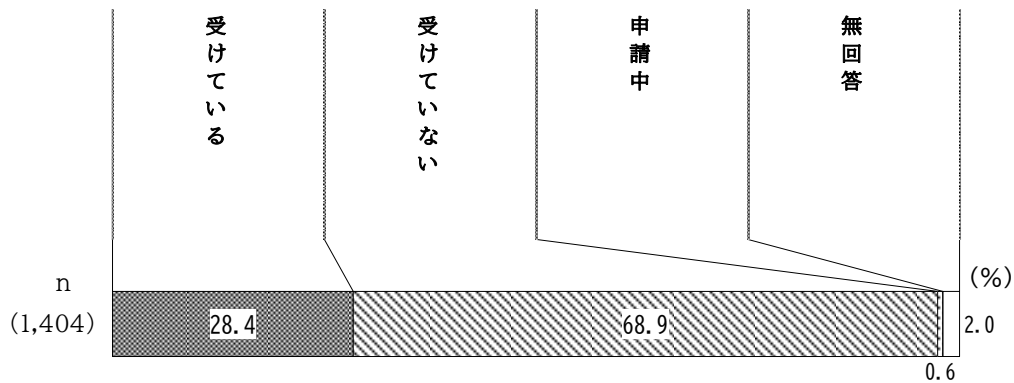
年齢別にみると、「通院するのが大変」はいずれの調査区分でも2割を超えている。「障害のため症状が正確に伝えられない」、「近所で診療をしてくれる医療機関がない」も未成年を中心に多く、年齢が上がるとともに少なくなる傾向にある。「医療費の負担が大きい」は30歳から74歳の年齢にかけて2割台となっている。

年齢別（上位4項目＋「特にない」）



(3) 介護保険の認定状況 (40歳以上の方)

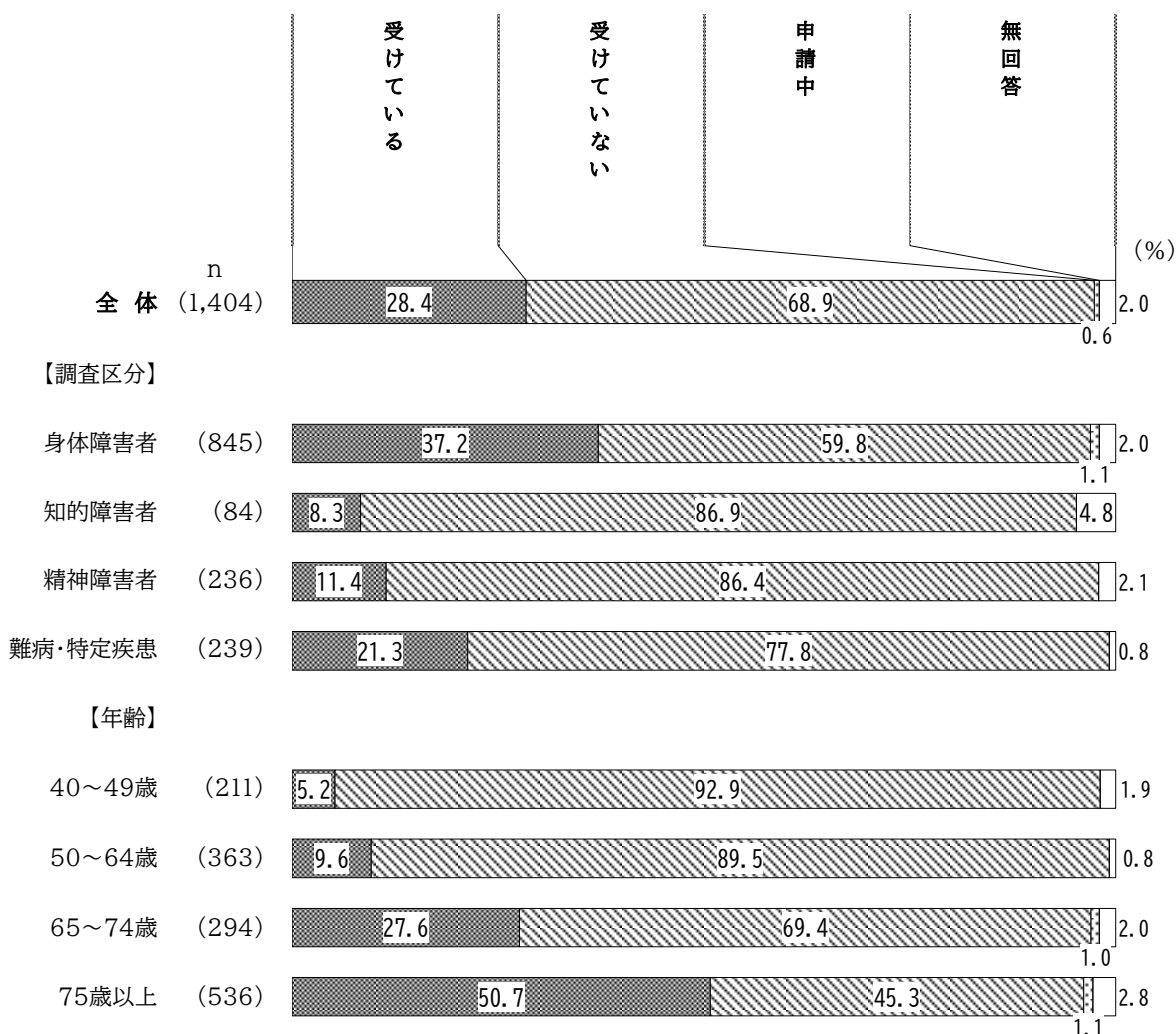
問13 現在、介護保険の認定を受けていますか。(1つに○)



現在、介護保険の認定を「受けている」は28.4%、「受けていない」は68.9%となっている。調査区分別にみると、「受けている」は身体障害者が37.2%、難病・特定疾患が21.3%となっている。

年齢別にみると、「受けている」は65～74歳で27.6%、75歳以上で50.7%となっている。

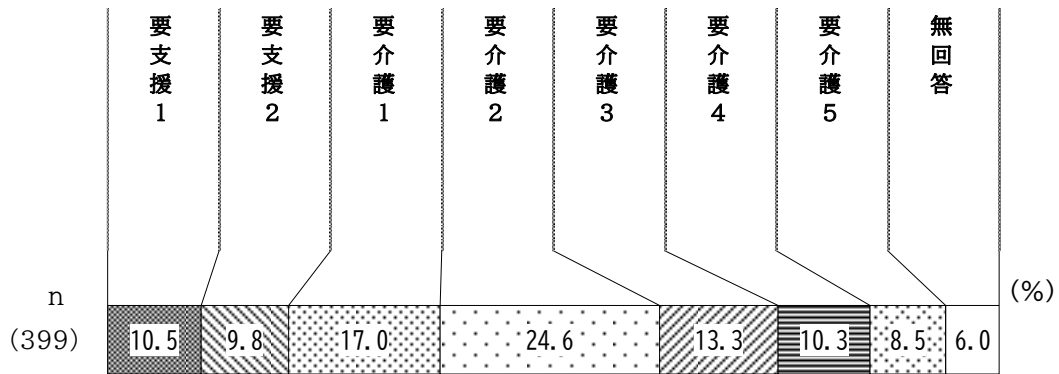
調査区分別、年齢別



(4) 要介護度 (40歳以上の方)

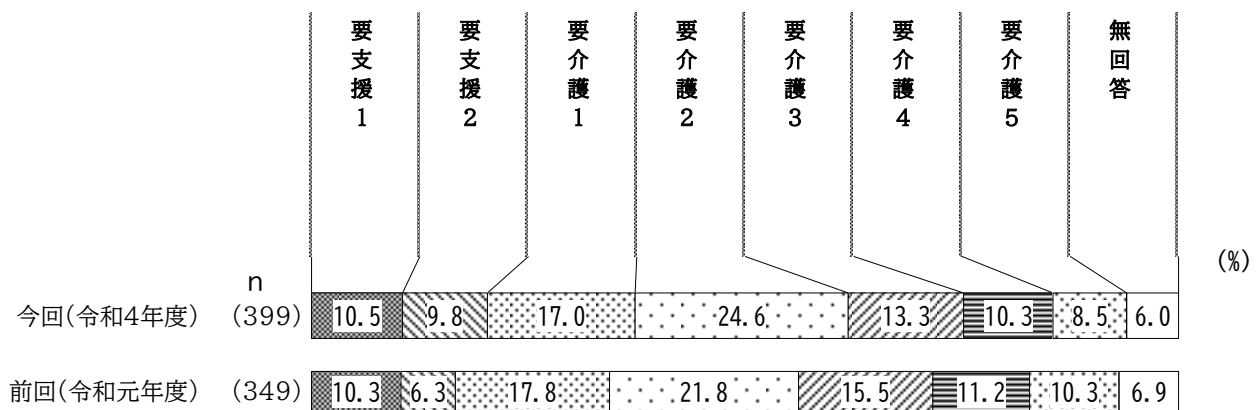
【問13で、「(介護保険の認定を) 受けている」と回答した方にお聞きします。】

問13-1 あなたの認定内容はどれにあてはまりますか。(1つに○)



認定内容は幅広く分布しているが、「要介護2」(24.6%)を中心に「要介護1」(17.0%)、「要介護3」(13.3%)が比較的多くなっている。

令和元年度調査との比較



令和元年度調査と比較すると、「要支援2」は3.5ポイント、「要介護2」は2.8ポイント増となっている。

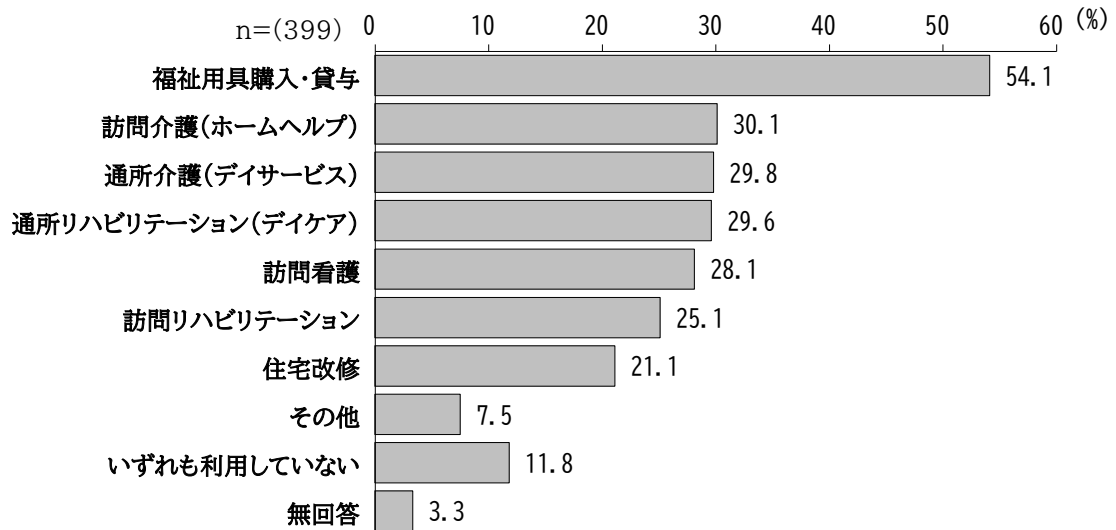


## (5) 利用中（利用経験あり）の介護保険サービス

【問13で、「(介護保険の認定を) 受けている」と回答した方にお聞きします。】

問13-2 利用している、又は利用したことがある介護保険サービスはどれですか。

(あてはまるものすべてに○)

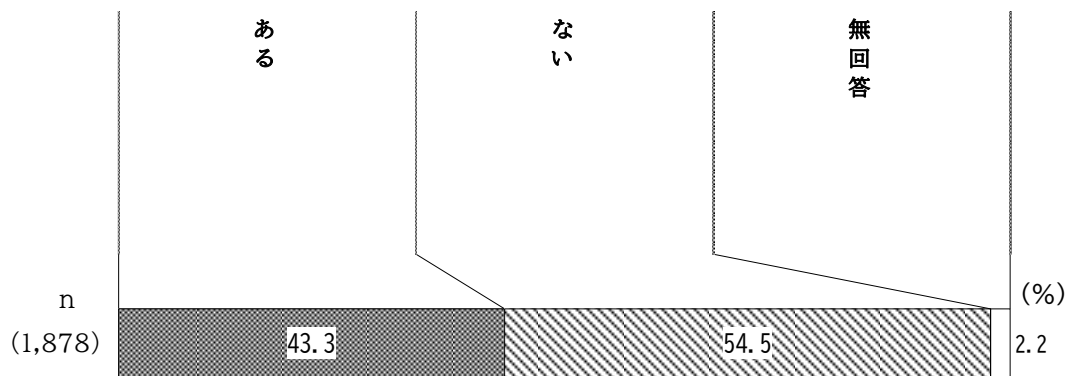


利用している（したことがある）介護保険サービスは、「福祉用具購入・貸与」が54.1%で最も多く、以下、「訪問介護（ホームヘルプ）」が30.1%、「通所介護（デイサービス）」（29.8%）、「通所リハビリテーション（デイケア）」（29.6%）、「訪問看護」（28.1%）、「訪問リハビリテーション」（25.1%）、「住宅改修」（21.1%）が2割台が続いている。

## 5. 相談や情報入手について

### (1) 日常生活で困っていること

問14 日常生活において、何か困っていることがありますか。(1つに○)

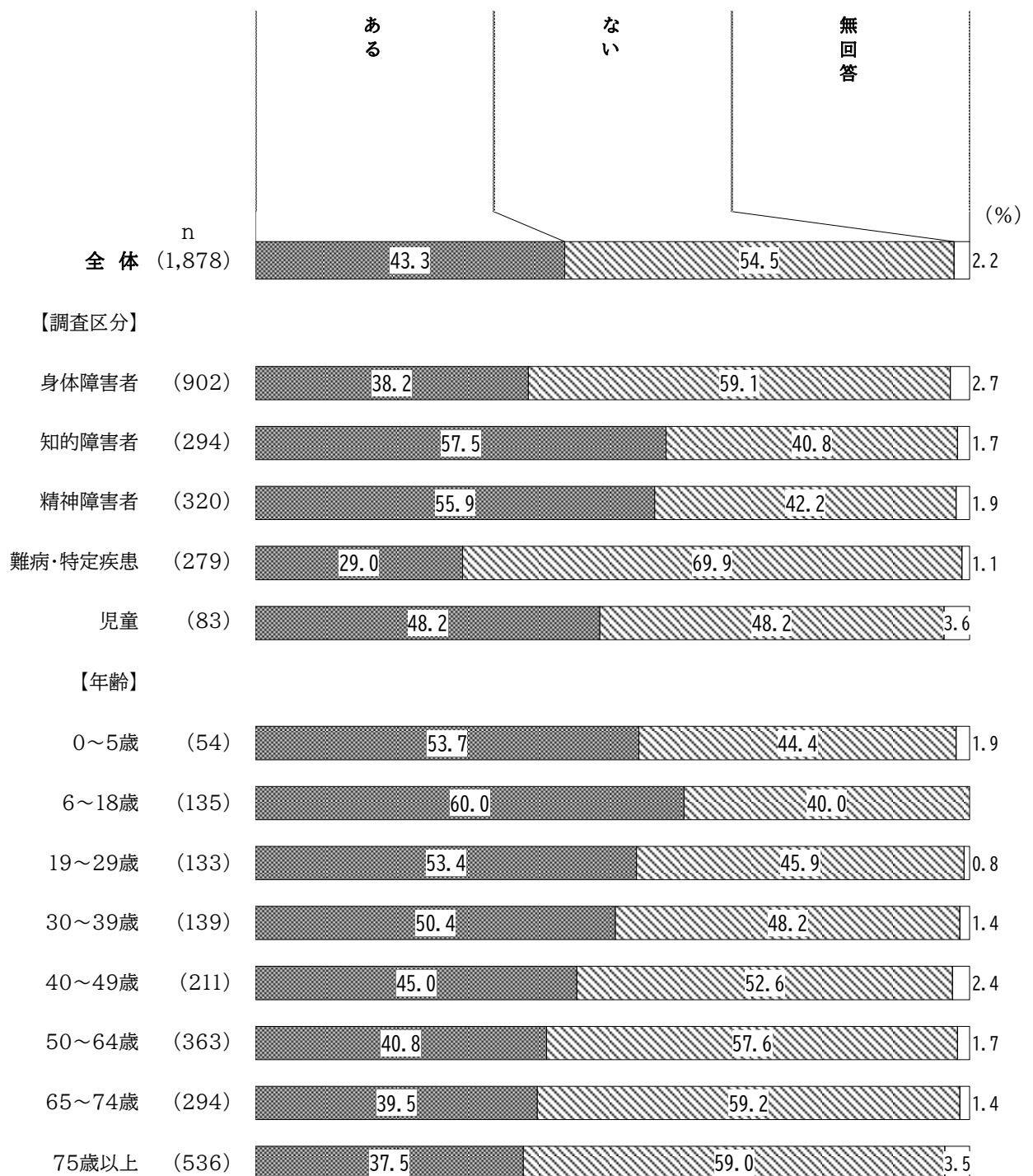


日常生活において、何か困っていることが「ある」は43.3%、「ない」は54.5%となっている。

調査区分別にみると、「ある」は知的障害者（57.5%）、精神障害者（55.9%）で5割台となっている。

年齢別にみると、「ある」は6～18歳で60.0%、0～5歳、19～39歳で5割台となっている。30～39歳では「ある」と「ない」がそれぞれ半数近くとなっている。40歳以上の年齢では「ない」が5割台となり、「ある」を上回っている。

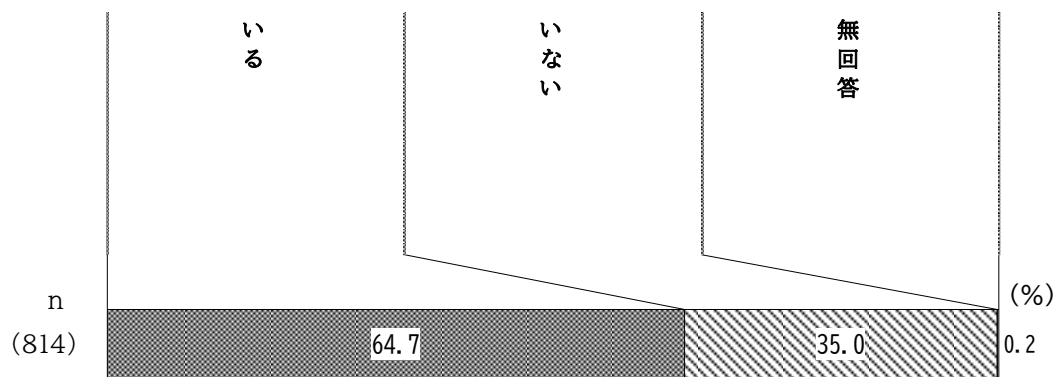
調査区分別、年齢別



(2) 相談相手〔家族や友人を除く〕の有無

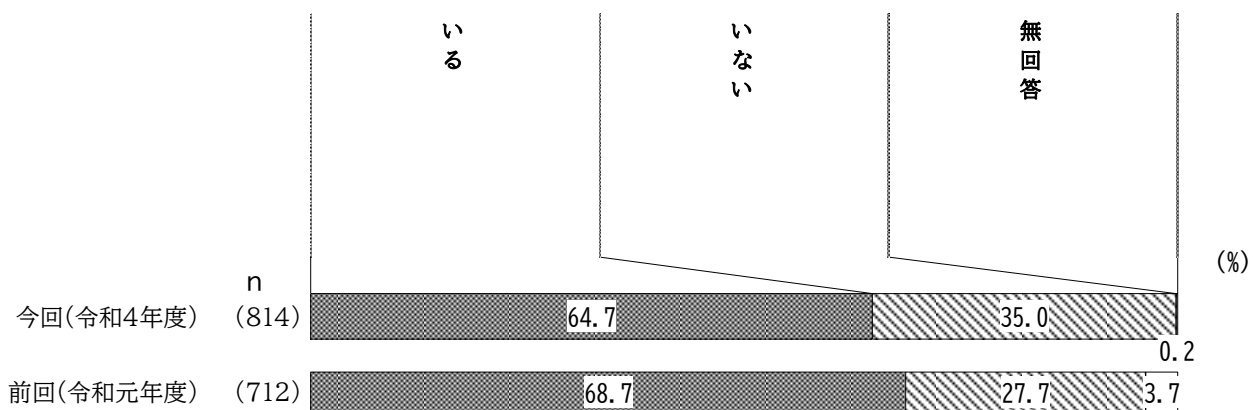
【問14で「(困っていることが) ある」と回答した方にお聞きします。】

問14-1 困っていることを相談する人はいますか。〔家族や友人を除く〕(1つに○)



困っていることを相談する人が「いる」は64.7%、「いない」は35.0%となっている。

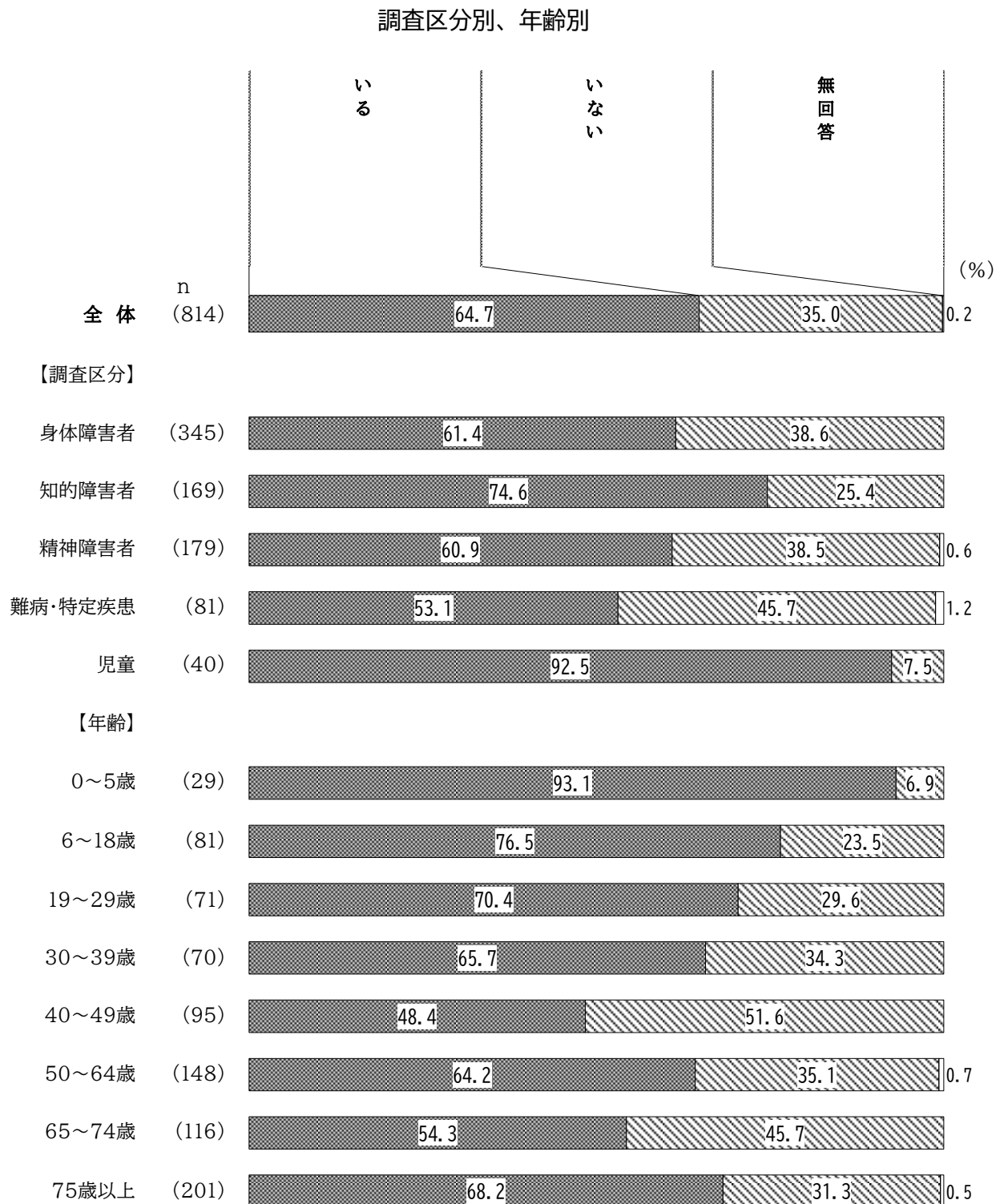
令和元年度調査との比較



令和元年度調査と比較すると、「いない」は7.3ポイント増加している。

調査区分別にみると、困っていることを相談する人が「いる」は身体障害者、知的障害者、精神障害者、児童で6割以上となっており、特に児童では92.5%を占めている。

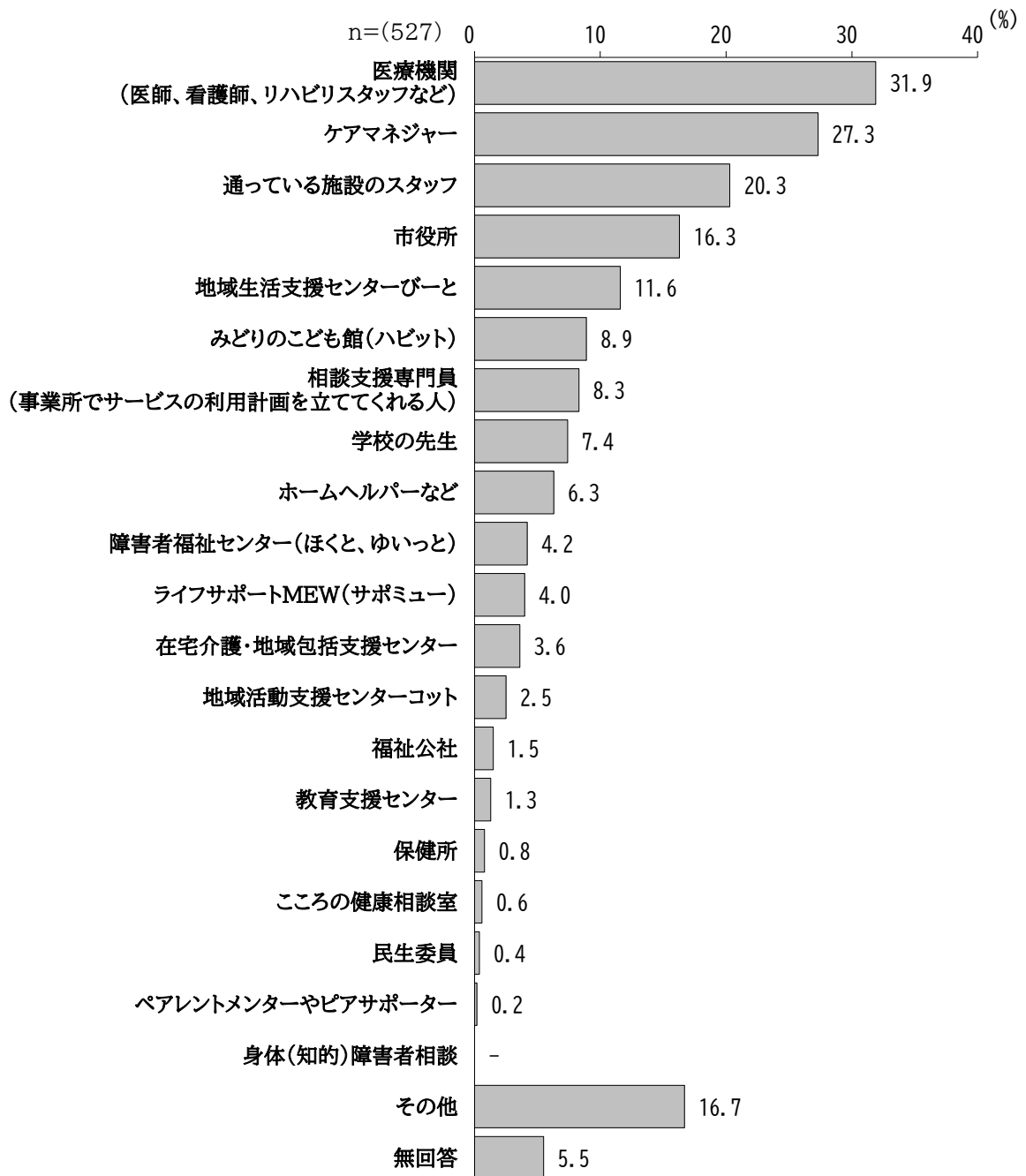
年齢別にみると、「いる」は29歳以下で7割以上を占め、特に0～5歳では93.1%となっている。一方、40～49歳は「いない」が5割台となり、「いる」を上回っている。



(3) 相談相手

【問14-1で「(相談相手が) いる」と回答した方にお聞きします。】

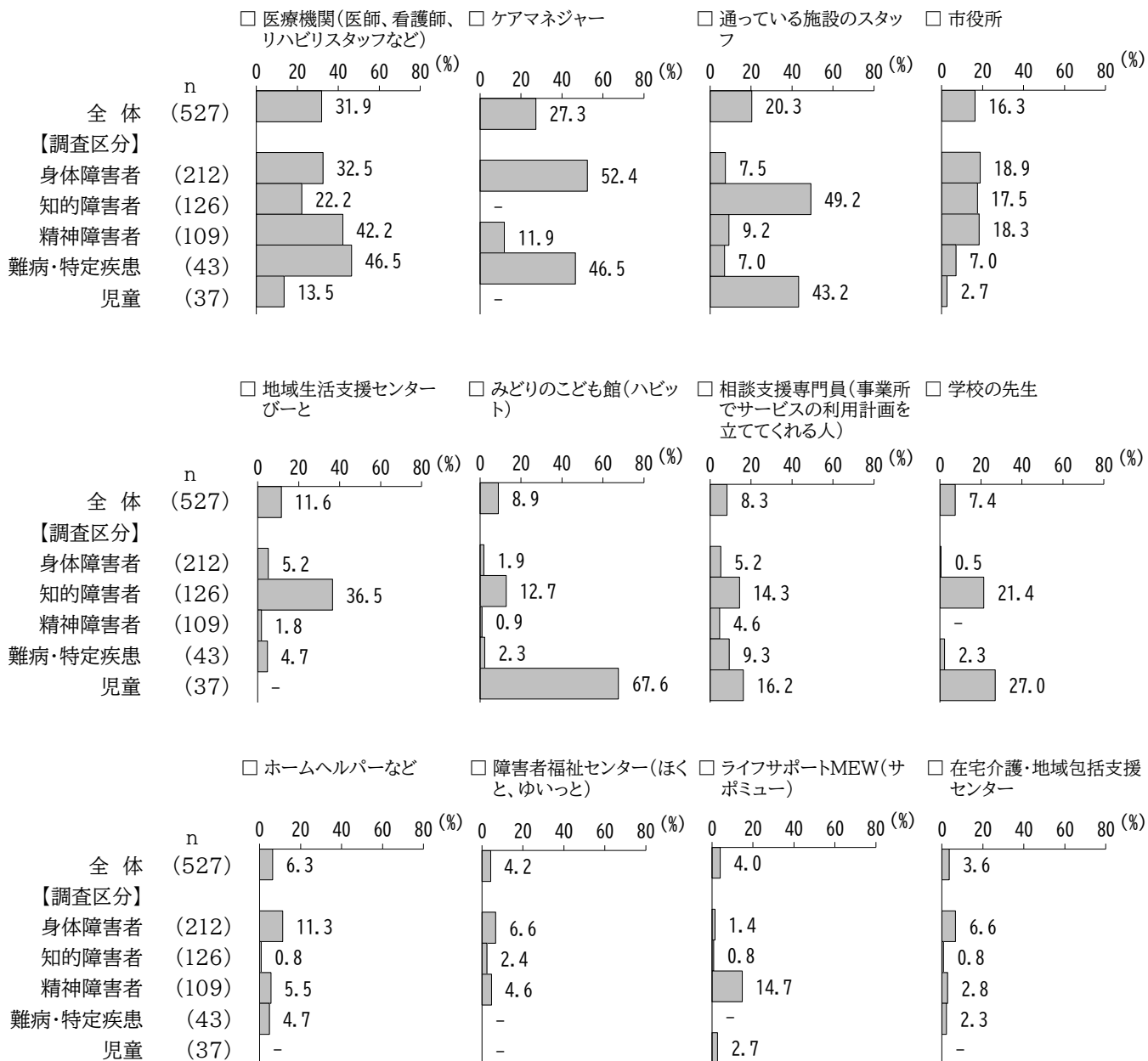
問14-2 相談相手は、次のうちどれにあたりますか。(主にあてはまるもの3つまでに○)



相談相手は、「医療機関」が31.9%で最も多く、以下、「ケアマネジャー」(27.3%)、「通っている施設のスタッフ」(20.3%)が2割台、「市役所」(16.3%)、「地域生活支援センターびーと」(11.6%)が1割台で続いている。

調査区分別にみると、「医療機関」は難病・特定疾患が46.5%、精神障害者が42.2%、「ケアマネジャー」は身体障害者が52.4%、難病・特定疾患が46.5%と多くなっている。知的障害者では「通っている施設のスタッフ」、「地域生活支援センターびーと」、児童では「みどりのこども館(ハビット)」、「通っている施設のスタッフ」が多い。

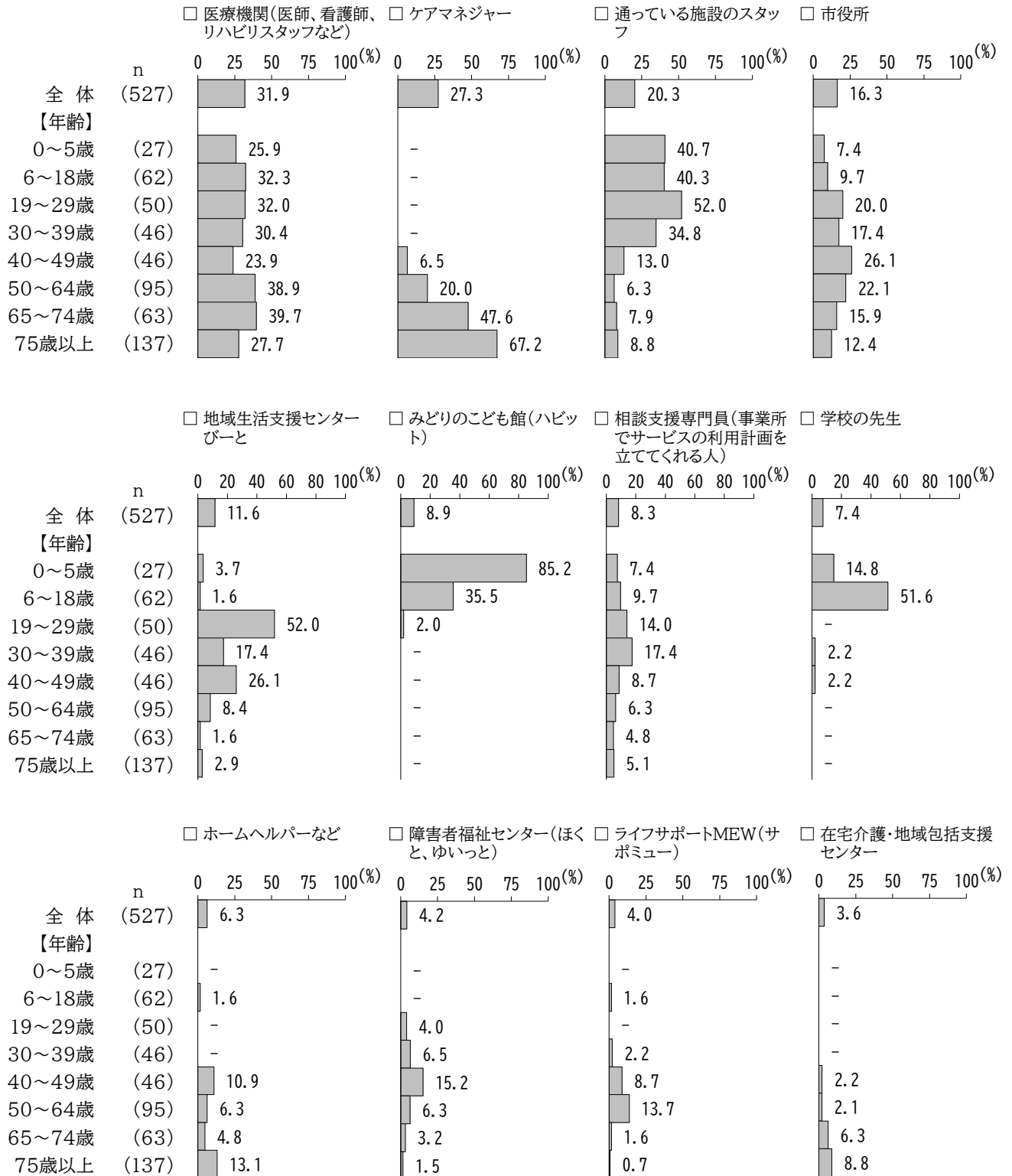
調査区分別（上位12項目）



### 第3章 調査結果の詳細

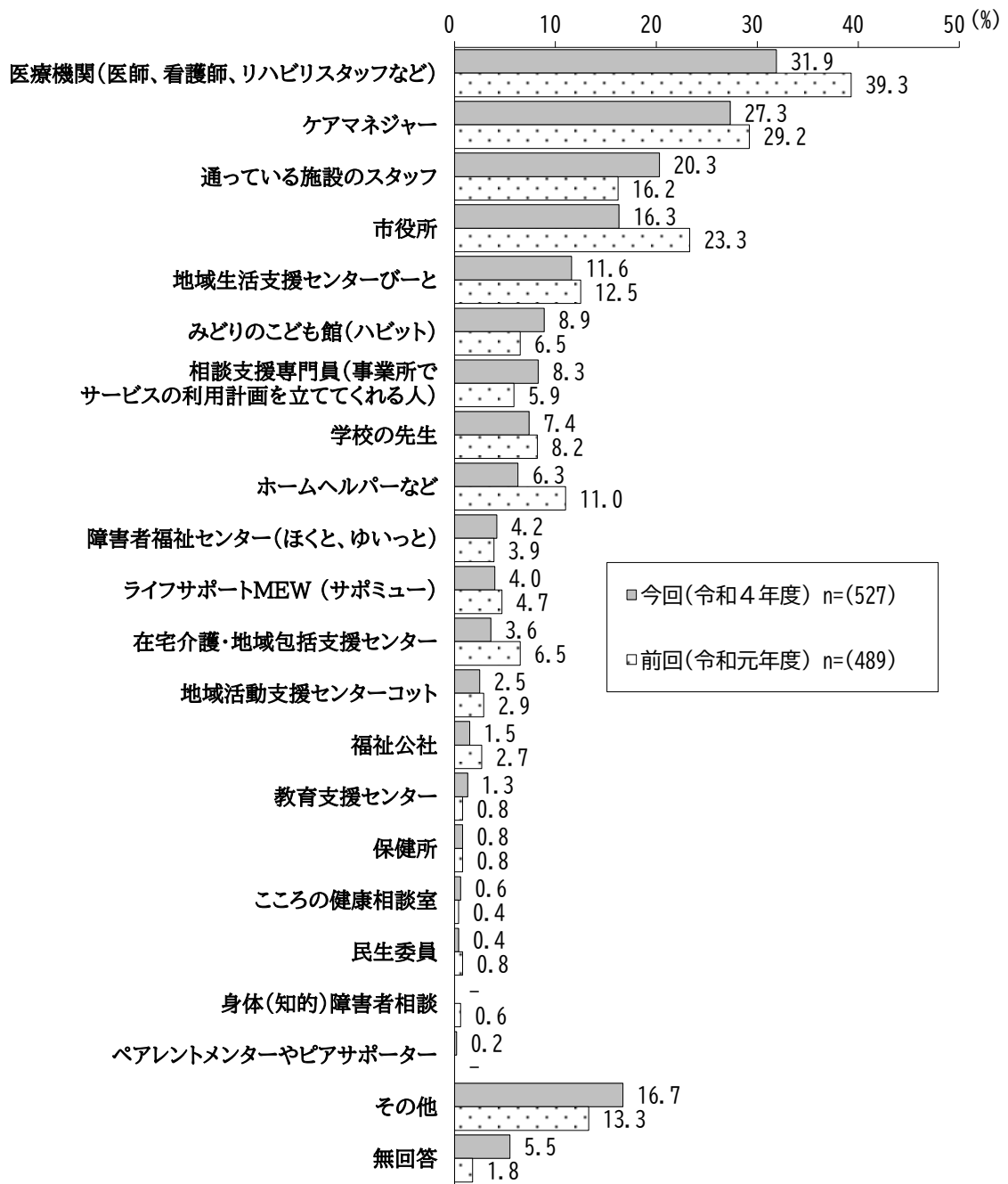
年齢別にみると、「医療機関」はいずれの年齢でも2割から3割台と多く、「ケアマネジャー」は75歳以上で67.2%、65～74歳でも47.6%と多くなっている。「通っている施設のスタッフ」は19～29歳で52.0%、0～18歳で4割台と他の年齢より多い。この他、0～5歳では「みどりのこども館（ハビット）」（85.2%）、6～18歳では「学校の先生」（51.6%）、19～29歳では「地域生活支援センターびーと」（52.0%）が多くなっている。

年齢別（上位12項目）





令和元年度調査との比較



※「ペアレントメンターやピアサポーター」の選択肢は今回から新規追加

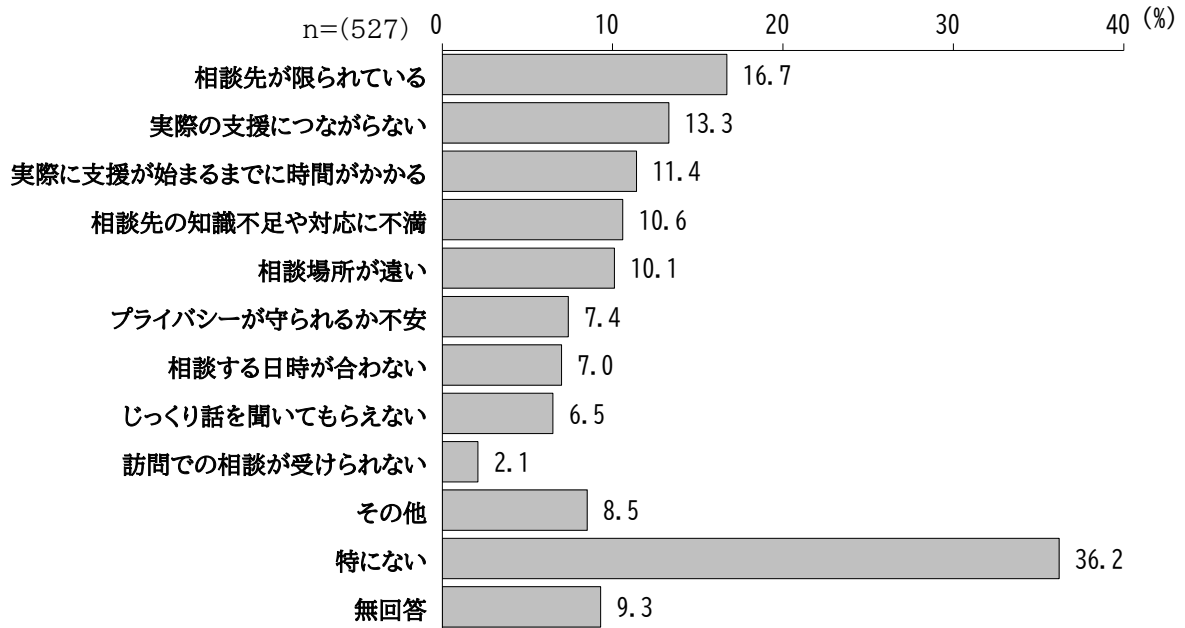
令和元年度調査と比較すると、「医療機関」は7.4ポイント、「市役所」は7.0ポイント減少している。「通っている施設のスタッフ」、「みどりのこども館」、「相談支援専門員」、「障害者福祉センター」は増加となっている。

(4) 相談する際に不便なこと

【問14-1で「(相談相手が) いる」と回答した方にお聞きします。】

問14-3 悩み事や心配事を相談する場合に不便に感じていることがありますか。

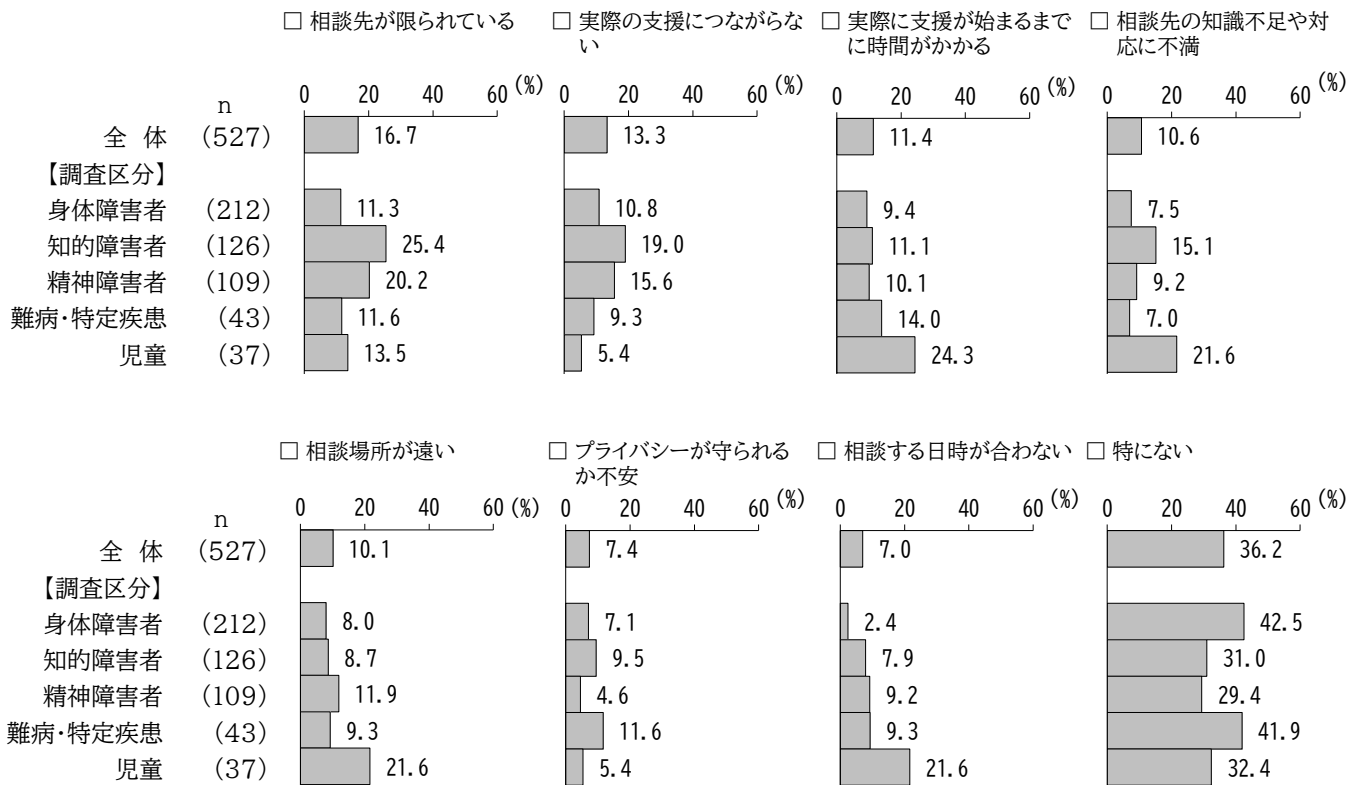
(主にあてはまるもの3つまでに○)



悩み事や心配事を相談する場合に不便に感じていることは、「特にない」が36.2%で最も多くなっている。不便に感じていることでは、「相談先が限られている」(16.7%)、「実際の支援につながらない」(13.3%)、「実際に支援が始まるまでに時間がかかる」(11.4%)、「相談先の知識不足や対応に不満」(10.6%)、「相談場所が遠い」(10.1%)が1割台となっている。

調査区分別にみると、「相談先が限られている」は知的障害者（25.4%）、精神障害者（20.2%）で2割台となっている。「実際の支援につながらない」は知的障害者で19.0%、「実際に支援が始まるまでに時間がかかる」は児童で24.3%となっている。

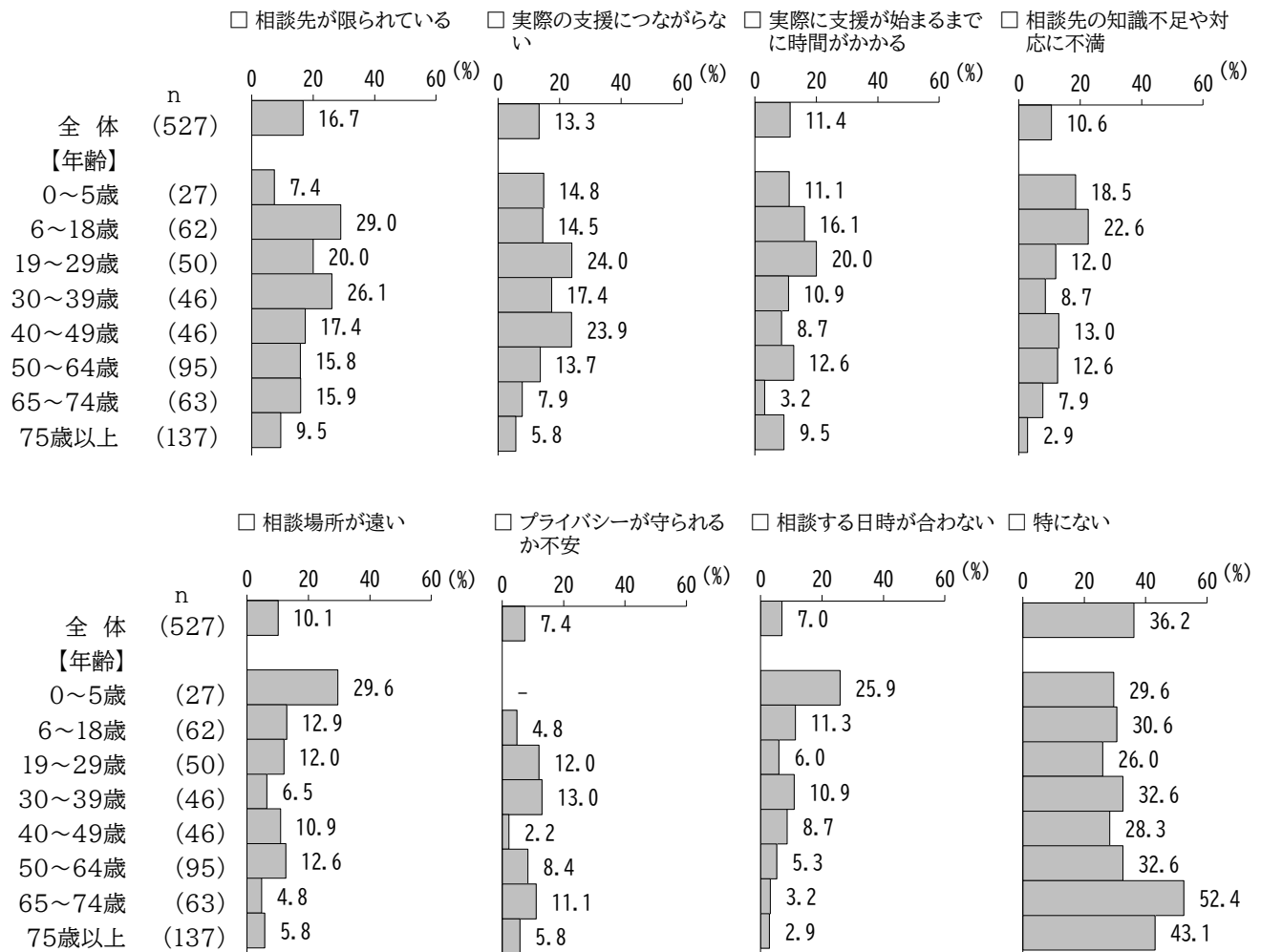
調査区分別（上位7項目+「特にない」）



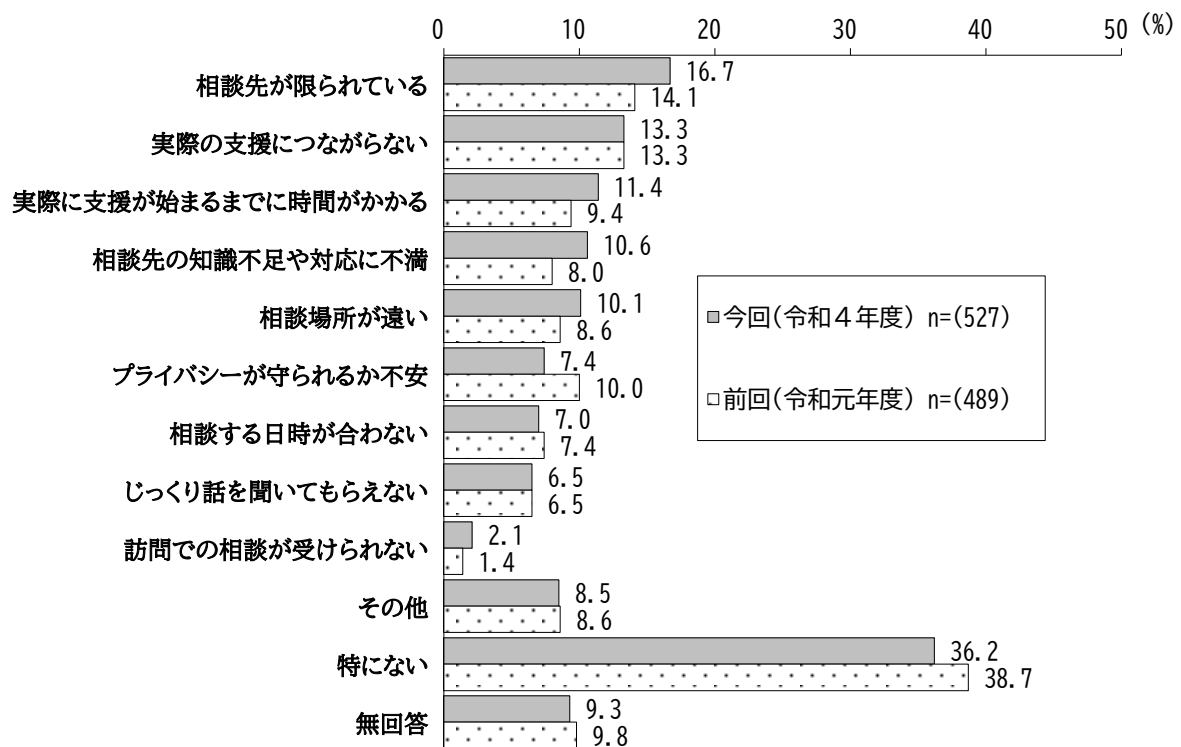
### 第3章 調査結果の詳細

年齢別にみると、「相談先が限られている」は6歳から39歳で2割台、「実際の支援につながらない」は19～29歳と40～49歳で2割台と多くなっている。「相談場所が遠い」と「相談する日時が合わない」は0～5歳で2割台と他の年齢より多くなっている。

年齢別（上位7項目＋「特にない」）



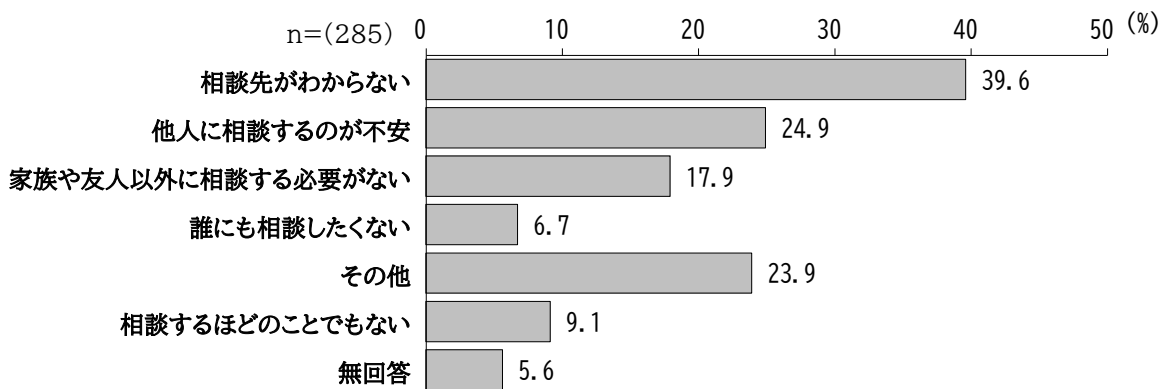
## 令和元年度調査との比較



令和元年度調査と比較すると、「相談先が限られている」、「実際に支援が始まるまでに時間がかかる」、「相談先の知識不足や対応に不満」、「相談場所が遠い」は増加している。「プライバシーが守られるか不安」は2.6ポイント減少している。

(5) 相談相手がない理由

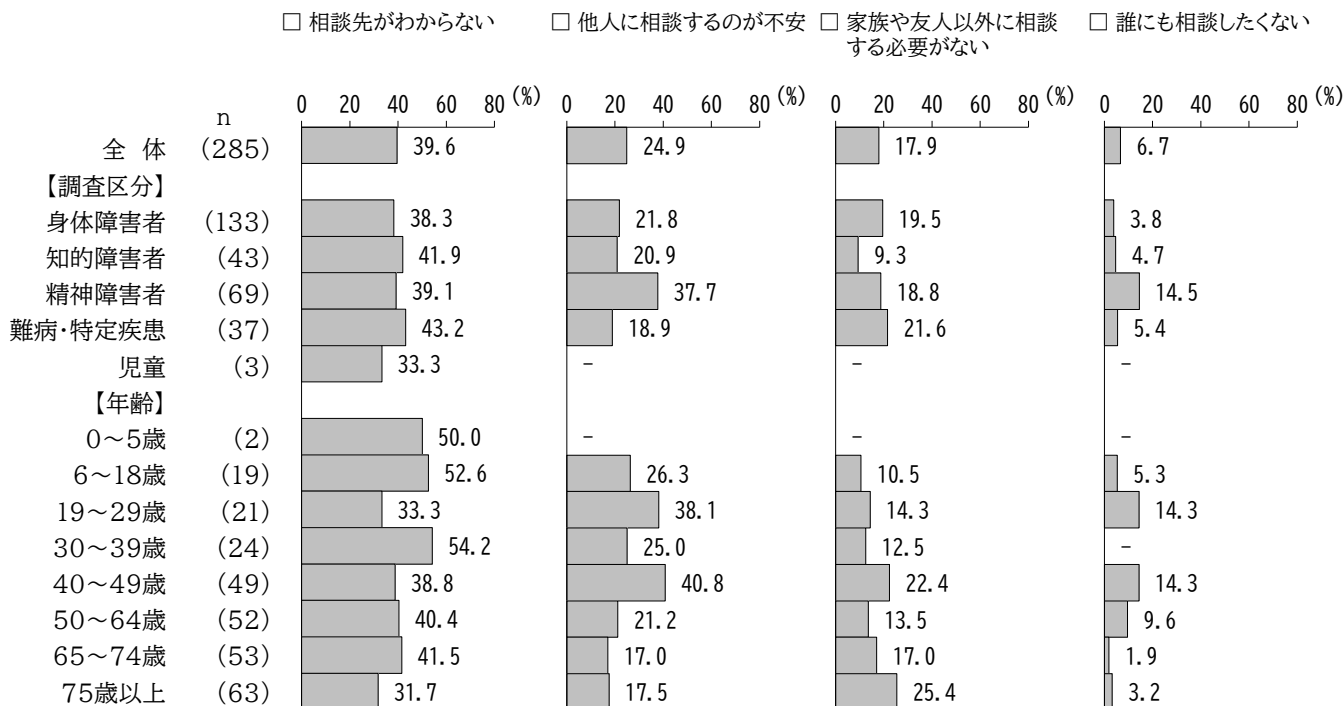
【問14-1で「(相談相手が) いない」と回答した方にお聞きします。】  
 問14-4 相談相手がない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)



相談相手がない理由は、「相談先がわからない」が39.6%で最も多く、以下、「他人に相談するのが不安」(24.9%)、「家族や友人以外に相談する必要がある」(17.9%)が続いている。

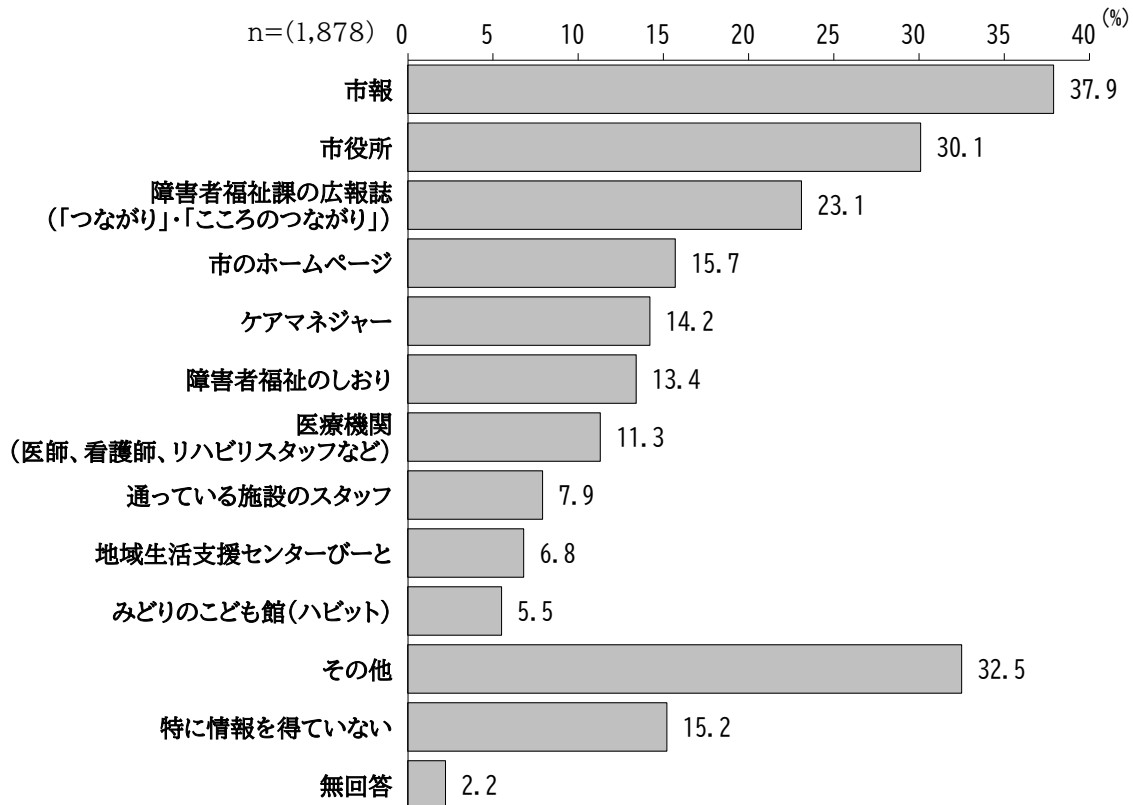
調査区分別にみると、「相談先がわからない」は難病・特定疾患(43.2%)、知的障害者(41.9%)で4割台となっている。「他人に相談するのが不安」は精神障害者で37.7%と他の調査区分より多くなっている。

調査区分別、年齢別(上位4項目)



(6) 市の生活支援に関するサービスの情報入手源

問15 市の生活支援に関するサービスの情報は、どこから聞いたり、知ったりしていますか。  
(あてはまるものすべてに○)



その他に含まれる選択肢(5.0%以下)	(%)
相談支援専門員(事業所でサービスの利用計画を立ててくれる人)	3.6
在宅介護・地域包括支援センター	3.0
市公式以外のインターネットやSNS	2.8
障害者福祉センター(ほくと、ゆいっと)	2.6
市の公式SNS(Twitter・LINEなど)	2.2
ライフサポートMEW(サポミュ)	2.1
ホームヘルパーなど	2.0
学校の先生	1.8
むさしのFM、武蔵野三鷹ケーブルテレビ	1.6
地域活動支援センターコト	1.4
民生委員	1.3
保健所	1.3
福祉公社	1.1
教育支援センター	0.8
こころの健康相談室	0.5
身体(知的)障害者相談員	0.3
ペアレントメンターやピアサポーター	0.1

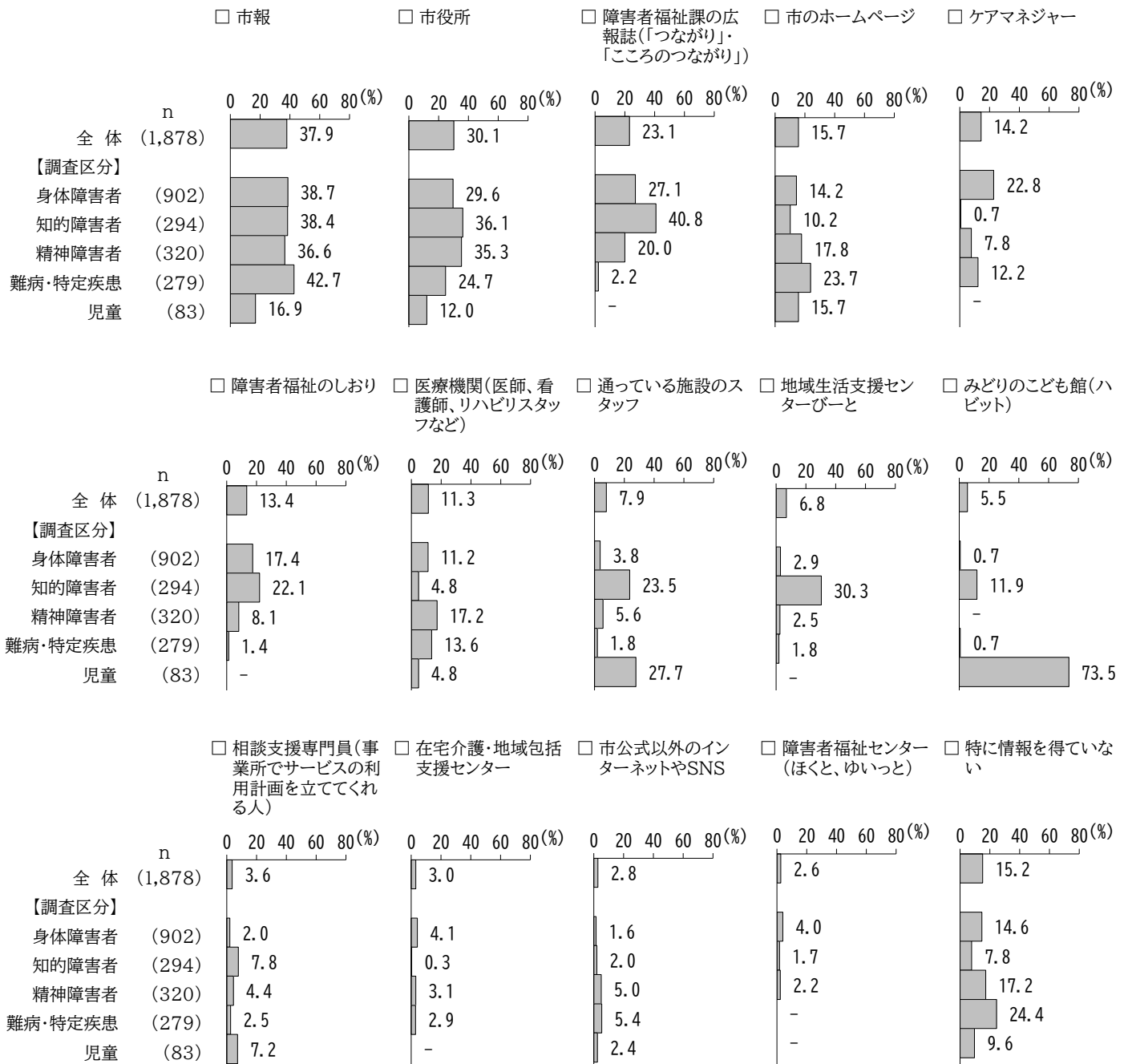
※「ペアレントメンターやピアサポーター」「市の公式SNS (Twitter・LINE など)」の選択肢は今回から新規追加

市の生活支援に関するサービスの情報の入手先は、「市報」が37.9%で最も多く、以下、「市役所」が30.1%、「障害者福祉課の広報誌（「つながり」・「こころのつながり）」が23.1%と続いている。

### 第3章 調査結果の詳細

調査区分別にみると、児童以外において「市報」は3割から4割台となっている。「障害者福祉課の広報誌」は知的障害者で40.8%と多く、身体障害者では27.1%、精神障害者では20.0%となっている。また、身体障害者では「ケアマネジャー」(22.8%)、知的障害者では「地域生活支援センターびーと」(30.3%)、児童では「みどりのこども館」(73.5%)が多くなっている。

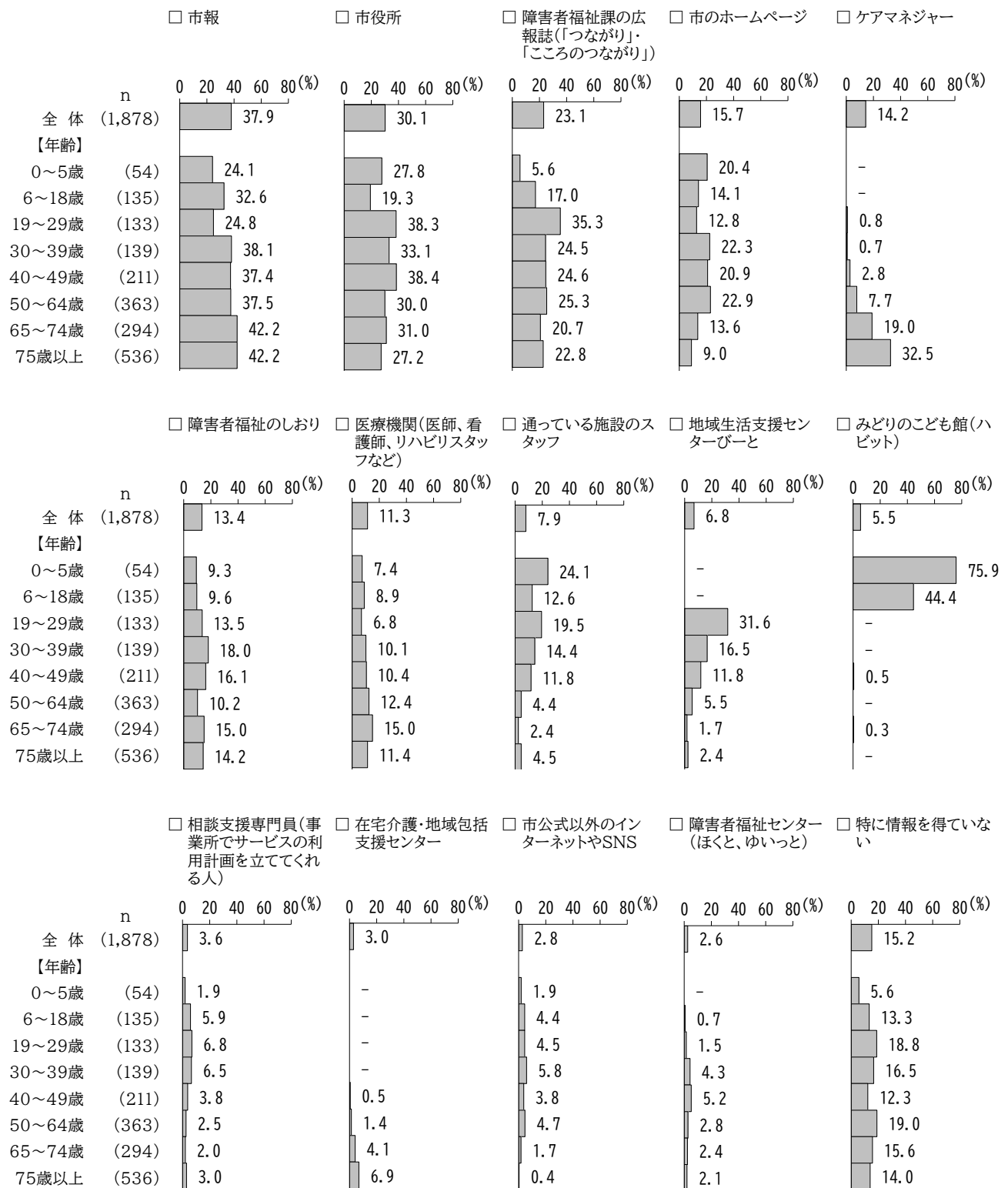
調査区分別（上位14項目＋「特に情報を得ていない」）



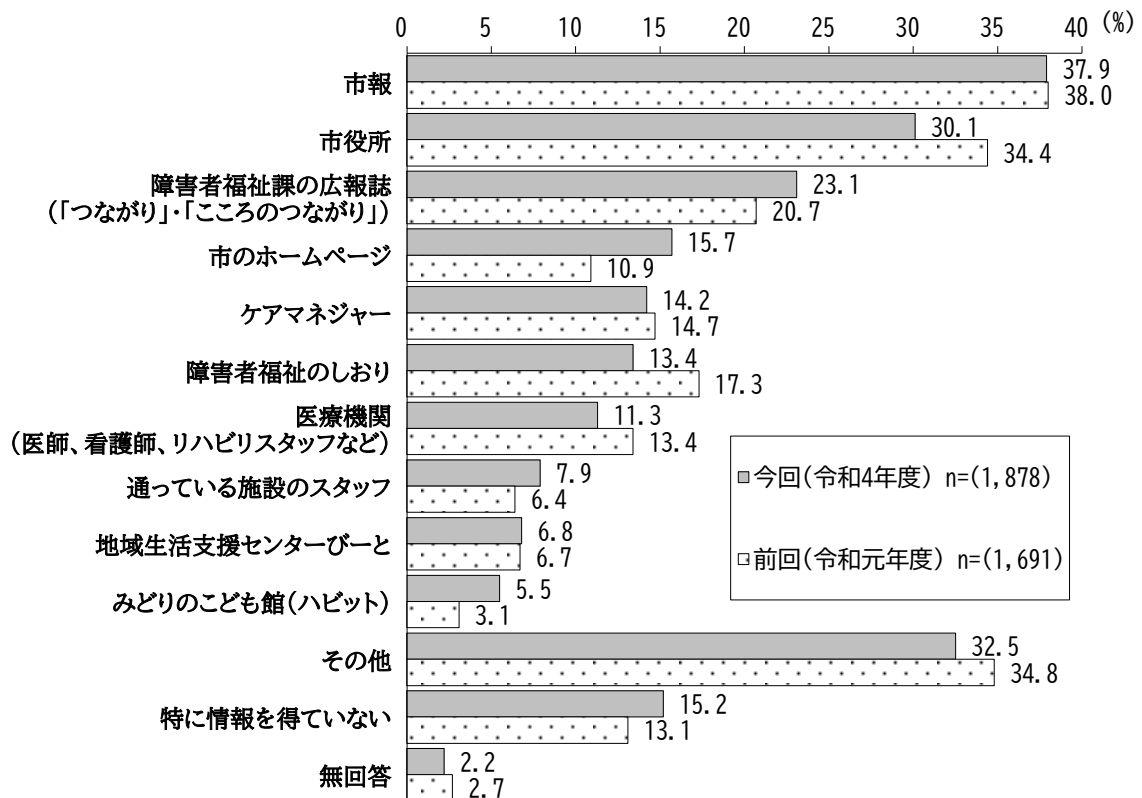


年齢別にみると、「市報」と「市役所」はいずれの年齢からも多くあげられている。「障害者福祉課の広報誌」は19歳以上の年齢で多く、0～18歳では「みどりの子ども館（ハビット）」が多くなっている。

年齢別（上位14項目＋「特に情報を得ていない」）



令和元年度調査との比較



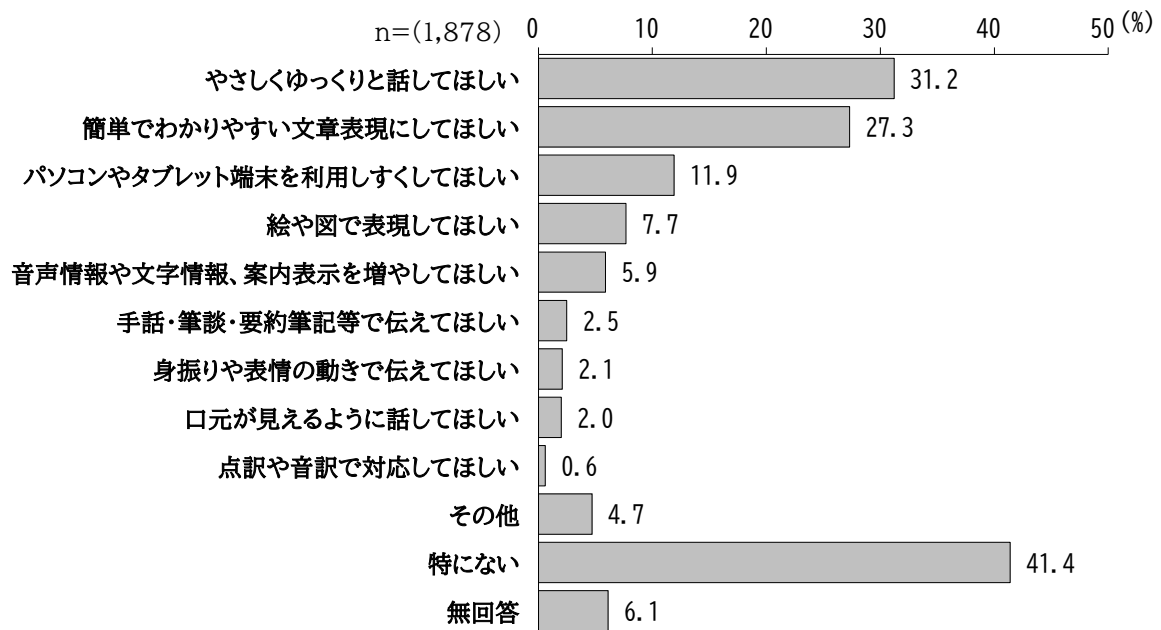
【前回調査】その他に含まれる選択肢(5.0%以下)	%
相談支援専門員(事業所でサービスの利用計画を立ててくれる人)	3.8
在宅介護・地域包括支援センター	4.8
市公式以外のインターネットやSNS	0
障害者福祉センター(ほくと、ゆいっと)	2.6
市の公式SNS (Twitter・LINEなど)	-
ライフサポートMEW (サボミュー)	3.1
ホームヘルパーなど	3.9
学校の先生	1.9
むさしのFM、武蔵野三鷹ケーブルテレビ	1.5
地域活動支援センターコット	1.4
民生委員	2
保健所	1.8
福祉公社	2.2
教育支援センター	0.7
こころの健康相談室	0.6
身体(知的)障害者相談員	0.5
ペアレントメンターやピアサポーター	-

※「ペアレントメンターやピアサポーター」「市の公式SNS (Twitter・LINE など)」の選択肢は今回から新規追加

令和元年度調査と比較すると、多くの項目は減少傾向にあるが、「市のホームページ」は4.8ポイント増加している。

## (7) 相談でのコミュニケーションや情報取得をするうえで配慮してほしいこと

問16 相談でのコミュニケーションや情報取得をするうえで、どのようなことに配慮してほしいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

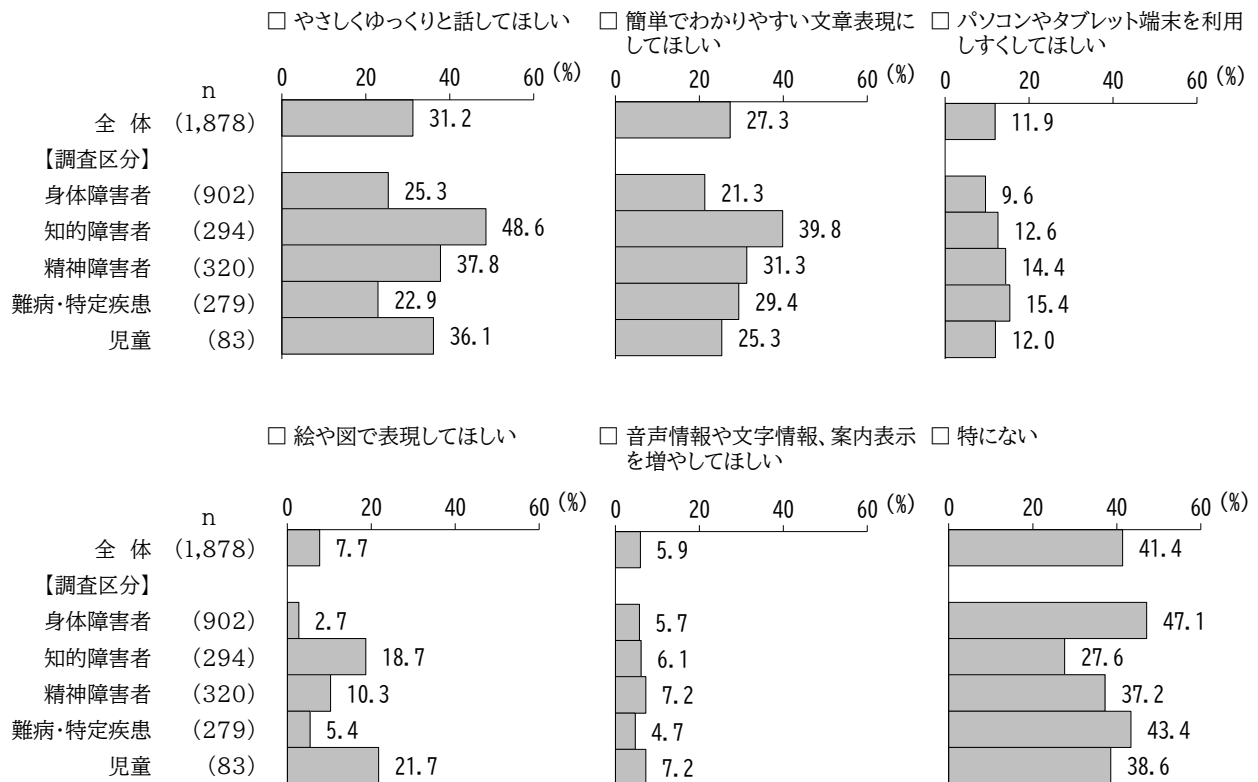


コミュニケーションや情報取得をするうえで、配慮してほしいことは、「特にない」が41.4%で最も多くなっている。望む配慮の内容は、「やさしくゆっくりと話してほしい」が31.2%、「簡単でわかりやすい文章表現にしてほしい」が27.3%、「パソコンやタブレット端末を利用しやすくしてほしい」が11.9%となっている。

### 第3章 調査結果の詳細

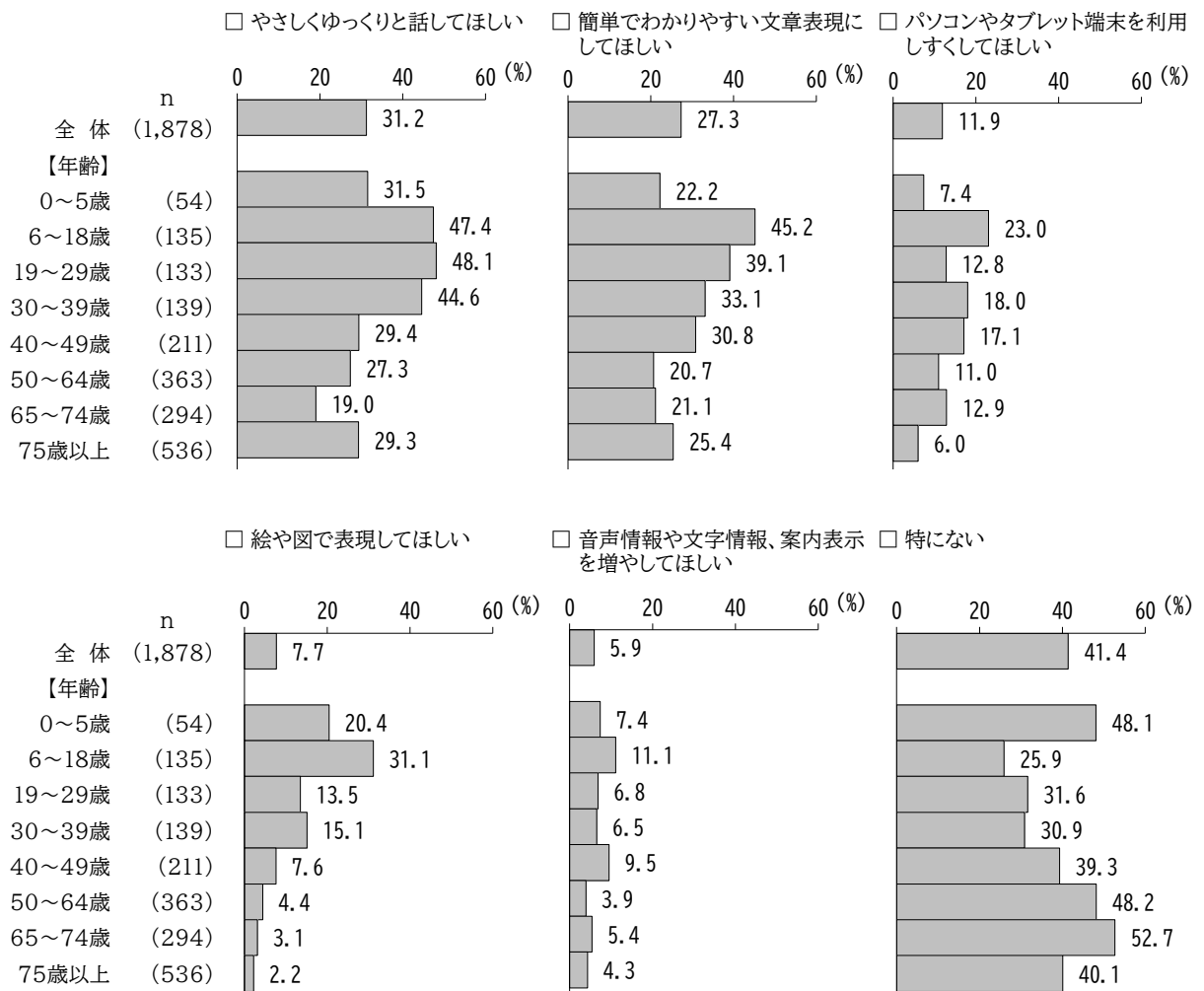
調査分別にみると、知的障害者では「やさしくゆっくりと話してほしい」が48.6%、「簡単でわかりやすい文章表現にしてほしい」が39.8%と特に多くなっている。児童では「絵や図で表現してほしい」が21.7%と比較的多い。

調査区分別（上位5項目+「特にない」）



年齢別にみると、6歳から39歳の年齢を中心に「やさしくゆっくりと話してほしい」が4割台と多く、「簡単でわかりやすい文章表現にしてほしい」では6～18歳が45.2%と最も多い。

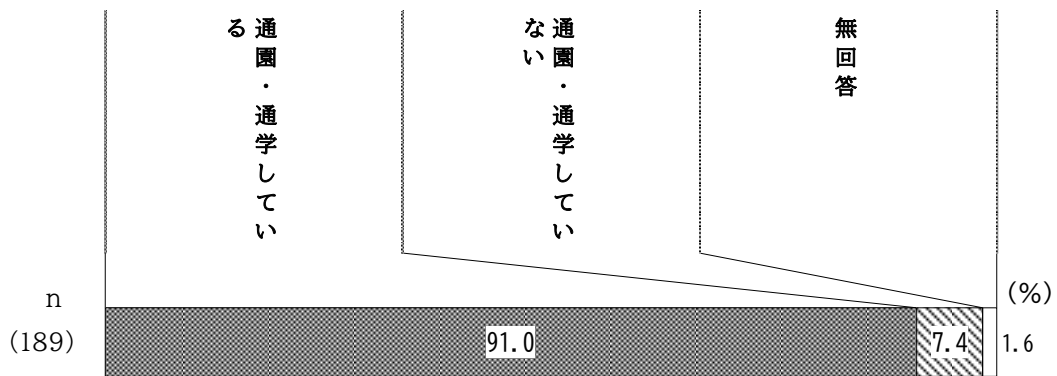
年齢別（上位5項目＋「特にない」）



## 6. 通園・通学について

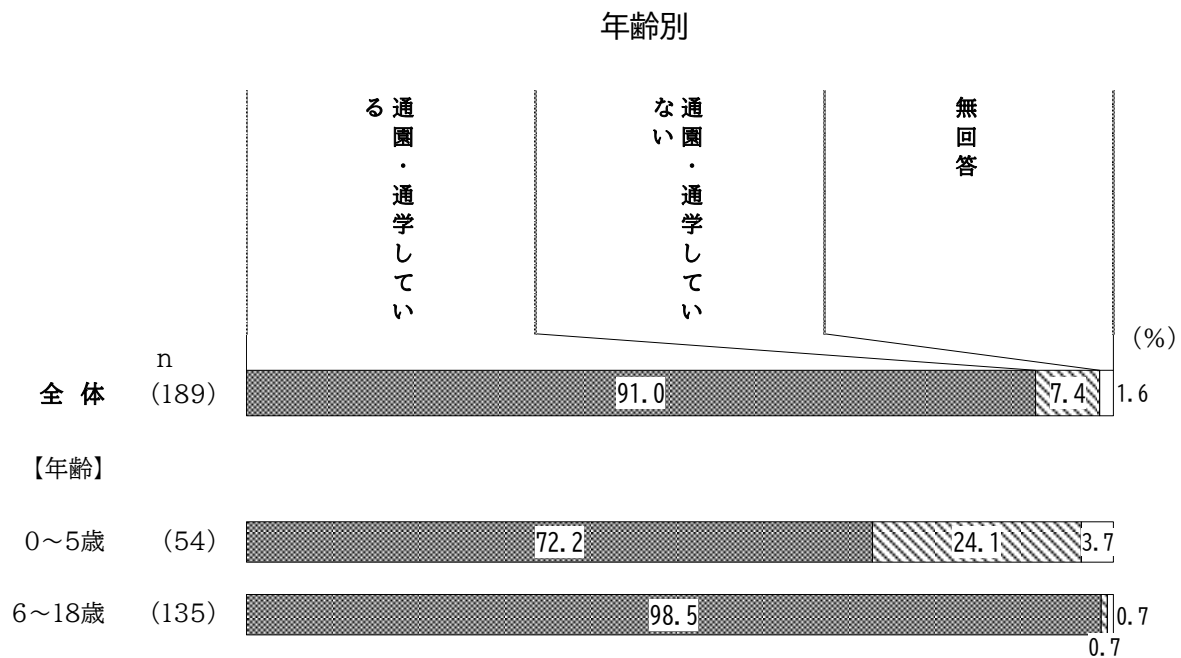
### (1) 通園・通学状況

問17 あなたは現在、保育園や幼稚園、学校へ通園・通学をしていますか。(1つに○)



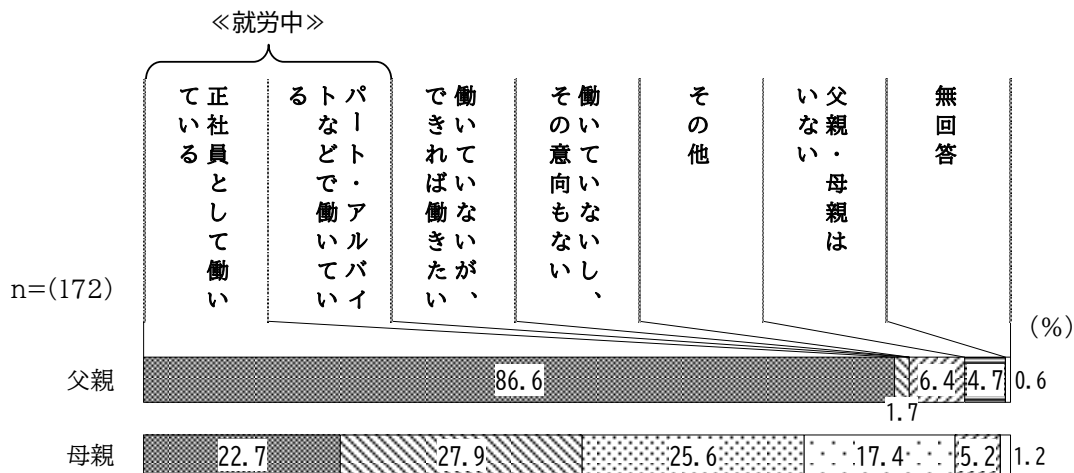
18歳以下の対象では、現在、保育園や幼稚園、学校へ「通園・通学している」は91.0%となっている。

年齢別にみると、「通園・通学している」は6～18歳では98.5%を占めている。



(2) 保護者の就労状況（通園・通学者）

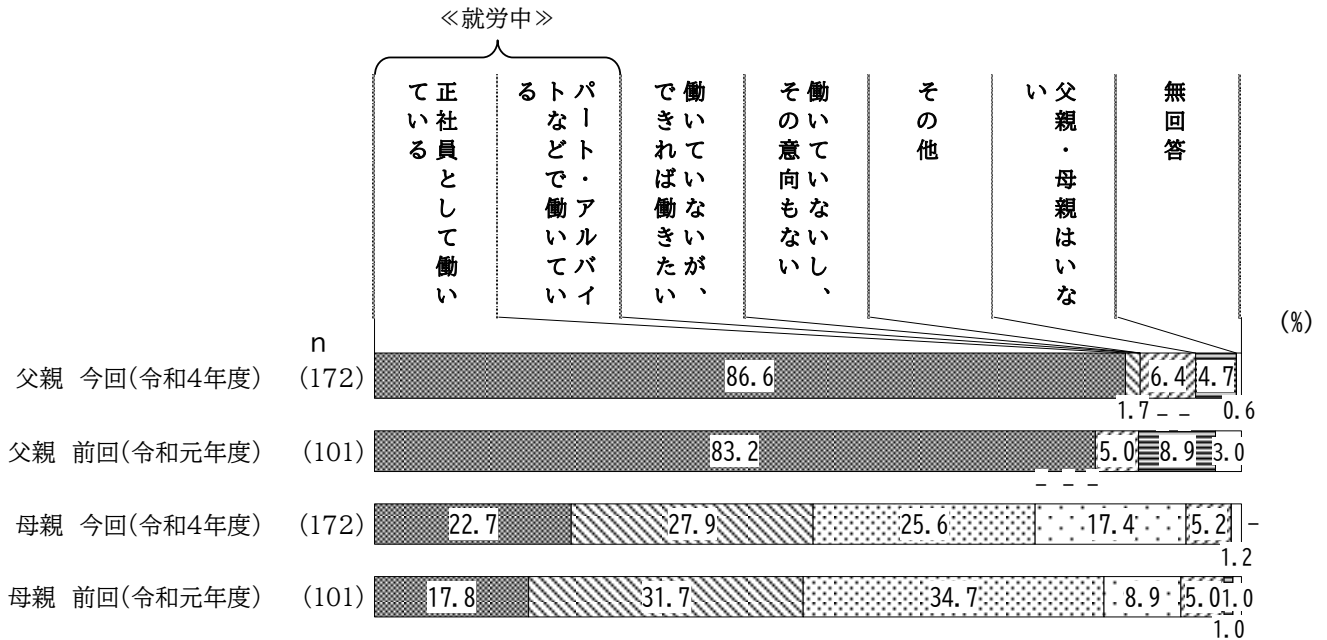
【問17で「通園・通学している」と回答した方にお聞きます。】  
 問17-1 あなたの父親、母親の就労状況についてお答えください。（それぞれ1つに○）



父親の就労状況は「正社員として働いている」が86.6%を占め、「パート・アルバイトなどで働いている」をあわせた《就労中》は88.3%となっている。

母親の就労状況は「正社員として働いている」が22.7%で、「パート・アルバイトなどで働いている」をあわせた《就労中》は50.6%となっている。「働いていないが、できれば働きたい」は25.6%となり、前回調査より9.1%減少した。

令和元年度調査との比較

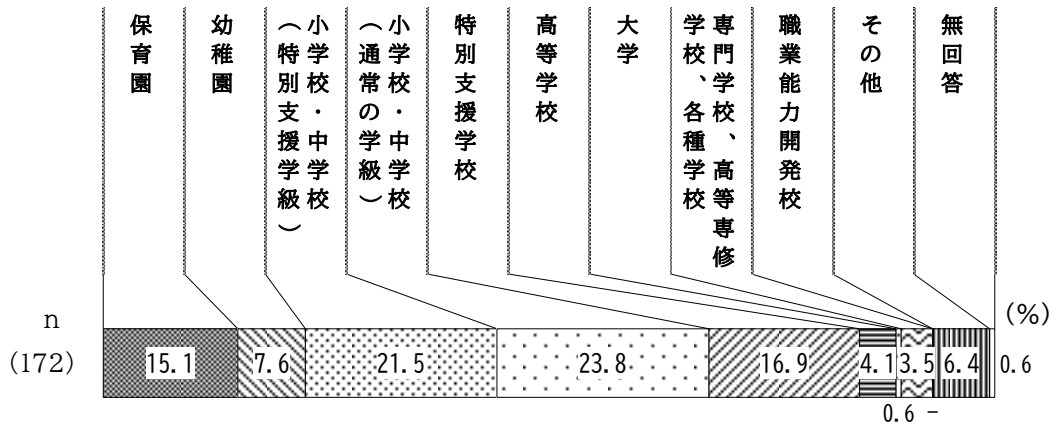


令和元年度調査と比較すると、父親の「正社員として働いている」は3.4ポイント、母親の「正社員として働いている」は4.9ポイント増加している。また、母親の「働いていないが、できれば働きたい」は9.1ポイント減少し、「働いていないし、その意向もない」が8.5ポイント増加している。



(3) 通園・通学先 (通園・通学者)

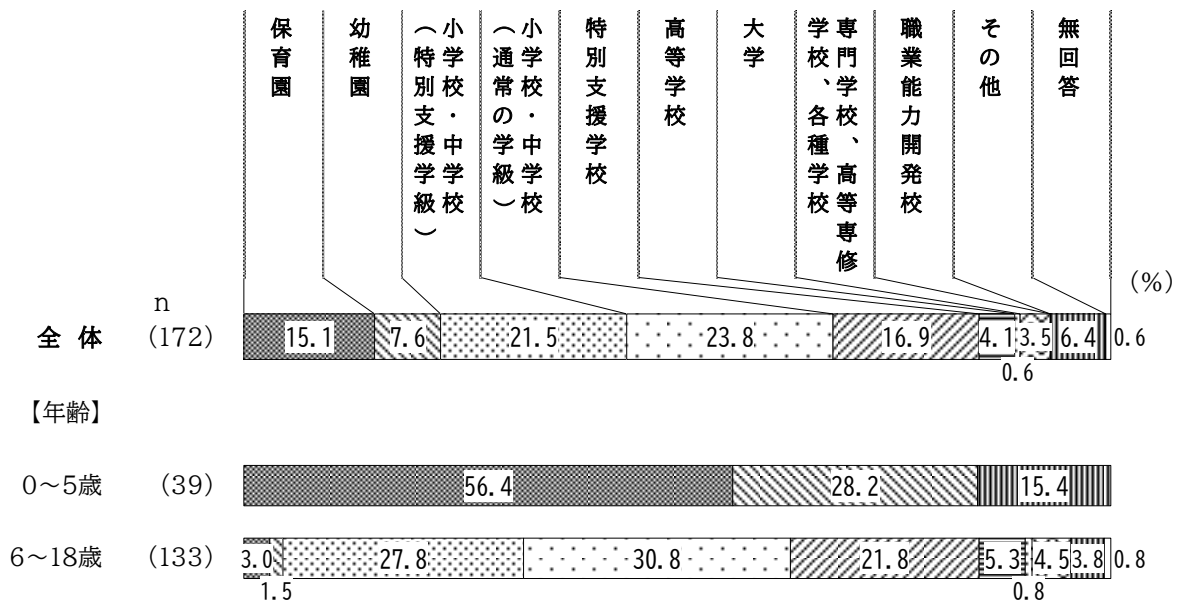
【問17で「通園・通学している」と回答した方にお聞きします。】  
 問17-2 通園・通学しているところはどこですか。(1つに○)



通園・通学先は「小学校・中学校 (通常の学級)」が23.8%で多く、これに「小学校・中学校 (特別支援学級)」が21.5%、「特別支援学校」が16.9%が続いている。

年齢別にみると、0～5歳は「保育園」が半数以上を占め、6～18歳は「小学校・中学校 (通常の学級)」が30.8%、「小学校・中学校 (特別支援学級)」が27.8%となっている。

年齢別

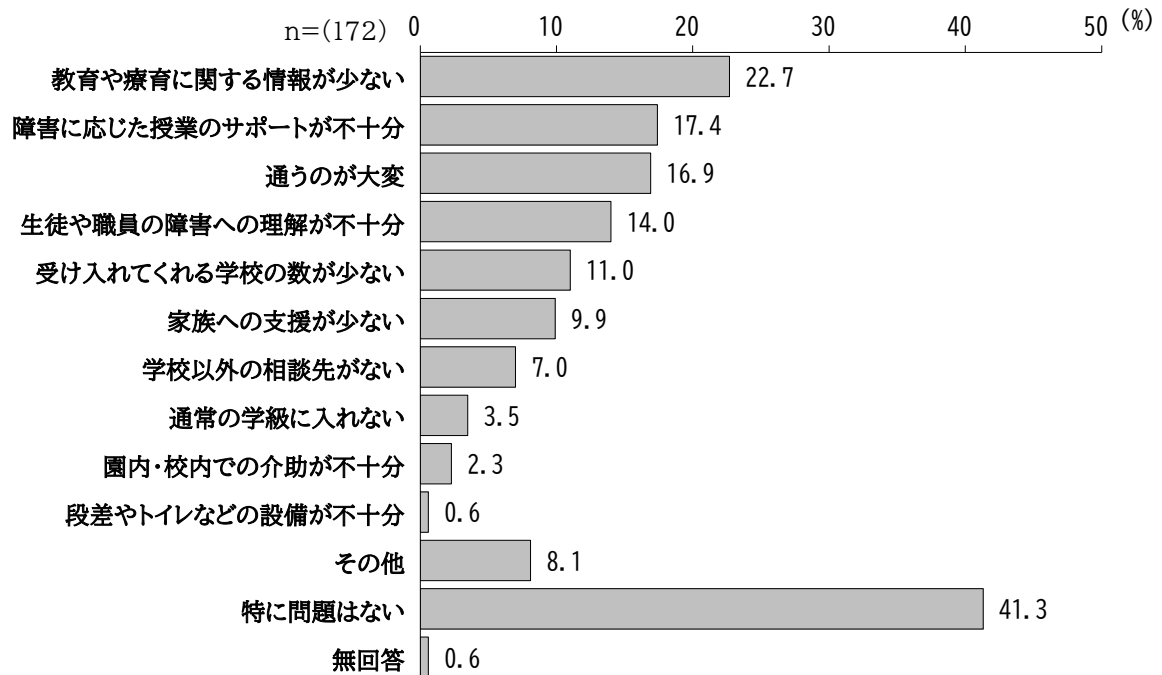


(4) 通園・通学する上で困っていること (通園・通学者)

【問17で「通園・通学している」と回答した方にお聞きします。】

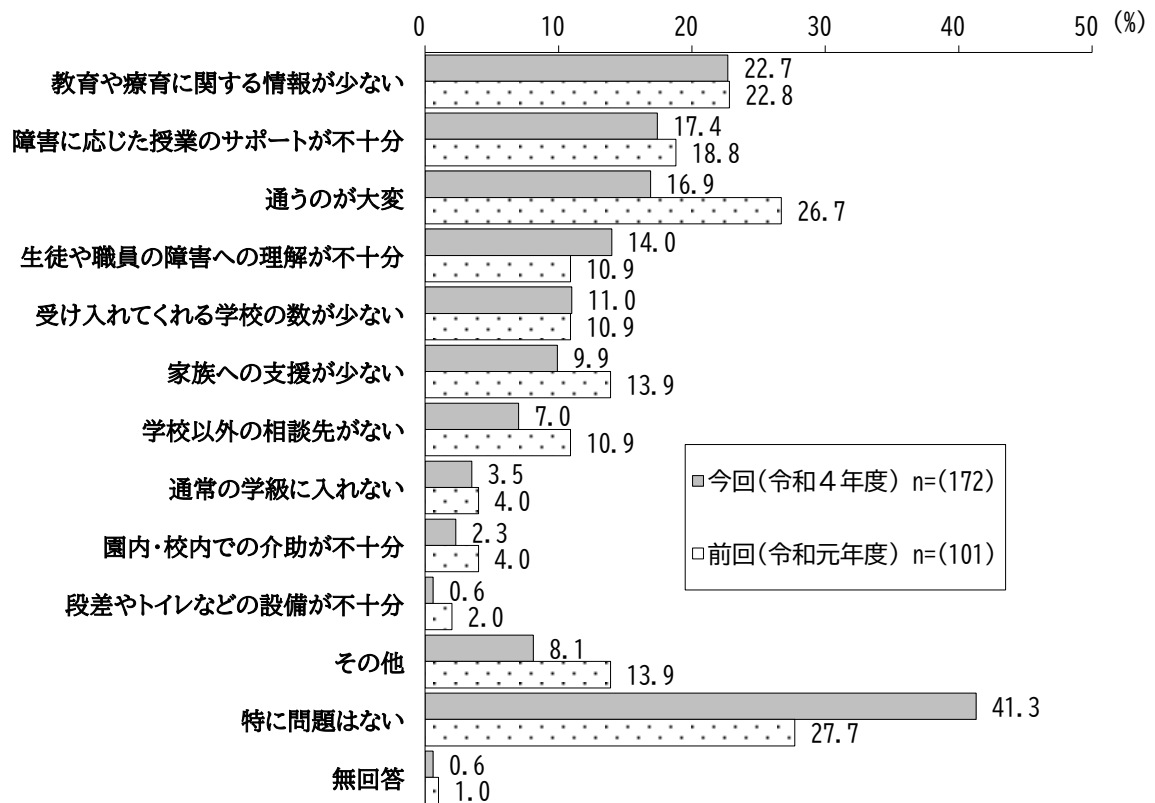
問17-3 通園・通学する上で困っていることはありますか。

(主にあてはまるもの3つまでに○)



通園・通学する上で困っていることは、「特に問題はない」が41.3%で最も多くなっている。実際に困っていることでは、「教育や療育に関する情報が少ない」が22.7%で最も多く、これに「障害に応じた授業のサポートが不十分」が17.4%、「通うのが大変」が16.9%と続いている。

## 令和元年度調査との比較



令和元年度調査と比較すると、「生徒や職員の障害への理解が不十分」は令和元年度の10.9%から今回14.0%と増加している。また「通うのが大変」は令和元年度の26.7%から16.9%と大きく減少している。

(5) 日中・放課後・休日などのサービス利用状況（通園・通学者）

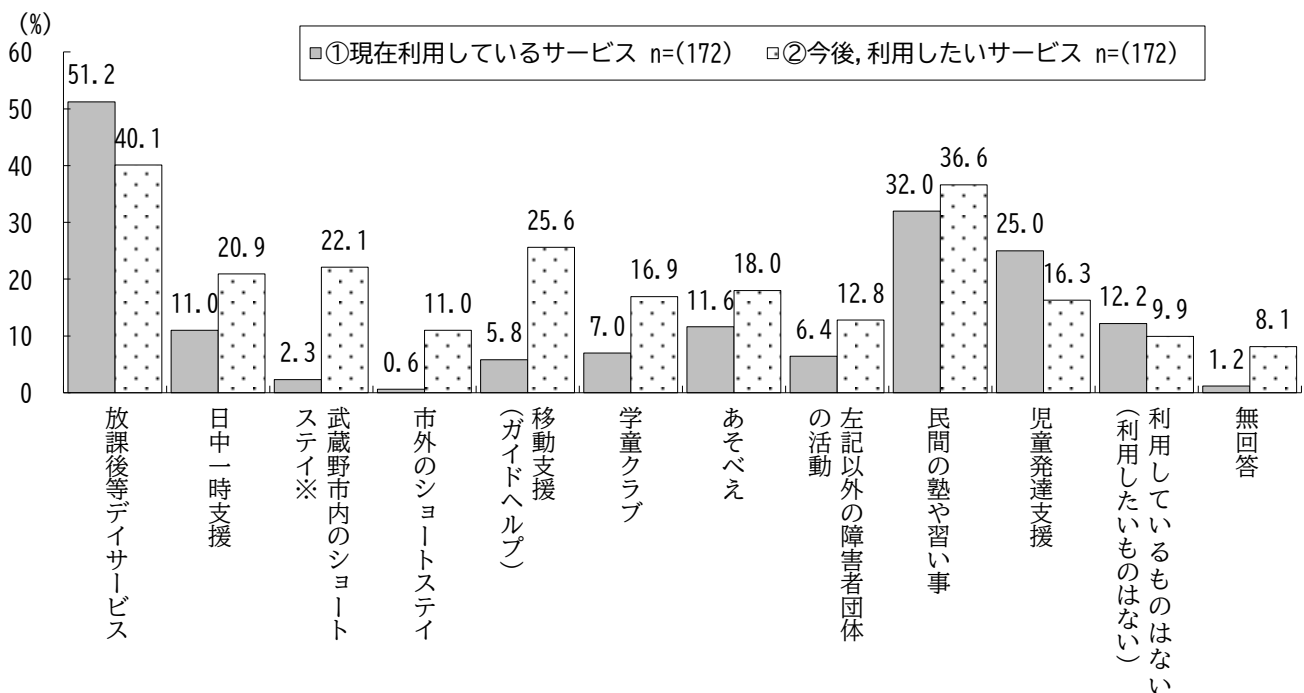
【問17で「通園・通学している」と回答した方にお聞きします。】

問17-4 日中・放課後・休みの日などに、どんなサービスを利用していますか。

①現在の利用状況、②今後の利用意向、③希望する利用回数をお答えください。

(①、②はあてはまるものすべて、③は②の「放課後等デイサービス」または「日中一時支援」に○をつけた方)

①現在利用しているサービス／②今後、利用したいサービス



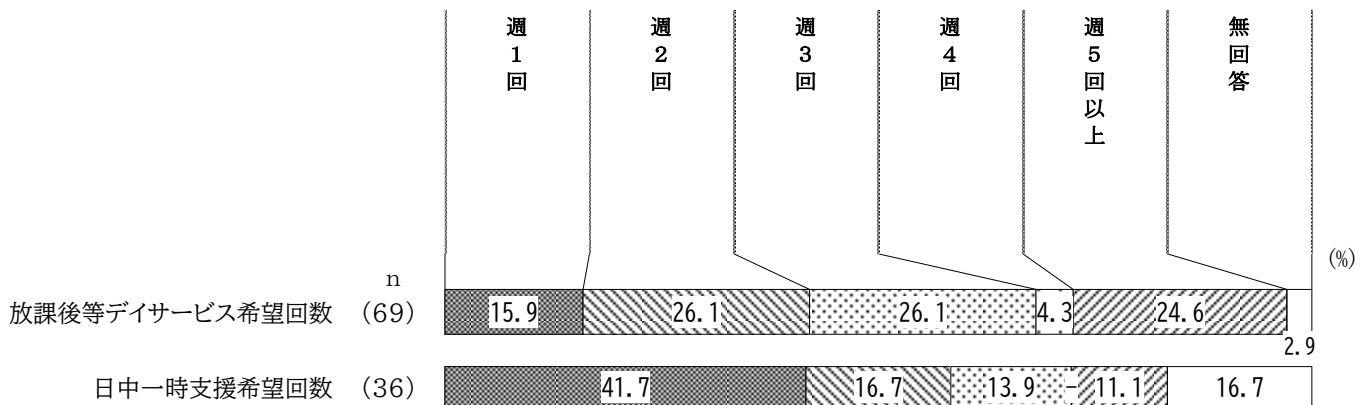
※武蔵野市内のショートステイ：桜はうす・今泉、井の頭はうす、なごみの家（わくらす）

①現在利用しているサービスは、「放課後等デイサービス」が51.2%と特に多い。以下、「民間の塾や習い事」が32.0%、「児童発達支援」が25.0%、「あそべえ」(11.6%)、「日中一時支援」(11.0%)が1割前後で続いている。

②今後、利用したいサービスは、「放課後等デイサービス」が40.1%で最も多い。以下、「民間の塾や習い事」が36.6%、「移動支援 (ガイドヘルプ)」(25.6%)、「武蔵野市内のショートステイ」(22.1%)、「日中一時支援」(20.9%)が2割台で続いている。

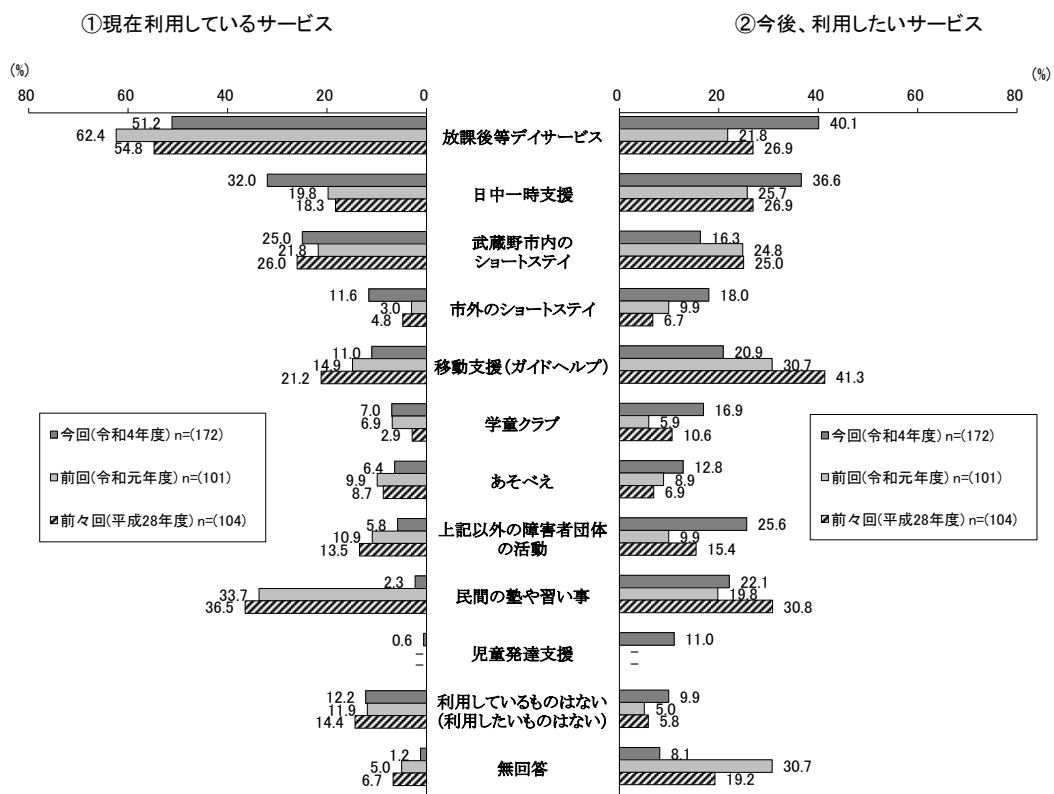
“①現在利用しているサービス”と“②今後、利用したいサービス”を比較すると、現在よりも今後の希望が伸びているサービスとしては、「移動支援 (ガイドヘルプ)」(19.8ポイント増)、「市内のショートステイ」(19.8ポイント増)、「日中一時支援」「学童クラブ」(ともに9.9ポイント増)となっている。

③希望する利用希望回数



「放課後等デイサービス」の利用希望回数は「週2回」と「週3回」がともに26.1%、「日中一時支援」では「週1回」が41.7%と多くなっている。

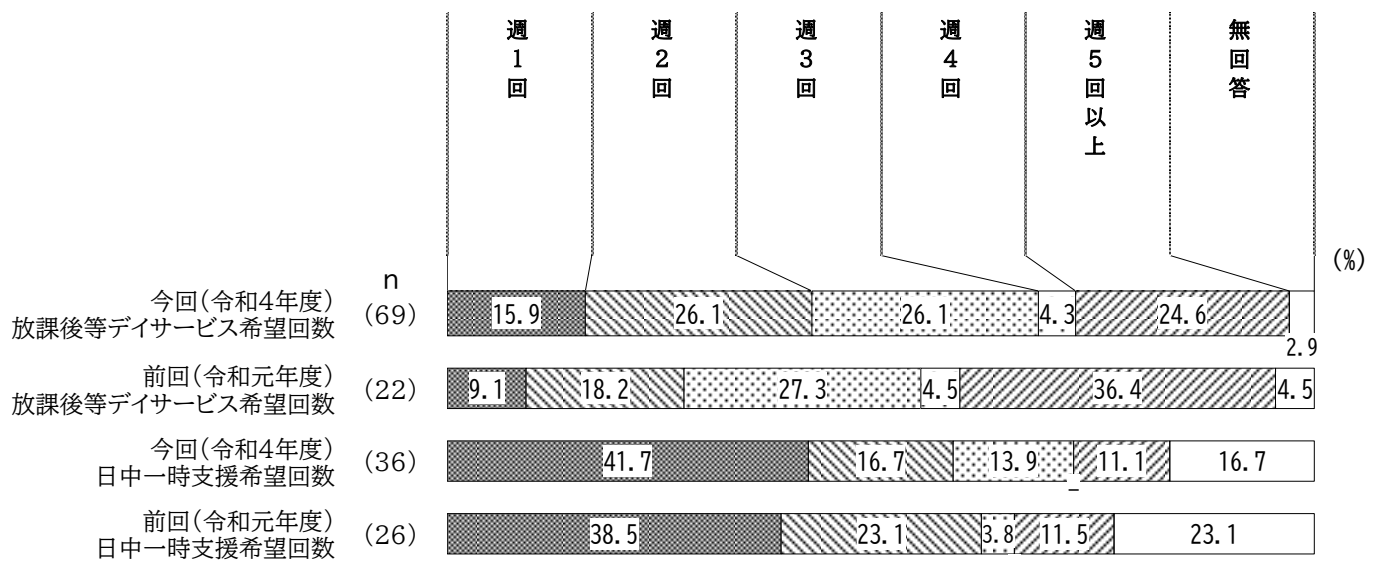
平成28年度、令和元年度調査との比較



※今回より選択肢追加（児童発達支援）

令和元年度調査と比較すると、「①現在利用しているサービス」の「日中一時支援」は令和元年度の19.8%から32.0%と大きく増加している。また「②今後、利用したいサービス」の「放課後等デイサービス」は令和元年度の21.8%から40.1%と大きく増加しており、他にも「日中一時支援」や「(上記以外の) 障害者団体の活動」が増加している。一方で、「市内のショートステイ」は減少している。

令和元年度調査との比較

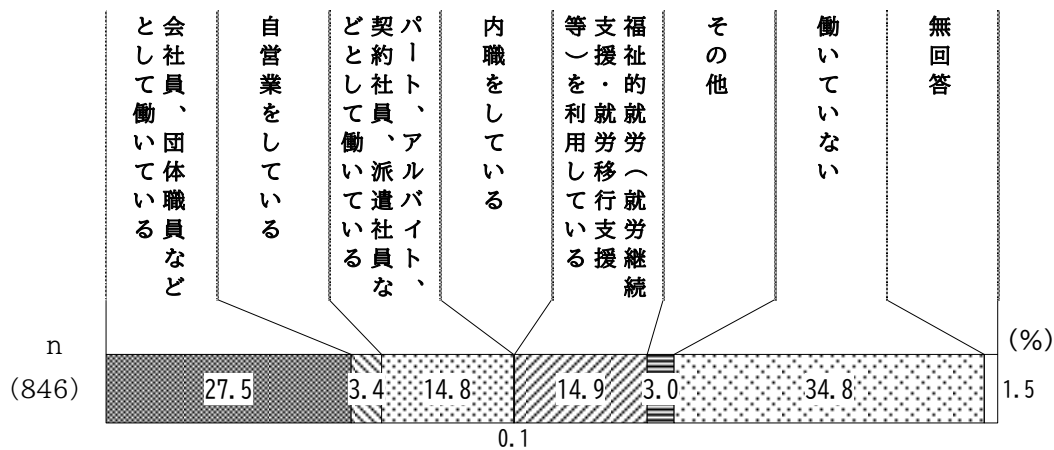


令和元年度調査と比較すると、“放課後等デイサービス希望回数”の「週1回」は令和元年度の9.1%から今回15.9%と増加している。“日中一時希望回数”の「週1回」は令和元年度の38.5%から今回41.7%と増加している。

## 7. 就労について

## (1) 就労状況（通園・通学者以外）

問18 あなたは、現在、どのように働いていますか。（1つに○）



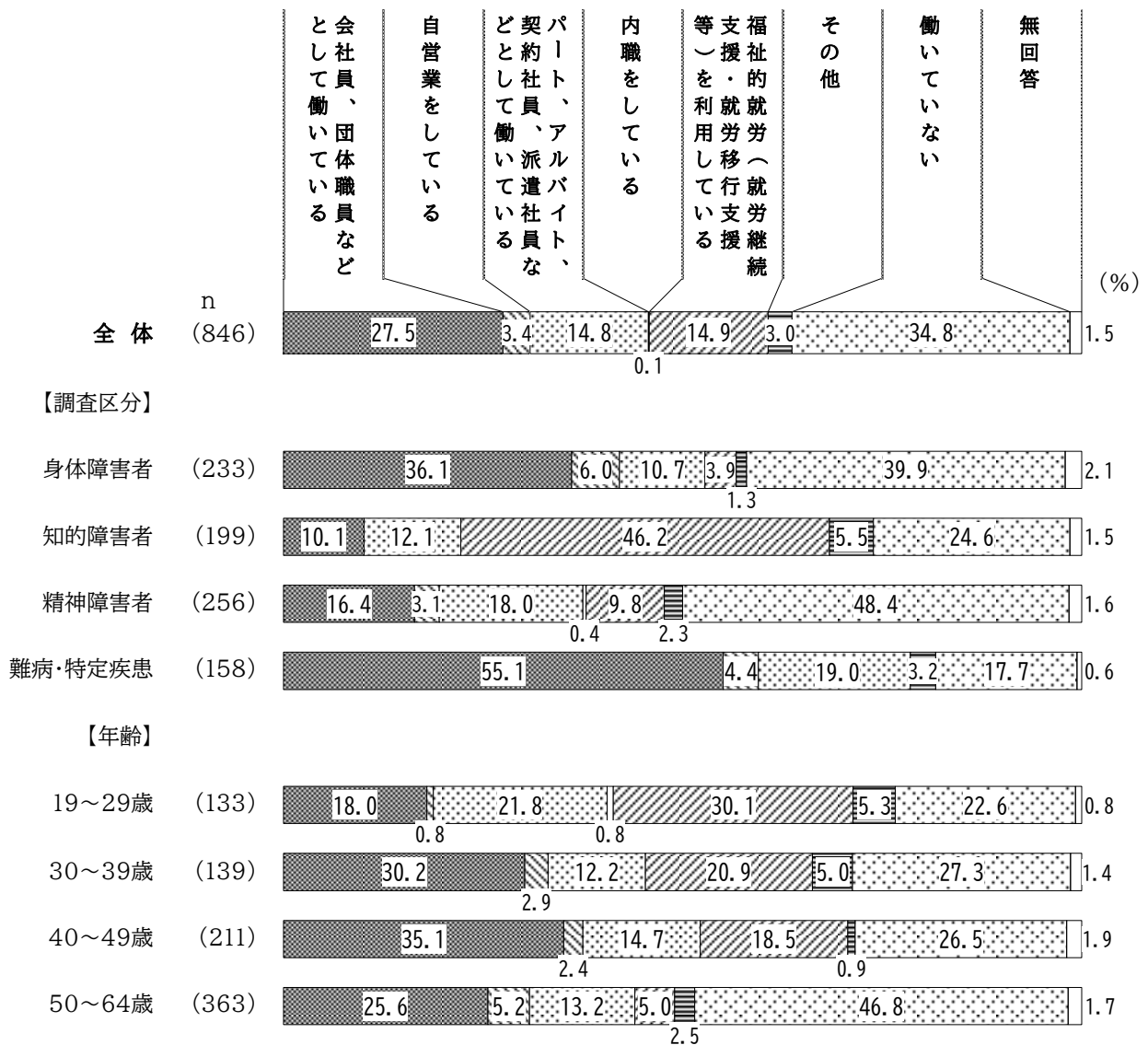
現在通園・通学していない人に、現在の就労状況を聞いたところ、19歳～64歳の間では何らかの形で働いている人は63.7%、「働いていない」は34.8%となっている。就労の形態としては、「会社員、団体職員などとして働いている」（27.5%）が3割弱、「福祉的就労（就労継続支援・就労移行支援等）を利用している」（14.9%）、「パート、アルバイト、契約社員、派遣社員などとして働いている」（14.8%）が1割台半ばと多くなっている。

### 第3章 調査結果の詳細

調査区分別にみると、「働いていない」は精神障害者で48.4%、身体障害者で39.9%となっている。「会社員、団体職員などとして働いている」は難病・特定疾患で55.1%、身体障害者で36.1%、「パート、アルバイト、契約社員、派遣社員などとして働いている」はすべての調査区分で1割台となっている。また、知的障害者では「福祉的就労（就労継続支援・就労移行支援等）を利用している」が46.2%と多くなっている。

年齢別にみると、19歳から49歳の年齢にかけては就労している人が多く、50～64歳は「働いていない」が46.8%となっている。就労の形態としては、「会社員、団体職員などとして働いている」、「パート、アルバイト、契約社員、派遣社員などとして働いている」、「福祉的就労（就労継続支援・就労移行支援等）を利用している」が多くなっている。

調査区分別、年齢別



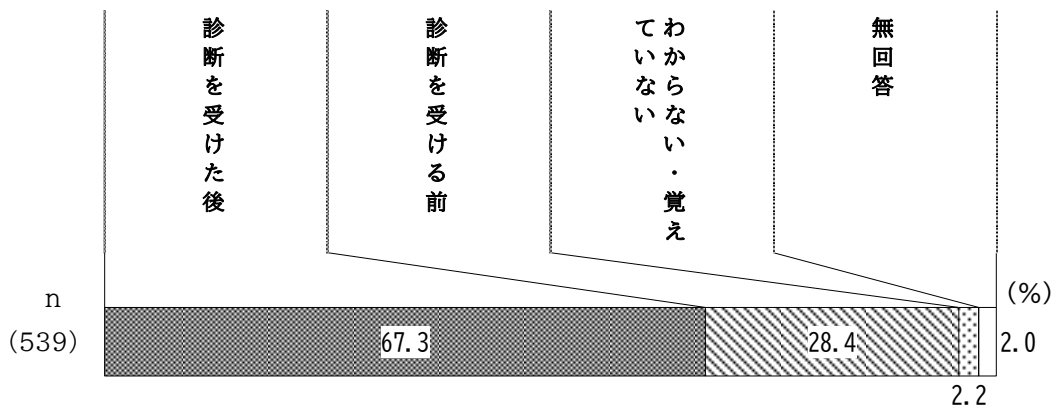
※上図は19～64歳の勤労世代に絞って表示している。



(2) 現在の職場へ就職した時期（通園・通学者以外）

【問18で「会社員、団体職員などとして働いている」、「自営業をしている」、「パート、アルバイト、契約社員、派遣社員などとして働いている」、「内職をしている」、「福祉的就労（就労継続支援・就労移行支援等）を利用している」、「その他」と回答した方にお聞きします。】

問18-1 現在の職場に就職した、または現在の事業所を利用し始めたのは、疾患や障害の診断を受ける後でしたか。（1つに○）



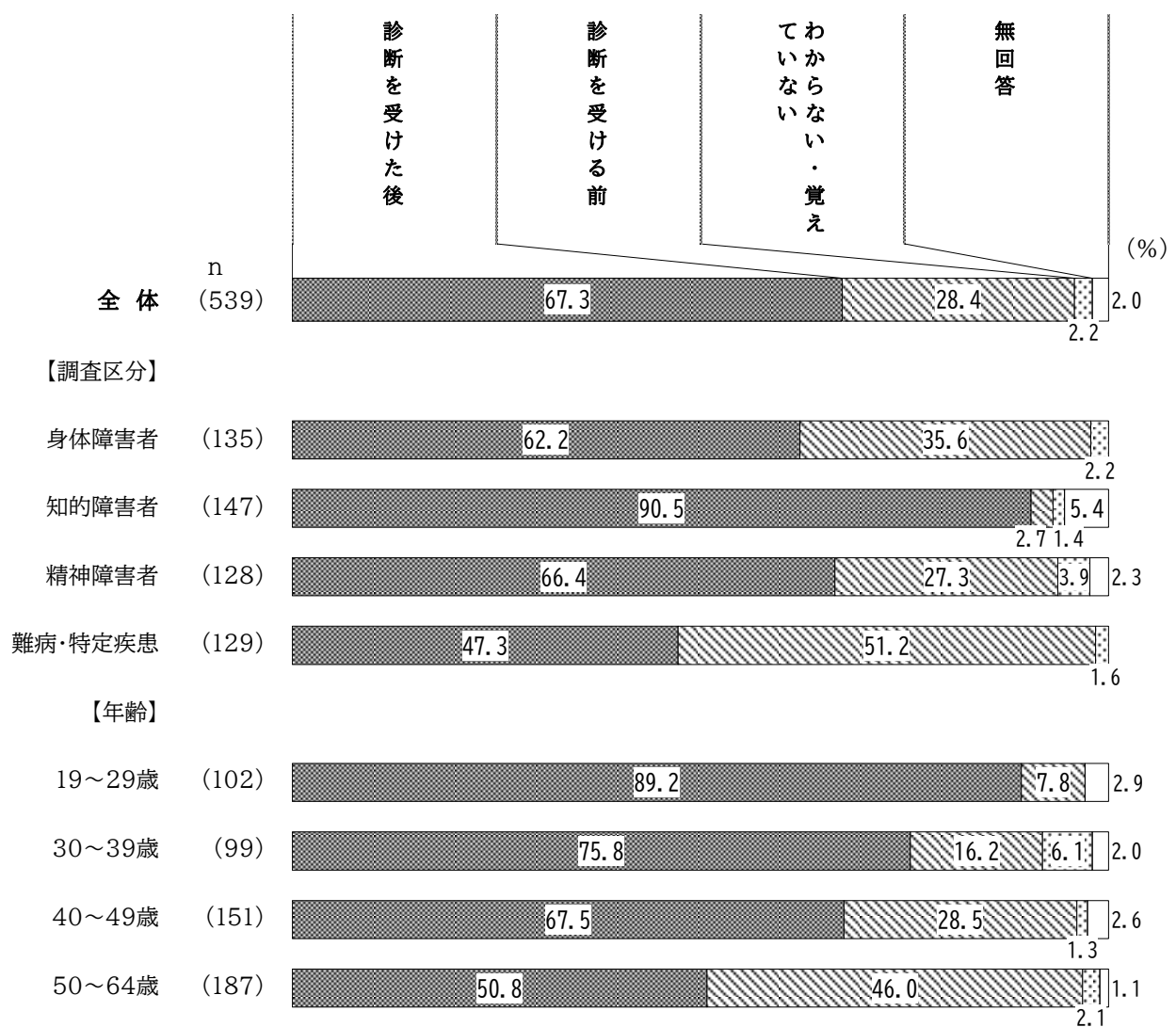
現在の職場に就職したのは、疾患や障害の「診断を受けた後」が67.3%、「診断を受ける前」が28.4%となっている。

### 第3章 調査結果の詳細

調査区分別にみると、「診断を受けた後」は知的障害者が90.5%を占めており、精神障害者(66.4%)、身体障害者(62.2%)でも6割台となっている。一方、「診断を受ける前」は難病・特定疾患が51.2%と多く、身体障害者でも35.6%となっている。

年齢別にみると、「診断を受けた後」は19～29歳で89.2%と多く、49歳以下では6割以上となっているが、50歳以上の年齢では半数となっている。

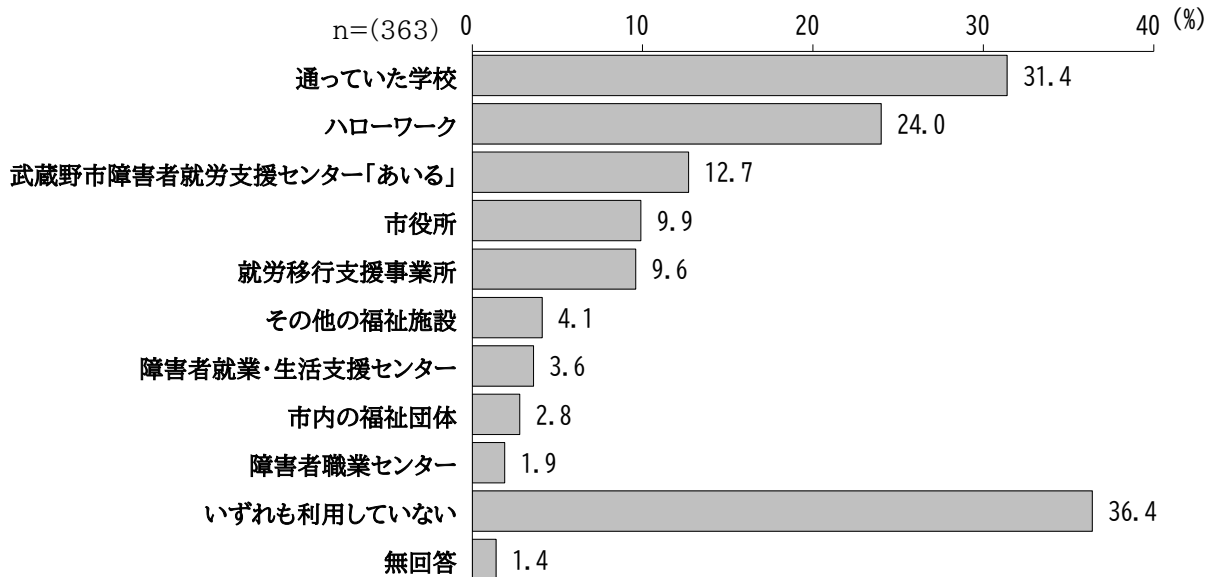
調査区分別、年齢別



※上図は19～64歳の勤労世代に絞って表示している。

(3) 就職の際に利用した機関（通園・通学者以外）

【問18-1で「診断を受けた後」と回答した方にお聞きします。】  
 問18-2 就職する際に以下の機関を利用しましたか。（あてはまるものすべてに○）

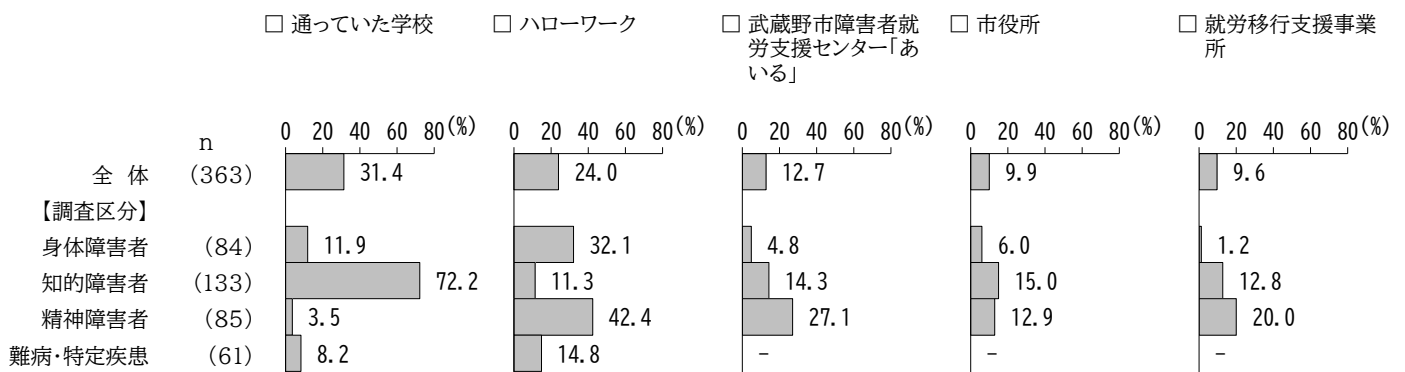


※上図は19～64歳の勤労世代に絞って表示している。

就職する際に利用した機関は、「いずれも利用していない」が36.4%で最も多くなっている。利用したものでは、「通っていた学校」(31.4%)が3割台、「ハローワーク」(24.0%)が2割台、「武蔵野市障害者就労支援センター「あいる」」(12.7%)が1割台となっている。

調査区分別にみると、「通っていた学校」は知的障害者が72.2%と特に多く、「ハローワーク」は精神障害者で42.4%と多い。また、「武蔵野市障害者就労支援センター『あいる』」、「市役所」、「就労移行支援事業所」は知的障害者と精神障害者で1割から2割台と他の調査区分より多くなっている。

調査区分別（上位5項目）

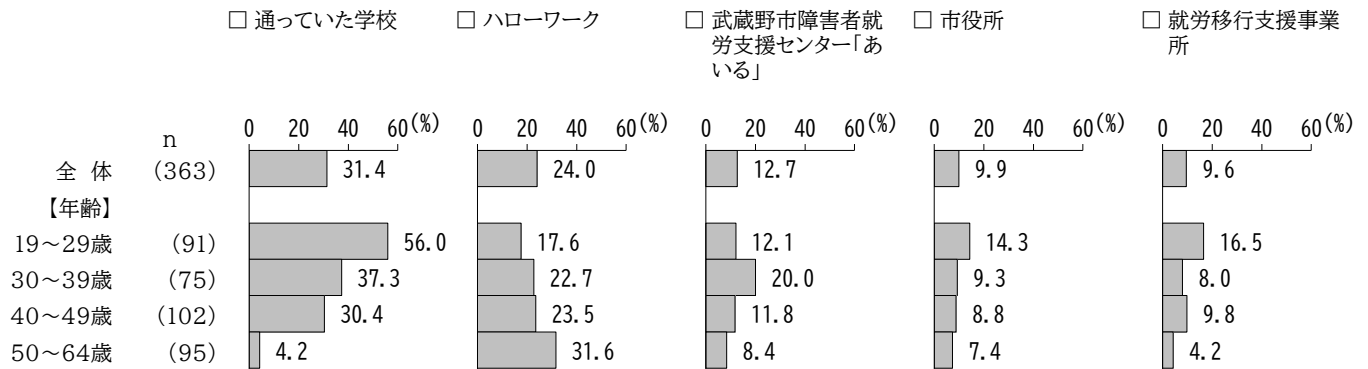


※上図は19～64歳の勤労世代に絞って表示している。

### 第3章 調査結果の詳細

年齢別にみると、19～29歳では「通っていた学校」(56.0%)が多く、30歳から64歳では「ハローワーク」が2割から3割台と多くなっている。

年齢別（上位5項目）



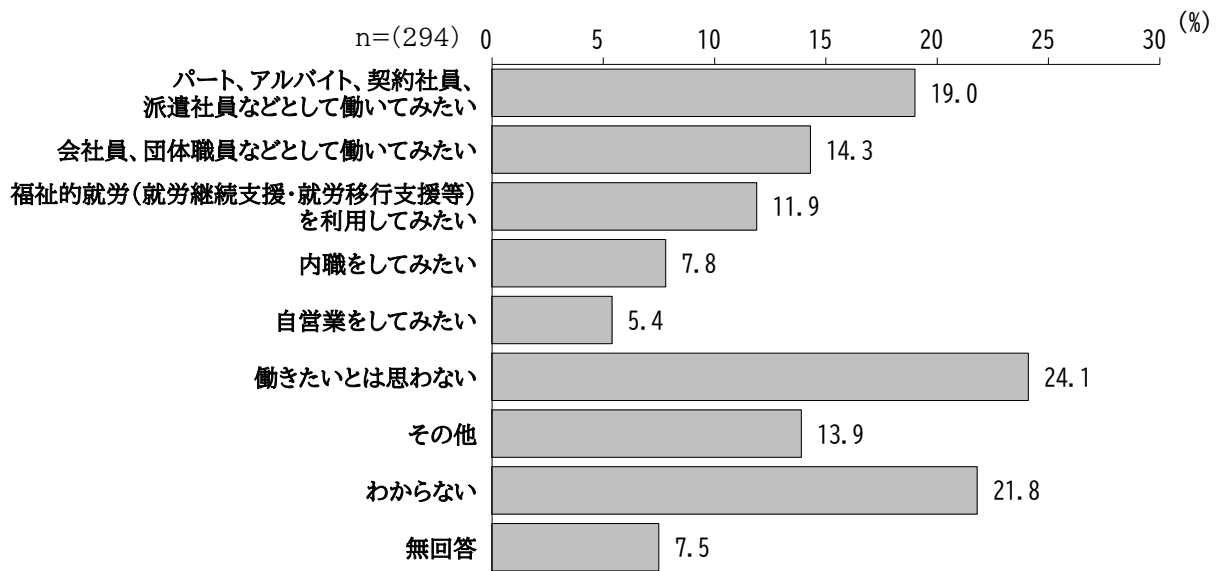
※上図は19～64歳の勤労世代に絞って表示している。

## (4) 今後の就労意向

【問18で「働いていない」と回答した方にお聞きします。】

問18-3 あなたは今後、どこかで働いてみたいと思いますか。

(主にあてはまるもの3つまでに○)



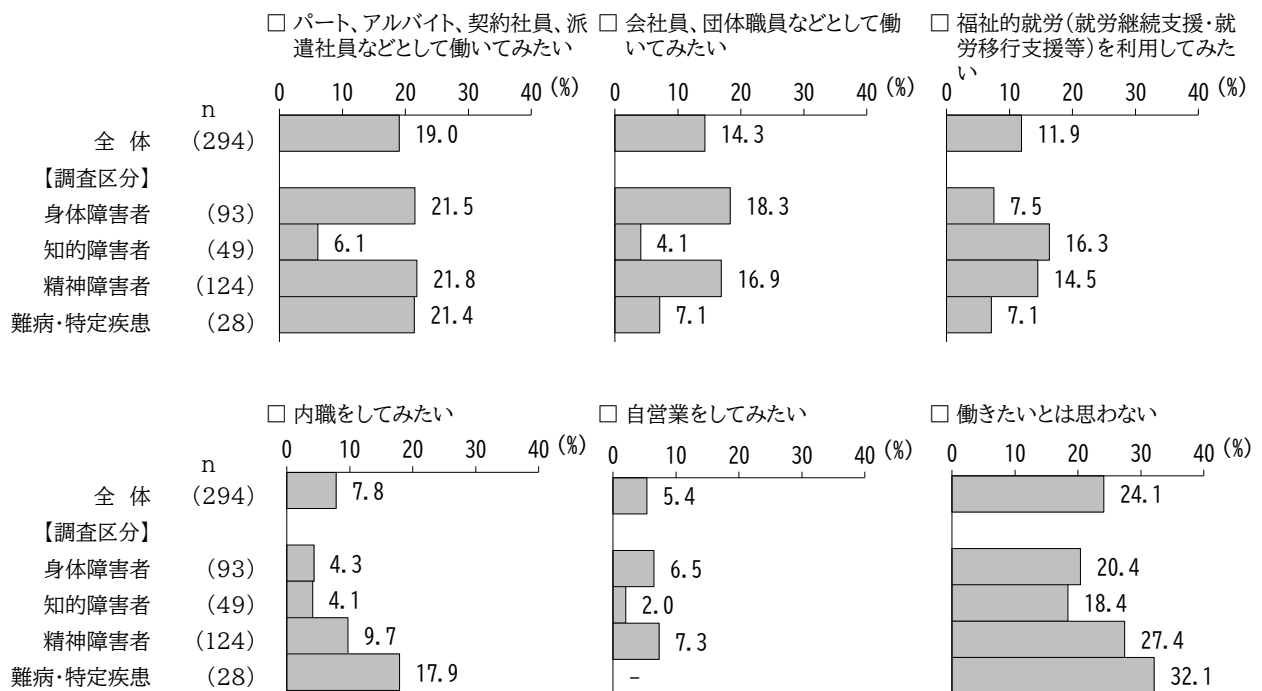
※上図は19～64歳の勤労世代に絞って表示している。

今後の就労意向としては、「働きたいとは思わない」が24.1%で多くなっている。働きたい人の就労形態としては、「パート、アルバイト、契約社員、派遣社員などとして働いてみたい」が19.0%で最も多くなっている。

### 第3章 調査結果の詳細

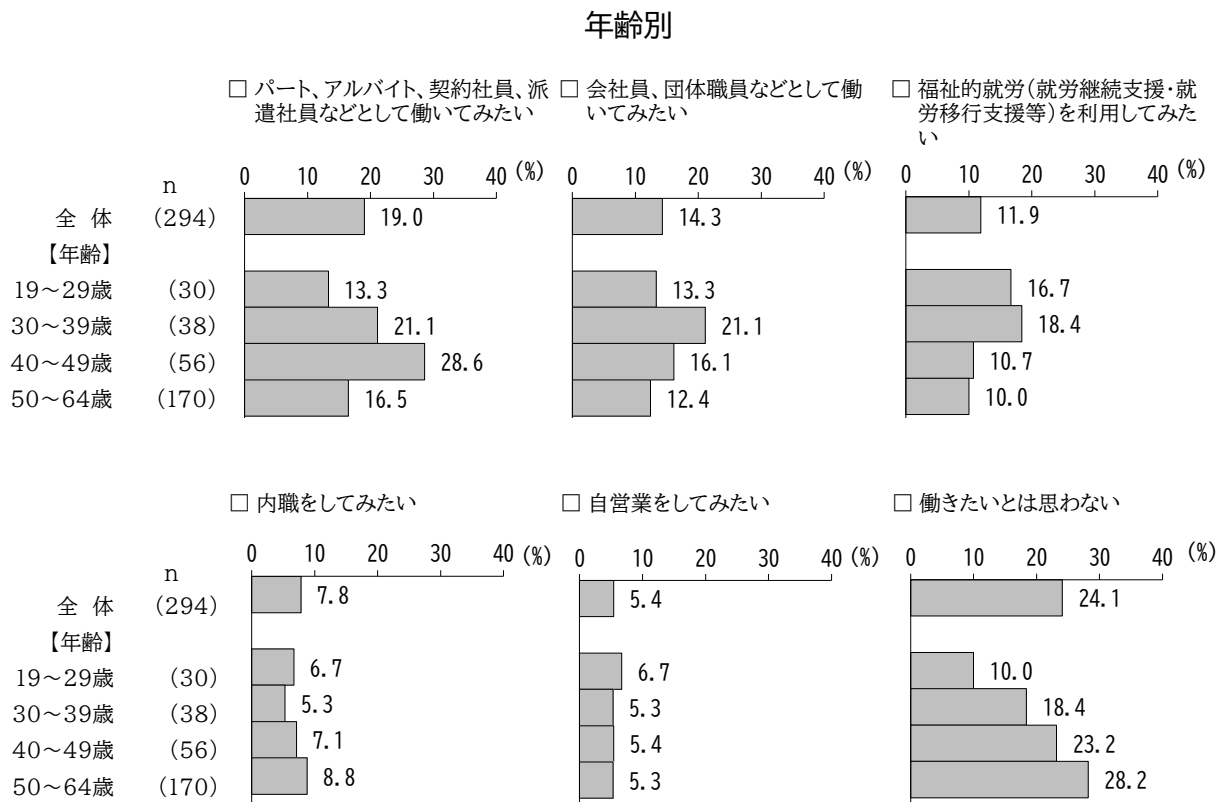
調査区分別にみると、身体障害者、精神障害者、難病・特定疾患では「パート、アルバイト、契約社員、派遣社員などとして働いてみたい」が2割台と多くなっている。知的障害者では「福祉的就労（就労継続支援・就労移行支援等）を利用してみたい」が16.3%と多い。「働きたいとは思わない」は難病・特定疾患で32.1%と多くなっている。

#### 調査区分別



※上図は19～64歳の勤労世代に絞って表示している。

年齢別にみると、30歳～39歳までの年齢では「パート、アルバイト、契約社員、派遣社員などとして働いてみたい」、「会社員、団体職員などとして働いてみたい」（ともに21.1%）、40～39歳では「パート、アルバイト、契約社員、派遣社員などとして働いてみたい」（28.6%）の希望が多くなっている。「福祉的就労（就労継続支援・就労移行支援等）を利用してみたい」はいずれの年齢でも1割台となっている。



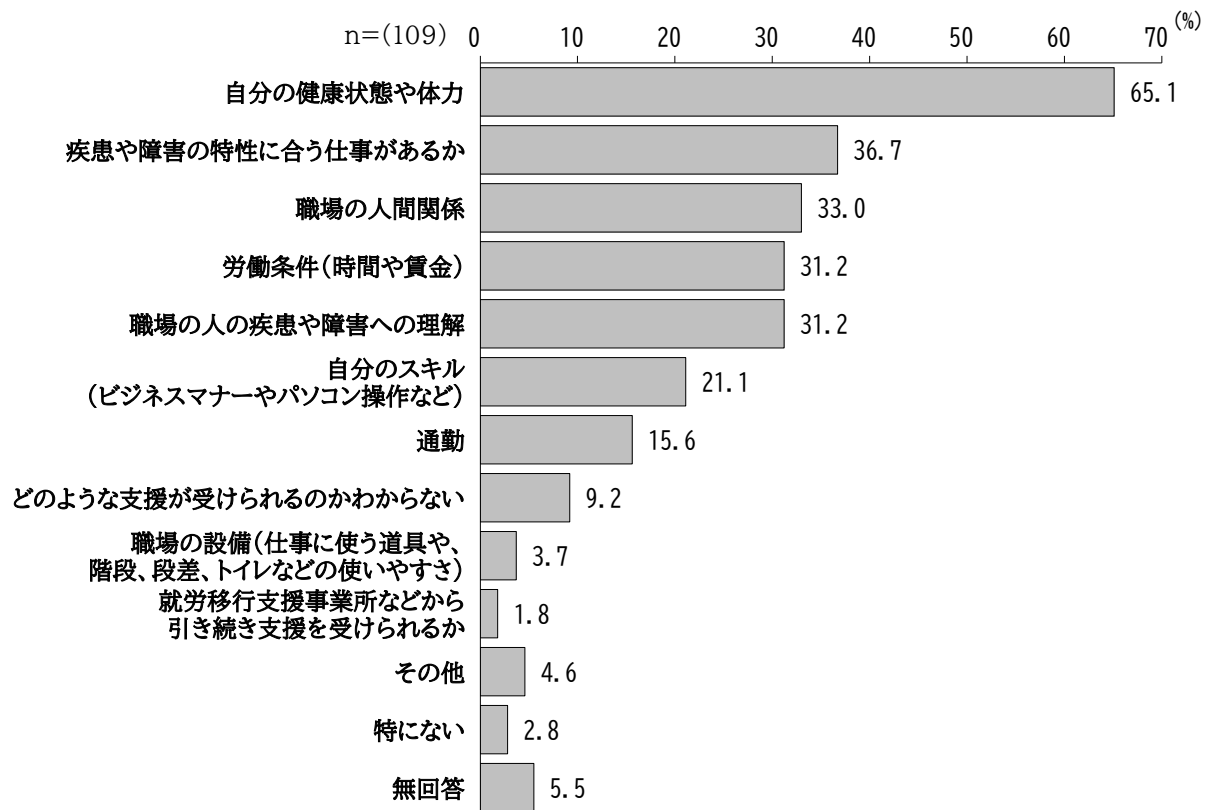
※上図は19～64歳の勤労世代に絞って表示している。

(5) 就労の際に心配なこと

【問18-3で「会社員、団体職員などとして働いてみたい」、「自営業をしてみたい」、「パート、アルバイト、契約社員、派遣社員などとして働いてみたい」、「内職をしてみたい」、「福祉的就労（就労継続支援・就労移行支援等）を利用してみたい」と回答した方にお聞きします。】

問18-4 働くにあたって、特に心配なことはありますか。

(主にあてはまるもの3つまでに○)



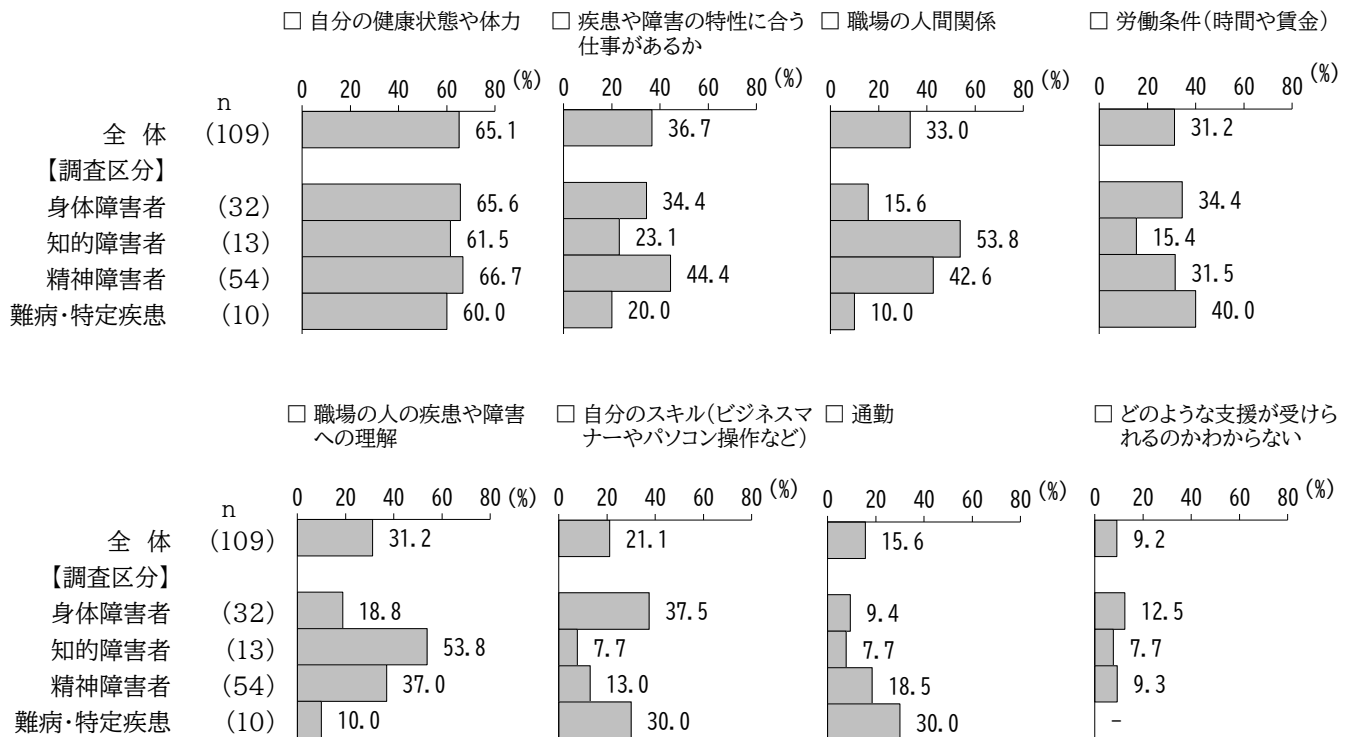
※上図は19～64歳の勤労世代に絞って表示している。

働くにあたって、特に心配なことは、「自分の健康状態や体力」が65.1%で特に多く、以下、「疾患や障害の特性に合う仕事があるか」(36.7%)、「職場の人間関係」(33.0%)、「労働条件(時間や賃金)」、「職場の人の疾患や障害への理解」(ともに31.2%)が3割台で続いている。



調査区分別にみると、「自分の健康状態や体力」はいずれの調査区分でも6割台と多い。知的障害者では「職場の人間関係」、「職場の人の疾患や障害への理解」が5割台、精神障害者では「疾患や障害の特性に合う仕事があるか」、「職場の人間関係」が4割台と多くなっている。

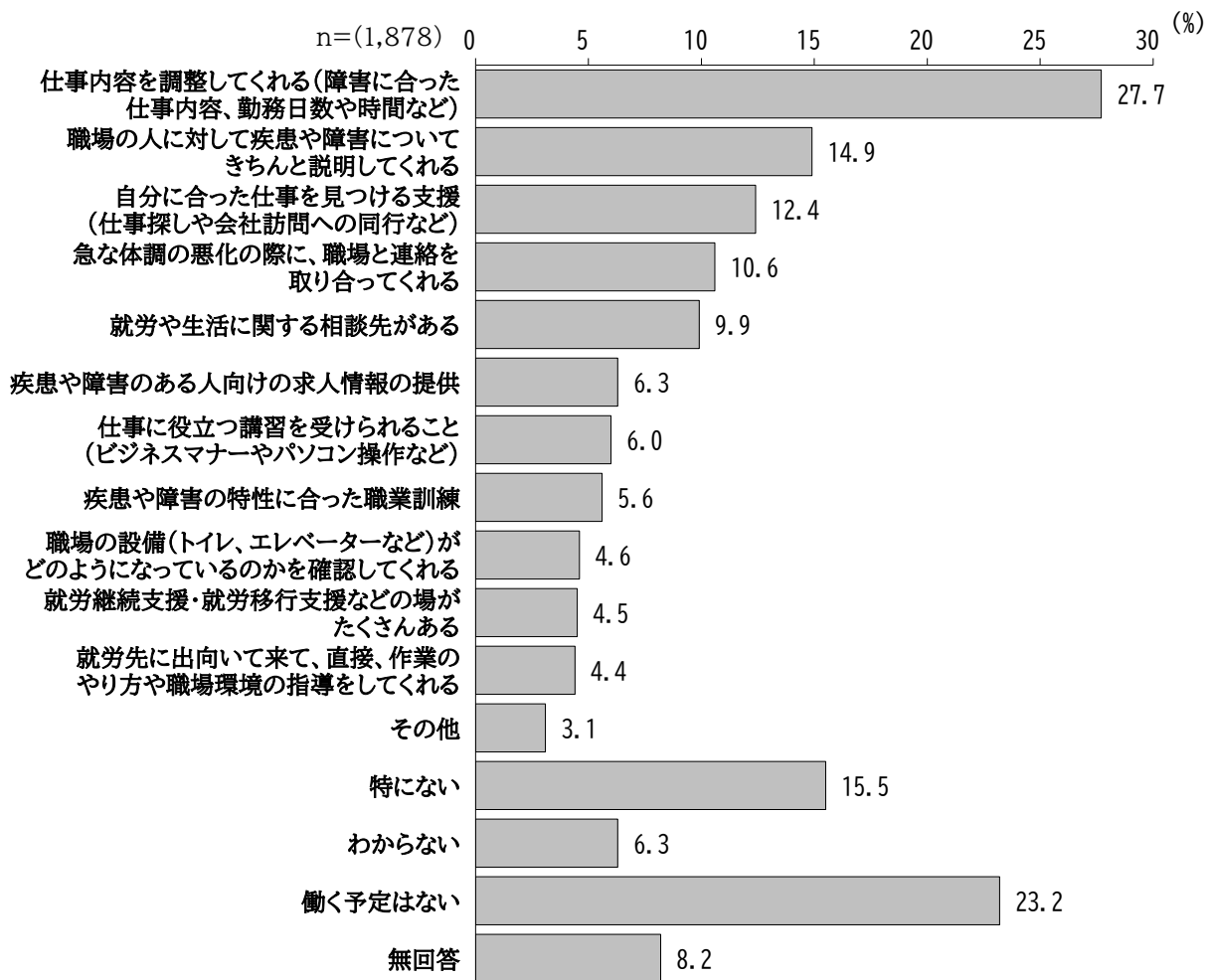
調査区分別（上位8項目）



※上図は19～64歳の勤労世代に絞って表示している。

(6) 必要な就労支援

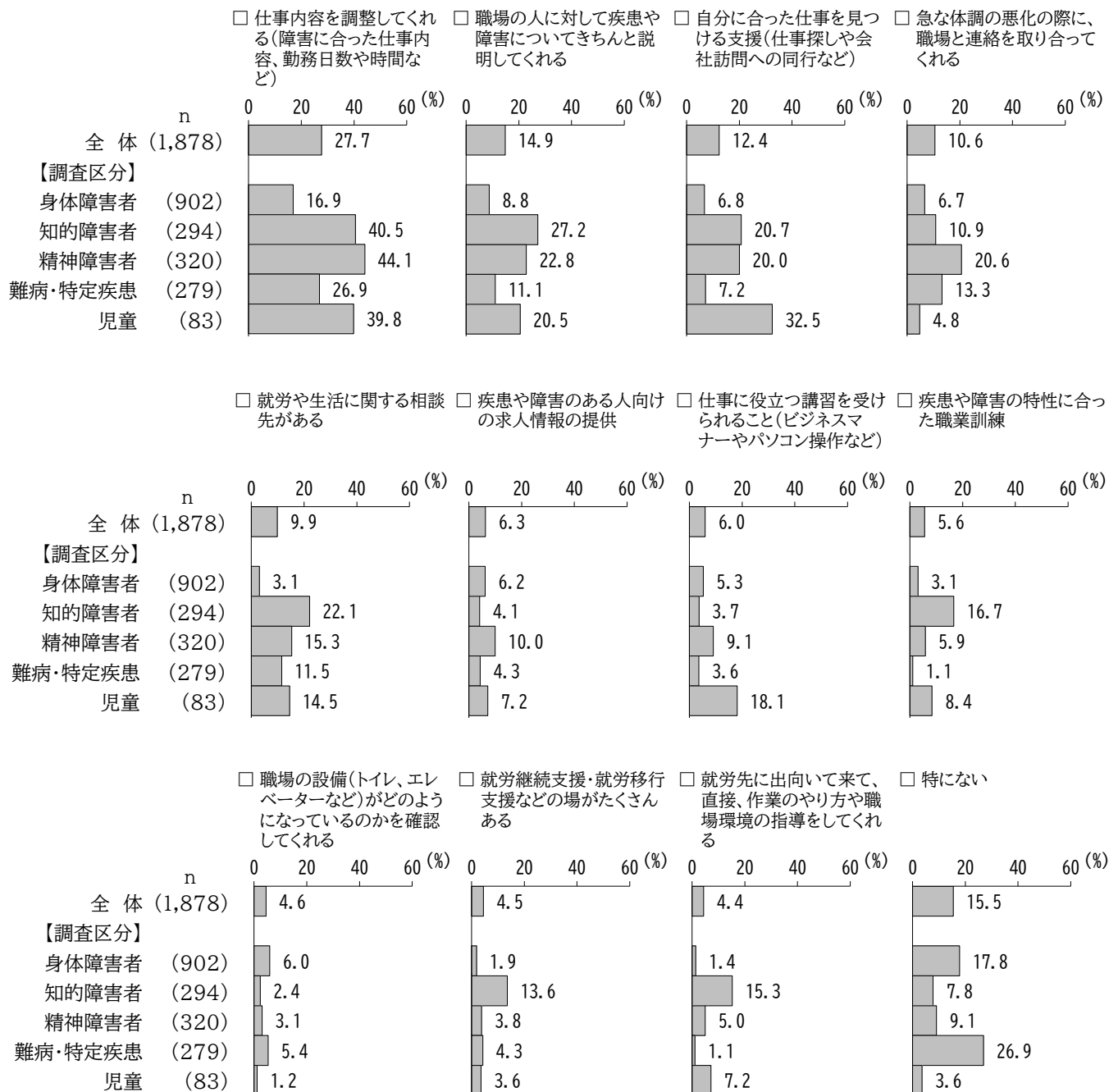
問19 あなたが働く際（働いていない方は今後働く場合に）、特にどのような支援があったらよいと思いますか。（主にあてはまるもの3つまでに○）



働く際、あったらよいと思う支援は、「仕事内容を調整してくれる」が27.7%で最も多い。以下、「職場の人に対して疾患や障害についてきちんと説明してくれる」(14.9%)、「自分に合った仕事を見つける支援」(12.4%)、「急な体調の悪化の際に、職場と連絡を取り合ってくれる」(10.6%)が1割台で続いている。また、「特にない」が15.5%となっている。

調査区分別にみると、知的障害者、精神障害者、児童では「仕事内容を調整してくれる」が4割前後、「職場の人に対して疾患や障害についてきちんと説明してくれる」、「自分に合った仕事を見つける支援(仕事探しや会社訪問への同行など)」が2割から3割台で他の調査区分より多くなっている。また、知的障害者では「就労や生活に関する相談先がある」(22.1%)、精神障害者では「急な体調の悪化の際に、職場と連絡を取り合ってくれる」(20.6%)が他の調査区分より多くなっている。

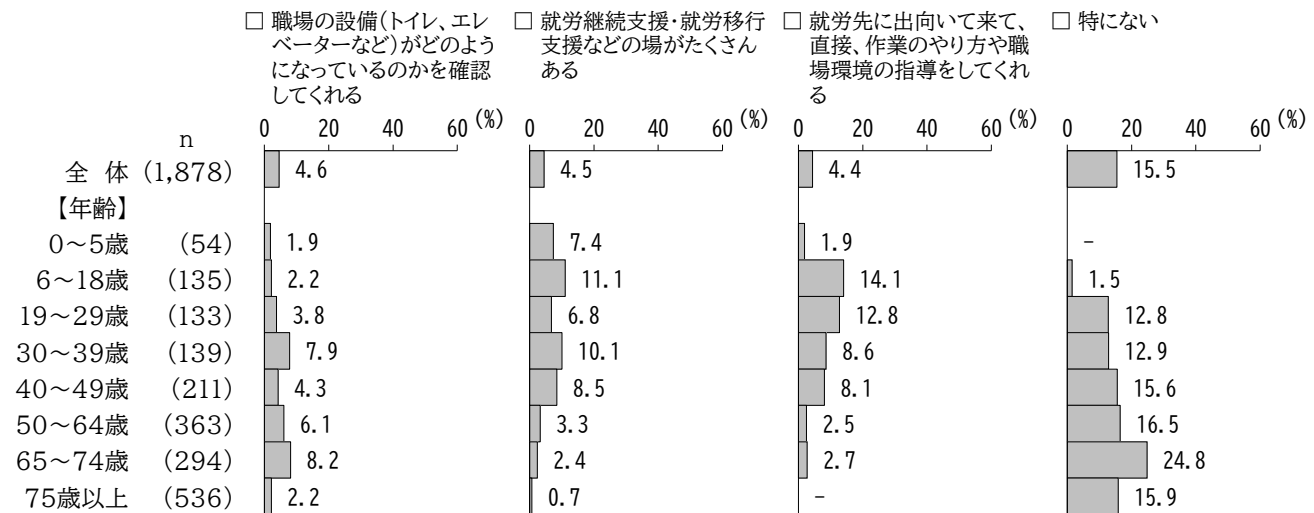
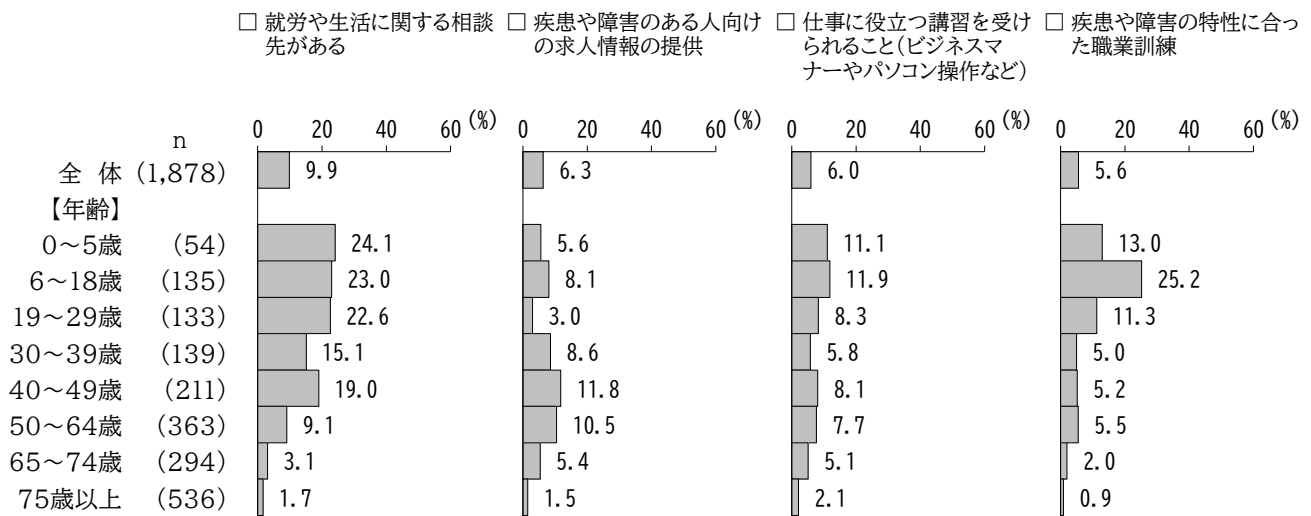
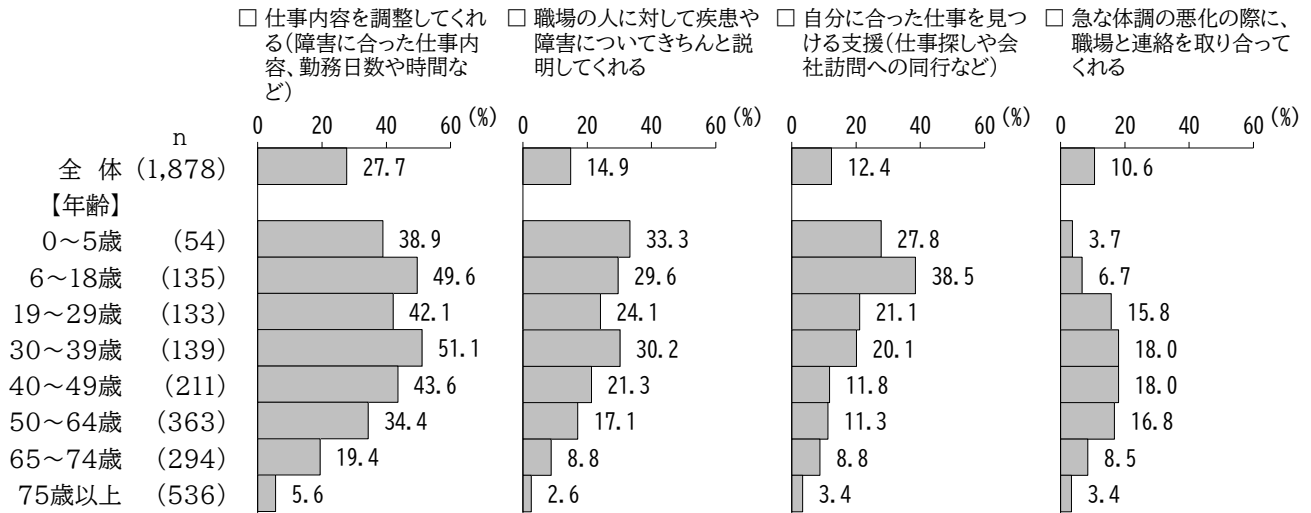
調査区分別 (上位11項目+「特にない」)



### 第3章 調査結果の詳細

年齢別にみると、「仕事内容を調整してくれる」をはじめ、「職場の人に対して疾患や障害についてきちんと説明してくれる」、「自分に合った仕事を見つける支援(仕事探しや会社訪問への同行など)」、「就労や生活に関する相談先がある」は49歳まではおおむね共通し、その後減少している。

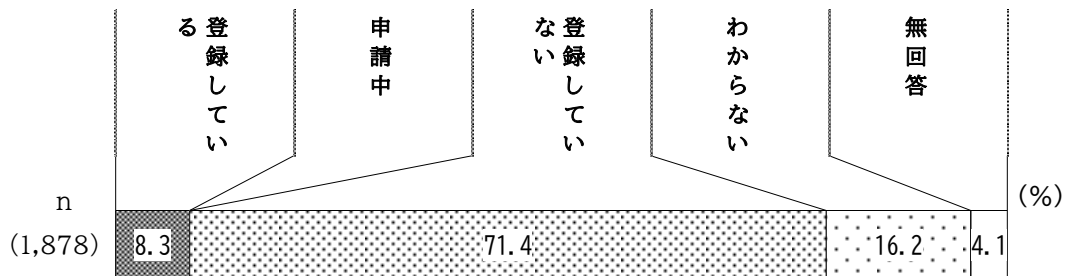
年齢別 (上位11項目 + 「特にない」)



## 8. 災害時の対応について

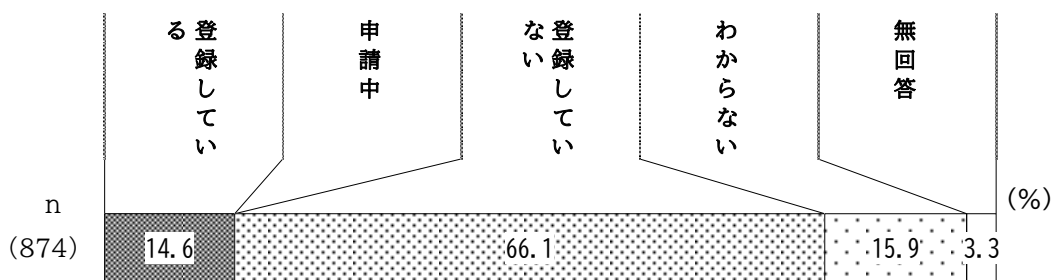
### (1) 災害時要援護者対策事業への登録状況

問20 市の災害時要援護者対策事業に登録していますか。(1つに○)



市の災害時要援護者対策事業に「登録している」は8.3%、「申請中」は0.0%、「登録していない」が71.4%を占めている。

#### 災害時要援護者対策事業の対象者のみ



#### 【参考】

##### 災害時要援護者対策事業の対象者

対象条件 (いずれかに当てはまる方)	今回調査の該当設問
①要介護3～5	問13-1「要介護度」で要介護3～5と回答した方
②身体障害者手帳第1種の1・2級 (心臓・腎臓機能障害のみの方は除く)※	問7-1「身体障害者手帳等級」で1・2級と回答した方
③愛の手帳1・2度	問7-1「愛の手帳等級」で1・2度と回答した方
④精神手帳1・2級の単身世帯	問7-1「精神障害者保健福祉手帳等級」で1・2級と回答の上、問4「同居者」でひとり暮らしと回答した方
⑤市の生活支援を受けている難病患者	調査区分「難病・特定疾患」の方で、問8「医療費の助成状況」を受けていないと回答した以外の方
⑥その他市長が必要と認めた方※	該当設問なし

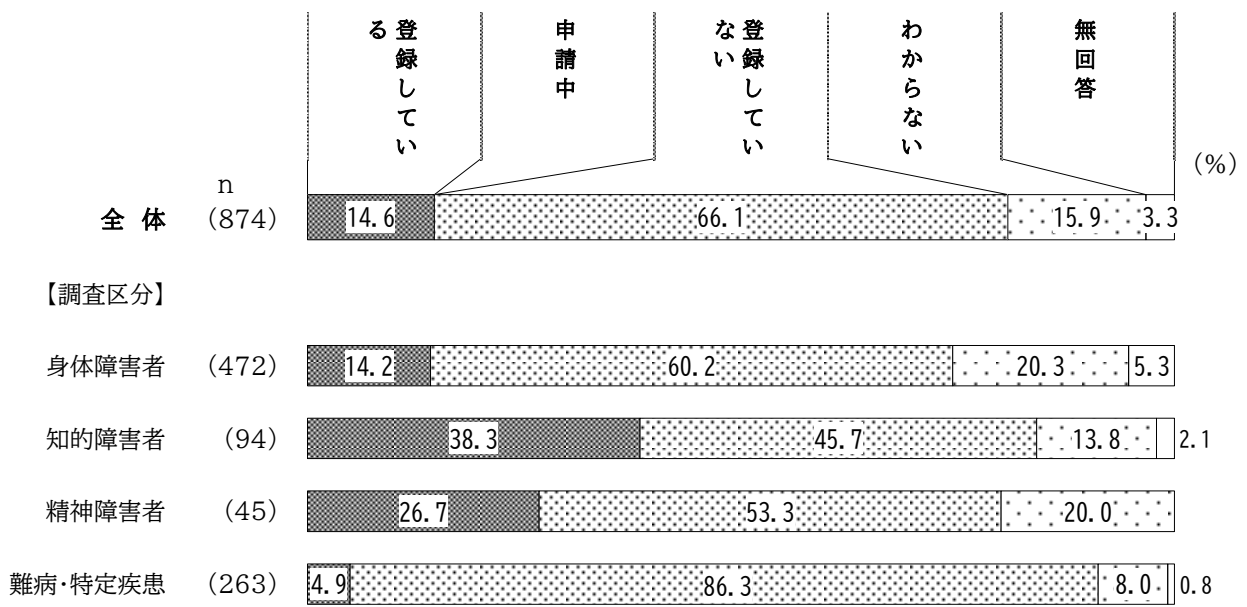
※①の「第1種」、「心臓・腎臓機能障害のみの方は除く」、⑥「市長が認めた方」は調査票からは導き出せないため、回答者の中に制度の対象外の方が含まれている可能性がある。

これを市の災害時要援護者対策事業の対象者に限ってみると、「登録している」は14.6%、「申請中」は0.0%、「登録していない」は66.1%となっている。

### 第3章 調査結果の詳細

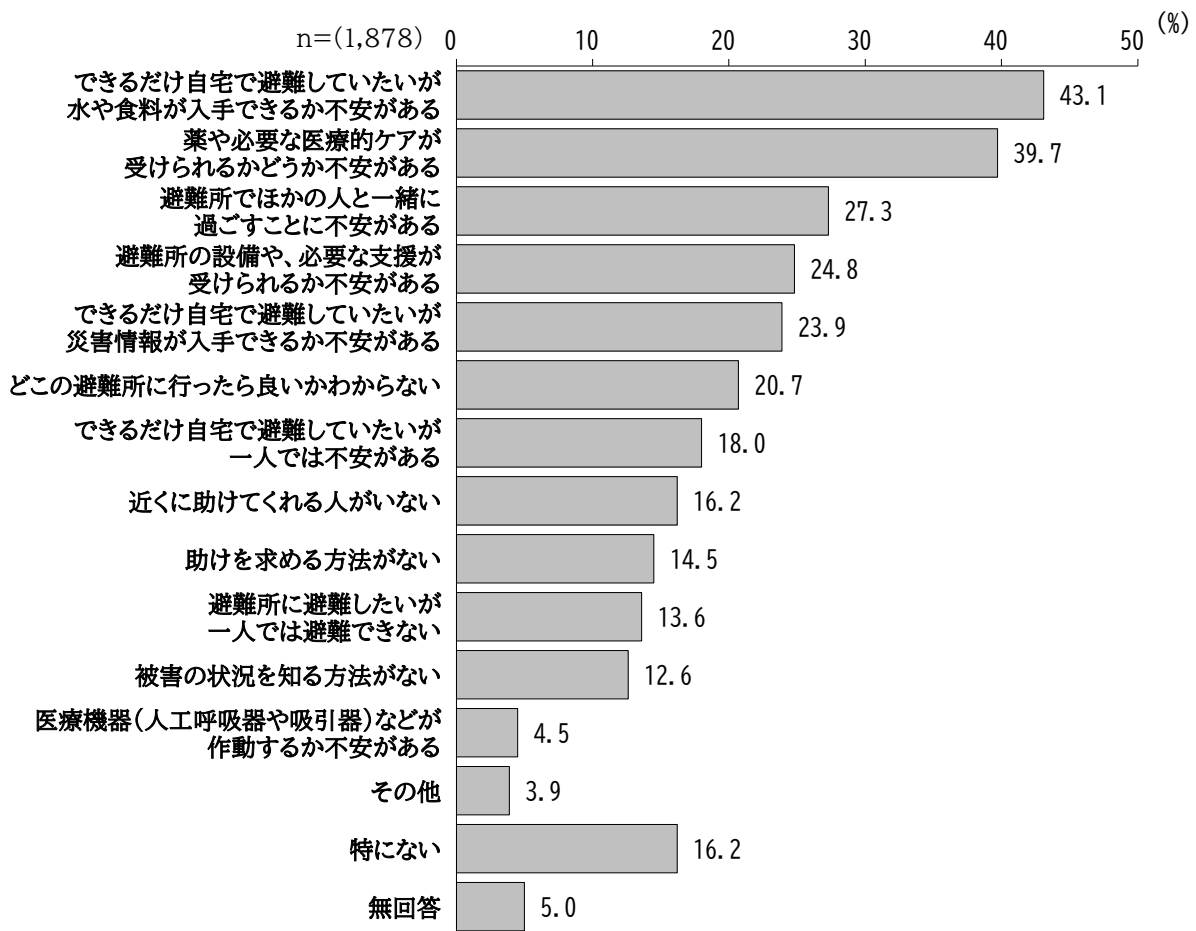
調査区分別にみると、「登録している」は知的障害者で38.3%、精神障害者で26.7%、身体障害者で14.2%となっている。

調査区分別—災害時要援護者対策事業の対象者のみ



## (2) 災害時の不安

問21 もし、大地震などの災害が発生した場合、困ることや不安なことはありますか。  
(あてはまるものすべてに○)

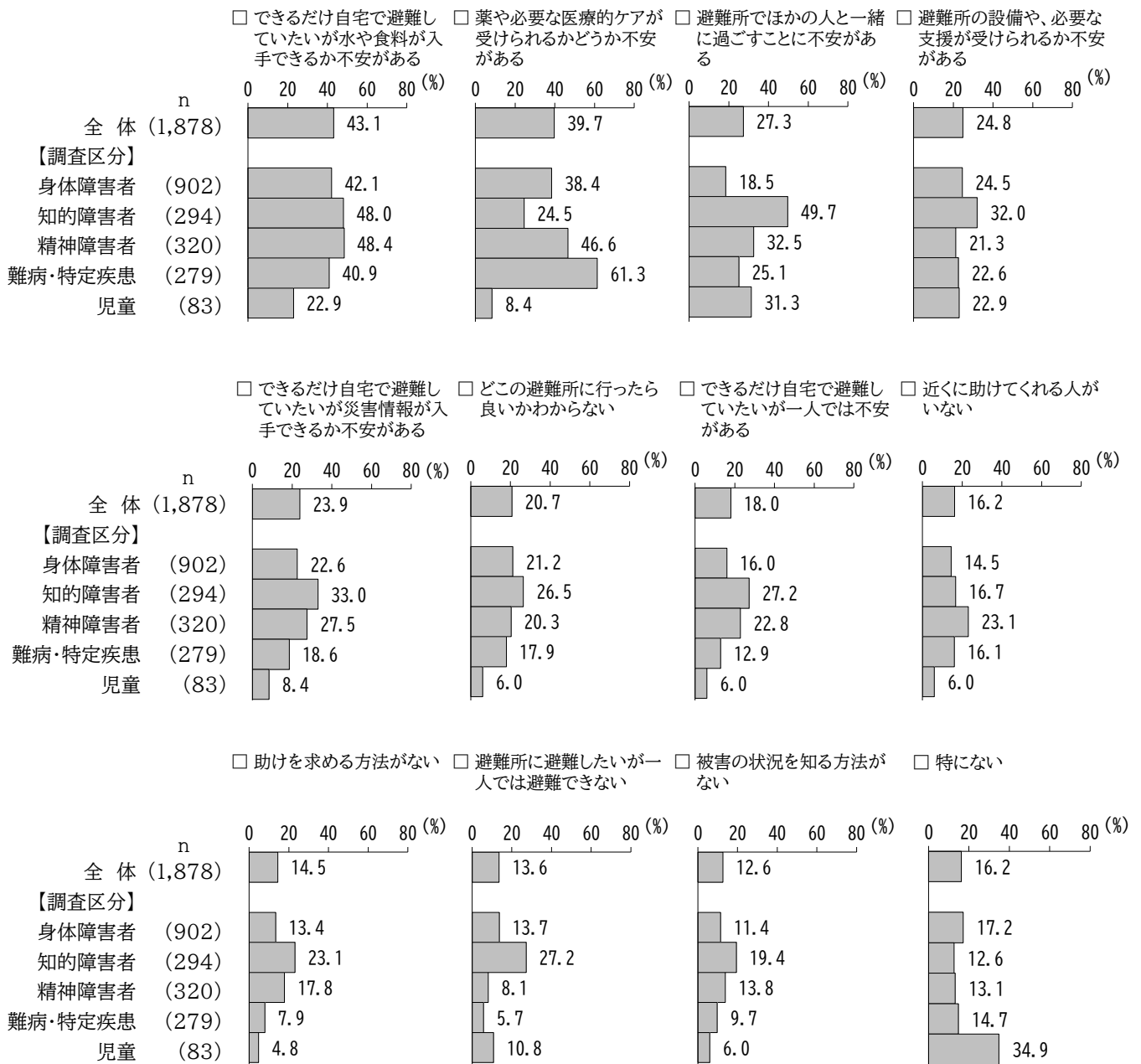


大地震などの災害が発生した場合、困ることや不安なことは、「できるだけ自宅で避難したいが水や食料が入手できるか不安がある」(43.1%)、「薬や必要な医療的ケアが受けられるかどうか不安がある」(39.7%)の2項目が特に多くなっている。以下、「避難所でほかの人と一緒に過ごすことに不安がある」が27.3%、「避難所の設備や、必要な支援が受けられるか不安がある」(24.8%)、「できるだけ自宅で避難したいが災害情報が入手できるか不安がある」(23.9%)、「どこの避難所に行ったら良いかわからない」(20.7%)が2割台で続いている。

### 第3章 調査結果の詳細

調査区分別にみると、「できるだけ自宅で避難していたいが水や食料が入手できるか不安がある」は児童以外の調査区分で4割台と多くなっている。「薬や必要な医療的ケアが受けられるかどうか不安がある」は難病・特定疾患（61.3%）と精神障害者（46.6%）が多い。「避難所でほかの人と一緒に過ごすことに不安がある」は知的障害者で49.7%と特に多くなっている。知的障害者ではこの他にも「できるだけ自宅で避難していたいが災害情報が入手できるか不安がある」、「避難所の設備や、必要な支援が受けられるか不安がある」、「避難所に避難したいが一人では避難できない」、「できるだけ自宅で避難していたが一人では不安がある」「どこの避難所に行ったら良いかわからない」と多岐にわたる不安がより強く示されている。精神障害者では、「近くに助けてくれる人がいない」が23.1%と2割台となっている。一方、児童では「特にない」が34.9%と特に多い。

調査区分別（上位11項目+「特にない」）



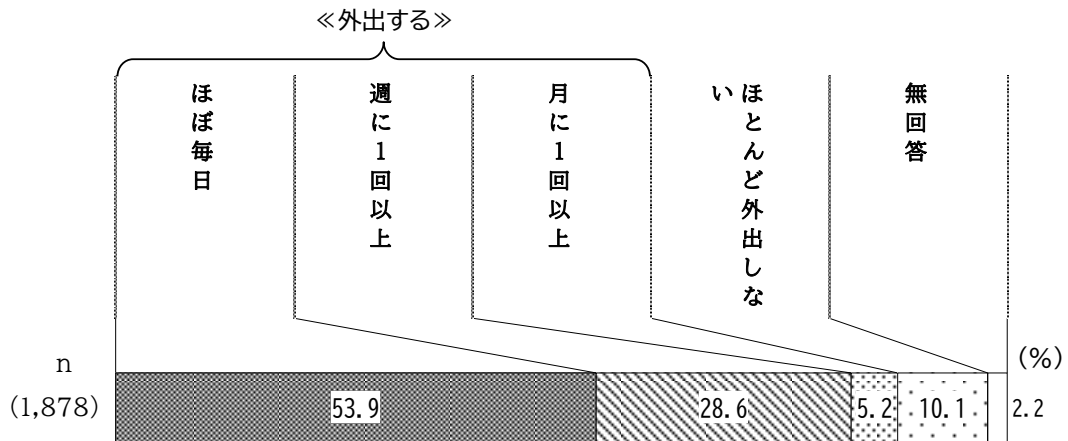
※「どこの避難所に行ったら良いかわからない」は今回調査から新規で追加



## 9. 外出の状況について

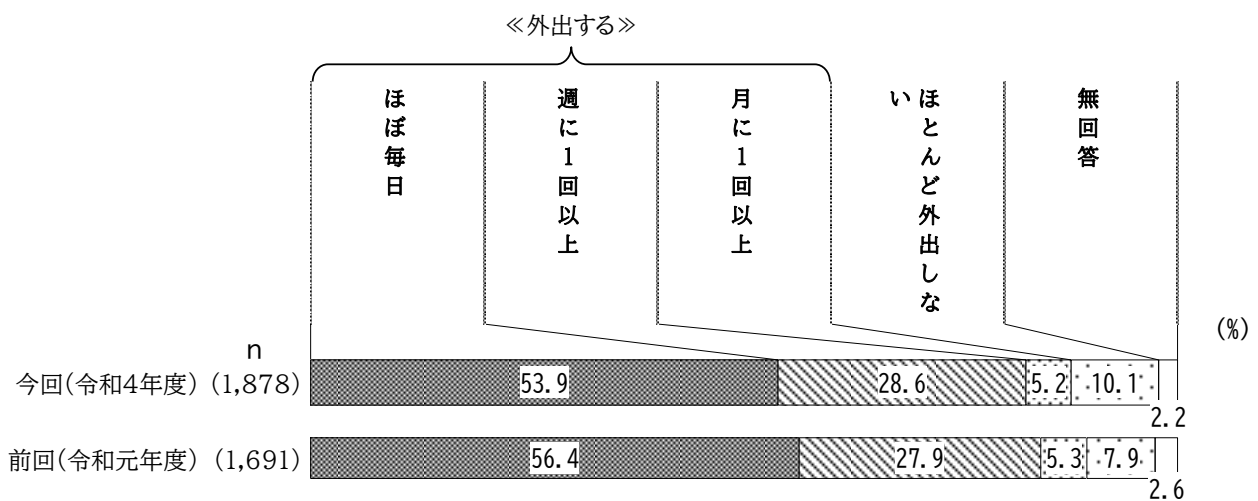
### (1) 外出頻度

問22 あなたは、普段、どのくらい外出していますか。(1つに○)



普段の外出頻度をみると、「ほぼ毎日」が53.9%、「週に1回以上」が28.6%、「月に1回以上」が5.2%となっており、少なくとも月1回以上《外出する》人は87.7%となっている。

### 令和元年度調査との比較

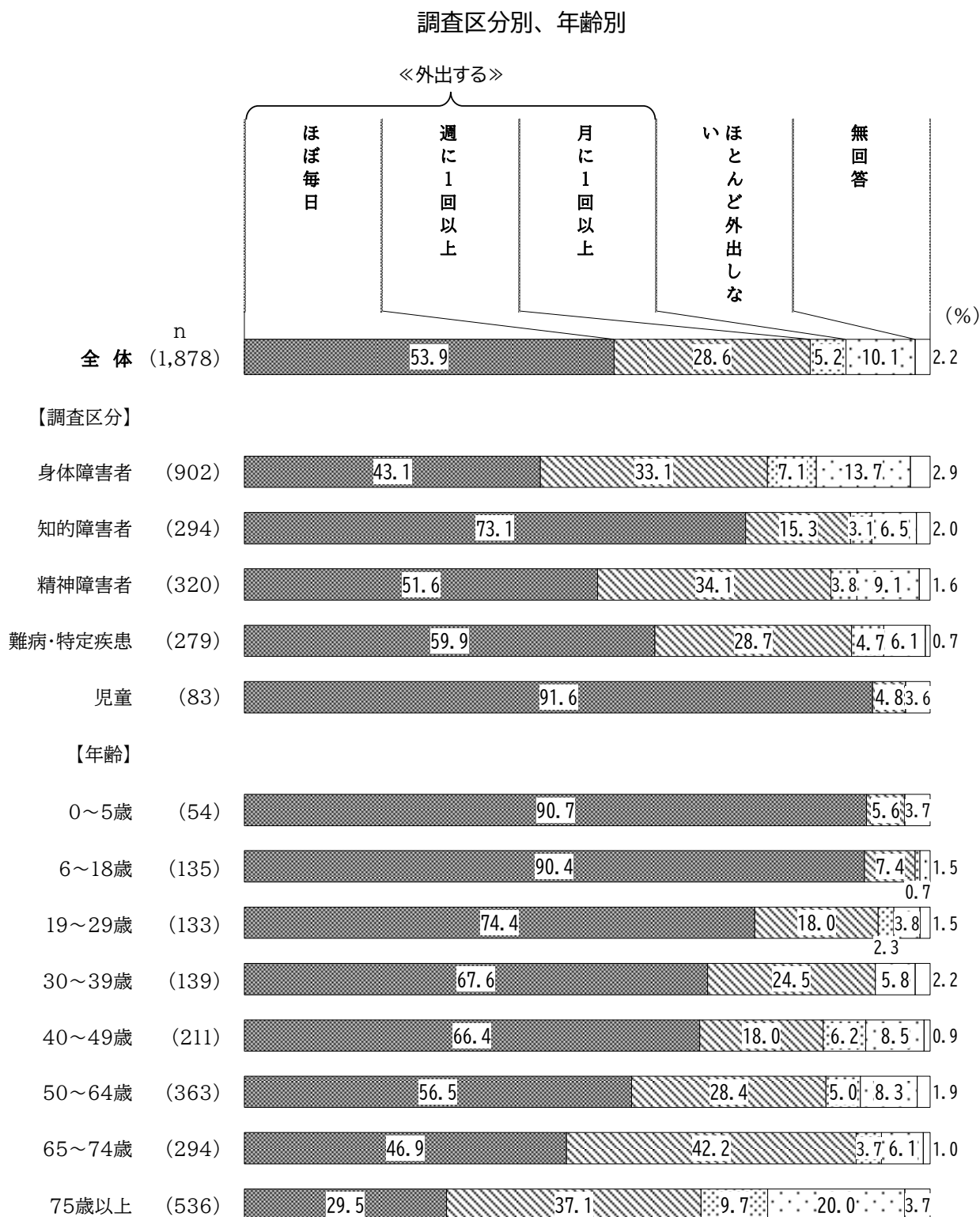


令和元年度調査と比較すると、「ほとんど外出しない」は増加している。

### 第3章 調査結果の詳細

調査区分別にみると、《外出する》はいずれの調査区分でも8割以上と多くなっている。「ほぼ毎日」は児童で91.6%を占め、知的障害者でも73.1%となっている。

年齢別にみると、《外出する》は74歳までの年齢ではおおむね9割台、75歳以上でも76.3%となっている。「ほぼ毎日」は0～18歳で9割以上、19～29歳でも7割台と多いが、年齢が上がるるとともに少なくなる。

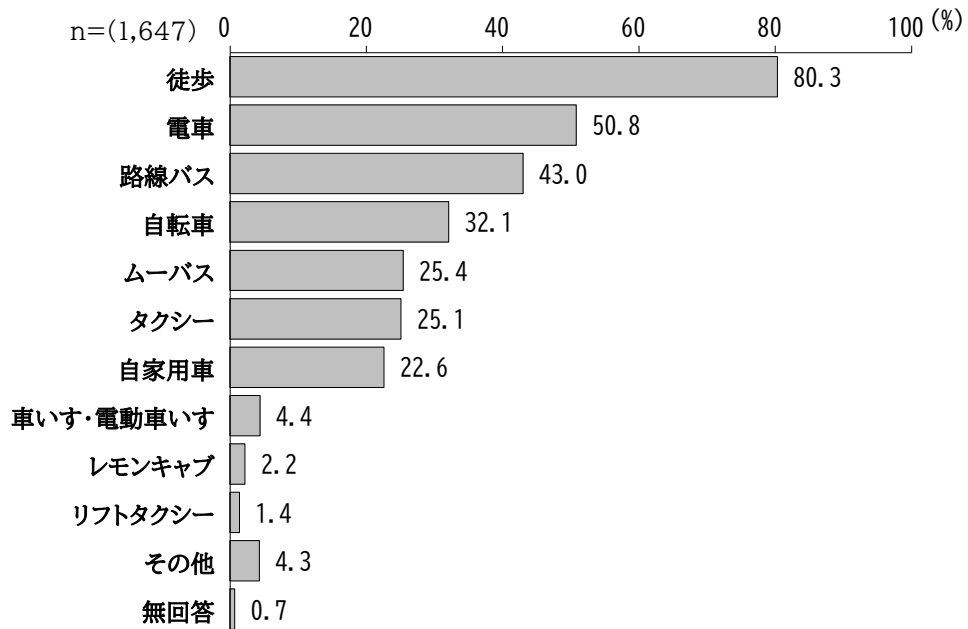


## (2) 外出の際の移動手段

【問22で「ほぼ毎日」、「週に1回以上」、「月に1回以上」と回答した方にお聞きします。】

問22-1 外出する時に利用する移動手段は次のうちどれですか。

(あてはまるものすべてに○)

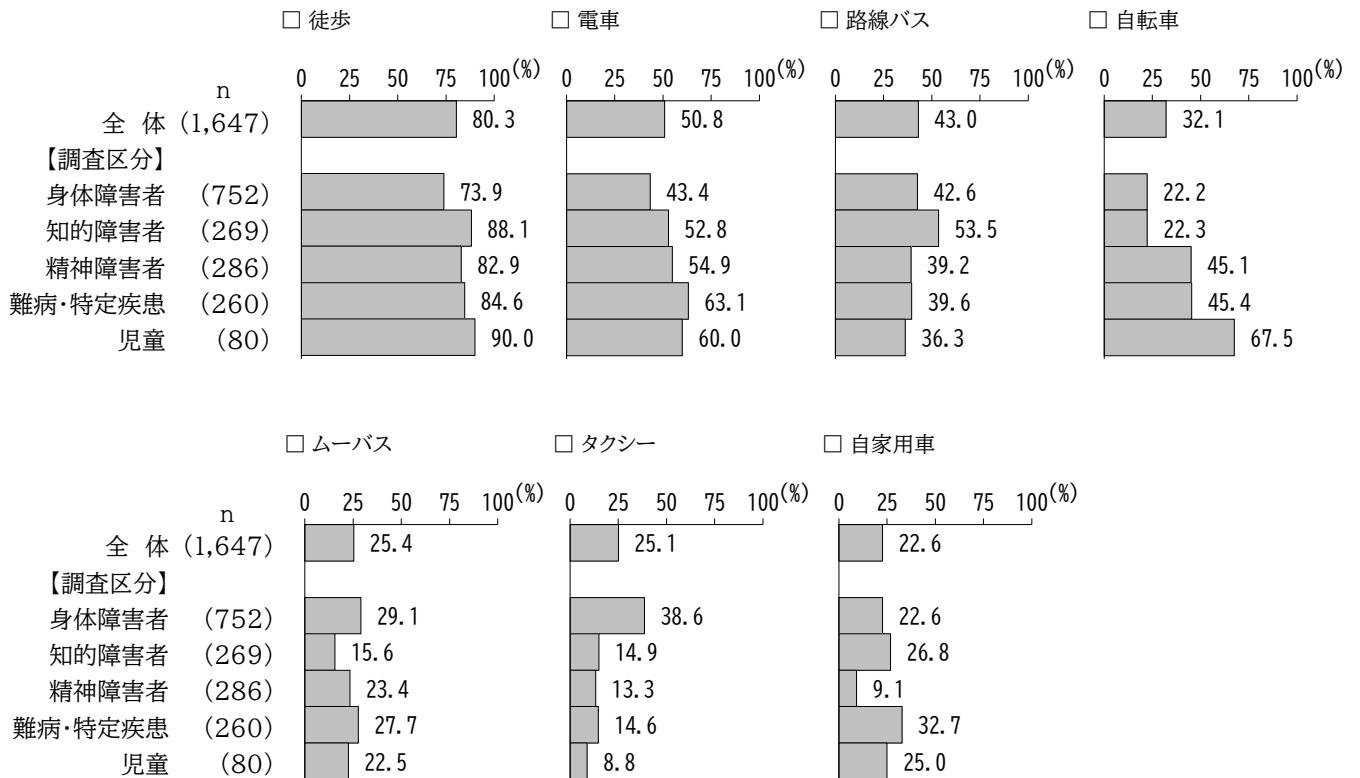


外出する際に利用する移動手段は、「徒歩」が80.3%で最も多く、以下、「電車」が50.8%、「路線バス」が43.0%、「自転車」が32.1%、「ムーバス」(25.4%)、「タクシー」(25.1%)、「自家用車」(22.6%)が2割台で続いている。

### 第3章 調査結果の詳細

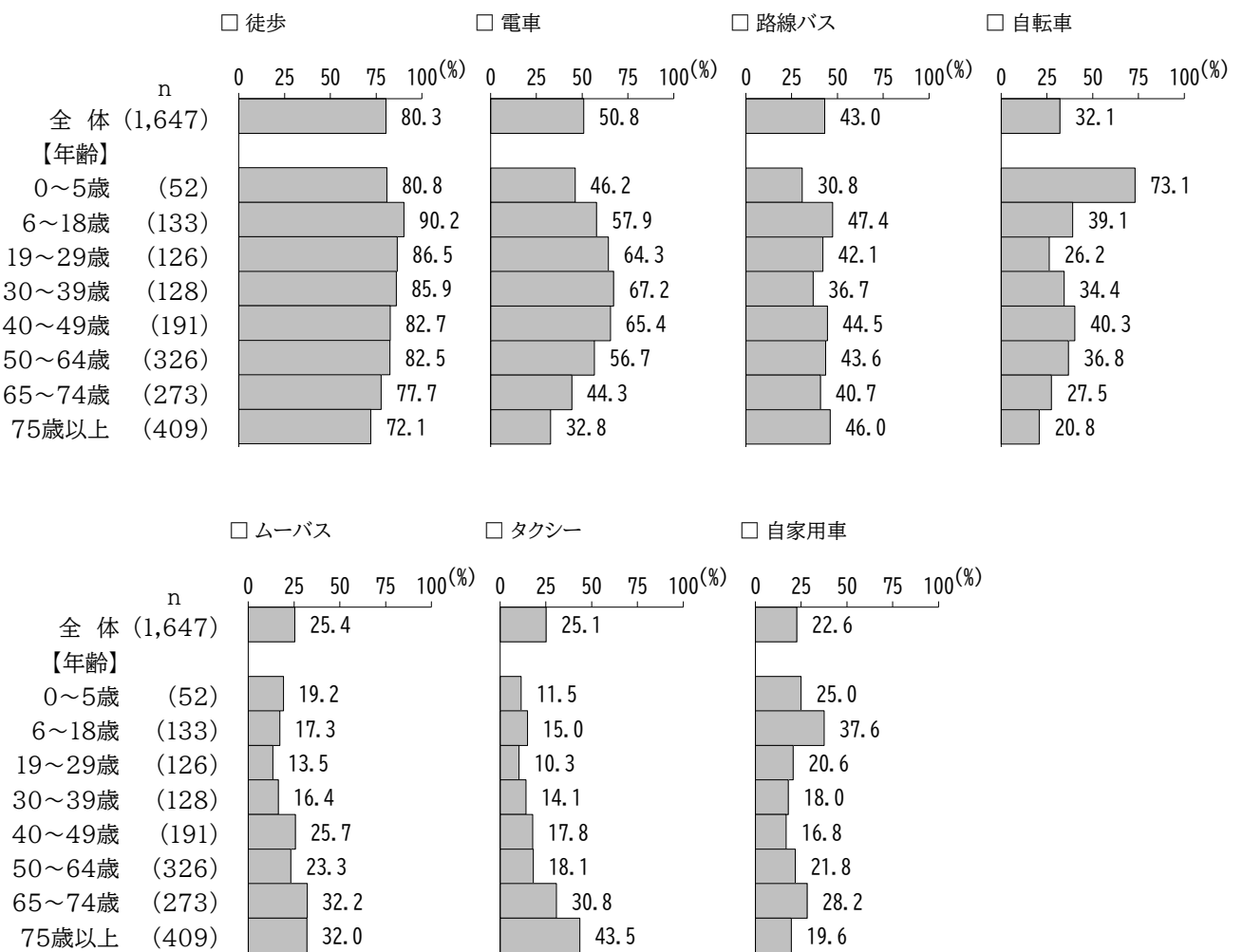
調査区分別にみると、いずれの調査区分でも「徒歩」や「電車」、「路線バス」の公共交通機関が中心となっている。児童では「自転車」が67.5%、精神障害者と難病・特定疾患では「自転車」が4割台、身体障害者では「タクシー」が38.6%と他の調査区分より多くなっている。

調査区分別（上位7項目）



年齢別にみると、「徒歩」はすべての年齢で7割以上、「電車」は6歳から64歳までで5割以上となっている。「路線バス」、「自転車」、「ムーバス」は幅広い年齢で利用されている中で、0～5歳では「自転車」が73.1%と多くなっている。また、75歳以上では「タクシー」が43.5%、6～18歳では「自家用車」が37.6%と他の年齢より多くなっている。

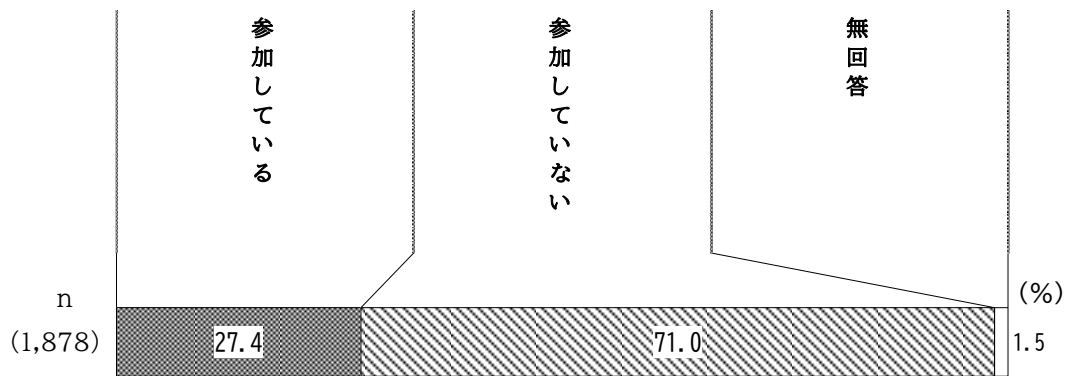
年齢別（上位7項目）



## 10. 趣味の活動や地域の活動について

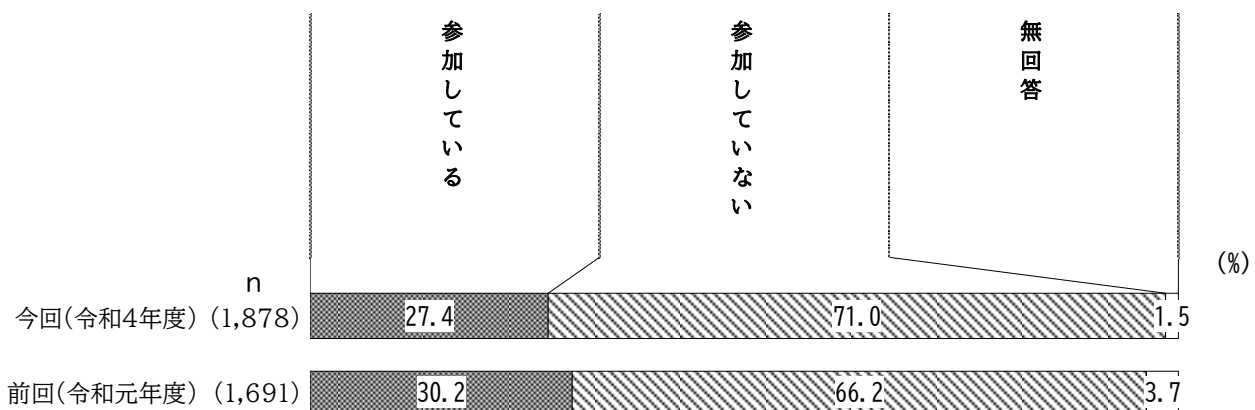
### (1) 趣味などの活動への参加状況

問23 あなたは現在、趣味などの活動に参加していますか。(1つに○)



現在、趣味などの活動に「参加している」は27.4%、「参加していない」は71.0%となっている。

### 令和元年度調査との比較

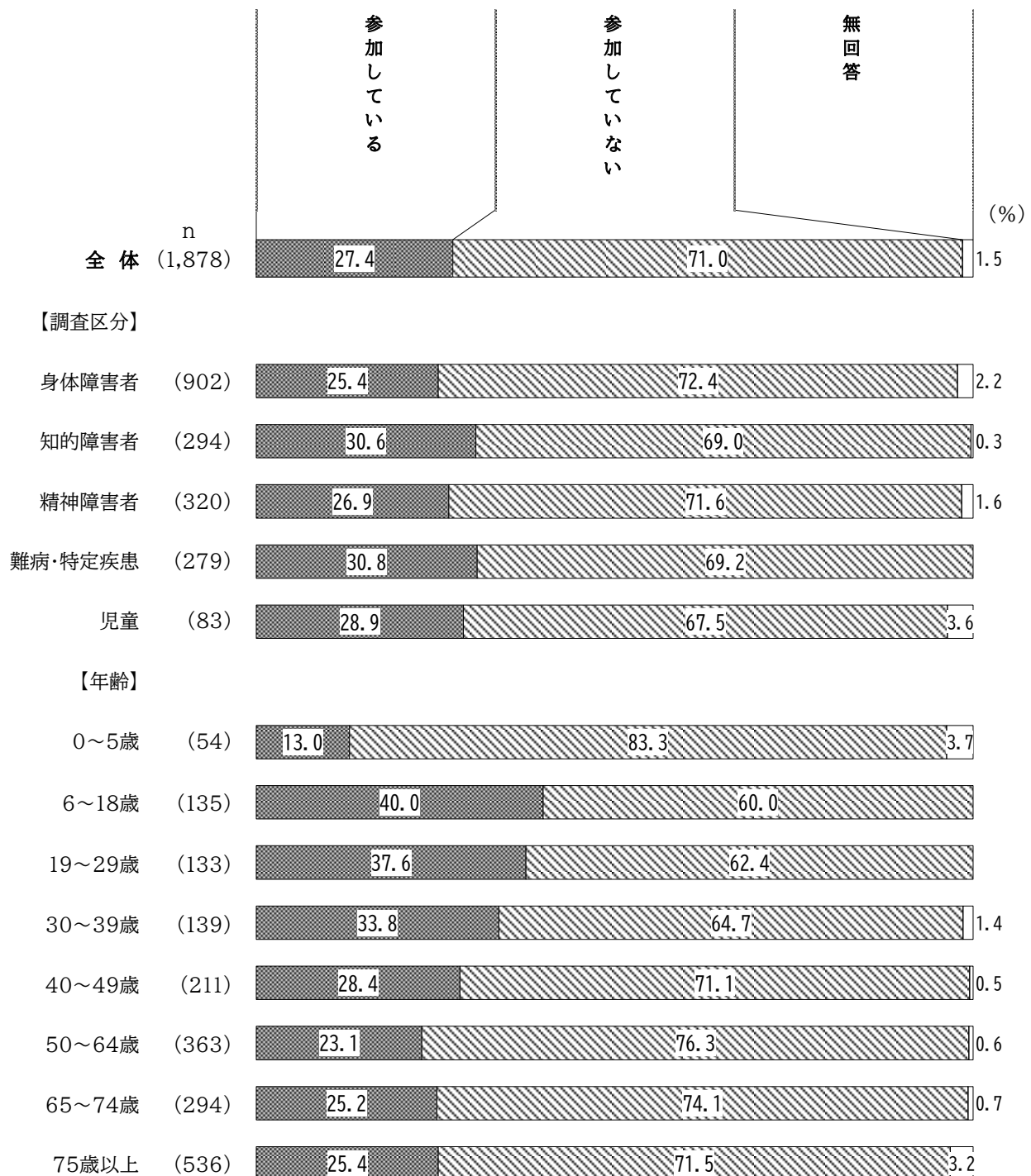


令和元年度調査と比較すると、「参加していない」は4.8ポイント増加している。

調査区分別にみると、「参加している」は難病・特定疾患が30.8%、知的障害者が30.6%と他の調査区分よりやや多くなっている。

年齢別にみると、「参加している」は多くの年齢で2割から4割台となっており、6～18歳で40.0%となるが、50～64歳まで減少していく傾向にある。

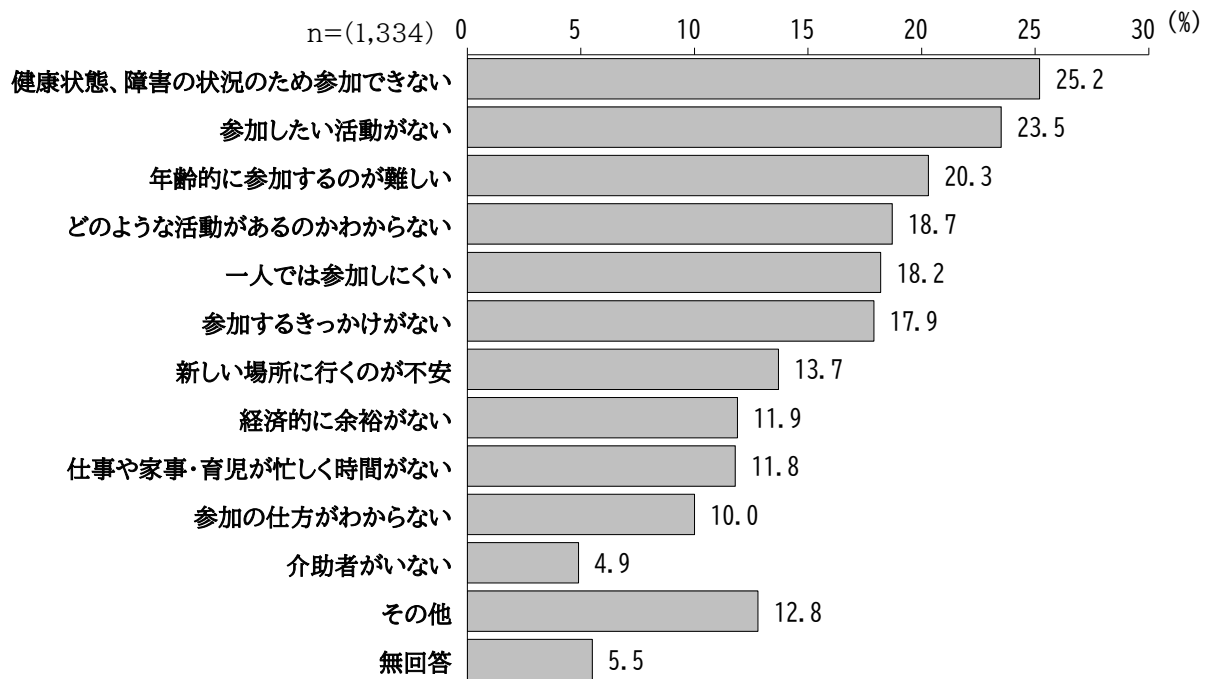
調査区分別、年齢別



(2) 参加していない理由

【問23で「参加していない」と回答した方にお聞きします。】

問23-1 参加していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

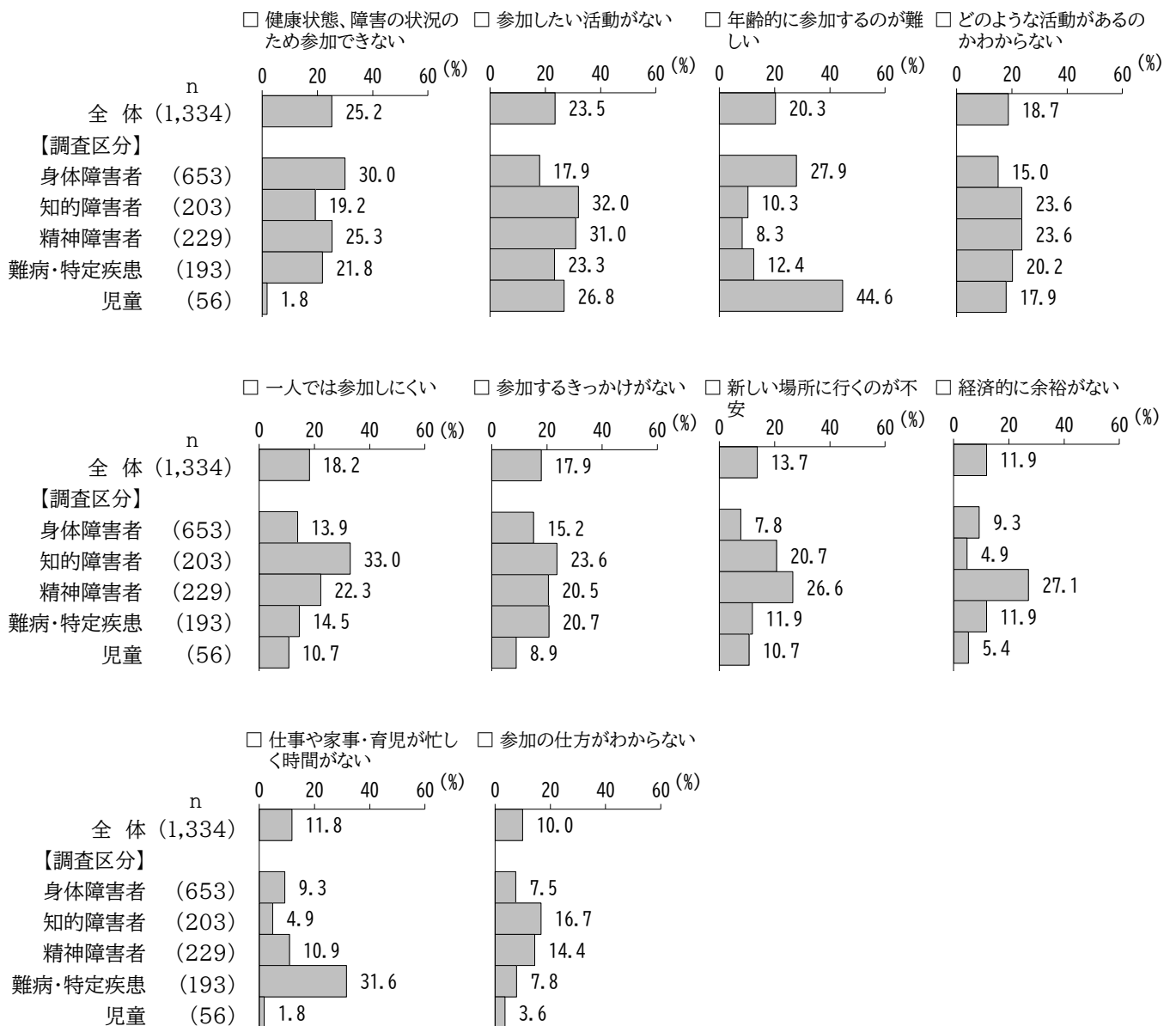


参加していない理由は、「健康状態、障害の状況のため参加できない」が25.2%で多い。以下、「参加したい活動がない」(23.5%)、「年齢的に参加するのが難しい」(20.3%)が2割台、「どのような活動があるのかわからない」(18.7%)、「一人では参加しにくい」(18.2%)、「参加するきっかけがない」(17.9%)が2割弱で続いている。



調査区分別にみると、身体障害者では「健康状態、障害の状況のため参加できない」(30.0%)、知的障害者では「一人では参加しにくい」(33.0%)、「参加したい活動がない」(32.0%)、精神障害者では「参加したい活動がない」(31.0%)が特に多い。難病・特定疾患では「仕事や家事・育児が忙しく時間がない」(31.6%)、身体障害者、児童では「年齢的に参加するのが難しい」が他の調査区分より多くなっている。

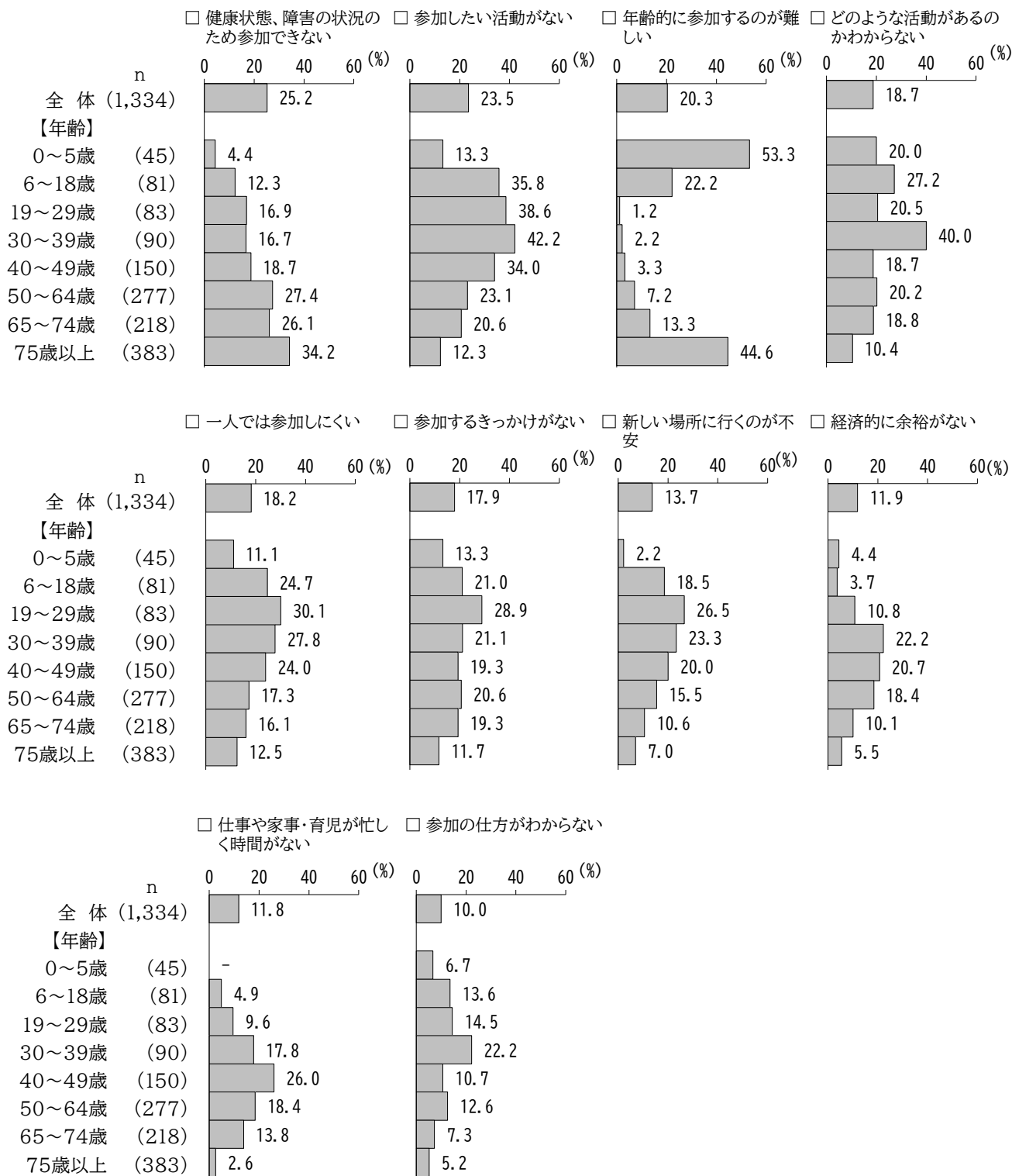
調査区分別（上位10項目）



### 第3章 調査結果の詳細

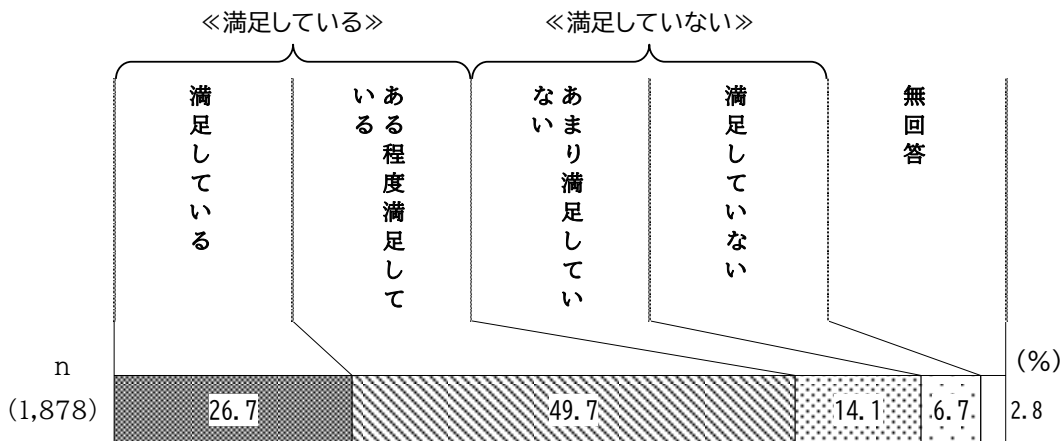
年齢別にみると、「健康状態、障害の状況のため参加できない」は年齢が上がるともに多くなる傾向があり、75歳以上では34.2%となっている。30～39歳を中心に「参加したい活動がない」、「どのような活動があるのかわからない」が2割から4割台となっている。この他の傾向としては、19～29歳では「一人では参加しにくい」、「参加するきっかけがない」、30～39歳では「参加の仕方がわからない」が、0～5歳と75歳以上では「年齢的に参加するのが難しい」が多くなっている。

年齢別（上位10項目）



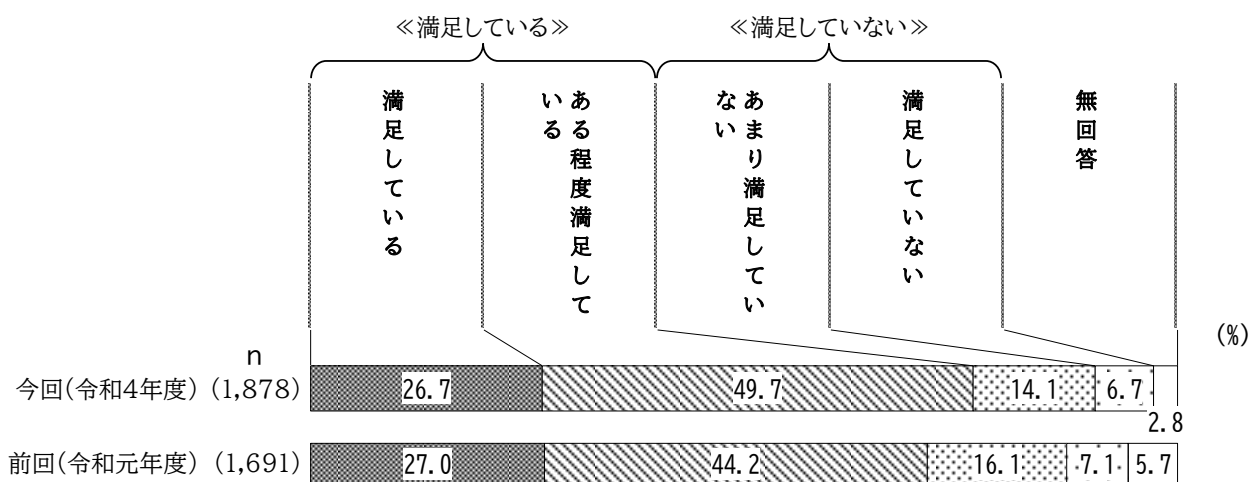
(3) 特に用事のないときの過ごし方の満足度

問24 あなたは、特に用事のないときの過ごし方に満足していますか。(1つに○)



特に用事のないときの過ごし方に「満足している」は26.7%で、「ある程度満足している」(49.7%)をあわせた《満足している》は76.4%となっている。《満足していない》(「満足していない」と「あまり満足していない」の計)は20.8%となっている。

令和元年度調査との比較



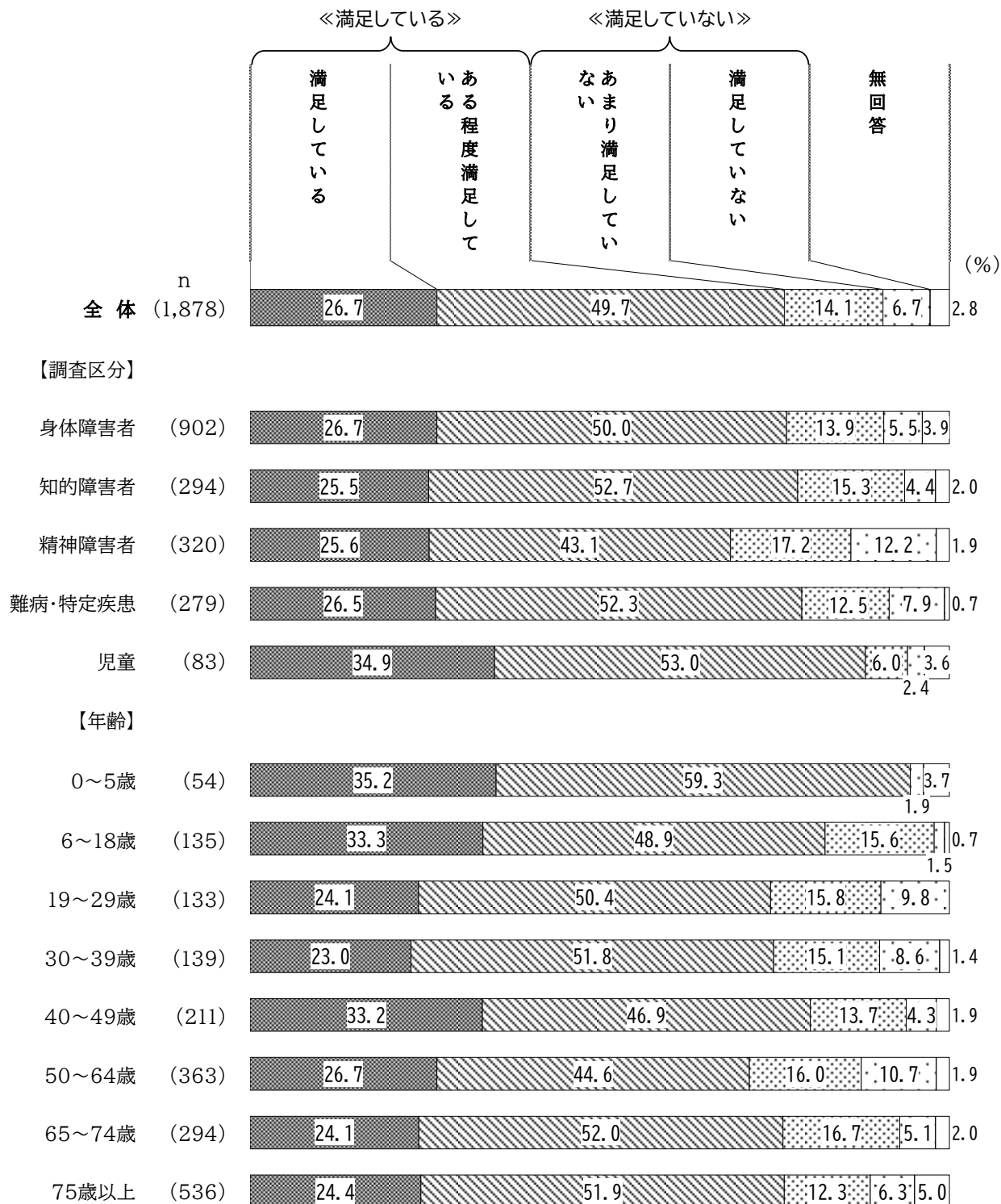
令和元年度調査と比較すると、《満足している》は5.2ポイント増加している。

### 第3章 調査結果の詳細

調査区分別にみると、《満足している》は児童が87.9%と多く、すべての調査区分で6割以上となっている。一方、《満足していない》は精神障害者で29.4%と多くなっている。

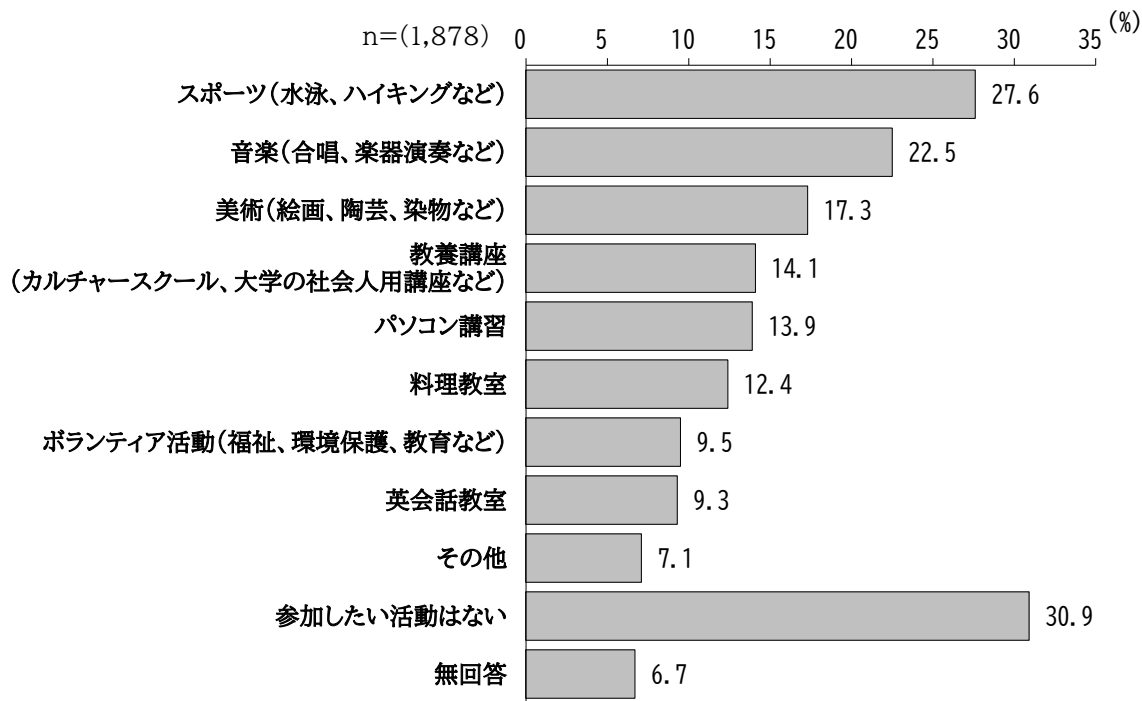
年齢別にみると、《満足している》はすべての年齢で7割以上となっており、特に0～5歳では94.5%を占め、6～18歳（82.2%）、40～49歳（80.1%）では8割台となっている。

調査区分別、年齢別



## (4) 参加したい活動（現在参加中も含む）

問25 あなたが参加したい活動（現在参加している活動も含む）はありますか。  
（あてはまるものすべてに○）

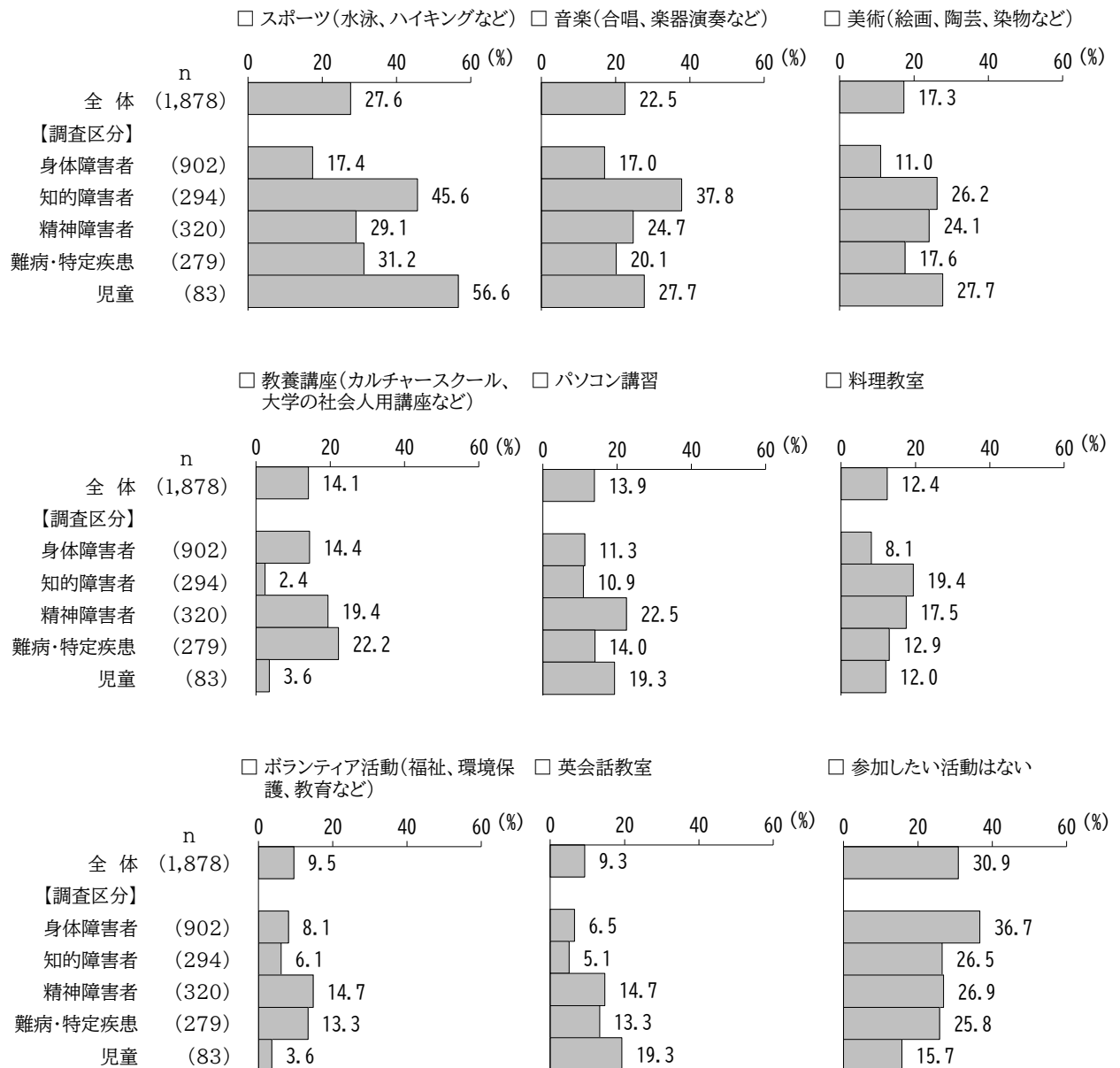


参加したい活動（現在参加中も含む）は、「スポーツ」が27.6%で最も多く、以下、「音楽」が22.5%、「美術」(17.3%)、「教養講座」(14.1%)、「パソコン講習」(13.9%)、「料理教室」(12.4%)が1割台で続いている。また、「参加したい活動はない」が30.9%となっている。

### 第3章 調査結果の詳細

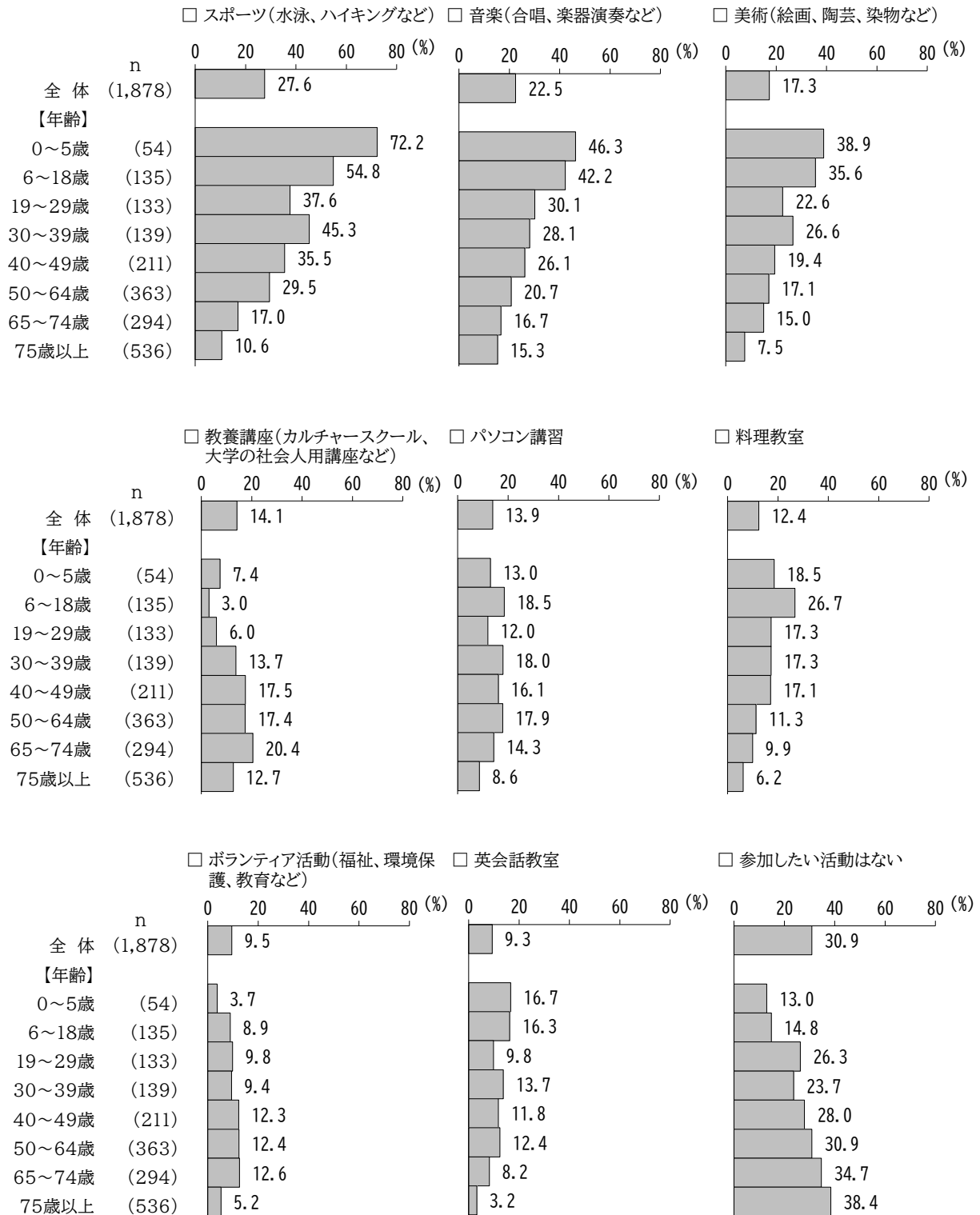
調査区分別にみると、知的障害者、児童では「スポーツ」が特に多く、「音楽」、「美術」も他の調査区分よりやや多くなっている。精神障害者では「パソコン講習」(22.5%)、難病・特定疾患では「教養講座」(22.2%)が比較的多くあげられている。

#### 調査区分別（上位8項目＋「参加したい活動はない」）



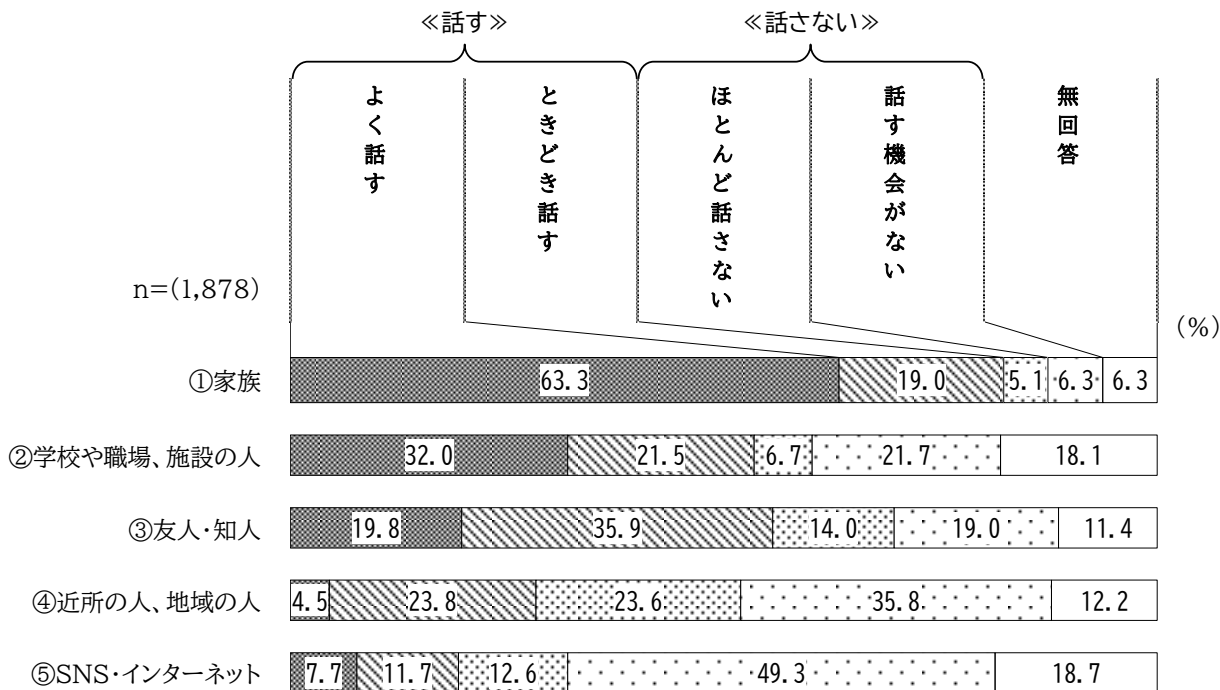
年齢別にみると、「スポーツ」、「音楽」、「美術」は0～18歳を中心に多く、年齢が上がるとともに少なくなっている。「教養講座」は65～74歳で20.4%、「料理教室」は6～18歳で26.7%と多くなっている。

年齢別（上位8項目＋「参加したい活動はない」）



(5) 周囲の人たちとの会話頻度

問26 あなたは、直近の6ヶ月間で、次の人たちとどのぐらい話をしていますか。  
(それぞれ1つに○)

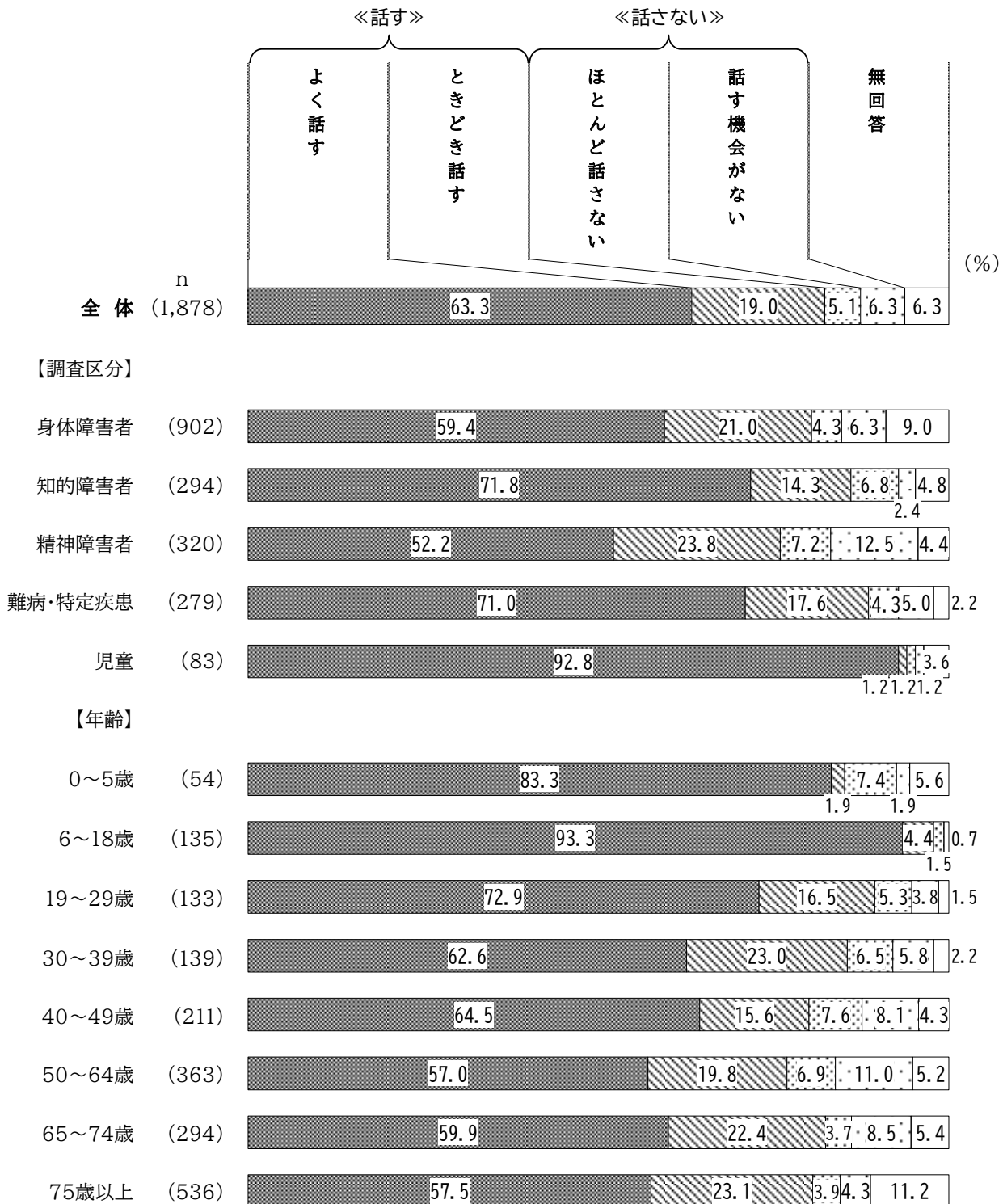


直近の6ヶ月間での、周囲の人たちとの会話頻度を聞いた。「よく話す」は“①家族”が63.3%、“②学校や職場、施設の人”が32.0%、“③友人・知人”が19.8%となっている。「ときどき話す」をあわせた《話す》で見ると、“①家族”は82.3%と多く、“②学校や職場、施設の人”は53.5%、“③友人・知人”は55.7%となっている。一方、「話す機会がない」は“⑤SNS・インターネット”が49.3%、“④近所の人、地域の人”が35.8%となっている。



①家族を調査区分別にみると、《話す》は、身体障害者、知的障害者、難病・特定疾患、児童では8割以上となっている。一方、《話さない》は精神障害者で19.7%となっている。  
 年齢別にみると、《話す》は、50～64歳を除くすべての年齢でいずれも8割以上となっている。一方、30歳から74歳では、《話さない》が1割台となっている。

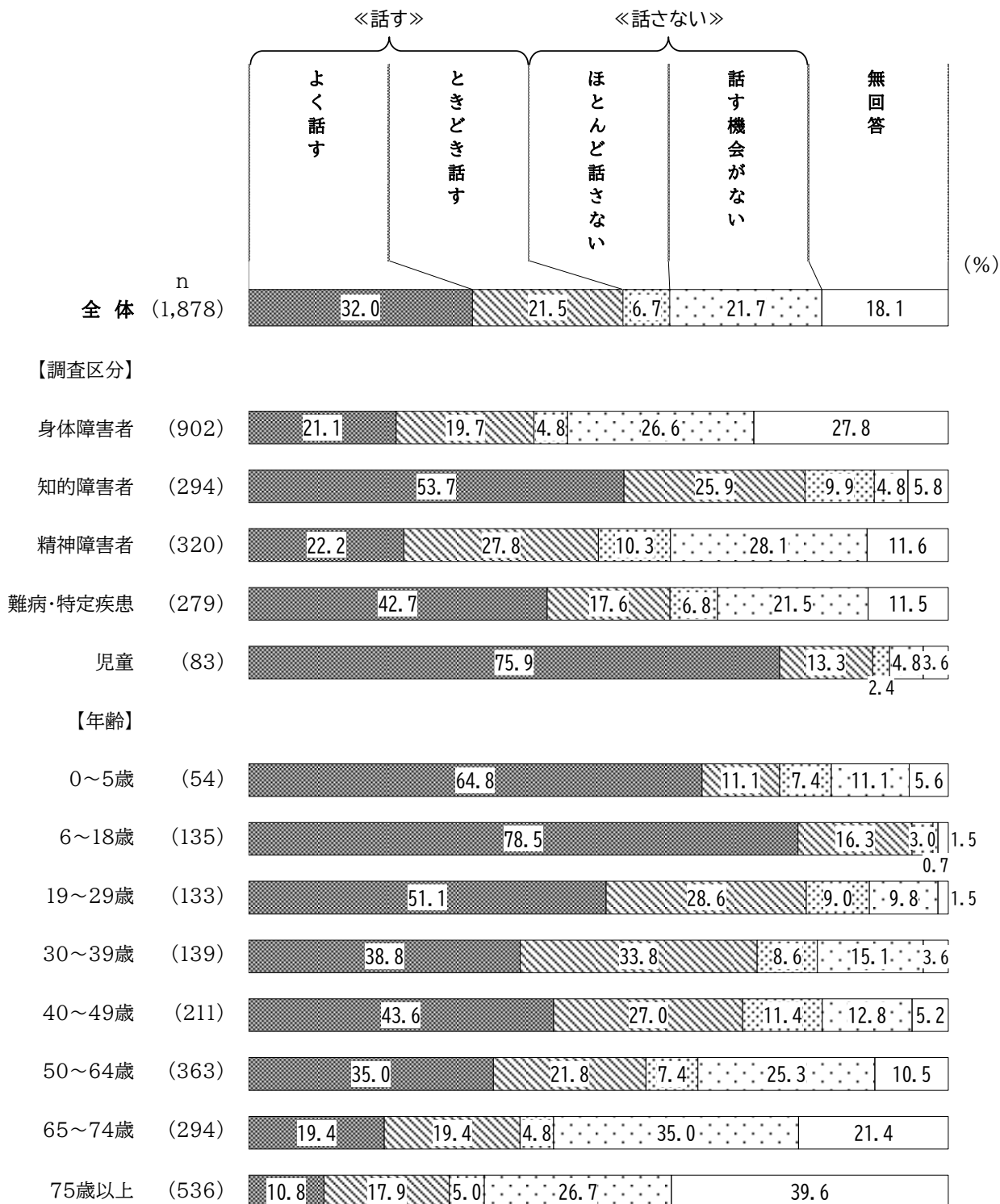
調査区分別、年齢別（①家族）



### 第3章 調査結果の詳細

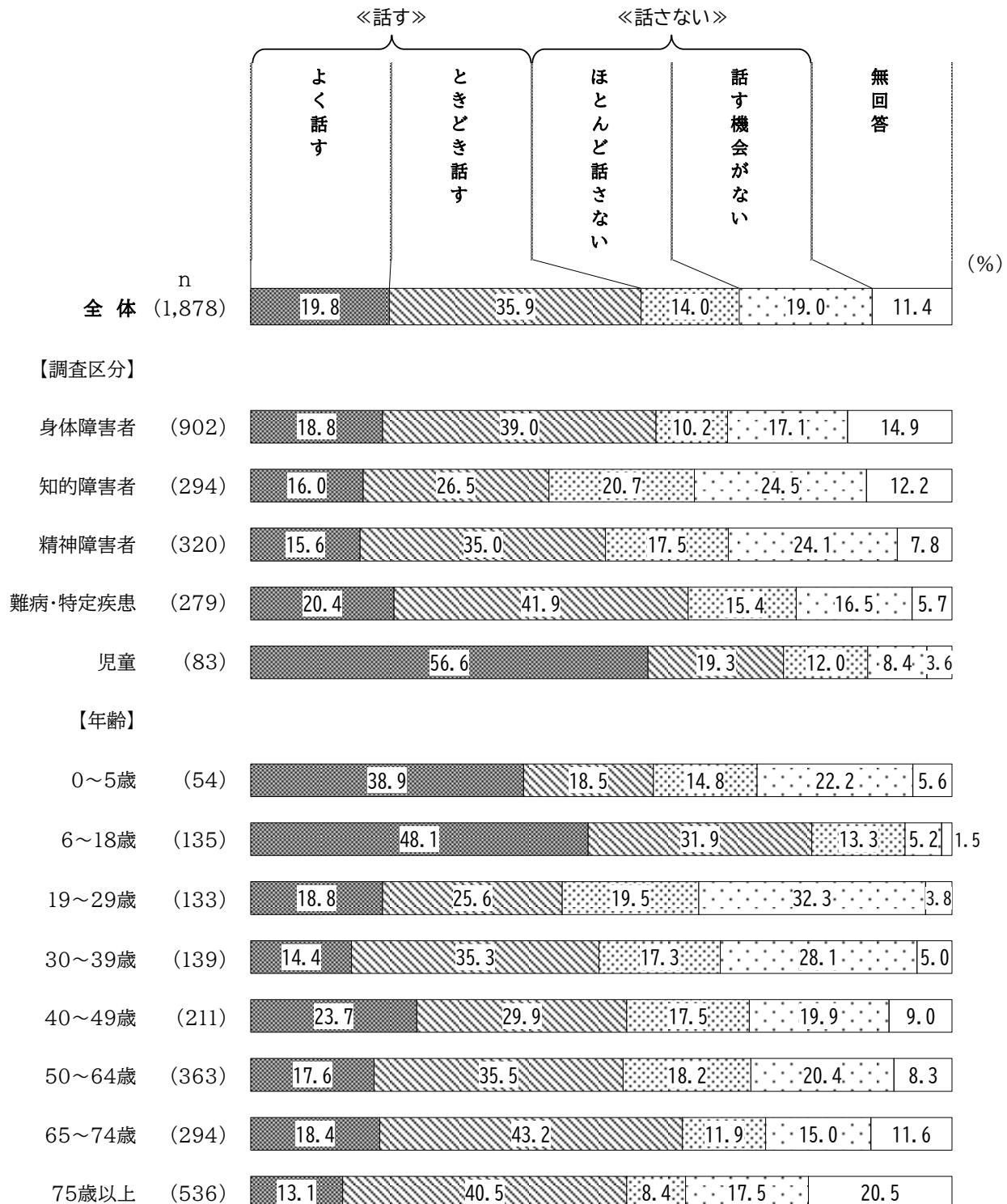
②学校や職場、施設の人を調査区分別にみると、《話す》は、児童で89.2%となっている。一方、《話さない》は精神障害者（38.4%）、身体障害者（31.4%）で3割台と多くなっている。年齢別にみると、《話す》は、49歳以下の年齢でいずれも7割以上となっている。一方50歳から74歳では《話さない》が3割台となっている。

調査区分別、年齢別（②学校や職場、施設の人）



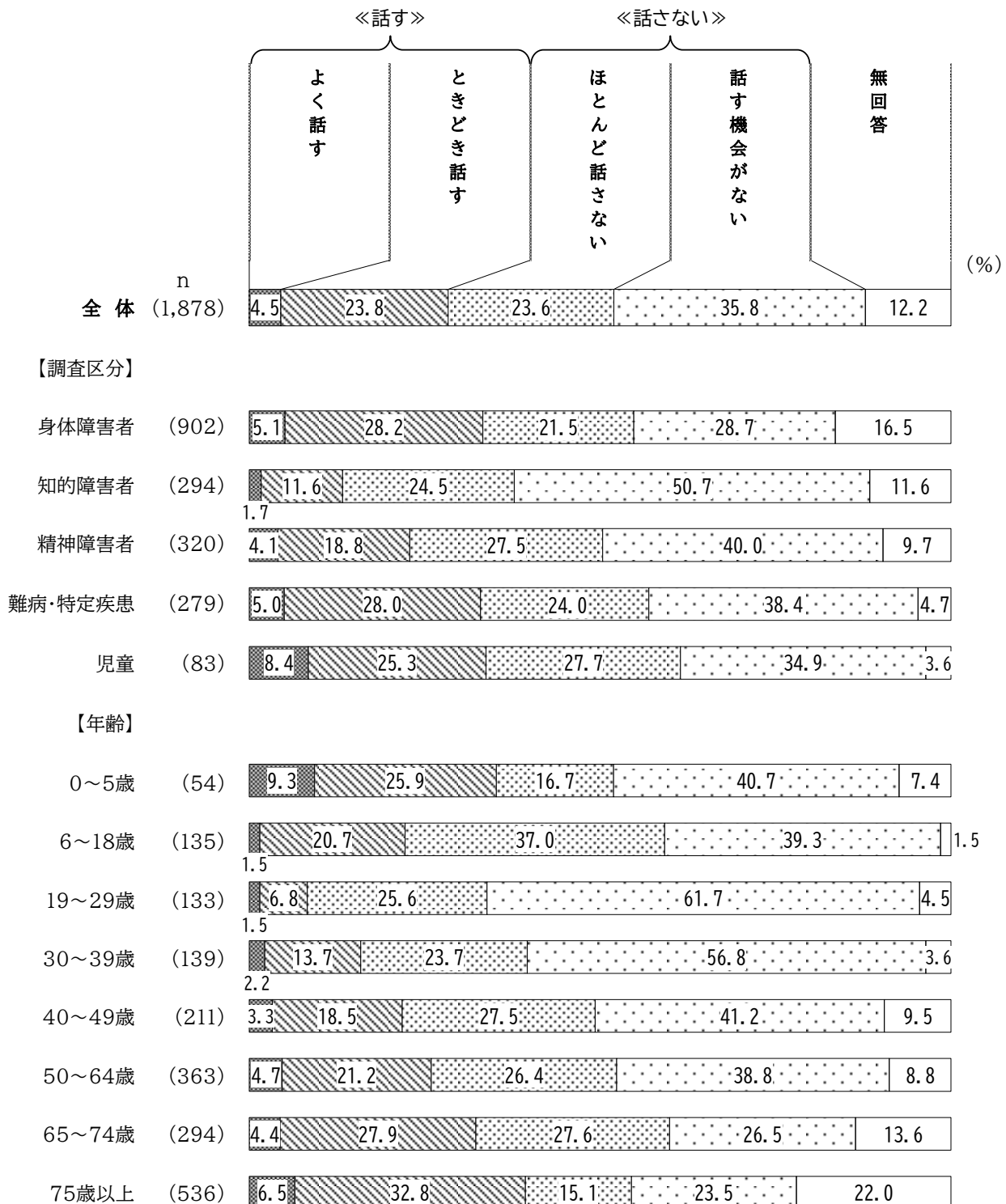
③友人・知人を調査区分別にみると、《話す》は、児童では75.9%となっている。一方《話さない》は知的障害者（45.2%）、精神障害者（41.6%）で4割台と多くなっている。  
 年齢別にみると、《話す》は、いずれも4割以上となっており、特に6～18歳で80.0%となっている。一方、19歳から29歳では《話さない》が51.8%と半数を超えている。

調査区分別、年齢別（③友人・知人）



④近所の人、地域の人を調査区分別にみると、《話す》は、身体障害者、難病・特定疾患、児童では3割前後となっている。一方《話さない》は知的障害者で75.2%と多くなっている。年齢別にみると、《話す》は、0～5歳、65歳以上の年齢でいずれも3割以上となっている。一方、19歳から39歳では、《話さない》が8割台となっている。

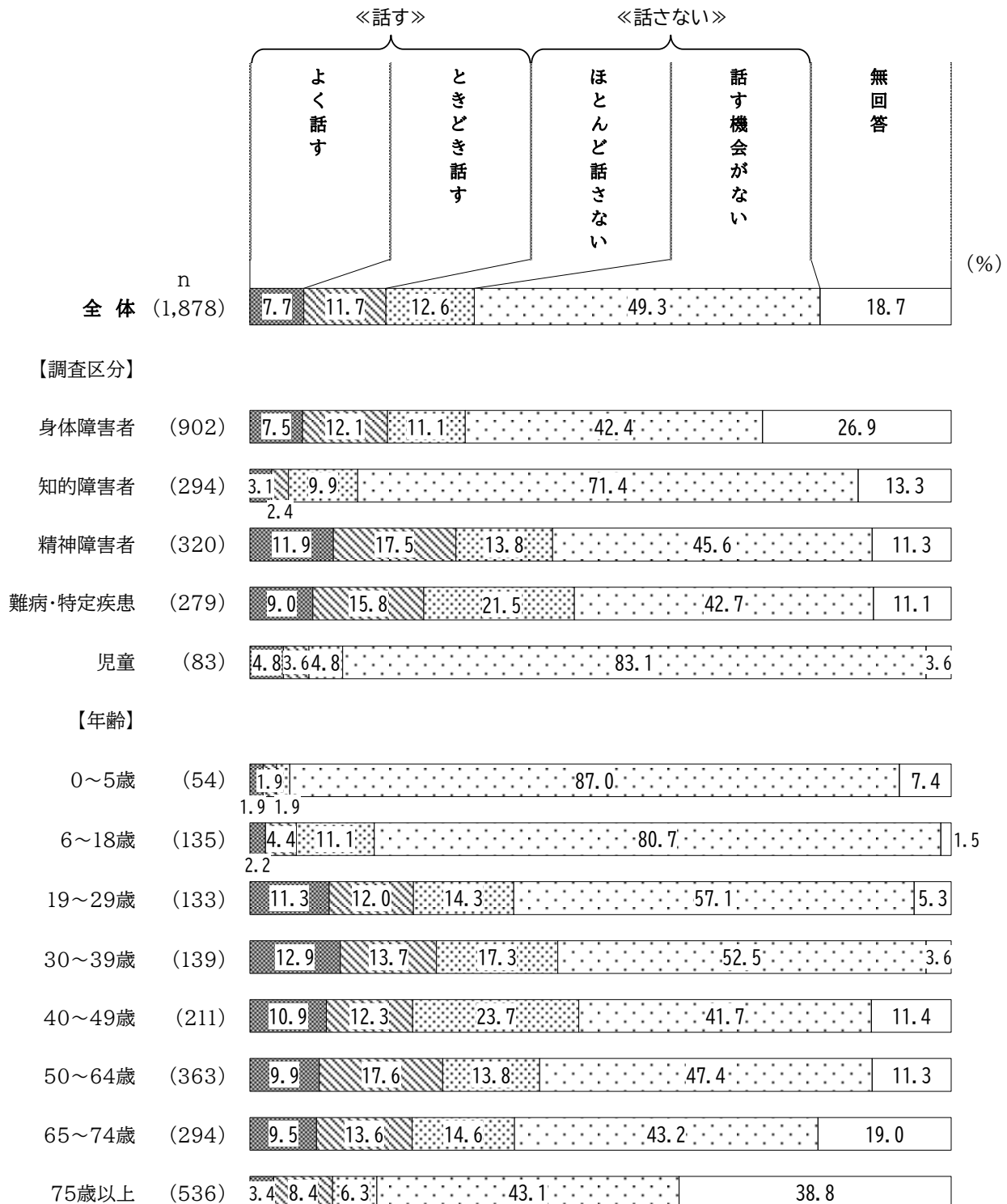
調査区分別、年齢別（④近所の人、地域の人）



⑤ SNS・インターネットを調査区分別にみると、《話す》は、精神障害者、難病・特定疾患では2割台となっている。一方《話さない》は児童（87.9%）、知的障害者（81.3%）で8割台と多くなっている。

年齢別にみると、《話す》は、19歳から74歳の年齢で2割台となっている。一方6～18歳では《話さない》が91.8%を占めている。

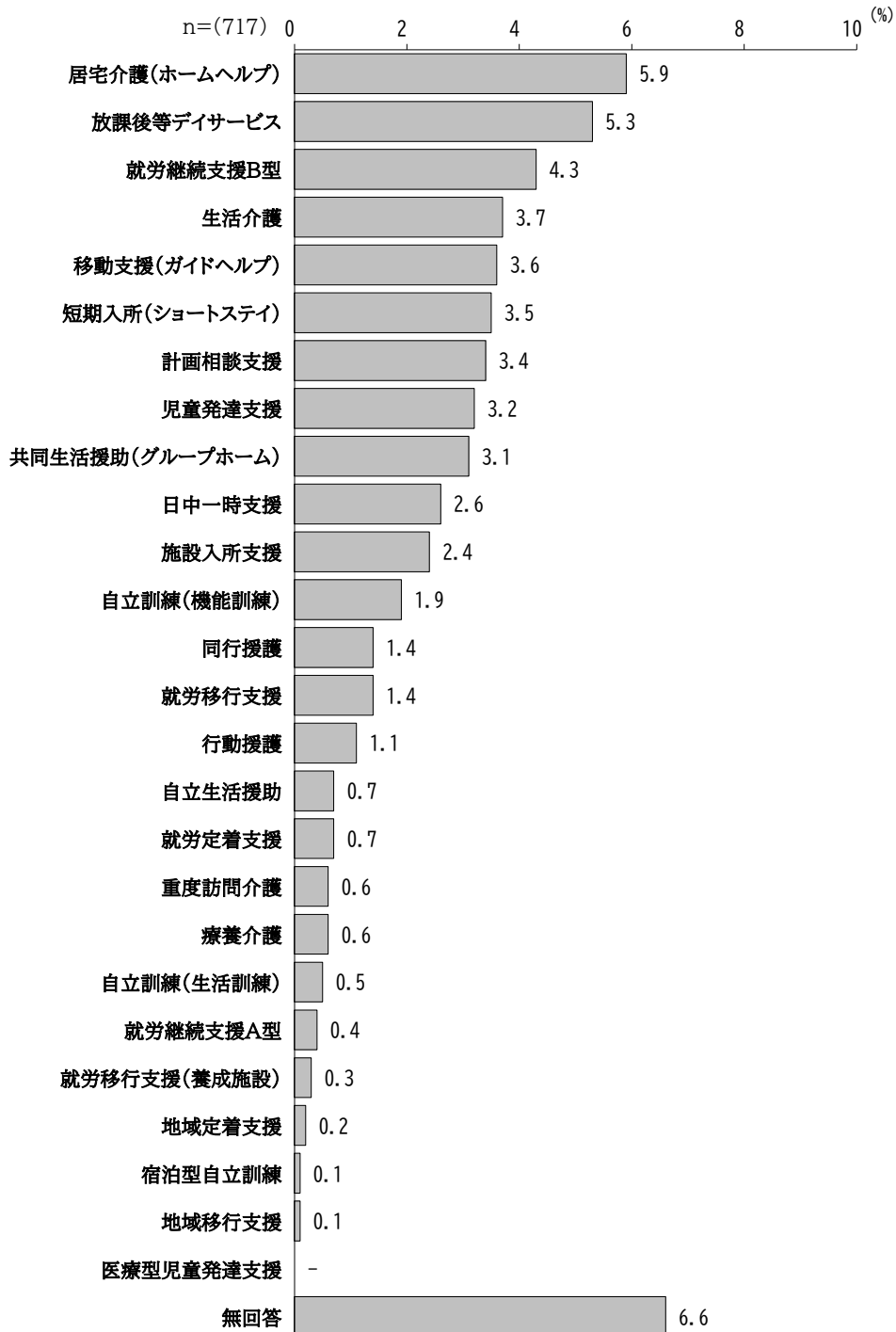
調査区分別、年齢別（⑤ SNS・インターネット）



## 11. サービスの利用等について

### (1) 障害福祉サービスの利用状況

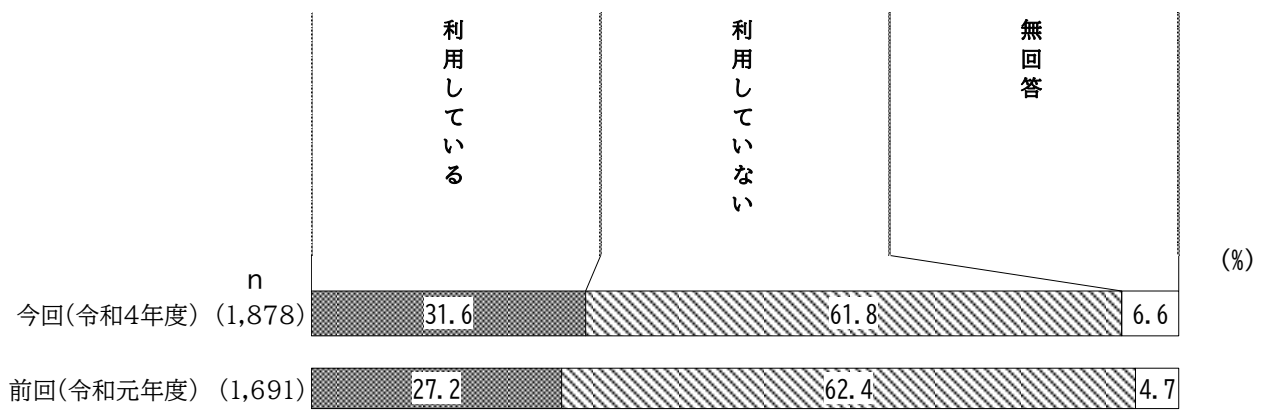
問27 あなたは現在、障害福祉サービスを利用していますか。(あてはまるものすべてに○)



※障害者総合支援法に基づく「自立支援給付」「地域生活支援事業」、児童福祉法に基づく「障害児に関するサービス」のうちの主だったものの利用状況について質問しています。

利用している障害福祉サービスは、「居宅介護(ホームヘルプ)」(5.9%)、「放課後等デイサービス」(5.3%)、「就労継続支援B型」(4.3%)が比較的多い。

令和元年度調査との比較

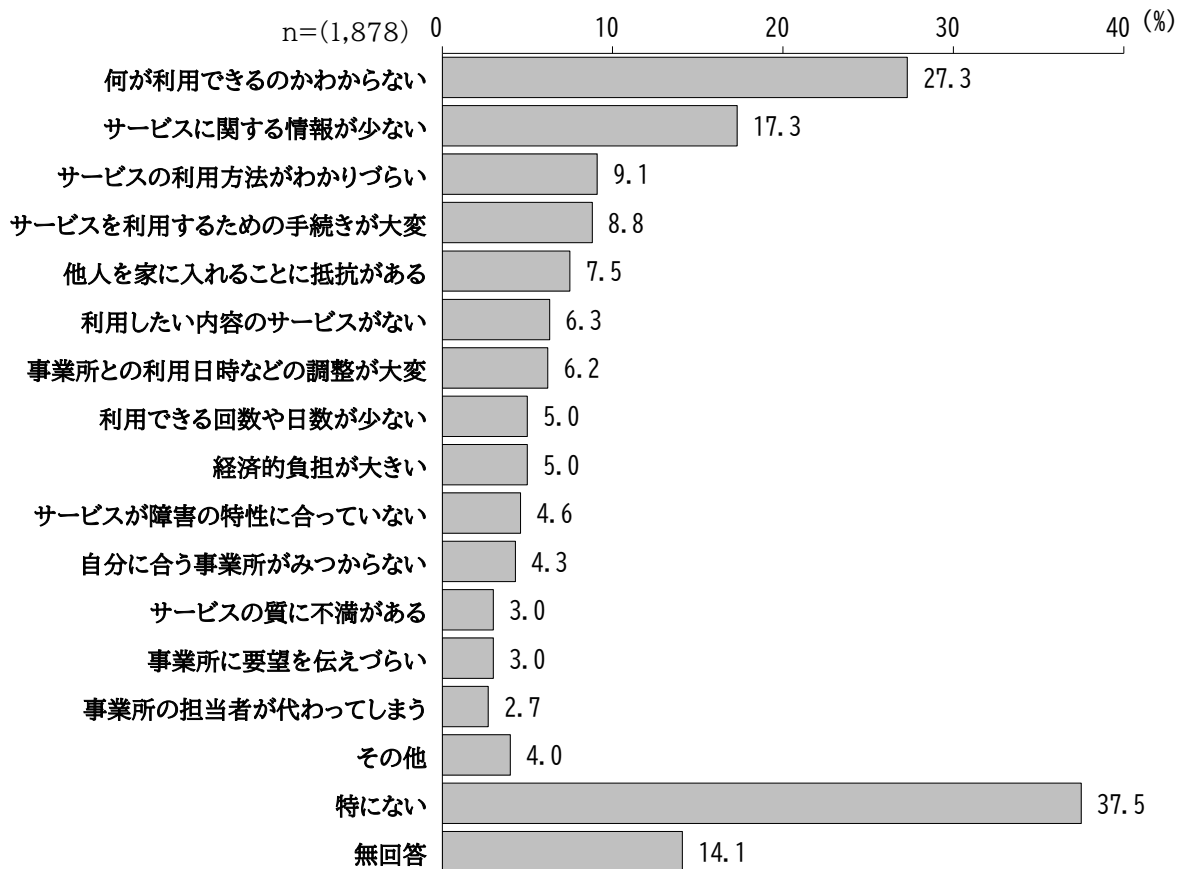


※障害福祉サービスのいずれかを利用していると回答した人を「利用している」とする

令和元年度調査と比較すると、「利用している」は4.4ポイント増加している。

(2) 障害福祉サービスを利用する際の不便

問28 障害福祉サービスを利用した際、または利用しようとした際に、困ったり、不便だと思うことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

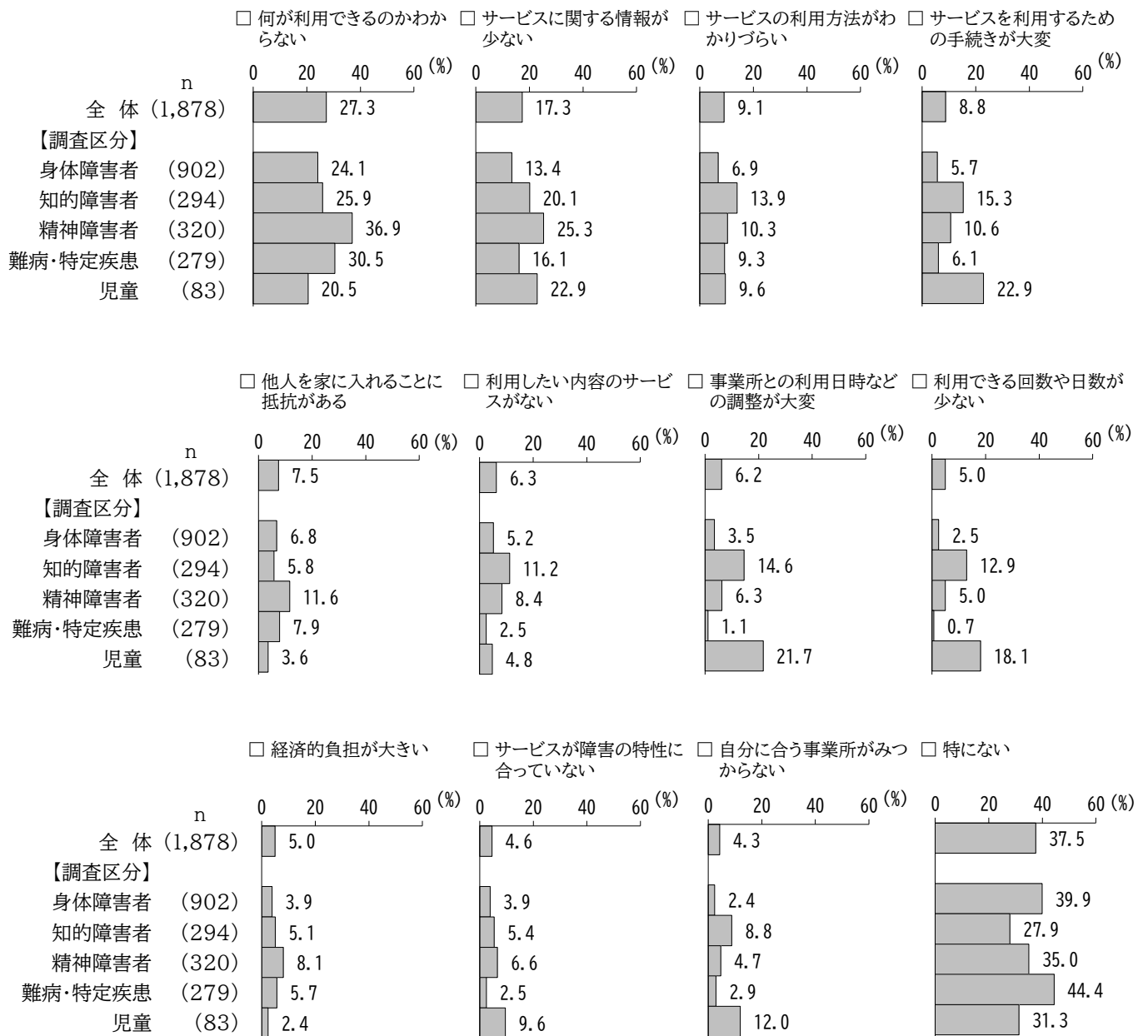


障害福祉サービスを利用する際、または利用しようとした際に、困ったり、不便だと思うことは、「何が利用できるのかわからない」が27.3%で最も多く、これに「サービスに関する情報が少ない」が17.3%が続いている。また、「特にない」が37.5%となっている。



調査区分別にみると、いずれの調査区分でも「何が利用できるのかわからない」と「サービスに関する情報が少ない」が多い。特に精神障害者では「何が利用できるのかわからない」が36.9%、児童では「サービスを利用するための手続きが大変」が22.9%と比較的多くなっている。また、知的障害者と児童では「事業所との利用日時などの調整が大変」、「利用できる回数や日数が少ない」も他の調査区分より多くなっている。

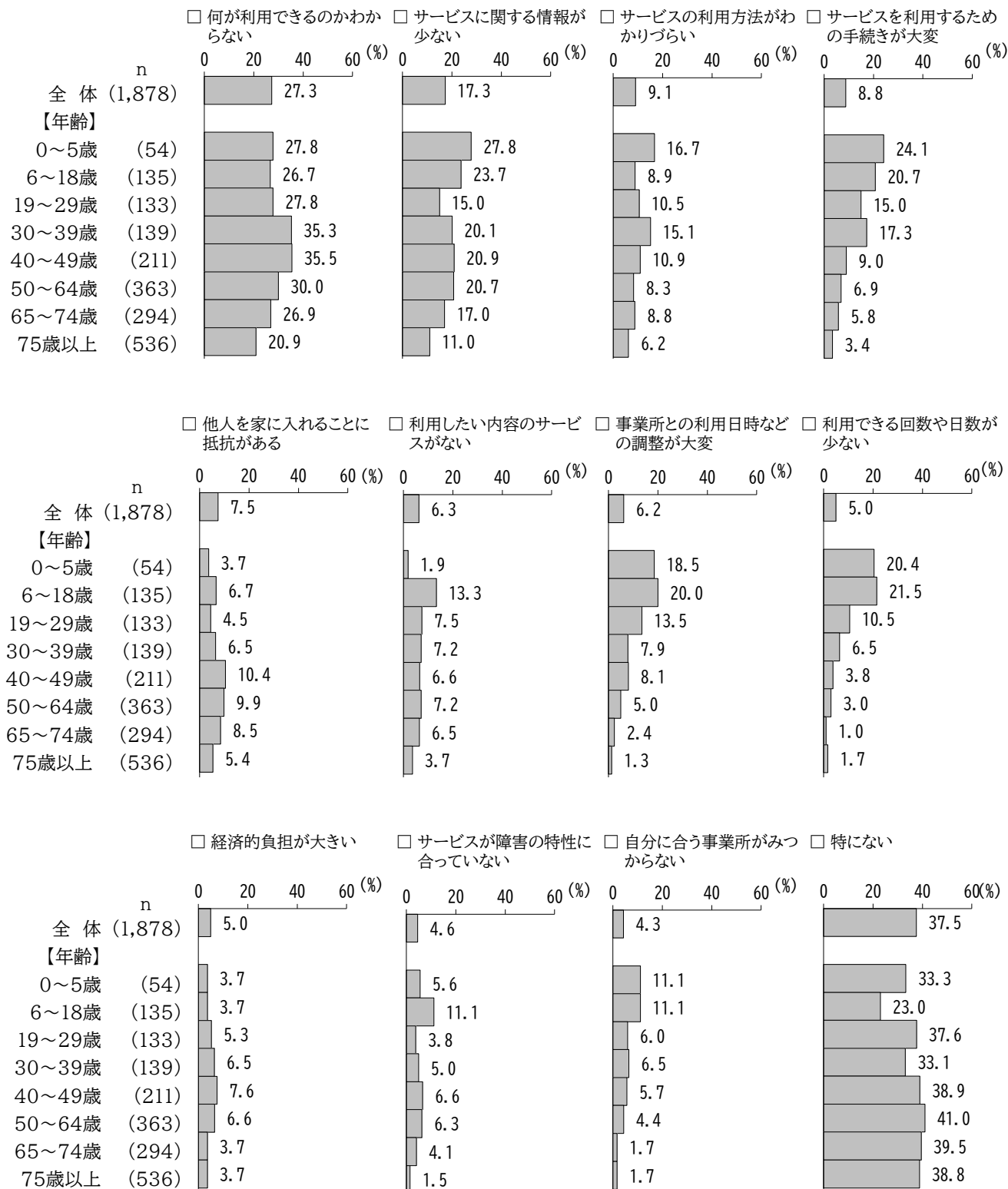
調査区分別（上位11項目+「特にない」）



### 第3章 調査結果の詳細

年齢別にみると、ほとんどの年齢で「何が利用できるのかわからない」、「サービスに関する情報が少ない」が多くなっている。「サービスを利用するための手続きが大変」、「事業所との利用日時などの調整が大変」、「利用できる回数や日数が少ない」は0～29歳の年齢で多くなっている。

年齢別（上位11項目＋「特にない」）

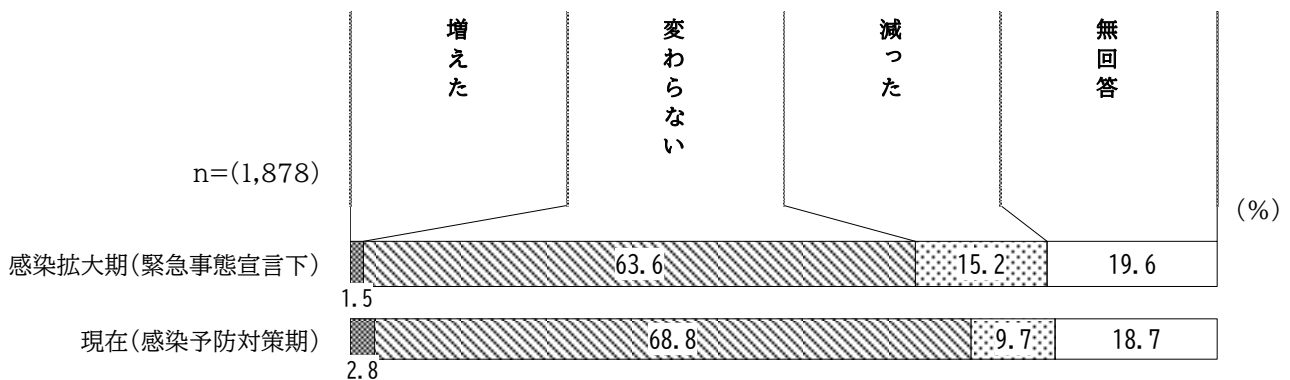


## 12. 感染症拡大における影響について

### (1) 感染症拡大による生活や行動の変化

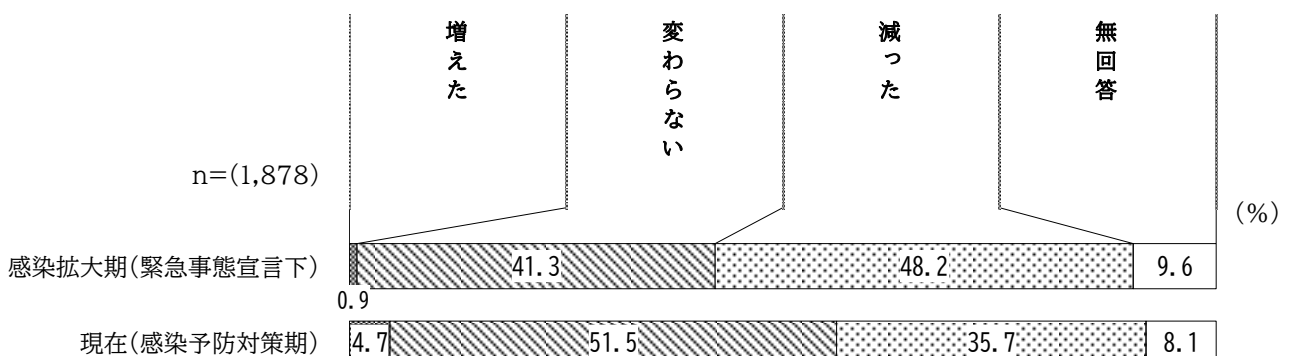
問29 あなたは、新型コロナウイルス感染症拡大により、感染症拡大前（2020年2月以前）と比べ、以下の時期に生活や行動に次のような変化がありましたか。（それぞれ1つに○）

#### ①障害福祉サービスの利用



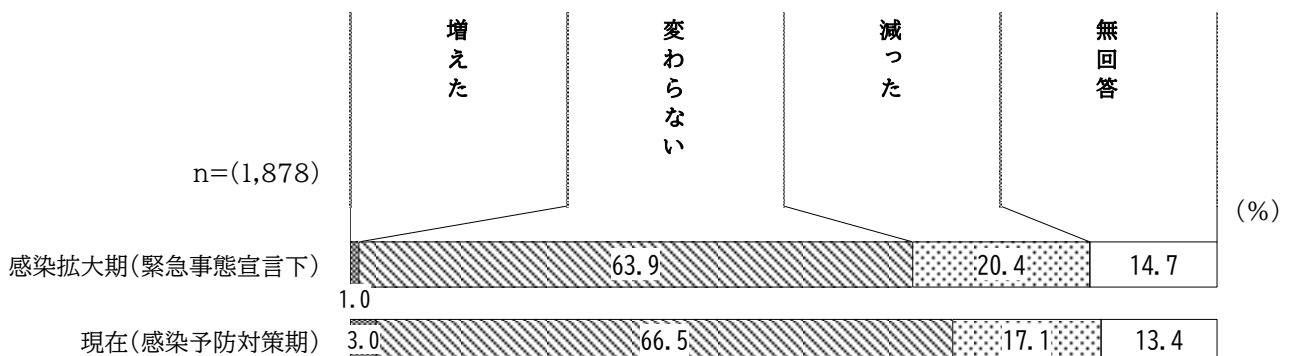
感染症拡大による生活や行動の変化を聞いた。①障害福祉サービスの利用は、どちらの時期も「変わらない」は6割台となっており、感染拡大期（緊急事態宣言下）に「減った」は15.2%、現在（感染予防対策期）「減った」は9.7%となっている。

#### ②ほかの人とのコミュニケーション



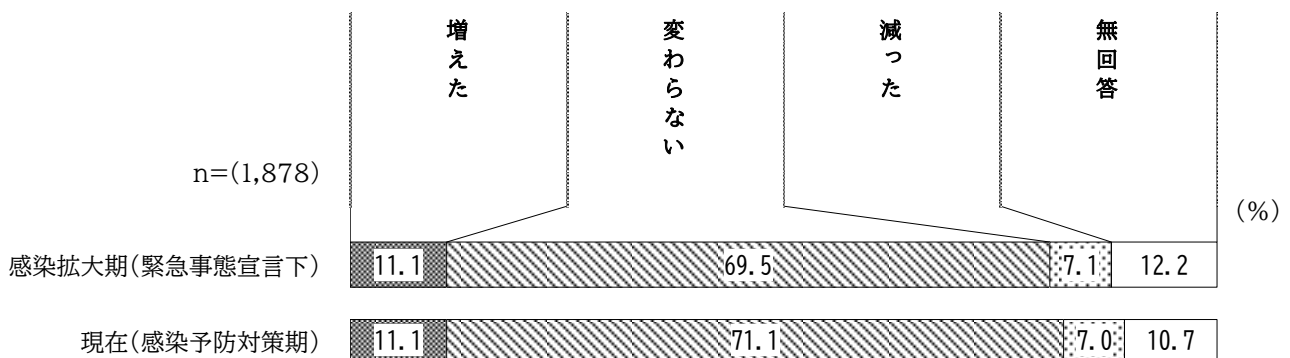
②ほかの人とのコミュニケーションは、感染拡大期（緊急事態宣言下）に「減った」は48.2%、現在（感染予防対策期）「減った」は35.7%となっている。

③仕事や収入



③仕事や収入は、どちらの時期も「変わらない」は6割台となっており、感染拡大期（緊急事態宣言下）「減った」は20.4%、現在（感染予防対策期）に「減った」は17.1%となっている。

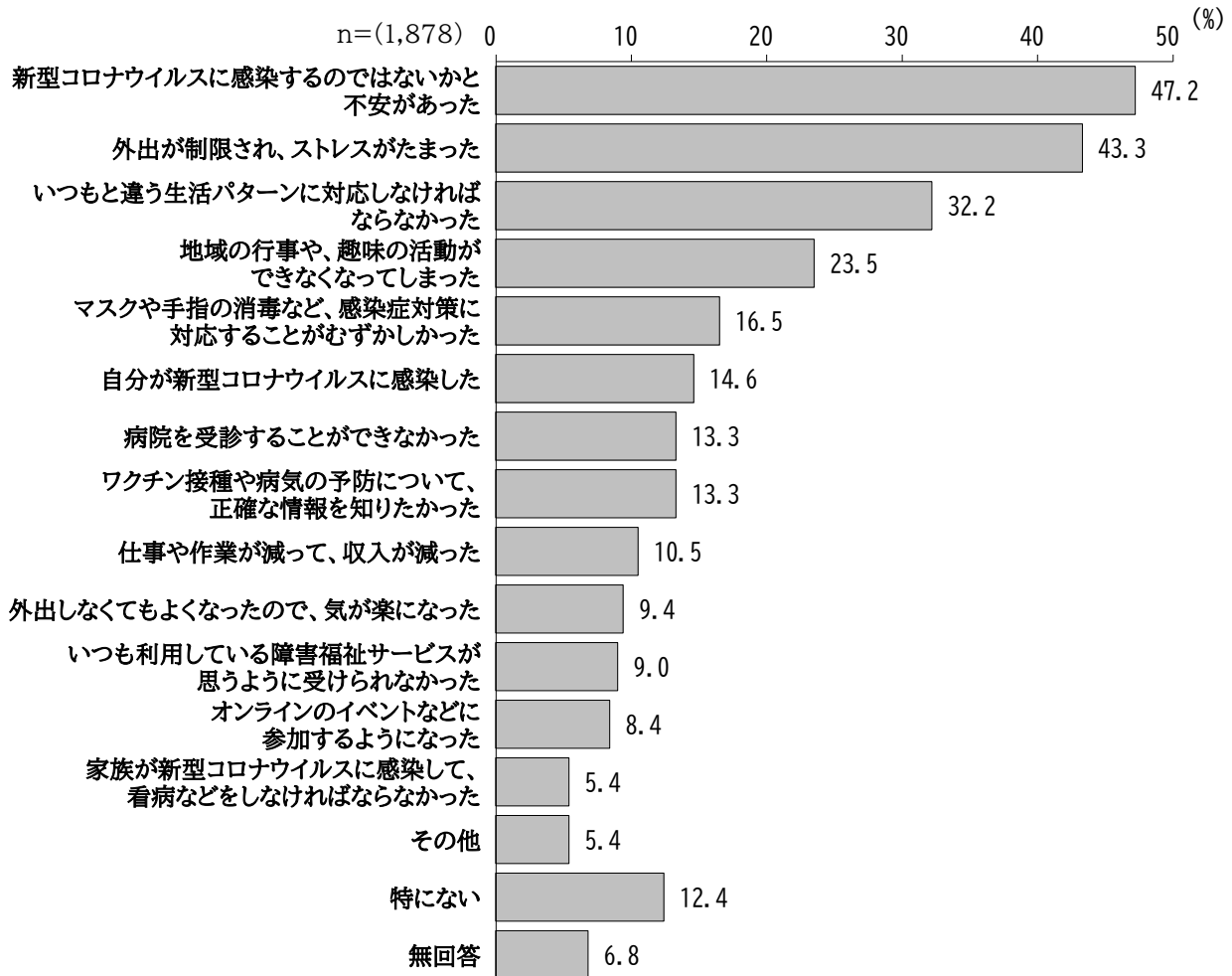
④ほかの人にしたい相談ごと・困りごと



③仕事や収入は、どちらの時期も「増えた」はともに11.1%、「変わらない」は7割前後となっており、感染拡大期（緊急事態宣言下）「減った」は7%程度となっている。

## (2) 新型コロナウイルス感染症が流行したときに、あなたの生活で経験したこと

問30 新型コロナウイルス感染症が流行したときに、あなたの生活で経験したことを教えてください。(あてはまるものすべてに○)



新型コロナウイルス感染症拡大時の経験は、「新型コロナウイルスに感染するのではないかと不安があった」(47.2%)、「外出が制限され、ストレスがたまった」(43.3%)の2項目が4割台で最も多く、これに「いつもと違う生活パターンに対応しなければならなかった」が32.2%、「地域の行事や、趣味の活動ができなくなってしまった」が23.5%で続いている。

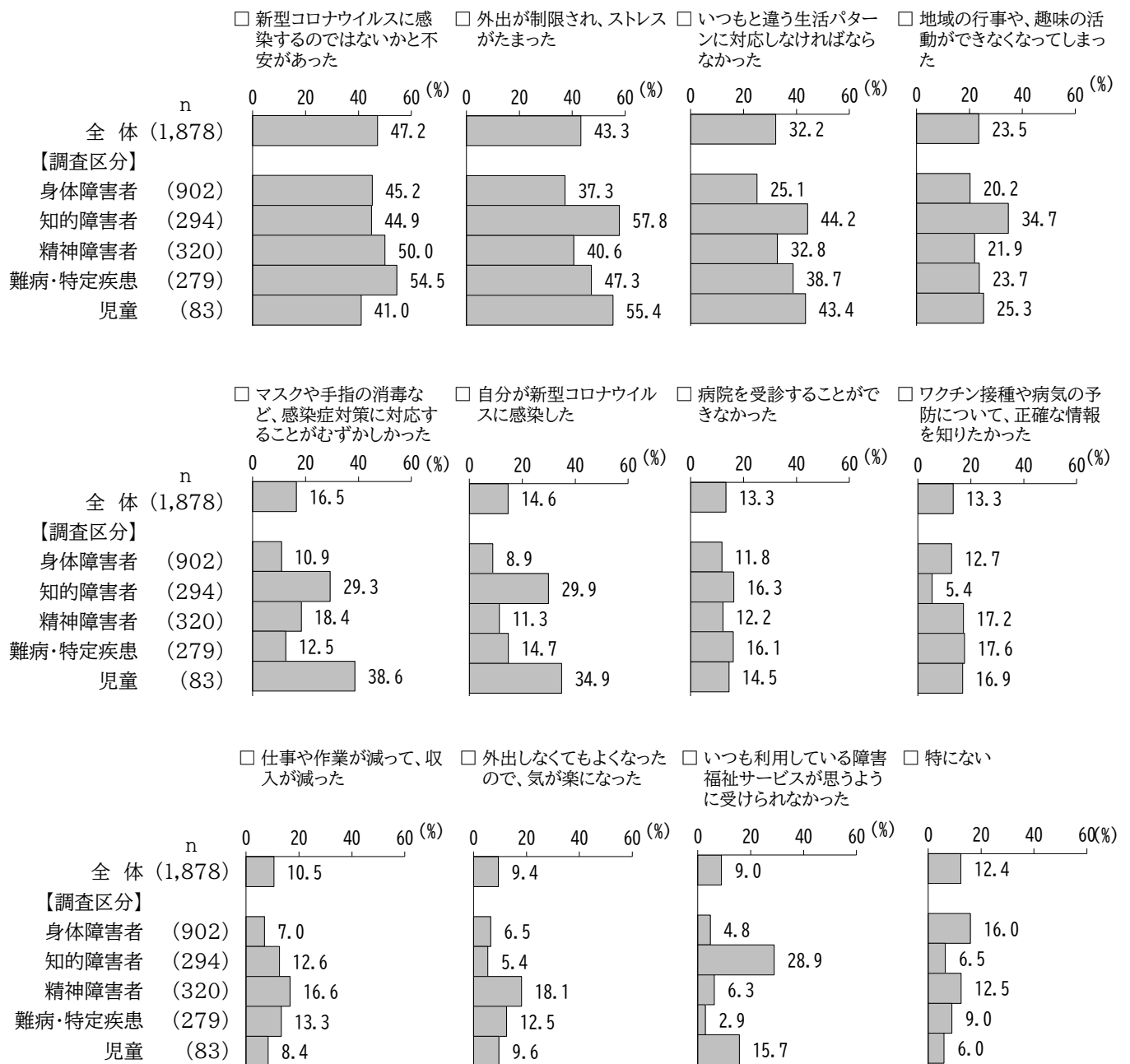
一方で、「外出しなくてもよくなったので、気が楽になった」(9.4%)「オンラインのイベントなどに参加するようになった」(8.4%)といった回答も1割程度あった。

### 第3章 調査結果の詳細

調査区分別にみると、難病・特定疾患では「新型コロナウイルスに感染するのではないかと不安があった」が54.5%、知的障害者と児童では「外出が制限され、ストレスがたまった」が5割台と多い。知的障害者では「いつも利用している障害福祉サービスが思うように受けられなかった」が28.9%と他の調査区分より多くなっている。

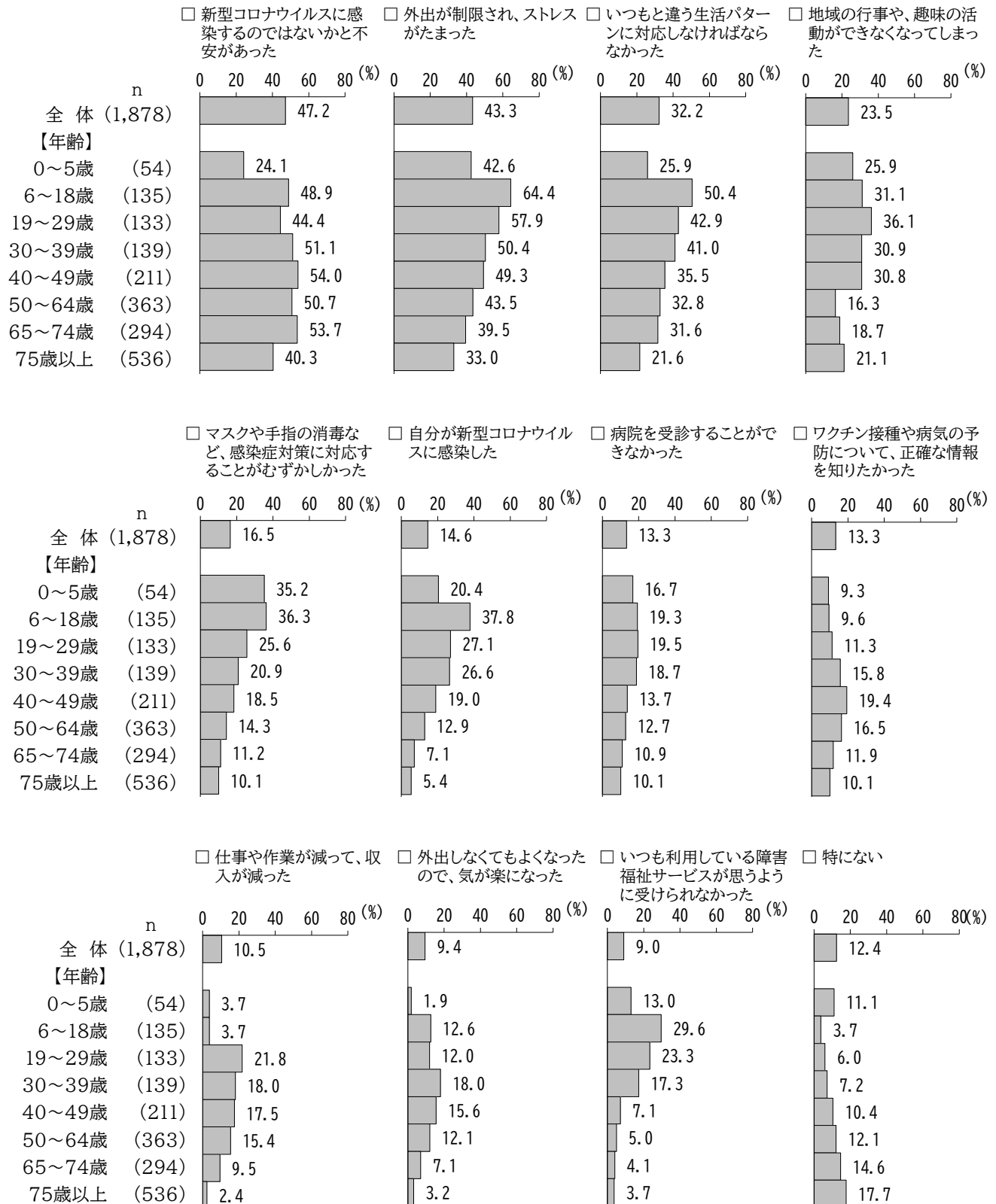
精神障害者では、「外出しなくてもよくなったので、気が楽になった」が18.1%と他の調査区分と比較して多くなっている。

調査区分別（上位11項目+「特にない」）



年齢別にみると、「新型コロナウイルスに感染するのではないかと不安があった」は6歳以上の年齢で4割以上と多い。6～18歳は「外出が制限され、ストレスがたまった」が64.4%、「いつもと違う生活パターンに対応しなければならなかった」が50.4%と特に多くなっている。

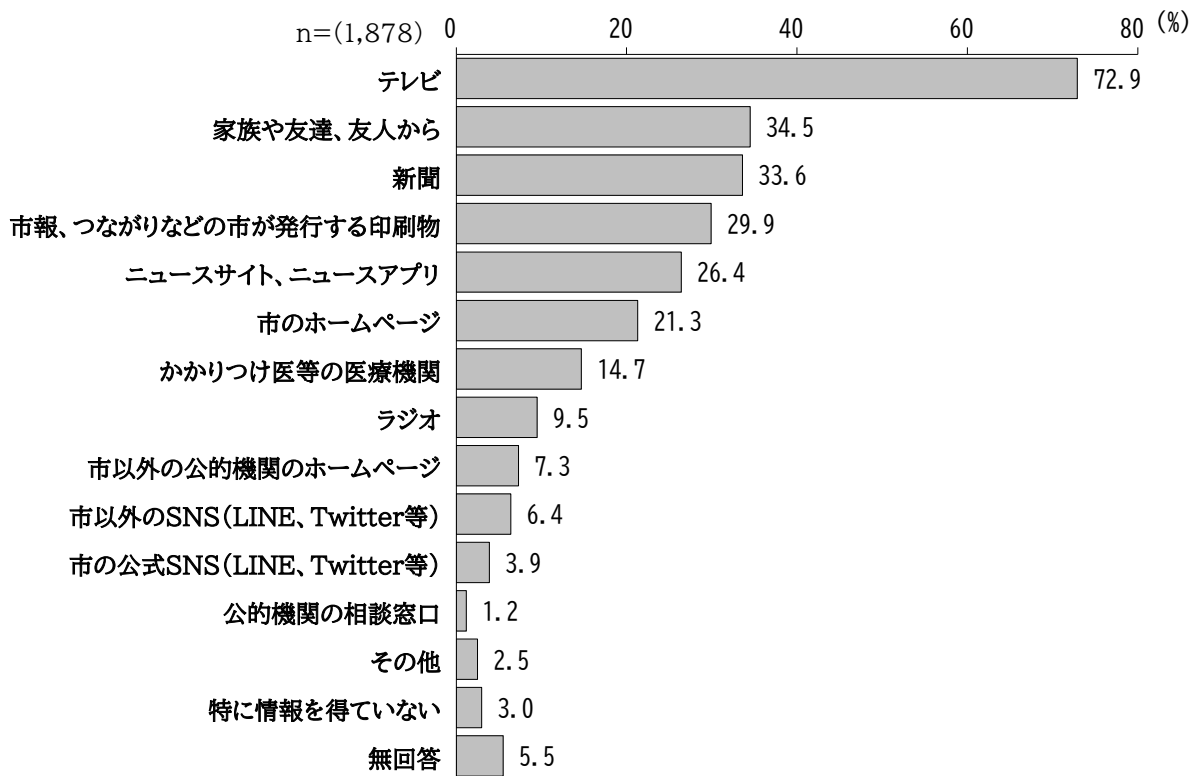
年齢別（上位11項目＋「特にない」）



(3) 新型コロナウイルス感染症に関する情報の入手先

問31 新型コロナウイルス感染症に関する情報をどこから知りましたか。

(あてはまるものすべてに○)

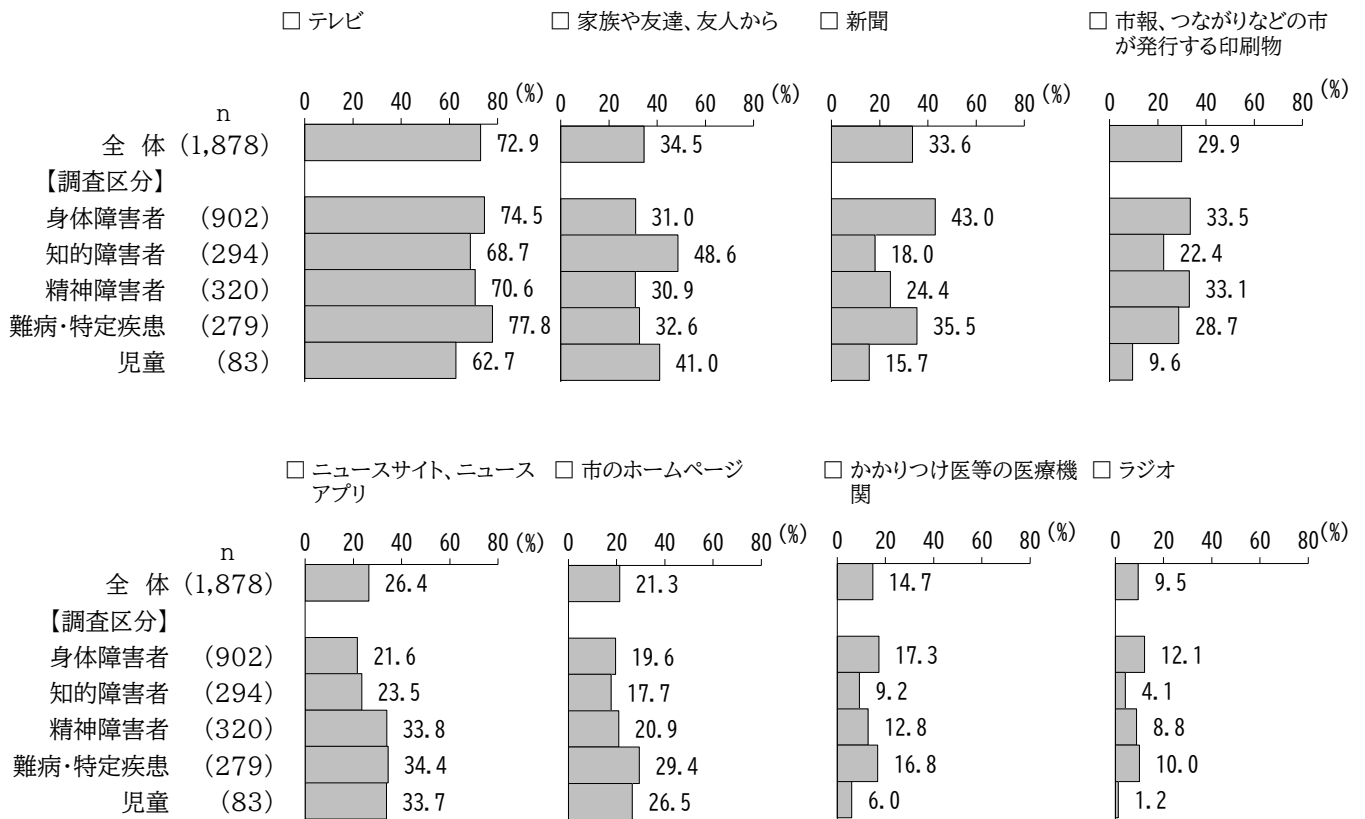


新型コロナウイルス感染症の情報入手源は、「テレビ」が72.9%で最も多く、これに「家族や友達、友人から」(34.5%)、「新聞」(33.6%)が3割台、「市報、つながりなどの市が発行する印刷物」(29.9%)、「ニュースサイト、ニュースアプリ」(26.4%)、「市のホームページ」(21.3%)が2割台で続いている。



調査区分別にみると、「テレビ」はすべての調査区分で6割から7割台と多い。知的障害者と児童では「家族や友達、友人から」が4割台、「新聞」は身体障害者で43.0%、難病・特定疾患で35.5%と比較的多い。

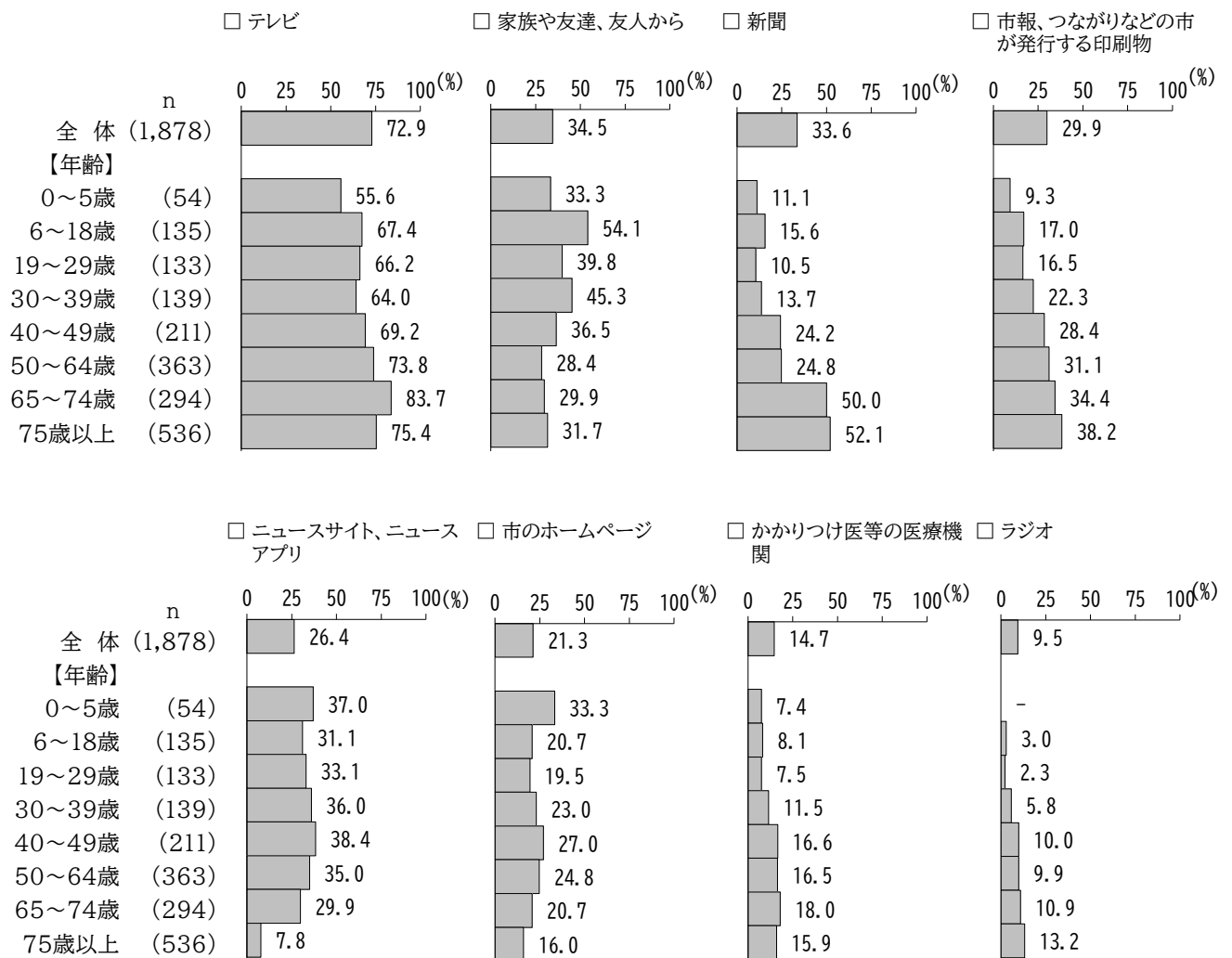
調査区分別（上位8項目）



### 第3章 調査結果の詳細

年齢別にみると、6～39歳の年齢では「家族や友達、友人から」が約4割から5割台、50歳以上では「テレビ」が7割以上と多くなっている。65歳以上では「新聞」も5割以上と多い。

#### 年齢別（上位8項目）



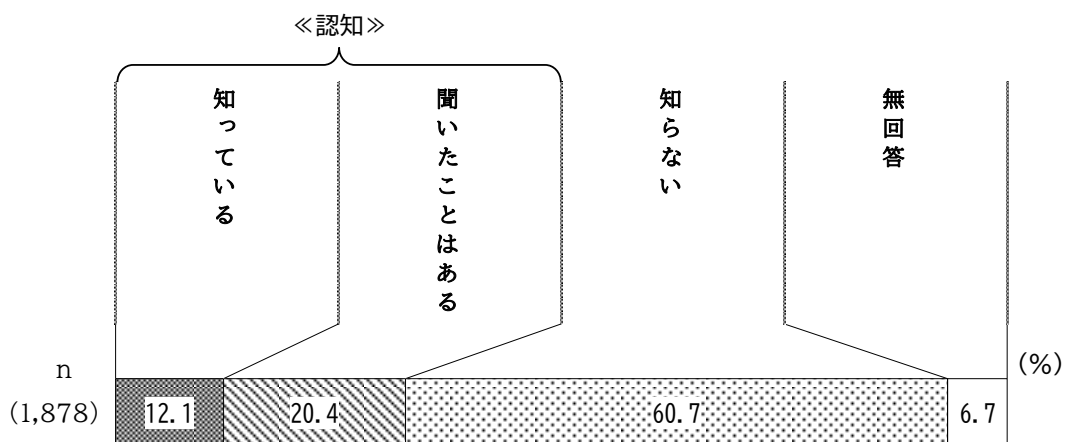
### 13. 障害者差別について

#### (1) 障害者差別解消法の認知状況

問32 あなたは、障害者差別解消法を知っていますか。(1つに○)

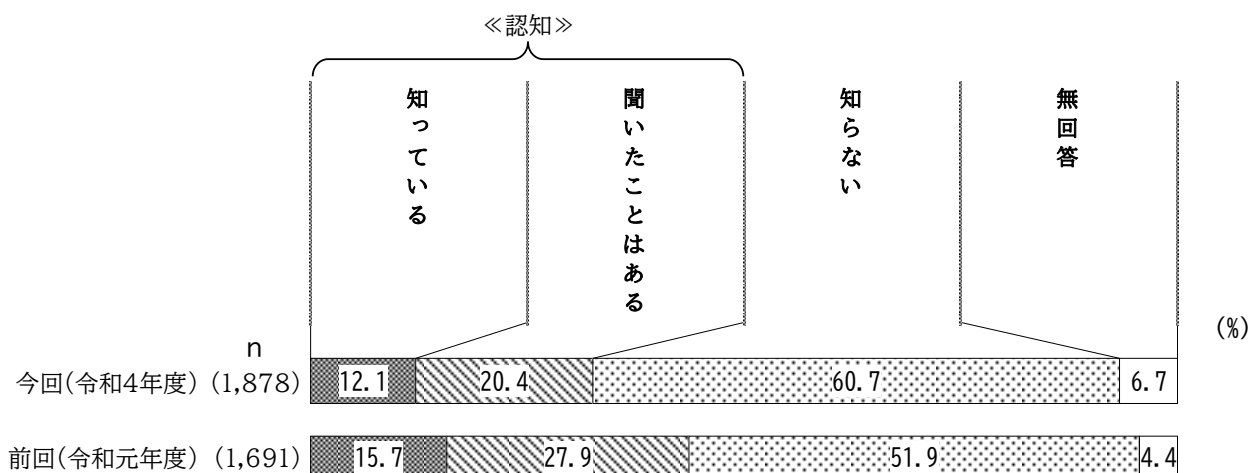
##### 障害者差別解消法とは？

- ・ 障害を理由とする差別の解消を推進するための法律です。平成28年4月1日から施行されました。
- ・ この法律は、国や市町村、会社やお店などの事業者に対して、正当な理由なく、障害を理由として差別することを禁止しています。
- ・ また、障害のある人が何らかの対応を求めているときに、負担が重すぎない範囲で対応することを求めています。(このような対応を「合理的配慮」と言います)



障害者差別解消法を「知っている」は12.1%、「聞いたことはある」は20.4%となり、両者をあわせた《認知》は32.5%となっている。

#### 令和元年度調査との比較

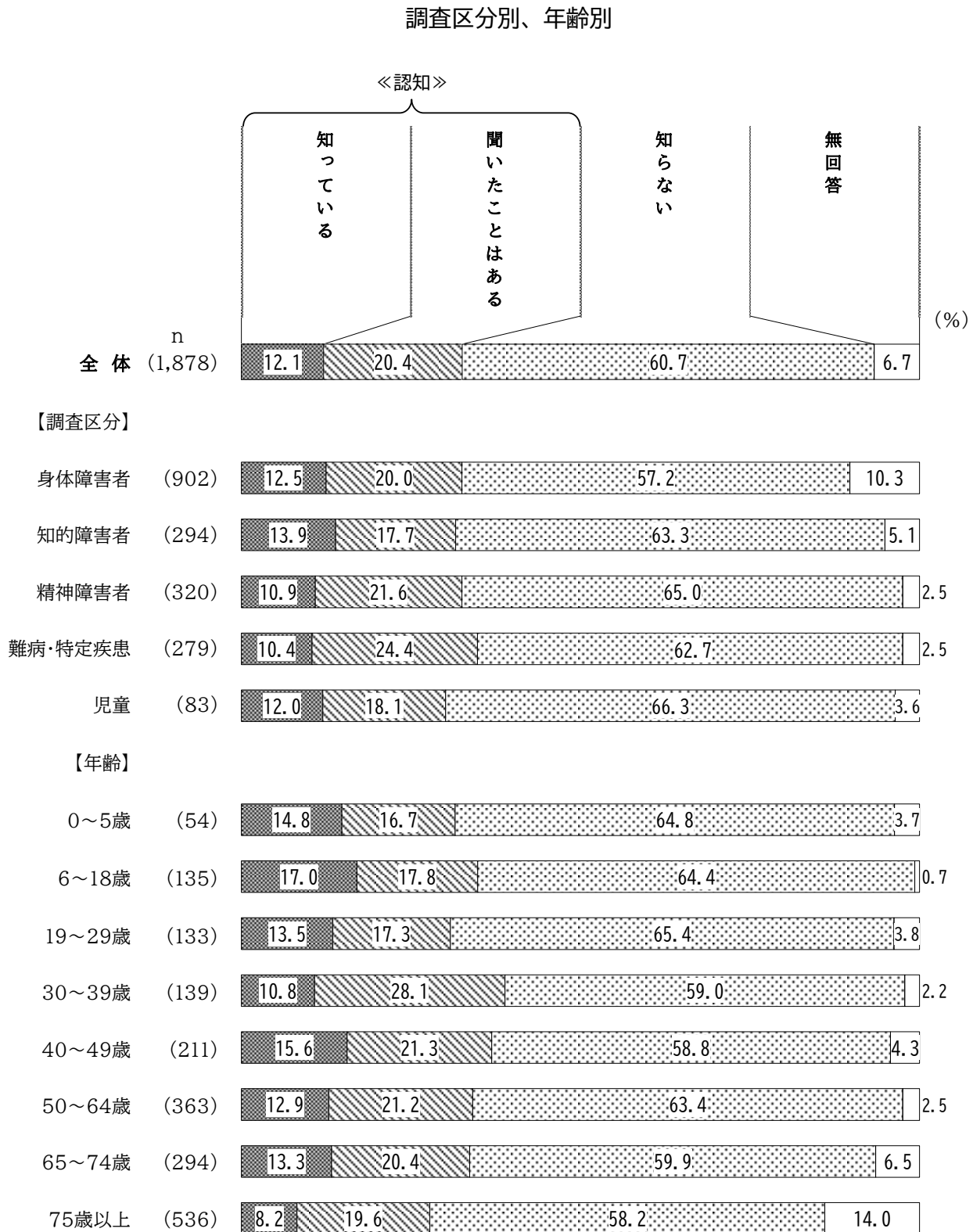


令和元年度調査と比較すると、「知らない」は8.8ポイント増加している。

### 第3章 調査結果の詳細

調査区分別にみると、いずれの調査区分でも「知っている」は1割台となっており、《認知》も3割台となっている。

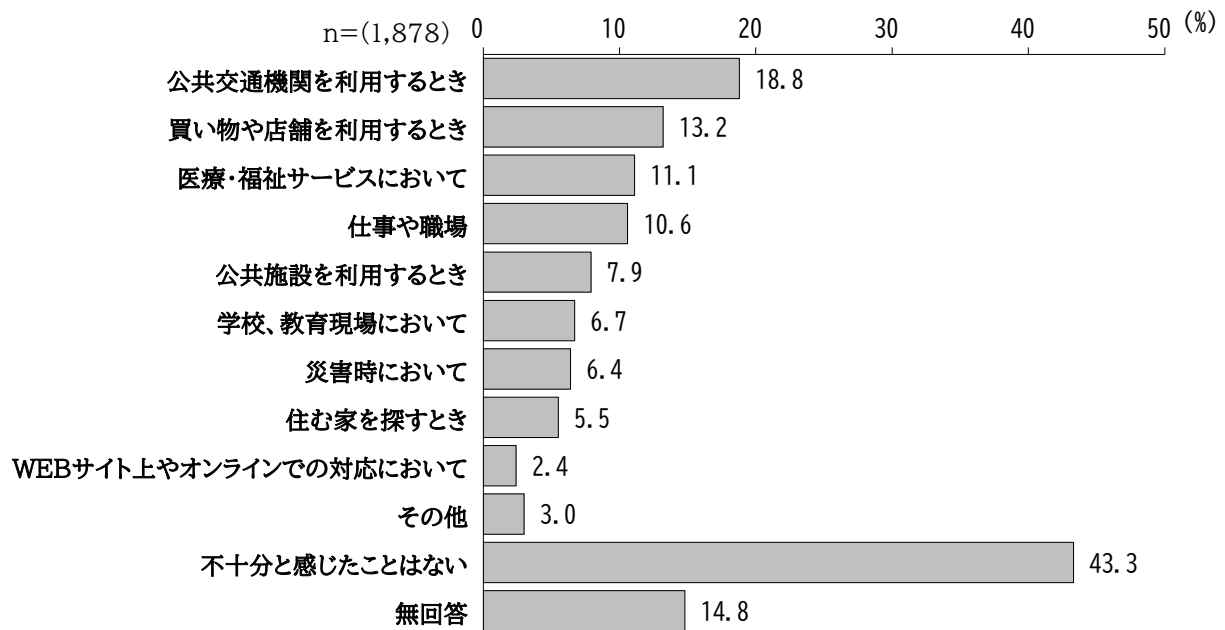
年齢別にみると、《認知》は74歳以下ではいずれの年齢も3割以上となっている。



## (2) 合理的配慮が不十分だと感じる場面

問33 日常生活で合理的配慮が不十分だと感じた場面はありますか。

(あてはまるものすべてに○)

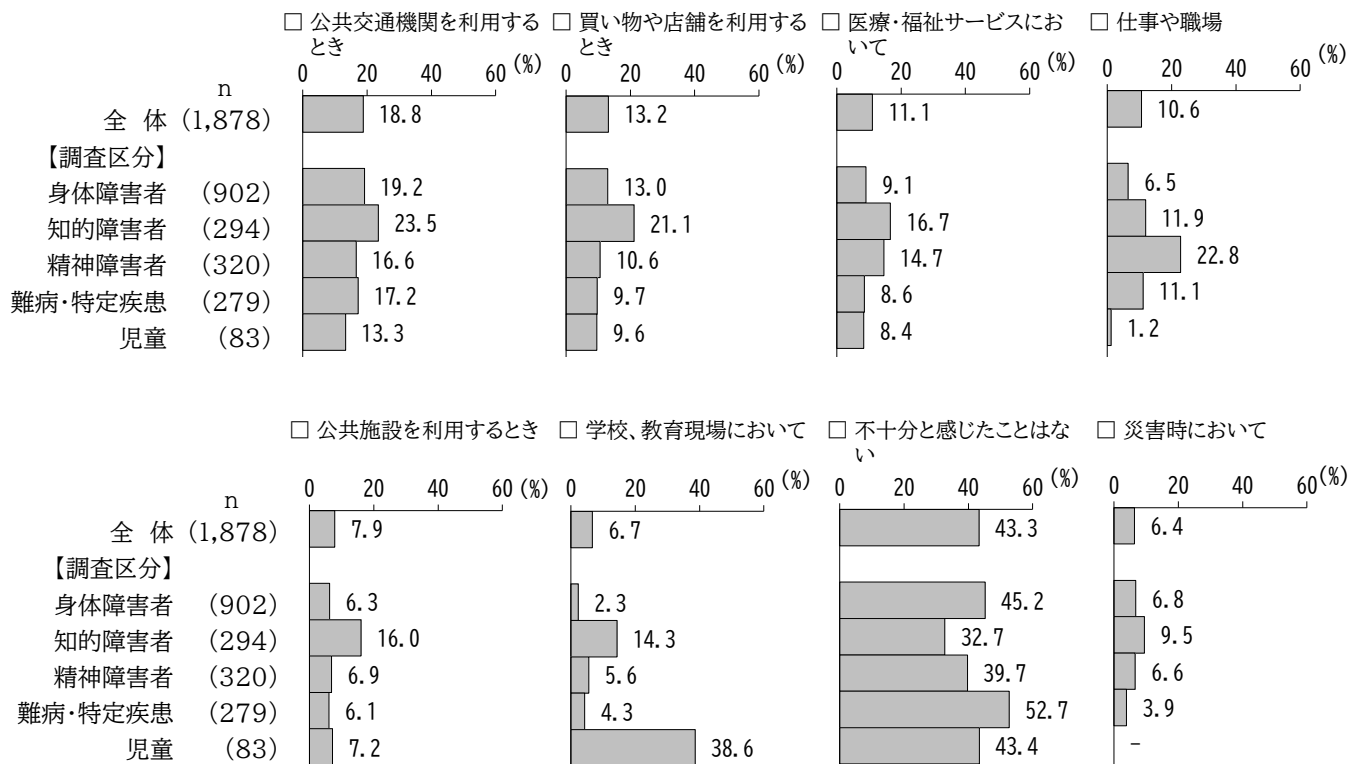


合理的配慮が不十分だと感じる場面があるかを聞いたところ、「不十分と感じたことはない」が43.3%と多くなっている。感じたことがある場面では、「公共交通機関を利用するとき」(18.8%)、「買い物や店舗を利用するとき」(13.2%)、「医療・福祉サービスにおいて」(11.1%)、「仕事や職場」(10.6%)が1割台となっている。

### 第3章 調査結果の詳細

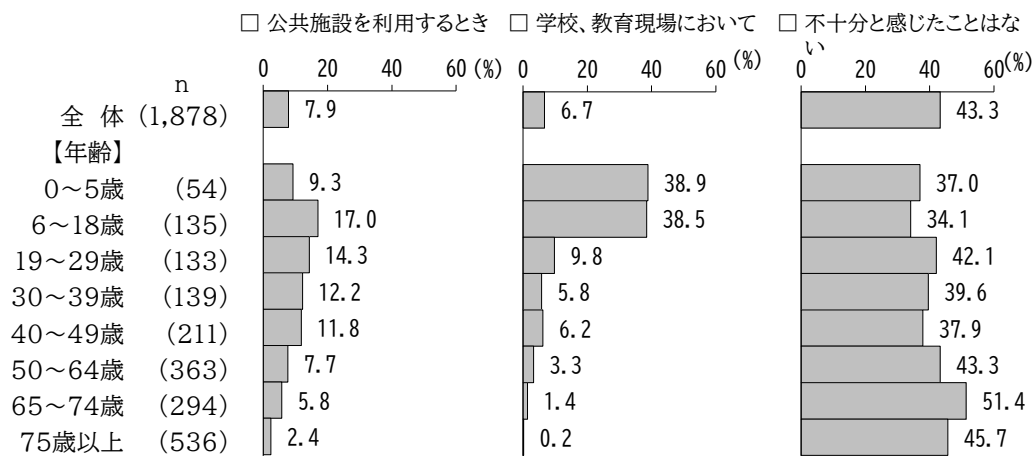
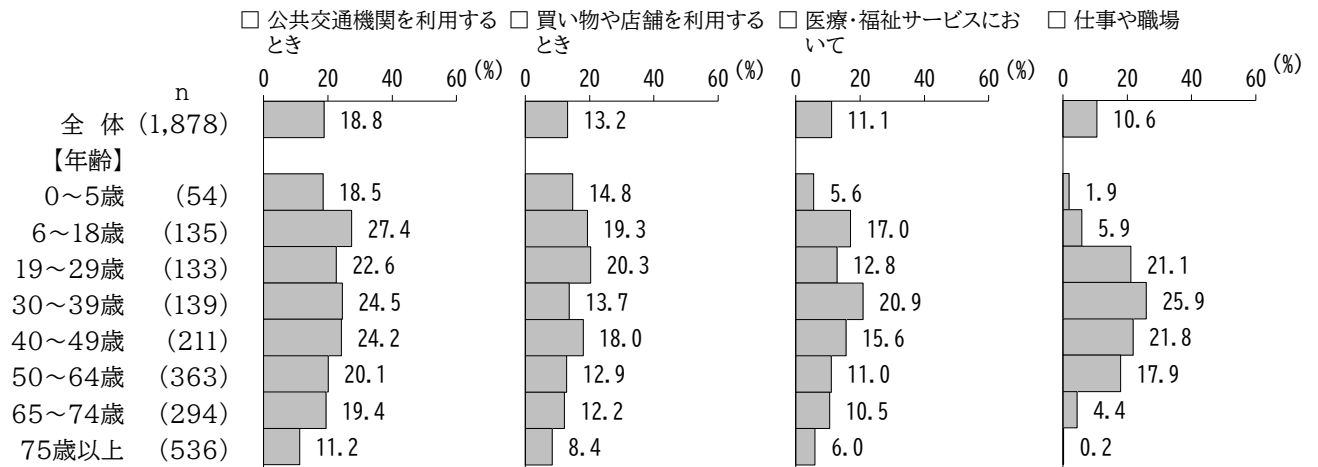
調査区分別にみると、知的障害者では「公共交通機関を利用するとき」が23.5%、「買い物や店舗を利用するとき」が21.1%、「公共施設を利用するとき」が16.0%、精神障害者では「仕事や職場」が22.8%、児童では「学校、教育現場において」が38.6%と他の調査区分より多くなっている。

調査区分別（上位6項目+「不十分と感じたことはない」）



年齢別にみると、0～18歳では「学校、教育現場において」が3割台、19歳から49歳では「仕事や職場」が比較的多くなっている。

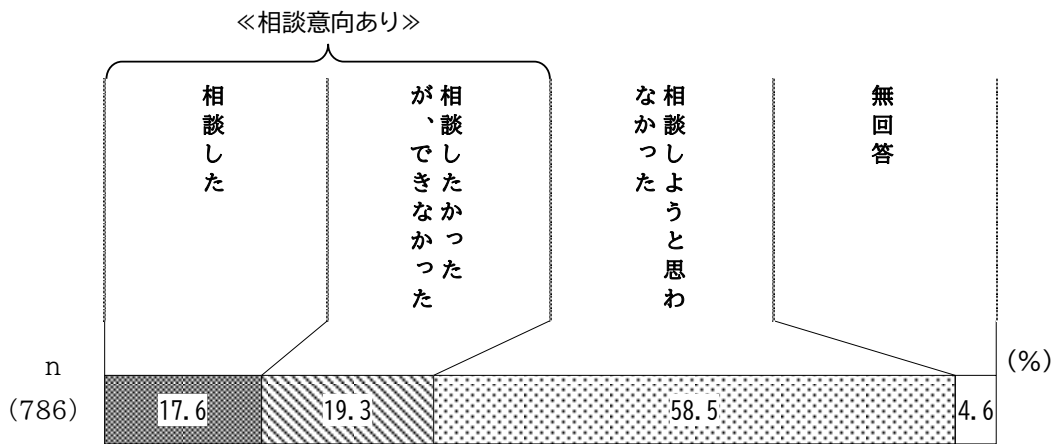
年齢別（上位6項目＋「不十分と感じたことはない」）



(3) 差別を受けたと感じたときの相談経験

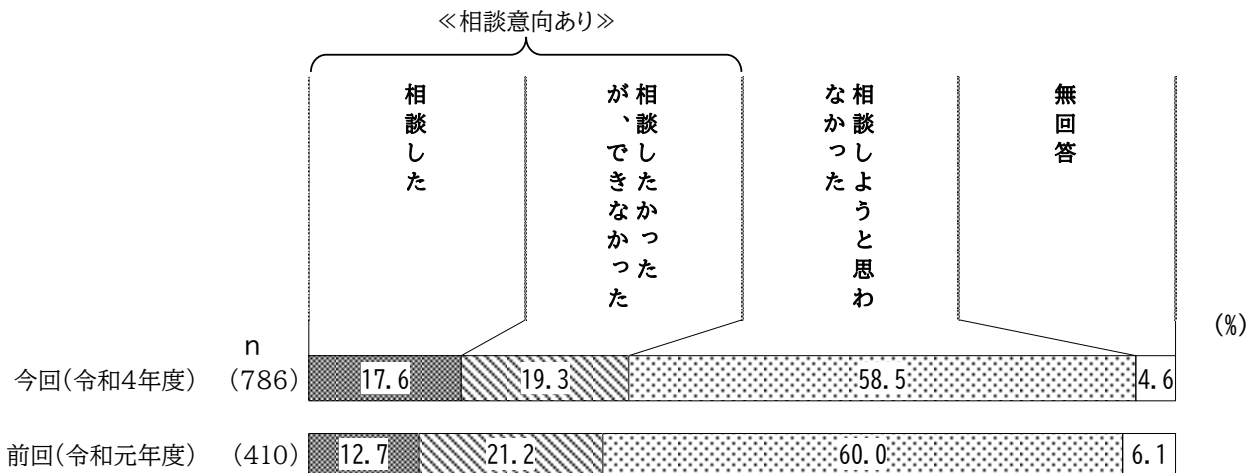
【問33で「仕事や職場」、「公共交通機関を利用するとき」、「買い物や店舗を利用するとき」、「公共施設を利用するとき」、「住む家を探すとき」、「災害時において」、「医療・福祉サービスにおいて」、「学校、教育現場において」、「Webサイト上やオンラインでの対応において」、「その他」と回答した方にお聞きします。】

問33-1 合理的配慮が不十分だと感じたとき、どこかに相談をしましたか。(家族や友人を除く)(1つに○)



差別を受けたと感じたときに、「相談した」は17.6%にとどまっている。「相談したかったが、できなかった」は19.3%、「相談しようと思わなかった」は58.5%となっている。「相談した」と「相談したかったが、できなかった」の両者をあわせたものを《相談意向あり》として捉えると、36.9%となっている。

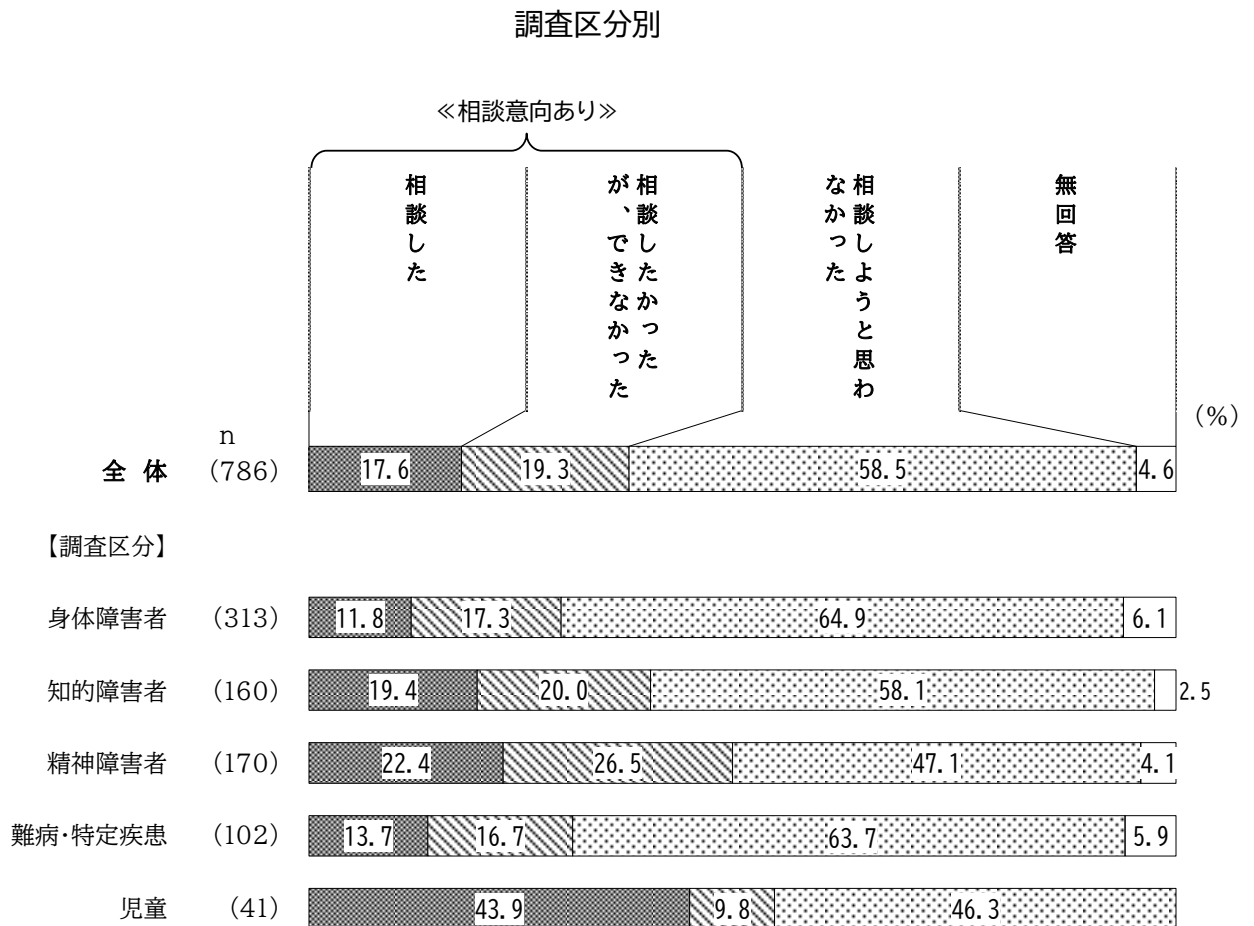
令和元年度調査との比較



令和元年度調査と比較すると、《相談意向あり》は3.0ポイント増加している。



調査区分別にみると、「相談した」は児童で43.9%と特に多く、それ以外の区分では1割から2割台となっている。《相談意向あり》としてみると、児童で5割台、精神障害者で4割台となっている。一方、身体障害者（64.9%）、難病・特定疾患（63.7%）は「相談しようと思わなかった」が6割台と多くなっている。

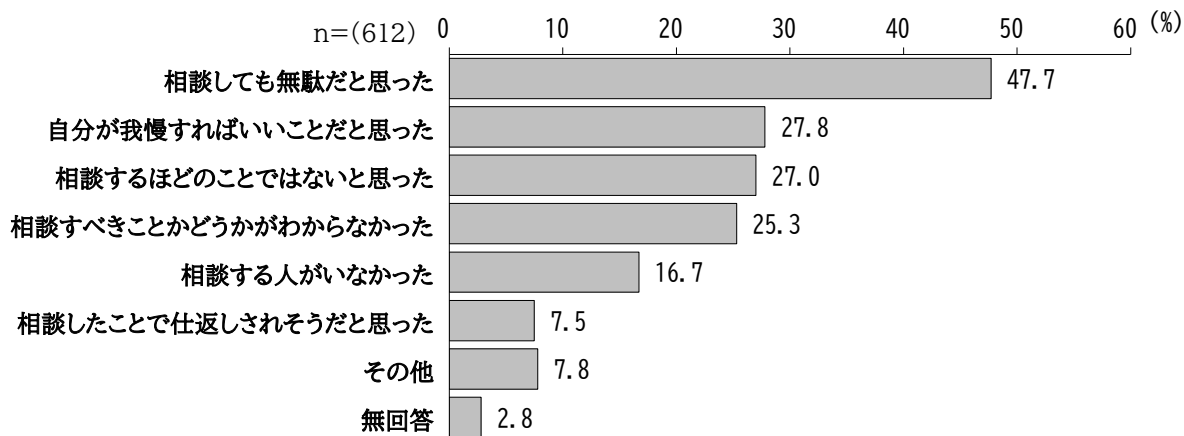


(4) 相談しなかった（できなかった）理由

【問33-1で「相談したかったが、できなかった」または「相談しようと思わなかった」と回答した方にお聞きします。】

問33-2 どこにも相談しなかった（できなかった）のは、なぜですか。

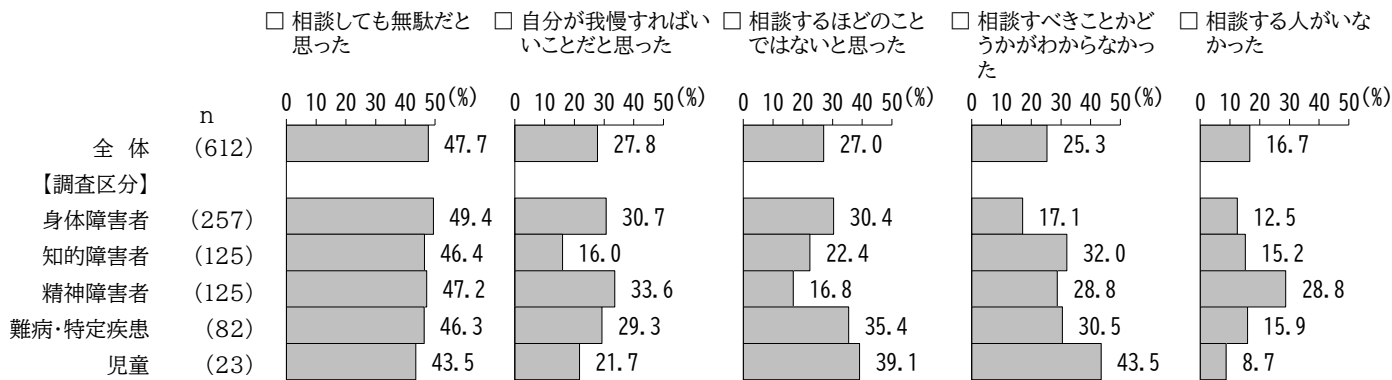
（あてはまるものすべてに○）



どこにも相談しなかった（できなかった）理由は、「相談しても無駄だと思った」が47.7%で最も多く、以下、「自分が我慢すればいいことだと思った」（27.8%）、「相談するほどのことではないと思った」（27.0%）、「相談すべきことかどうかがわからなかった」（25.3%）が2割台で続いている。

調査区分別にみると、「相談しても無駄だと思った」はいずれの調査区分も4割台で最も多い。身体障害者、精神障害者では「自分が我慢すればいいことだと思った」が3割台、身体障害者、難病・特定疾患「相談すべきことかどうかがわからなかった」が3割台、児童では「相談すべきことかどうかがわからなかった」が43.5%、精神障害者では「相談する人がいなかった」が28.8%で他の調査区分より多くなっている。

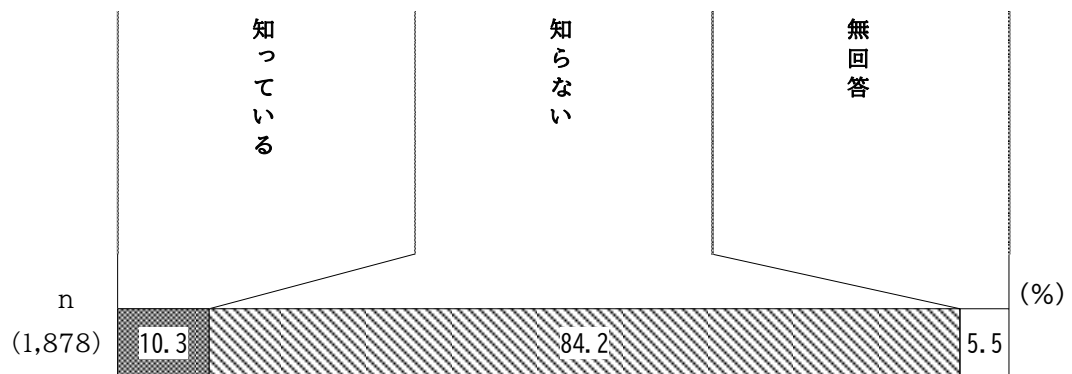
調査区分別（上位5項目）



## 14. 武蔵野市地域自立支援協議会の活動について

## (1) 武蔵野市地域自立支援協議会の認知

問34 武蔵野市地域自立支援協議会について知っていますか。(1つに○)

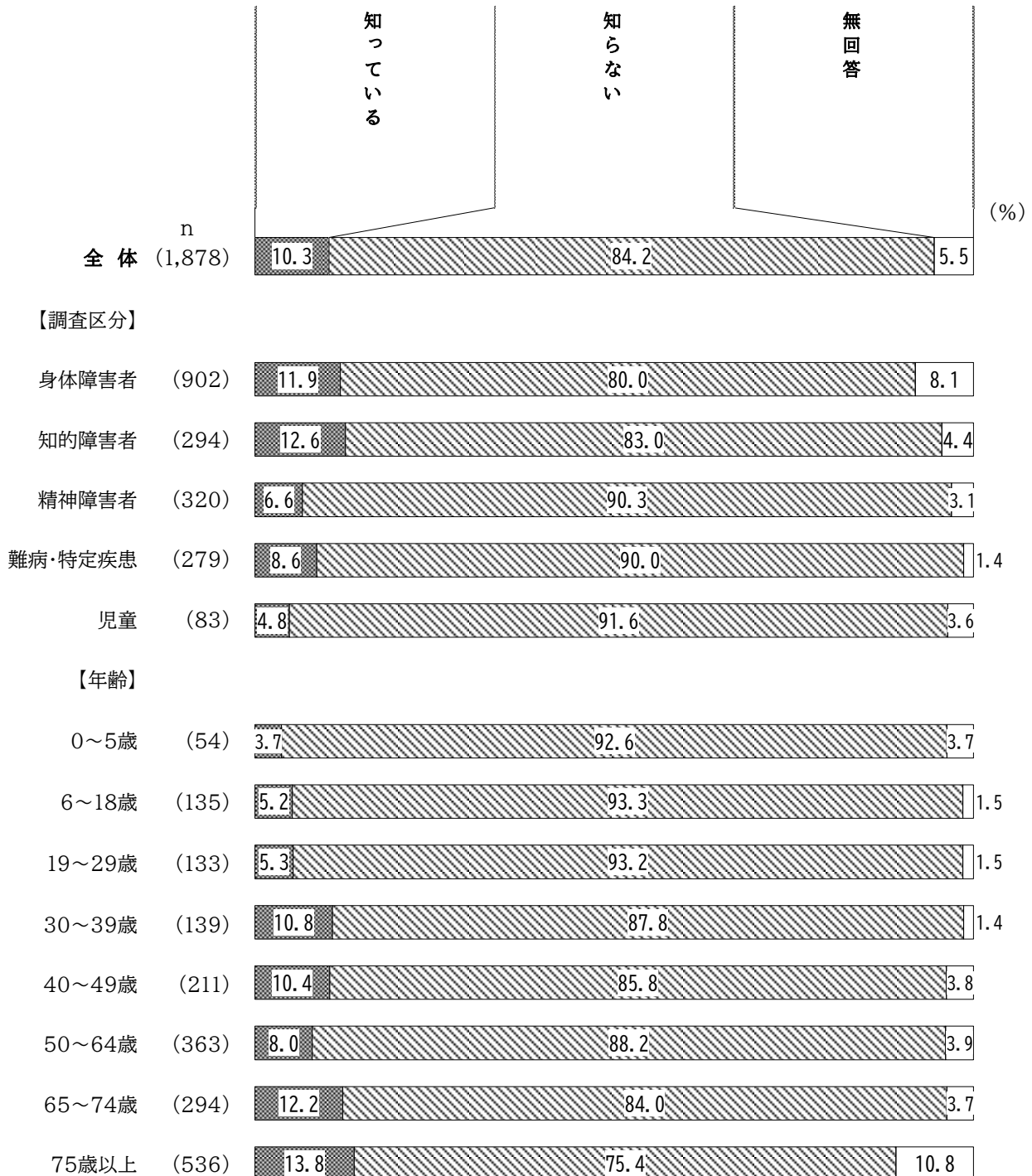


武蔵野市地域自立支援協議会の活動・成果を「知っている」は10.3%、「知らない」は84.2%を占めている。

調査区分別にみると、「知っている」は知的障害者（12.6%）、身体障害者（11.9%）で1割台となっている。

年齢別にみると、30～49歳、65歳以上では「知っている」が1割台となっている。

調査区分別、年齢別



(2) 武蔵野市地域自立支援協議会の活動への参加意向

問35 あなたは、武蔵野市地域自立支援協議会の活動に参加してみたいと思いますか。  
(1つに○)

**武蔵野市地域自立支援協議会とは？**

- ・ 障害のある方々が地域で自立した生活を送ることができるよう、相談支援事業をはじめとする地域の障害福祉に関するシステムづくりに関して中核的な役割を果たす協議の場です。
- ・ 全体を取りまとめる「親会」の下に、令和3～4年度は「地域生活支援拠点」「地域移行」「差別解消」「コロナ対応」「障害当事者」の各専門部会を設け、各部会で立てた年度計画に基づく様々な活動がなされています。

**「地域生活支援拠点部会」**

→武蔵野市で生活する障害のある方を支援するための拠点について話し合います。

**「地域移行部会」**

→長期入院されている方が武蔵野市に戻り、暮らしやすいような仕組みを考えます。

**「差別解消部会」**

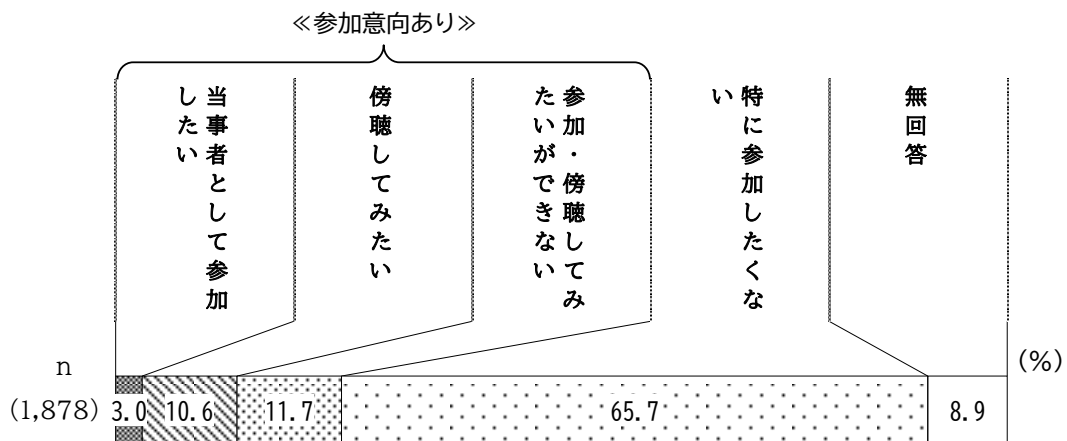
→普段利用する公共交通機関などに差別解消等の啓発を行います。

**「コロナ対応部会」**

→新型コロナウイルスの感染拡大に対して工夫して対応したことを踏まえ、今後活かしていけることを話し合います。

**「障害当事者部会」**

→障害のある方からの視点で武蔵野市の課題をみつけます。



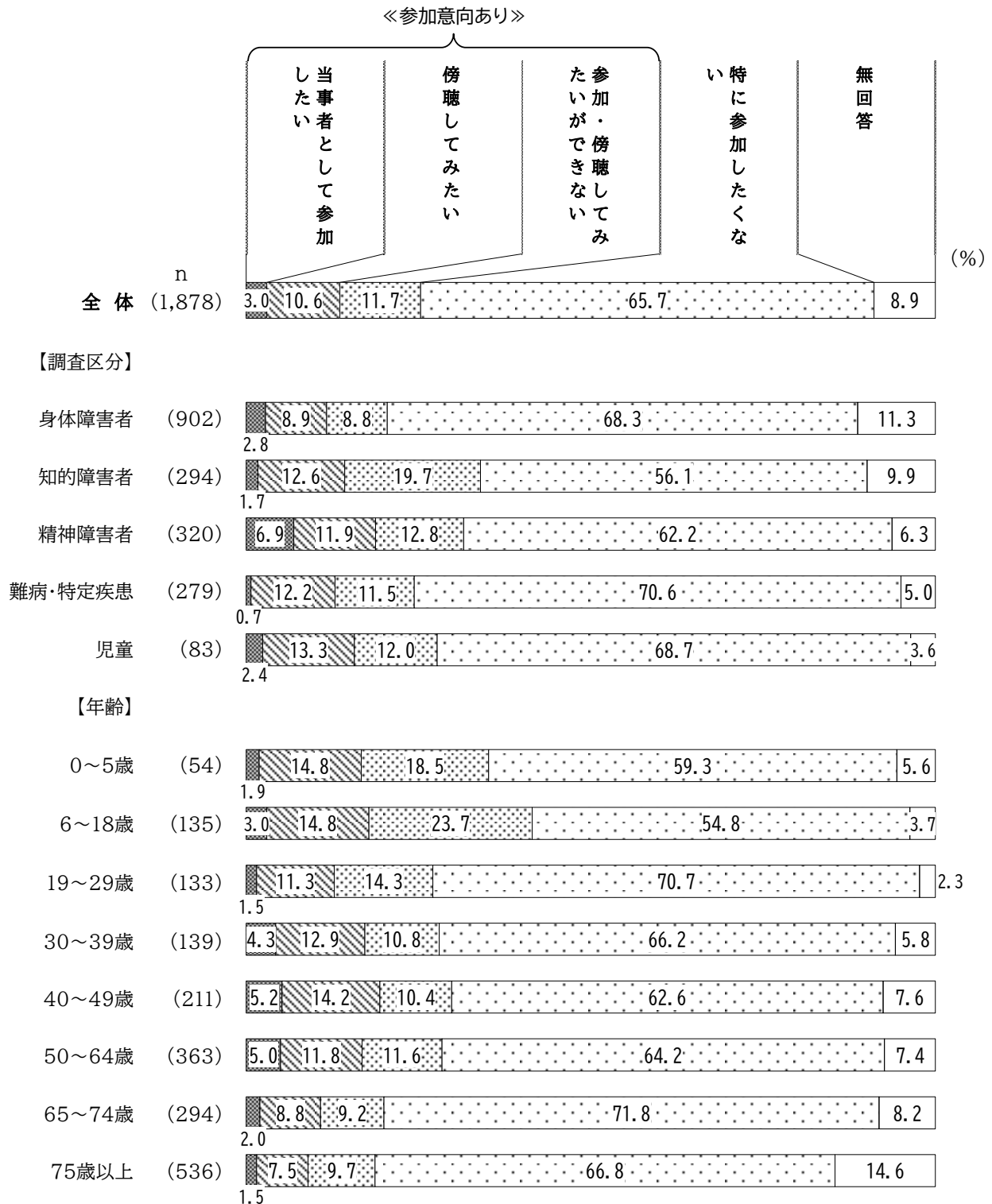
武蔵野市地域自立支援協議会の活動への参加意向は、「当事者として参加したい」は3.0%、「傍聴してみたい」は10.6%、「参加・傍聴してみたいができない」は11.7%となっている。なお、「特に参加したくない」が65.7%と多い。「当事者として参加したい」と「傍聴してみたい」、「参加・傍聴してみたいができない」をあわせたものを《参加意向あり》として捉えると、25.3%となっている。

### 第3章 調査結果の詳細

調査区分別にみると、「当事者として参加したい」は精神障害者で6.9%となっている。《参加意向あり》としてみると、知的障害者（34.0%）、精神障害者（31.6%）で3割台となっている。一方、いずれの調査区分でも「特に参加したくない」が5割以上と多くなっている。

年齢別にみると、《参加意向あり》は6～18歳で41.5%と多くなっている。一方、いずれの年齢も「特に参加したくない」が5割以上となっており、特に65～74歳（71.8%）、19～29歳（70.7%）では7割台と多い。

調査区分別、年齢別



## 15. 人々とのつながりについて

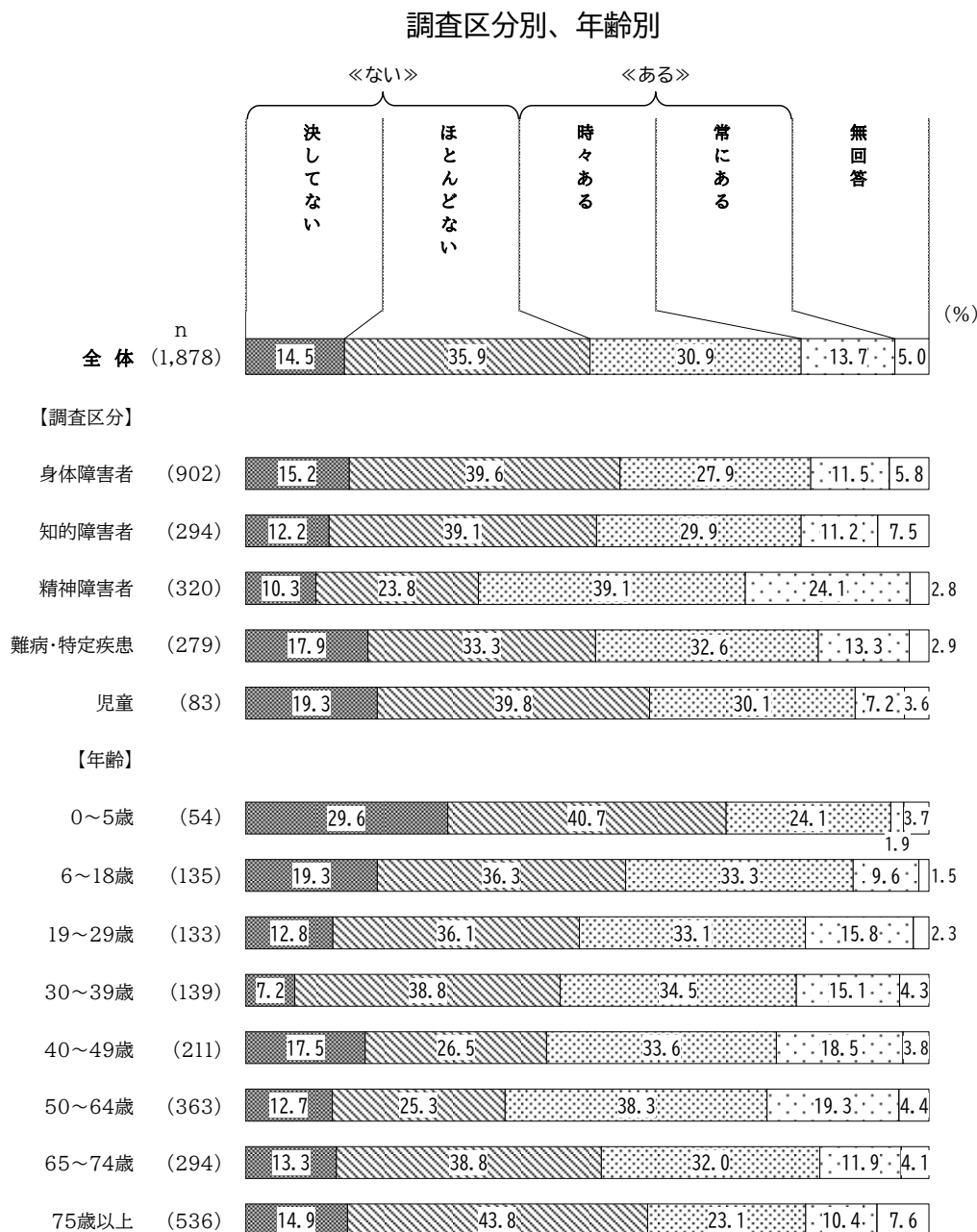
### (1) 自分には人との付き合いがないと感じることの有無

問36 自分には人との付き合いがないと感じることがありますか。(1つに○)

自分には人との付き合いがないと感じることは、「決してない」は14.5%で、「ほとんどない」(35.9%)をあわせた《ない》は50.4%となっている。《ある》(「常にある」と「時々ある」の計)は44.6%となっている。

調査区分別にみると、《ない》は精神障害者以外の区分で5割台となっている。《ある》は精神障害者で63.2%と多い。

年齢別にみると、《ない》は0～5歳が70.3%と多い。《ある》は6歳から74歳の年齢にかけて4割以上となっており、50～64歳は57.6%と多くなっている。



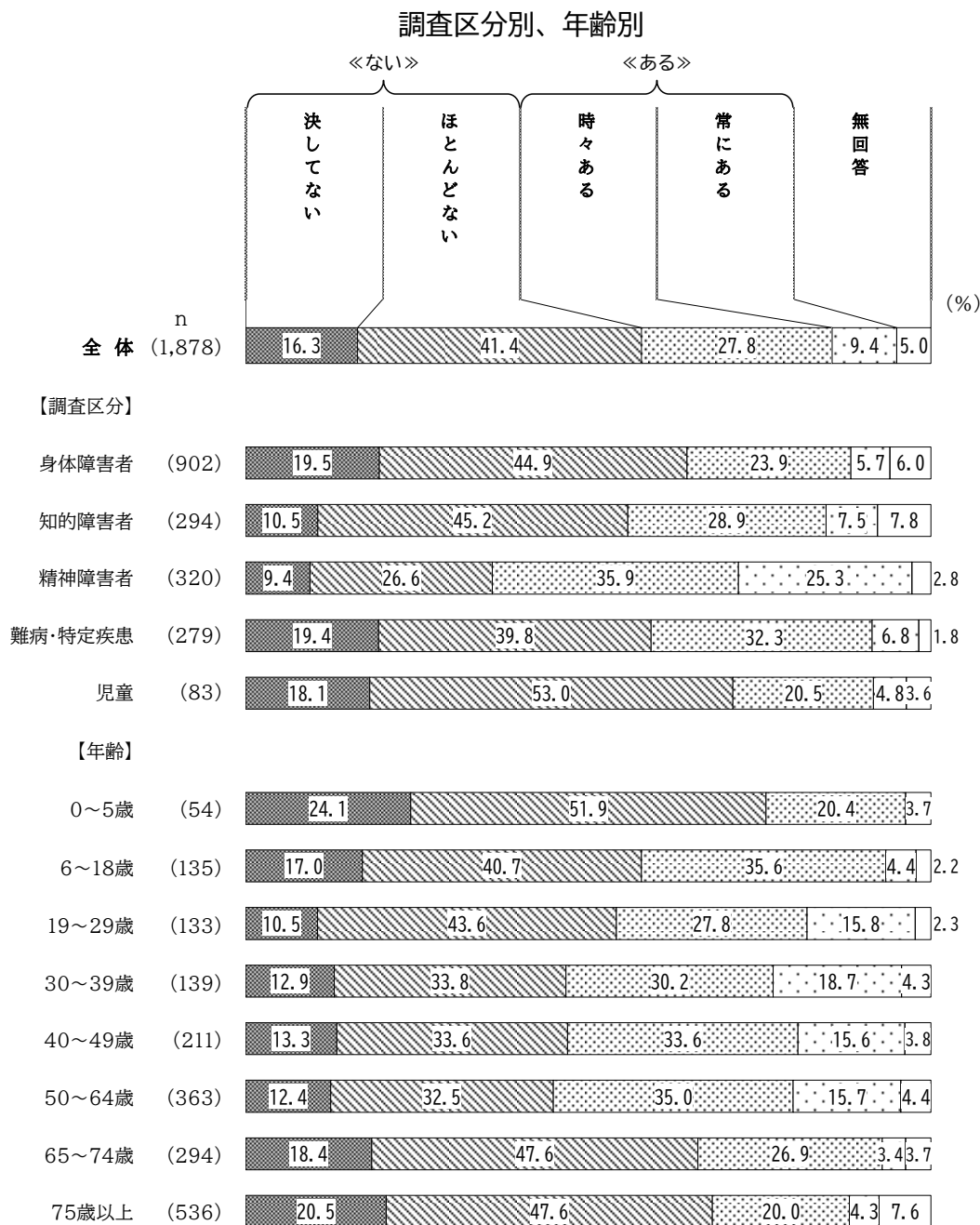
(2) 自分は取り残されていると感じることの有無

問37 自分は取り残されていると感じることがありますか。(1つに○)

自分は取り残されていると感じることは、「決してない」は16.3%で、「ほとんどない」(41.4%)をあわせた《ない》は57.7%となっている。《ある》(「常にある」と「時々ある」の計)は37.2%となっている。

調査区分別にみると、《ない》は児童で71.1%と多くなっている。《ある》は精神障害者で61.2%と多い。

年齢別にみると、《ない》は0～5歳が76.0%と多く、65歳以上でも6割台となっている。《ある》は6歳から64歳の年齢にかけて4割以上となっており、50～64歳は50.7%と多くなっている。





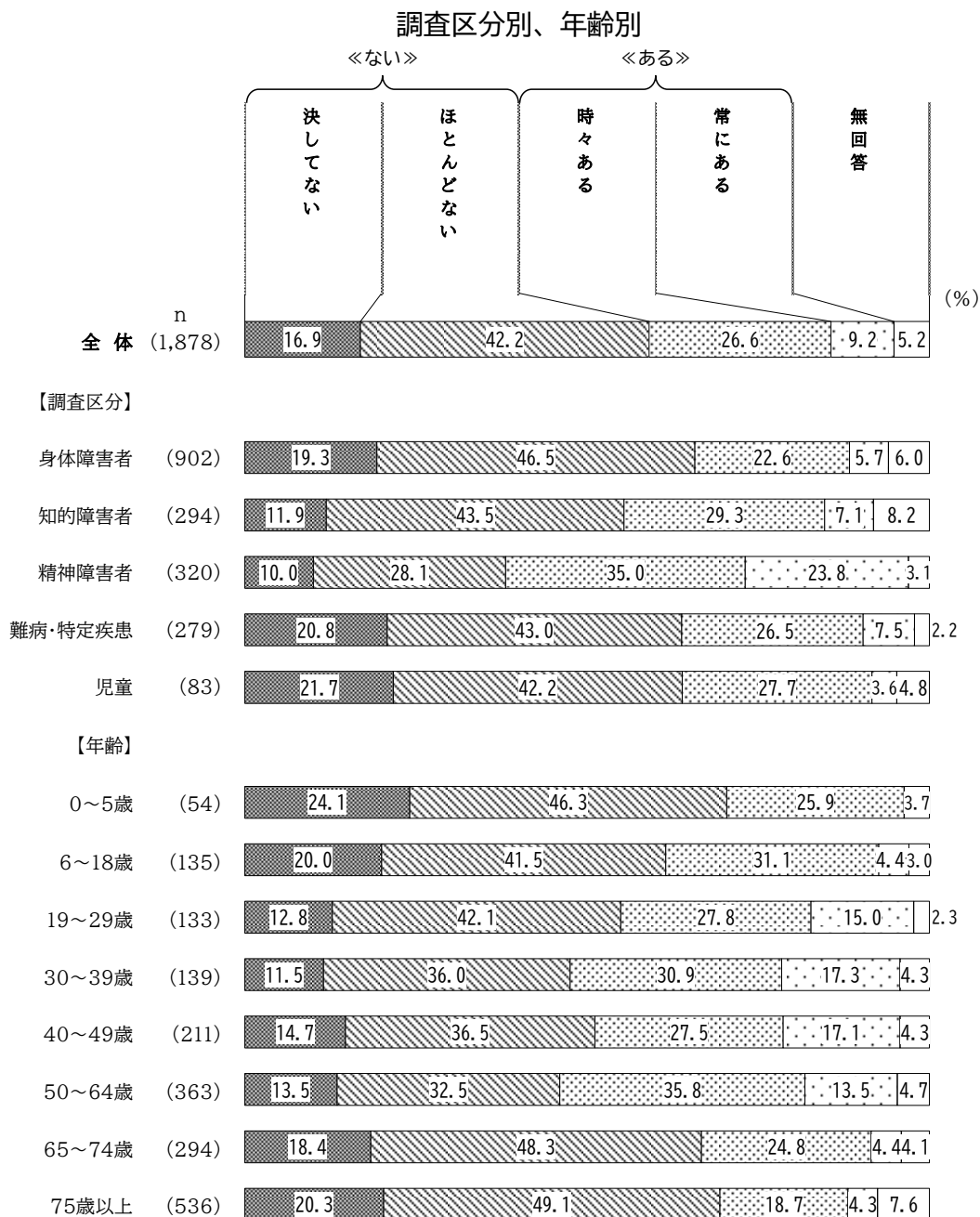
(3) 自分は他の人たちから孤立していると感じることの有無

問38 自分は他の人たちから孤立していると感じることがありますか。(1つに○)

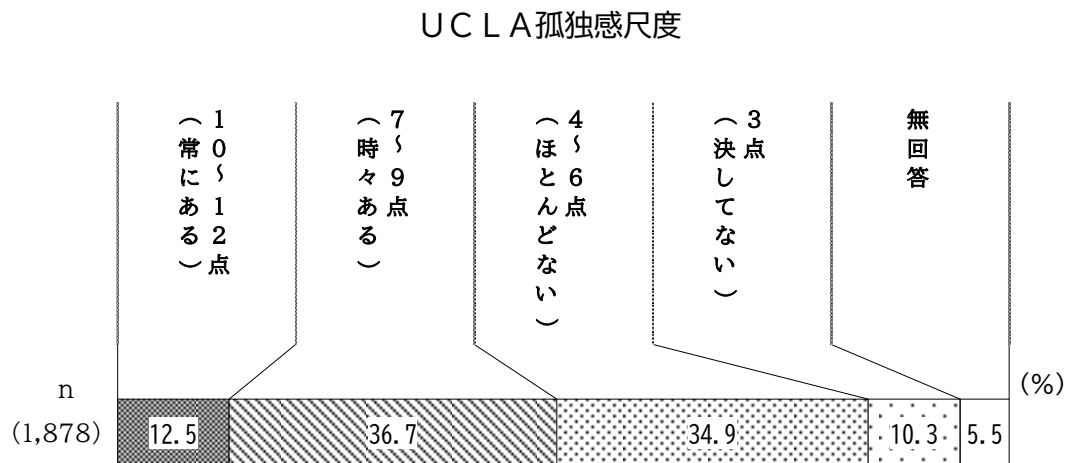
自分は他の人たちから孤立していると感じることは、「決してない」は16.9%で、「ほとんどない」(42.2%)をあわせた《ない》は59.1%となっている。《ある》(「常にある」と「時々ある」の計)は35.8%となっている。

調査区分別にみると、《ない》は身体障害者(65.8%)、児童(63.9%)、難病・特定疾患(63.8%)で6割台となっている。《ある》は精神障害者で58.8%と多い。

年齢別にみると、《ない》は0～5歳が70.4%と多く、6～18歳、65歳以上でも6割台となっている。《ある》は19歳から64歳の年齢にかけて4割以上となっており、50～64歳は49.3%と多くなっている。



孤独という主観的な感情を間接的な質問により数値的に測定する「UCLA孤独感尺度」に基づく質問。3つの設問（問36～38）への回答を点数化し、その合計スコア（本調査では最低点3点～最高点12点）が高いほど孤独感が高いと評価。結果、合計スコアが「10～12点」の人が12.5%、「7～9点」の人が36.7%であった。一方で「4～6点」の人が34.9%、「3点」の人が10.3%であった。

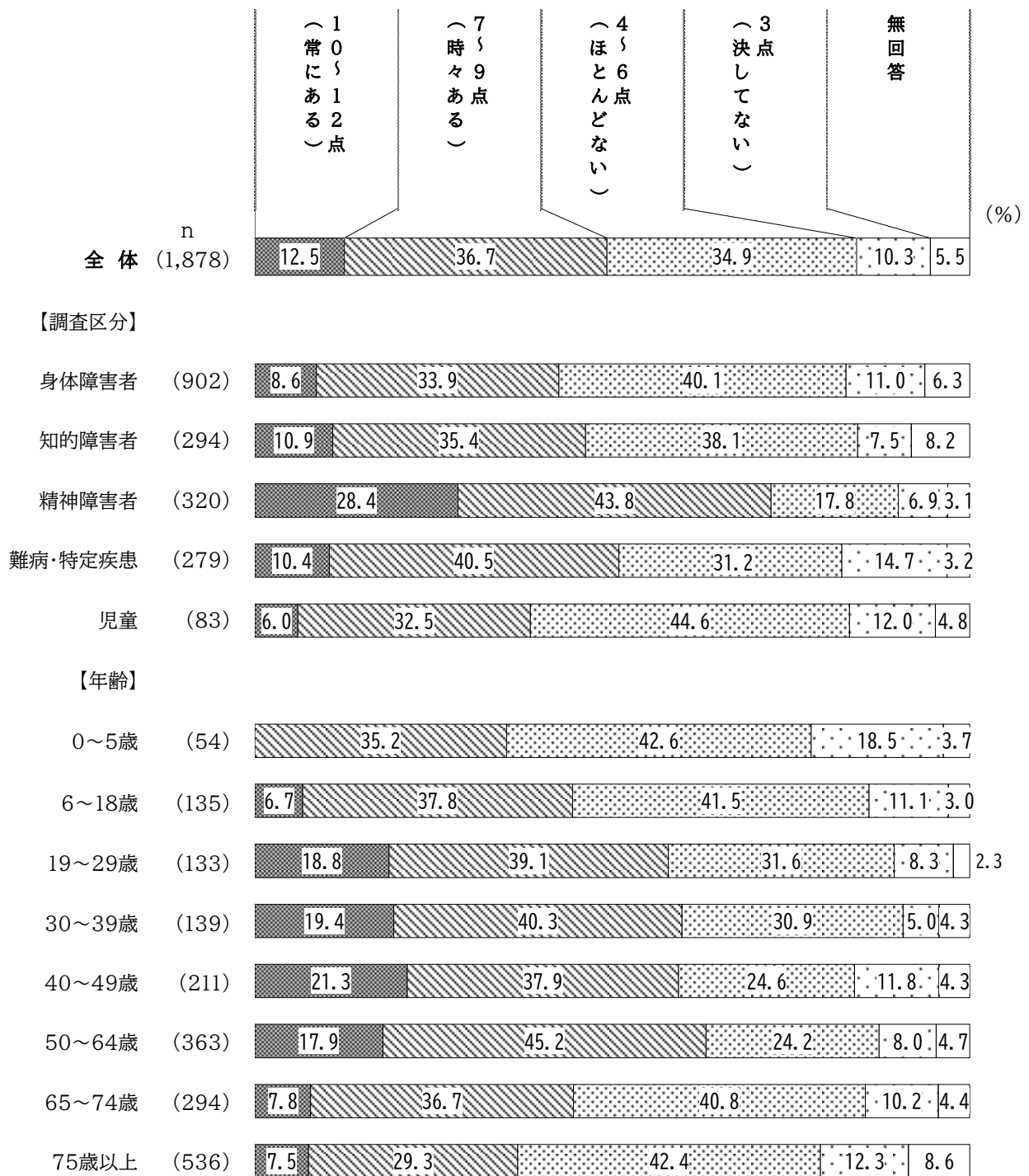


参考) UCLA孤独感尺度

カリフォルニア大学ロサンゼルス校 (UCLA) の研究者が孤独という主観的な感情を間接的な質問により数値的に測定しようと考案したもの。本調査では「自分には人との付き合いがないと感じることの有無」「自分は取り残されていると感じることの有無」「自分は他の人たちから孤立していると感じることの有無」の3項目の設問について、それぞれ4つの回答選択肢 (4件法) を設定。「決してない」を1点、「ほとんどない」を2点、「時々ある」を3点、「常にある」を4点とし、その合計スコアにより孤独感の高さを測定。なお、調査によって尺度がアレンジされることがあり、英国では「しばしばある」(3点)、「時々ある」(2点)、「ほとんど・決してない」(1点) の3つの回答選択肢 (3件法) を設定。

調査区分別にみると、合計スコアが「10～12点」の人は、精神障害者で28.4%と特に多い。  
 年齢別にみると、「10～12点」の人は19歳から64歳の年齢で2割前後と多くなっている。

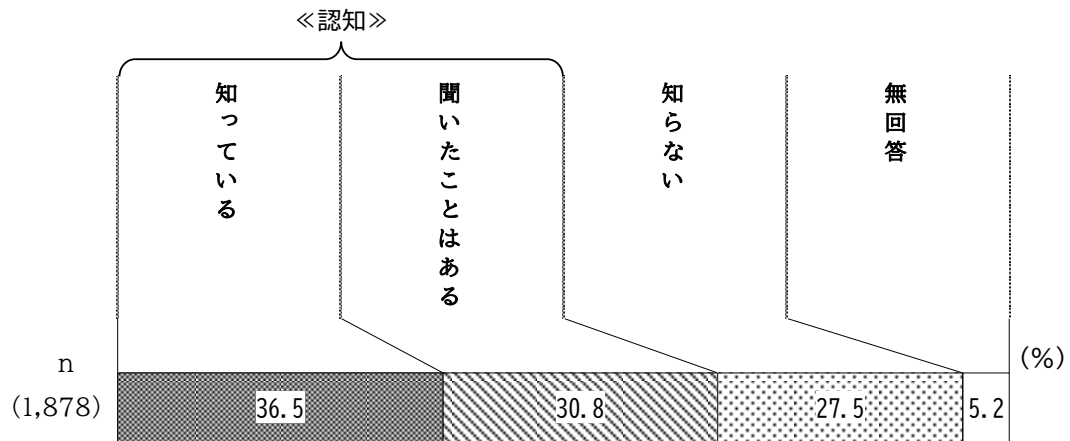
調査区分別、年齢別—UCLA



## 16. 今後のことについて

### (1) 成年後見制度の認知

問39 あなたは、成年後見制度を知っていますか。(1つに○)

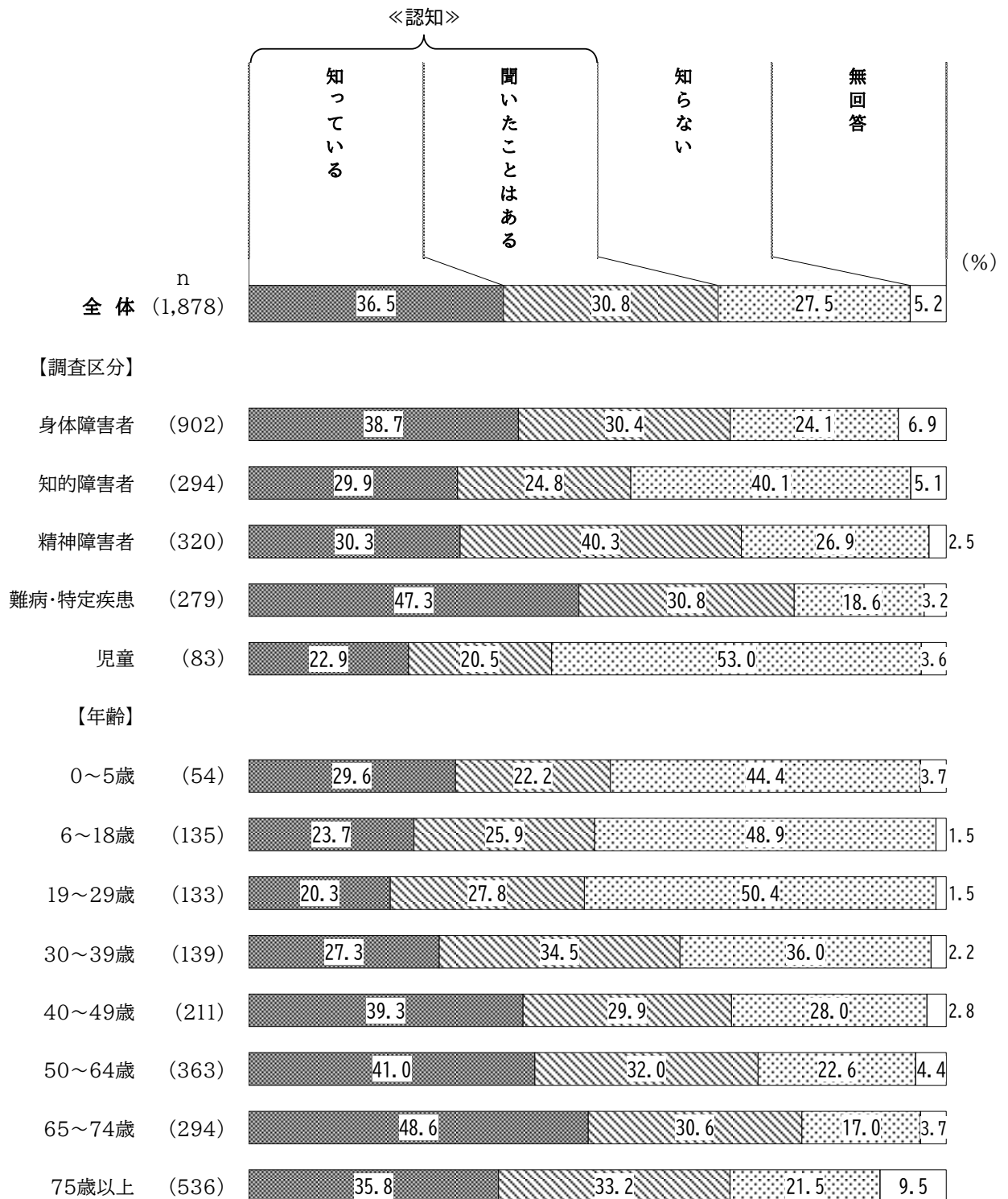


成年後見制度を「知っている」は36.5%、「聞いたことはある」は30.8%となり、両者をあわせた《認知》は67.3%となっている。

調査区分別にみると、「知っている」は難病・特定疾患で47.3%となっており、《認知》も78.1%と多くなっている。

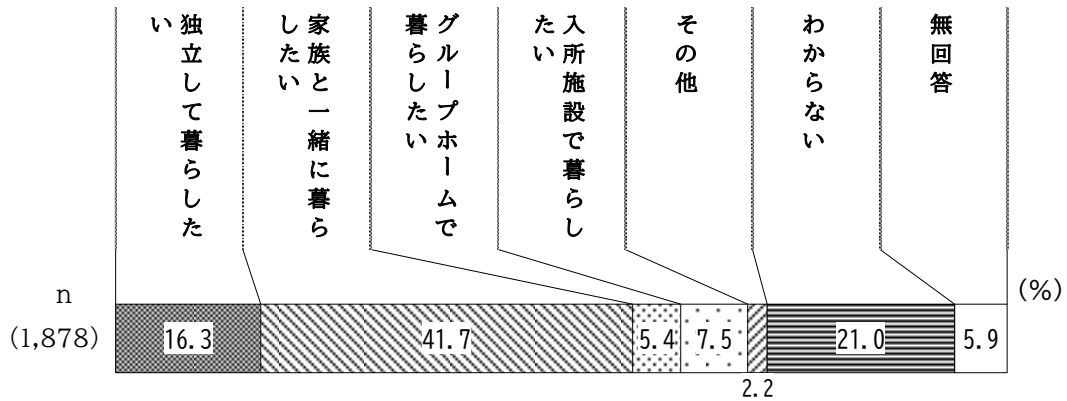
年齢別にみると、「知っている」は50~74歳で4割台となっている。《認知》はいずれの年齢も5割以上となっており、50~74歳では7割台と多くなっている。

調査区分別、年齢別



(2) 将来の暮らし方

問40 あなたは、将来どのように暮らしたいと考えていますか。(1つに○)

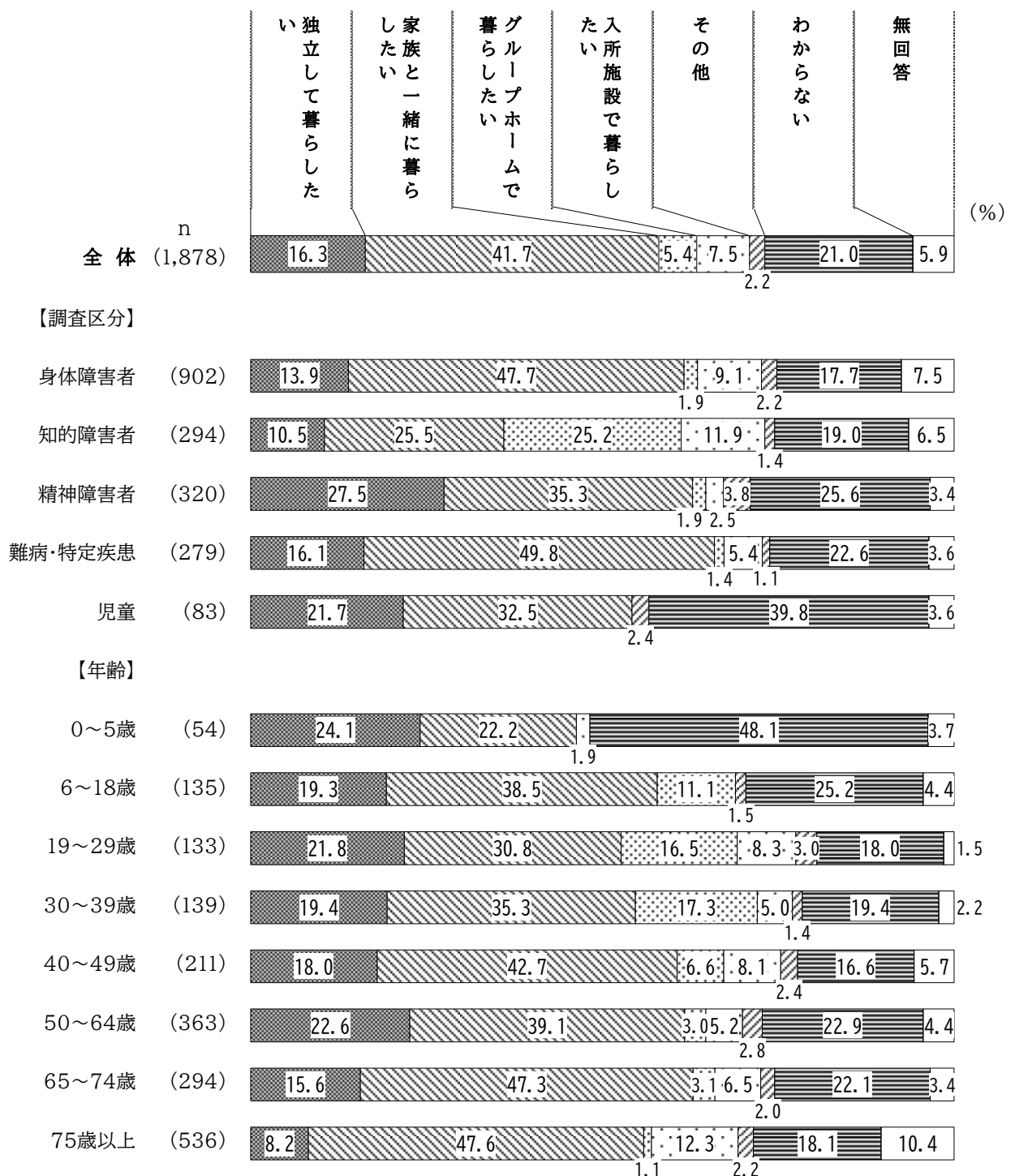


将来どのように暮らしたいと考えているかでは、「家族と一緒に暮らしたい」が41.7%で特に多く、「独立して暮らしたい」が16.3%となっている。また、「わからない」も21.0%と比較的多くなっている。

調査区分別にみると「家族と一緒に暮らしたい」は難病・特定疾患で49.8%、身体障害者で47.7%となっている。知的障害者では「家族と一緒に暮らしたい」と「グループホームで暮らしたい」が2割台、精神障害者では「家族と一緒に暮らしたい」(35.3%)とともに「独立して暮らしたい」(27.5%)も多くなっている。

年齢別にみると、0～5歳を除き、いずれも「家族と一緒に暮らしたい」が最も多くなっている。0～5歳は「独立して暮らしたい」(24.1%)が「家族と一緒に暮らしたい」(22.2%)となっている。

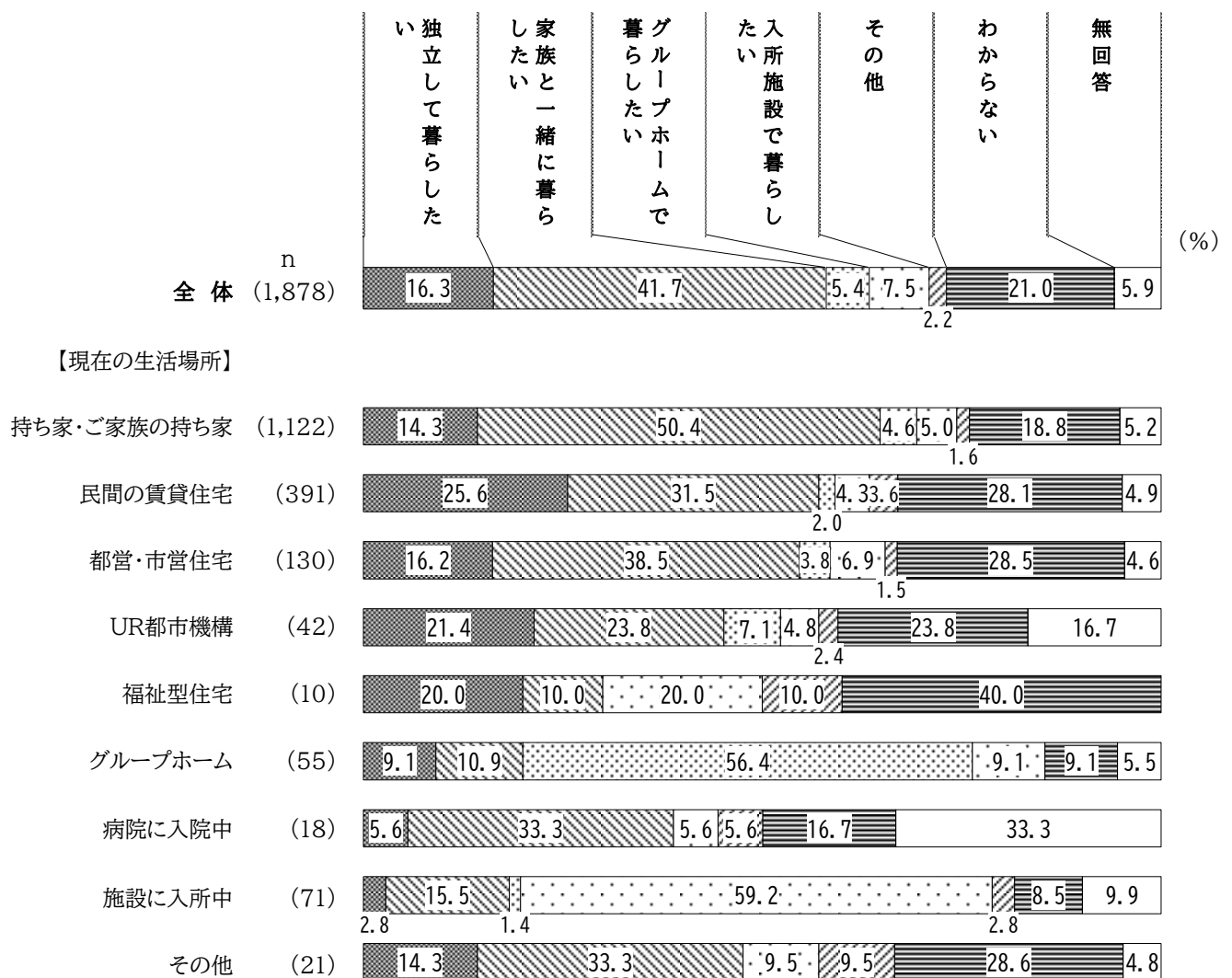
調査区分別、年齢別



### 第3章 調査結果の詳細

現在の生活場所別（問3参照）にみると、“持ち家・家族の持ち家”では「家族と一緒に暮らしたい」が50.4%と特に多く、“民間の賃貸住宅”（31.5%）でも3割台となっている。“民間の賃貸住宅”では「独立して暮らしたい」も25.6%と多くみられる。“グループホーム”では引き続き「グループホームで暮らしたい」が56.4%、“施設に入所中”でも引き続き「入所施設で暮らしたい」が59.2%と多くなっている。

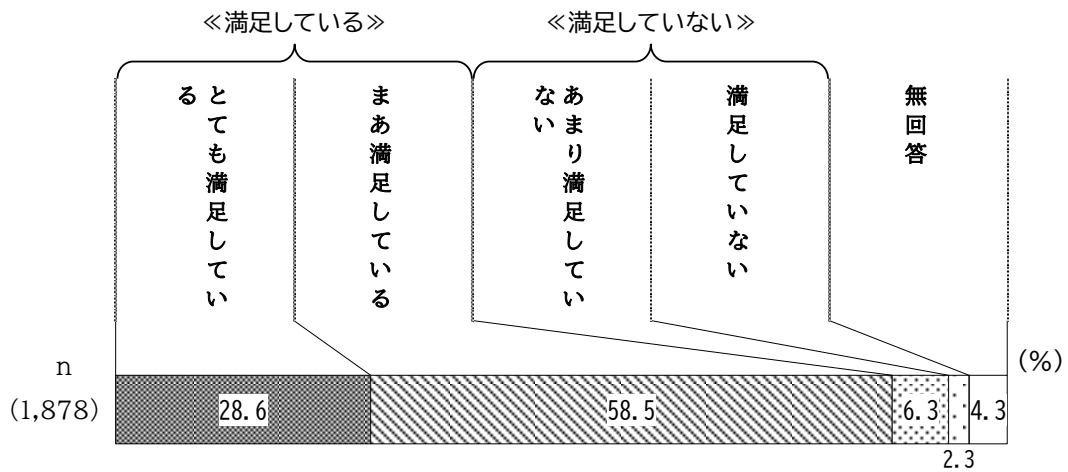
（現在の）生活場所別





## (3) 武蔵野市での暮らしの満足度

問41 あなたは、武蔵野市での暮らしに満足していますか。(1つに○)

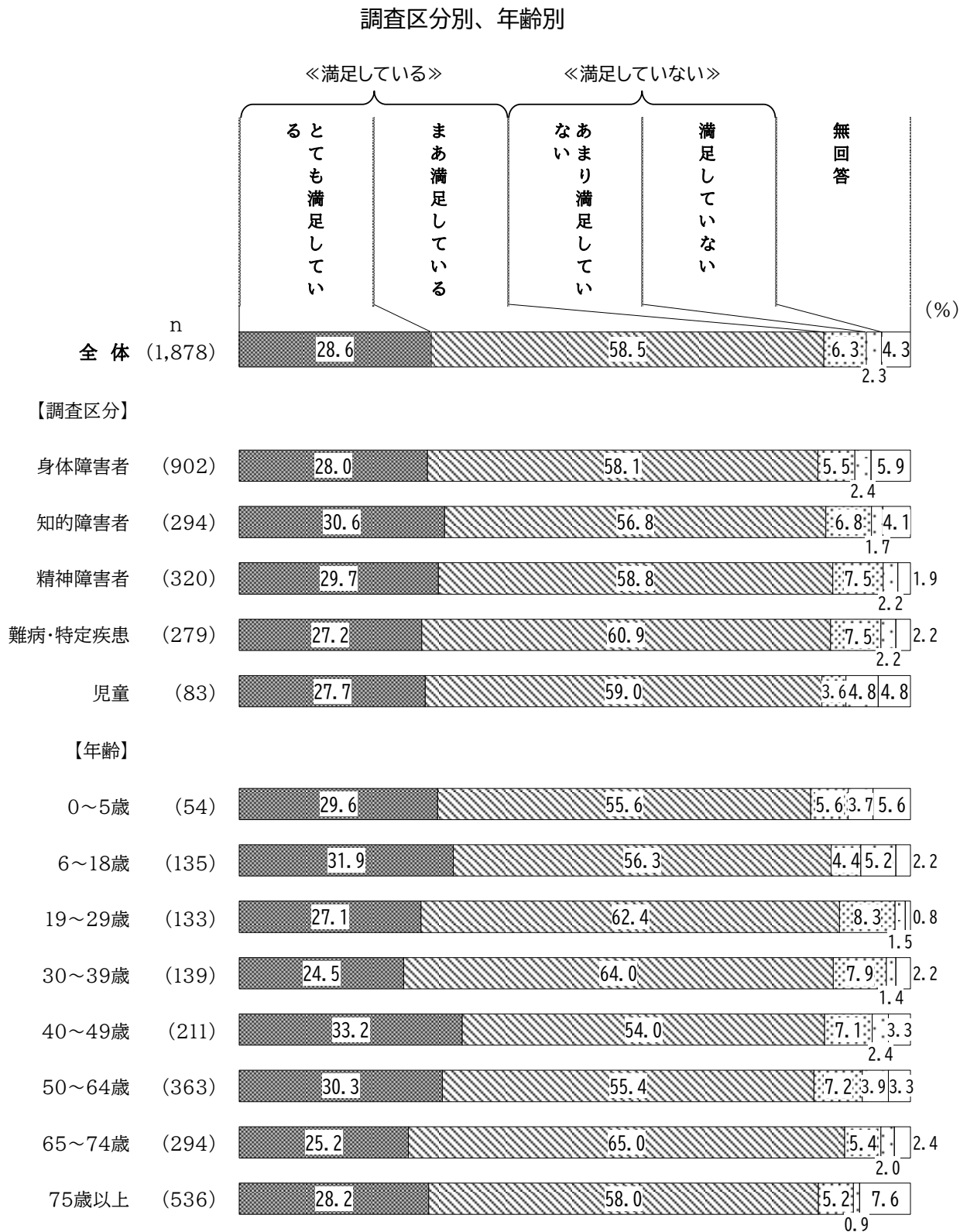


武蔵野市での暮らしに「とても満足している」は28.6%で、「まあ満足している」(58.5%)をあわせた《満足している》は87.1%となっている。《満足していない》(「満足していない」と「あまり満足していない」の計)は8.6%となっている。

### 第3章 調査結果の詳細

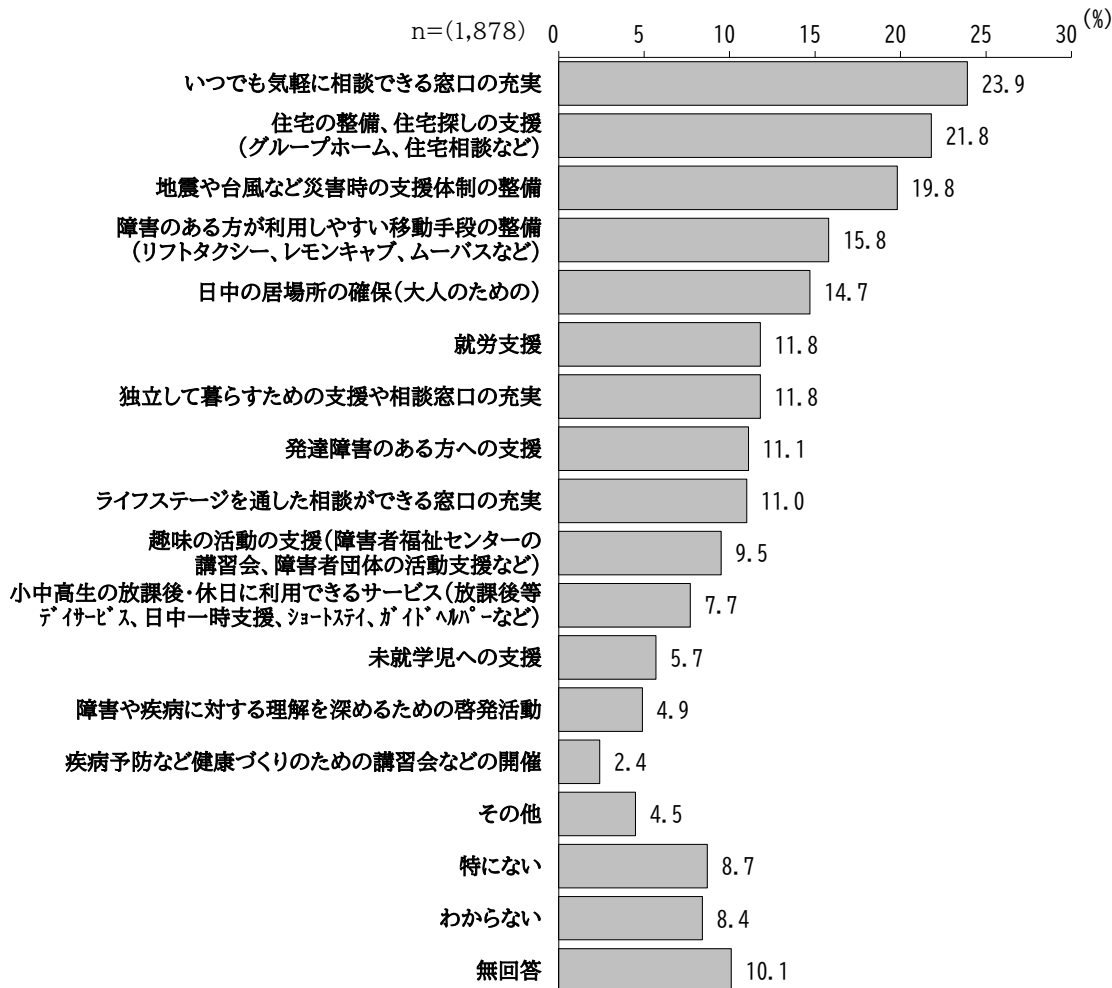
調査区分別にみると、《満足している》は、いずれの調査区分でも8割以上となっている。また知的障害者では「とても満足している」が30.6%となっている。

年齢別にみると、《満足している》は、いずれの年齢でも8割以上、65～74歳では9割を達している。



## (4) 充実すべき障害者福祉施策

問42 今後、武蔵野市の障害者福祉は、特にどのようなことを充実させていけばよいと思いますか。(主にあてはまるもの3つまで○)



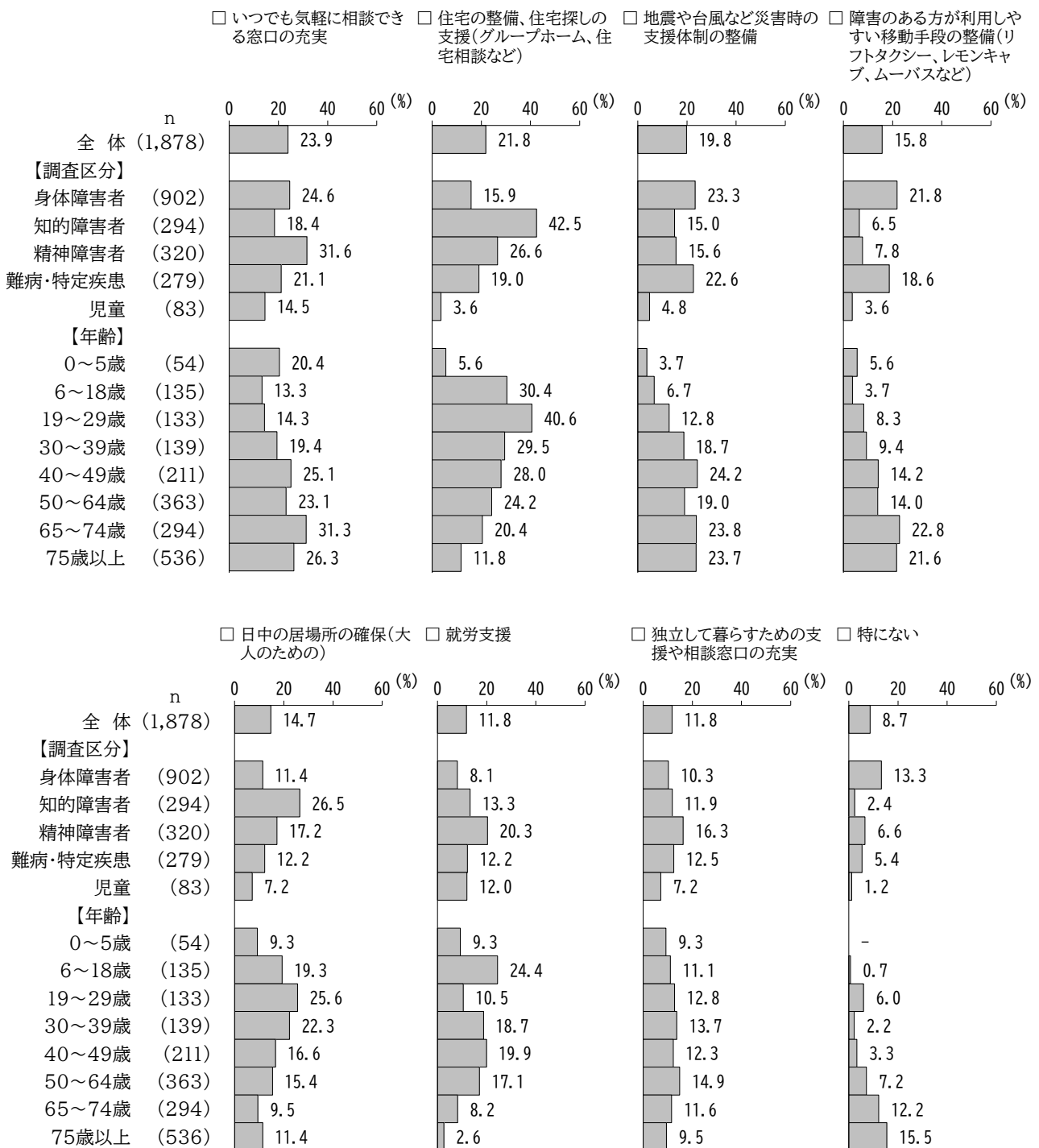
今後、市の障害者福祉はどのようなことを充実させていけばよいか聞いたところ、「いつでも気軽に相談できる窓口の充実」(23.9%)「住宅の整備、住宅探しの支援」(21.8%)が2割台で多く、以下、「地震や台風など災害時の支援体制の整備」(19.8%)、「障害のある方が利用しやすい移動手段の整備」(15.8%)、「日中の居場所の確保」(14.7%)、「就労支援」、「独立して暮らすための支援や相談窓口の充実」(ともに11.8%)、「発達障害のある方への支援」(11.1%)、「ライフステージを通じた相談ができる窓口の充実」(11.0%)が1割台が続いている。

### 第3章 調査結果の詳細

調査区分別にみても上位5項目の順位は異なるがおおむね共通している。その中では、身体障害者、難病・特定疾患では「地震や台風など災害時の支援体制の整備」及び「障害のある方が利用しやすい移動手段の整備」、知的障害者では、「住宅の整備、住宅探しの支援」(42.5%)、精神障害者では「就労支援」(20.3%)への要望が他の調査区分より多くあらわれている。また、難病・特定疾患では「独立して暮らすための支援や相談窓口の充実」が12.5%多い。児童では「発達障害のある方への支援」が50.6%と特に多く、「小中高生の放課後・休日に利用できるサービス」(44.6%)も多い。

年齢別にみると、「いつでも気軽に相談できる窓口の充実」は多くの年齢からあげられている。

#### 調査区分別、年齢別



## 調査区分別、年齢別（上位5項目）

（%）

		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体 n=1,878		相談窓口の充実 23.9	住宅整備、住宅 探し支援 21.8	災害時の支援体 制 19.8	移動手段の整備 15.8	日中の居場所確 保 14.7
【調査区分】	身体障害者 n=902	相談窓口の充実 24.6	災害時の支援体 制 23.3	移動手段の整備 21.8	住宅整備、住宅 探し支援 15.9	日中の居場所確 保 11.4
	知的障害者 n=294	住宅整備、住宅 探し支援 42.5	日中の居場所確 保 26.5	発達障害のある 方への支援 19.4	趣味の活動支援 18.7	相談窓口の充実 18.4
	精神障害者 n=320	相談窓口の充実 31.6	住宅整備、住宅 探し支援 26.6	就労支援 20.3	日中の居場所確 保 17.2	ライフステージ 相談窓口の充実 16.6
	難病・特定疾患 n=279	災害時の支援体 制 22.6	相談窓口の充実 21.1	住宅整備、住宅 探し支援 19.0	移動手段の整備 18.6	独立支援や相談 窓口の充実 12.5
	児童 n=83	発達障害のある 方への支援 50.6	放課後等の利用 可能サービス 44.6	未就学児への支 援 39.8	相談窓口の充実 14.5	就労支援／ライフ ステージ相談窓口 の充実 12.0
【年齢】	0～5歳 n=54	未就学児への支 援 53.7	放課後等の利用 可能サービス 51.9	発達障害のある 方への支援 48.1	相談窓口の充実 20.4	ライフステージ 相談窓口の充実 16.7
	6～18歳 n=135	放課後等の利用 可能サービス 35.6	住宅整備、住宅 探し支援 30.4	発達障害のある 方への支援 26.7	就労支援 24.4	日中の居場所確 保 19.3
	19～29歳 n=133	住宅整備、住宅 探し支援 40.6	日中の居場所確 保 25.6	発達障害のある 方への支援 18.8	趣味の活動支援 18.0	ライフステージ 相談窓口の充実 15.8
	30～39歳 n=139	住宅整備、住宅 探し支援 29.5	日中の居場所確 保 22.3	発達障害のある 方への支援 20.1	相談窓口の充実 19.4	就労支援／災害 時の支援体制 18.7
	40～49歳 n=211	住宅整備、住宅 探し支援 28.0	相談窓口の充実 25.1	災害時の支援体 制 24.2	就労支援 19.9	日中の居場所確 保 16.6
	50～64歳 n=363	住宅整備、住宅 探し支援 24.2	相談窓口の充実 23.1	災害時の支援体 制 19.0	就労支援 17.1	日中の居場所確 保 15.4
	65～74歳 n=294	相談窓口の充実 31.3	災害時の支援体 制 23.8	移動手段の整備 22.8	住宅整備、住宅 探し支援 20.4	独立支援や相談 窓口の充実 11.6
	75歳以上 n=536	相談窓口の充実 26.3	災害時の支援体 制 23.7	移動手段の整備 21.6	住宅整備、住宅 探し支援 11.8	日中の居場所確 保 11.4

※表記の都合上、選択肢は簡略して表示している。

### (5) 回答者からの意見・要望（自由記述）

問43 武蔵野市の障害者福祉に対するご意見・ご要望がございましたらお書きください。  
(公開してもよい／公開しないでほしい)

市の障害者福祉に対して意見・要望を自由に記述していただいたところ、534件の記述があった。その内容を分類し、公開可（公開不可、不明を除く）とされている意見から、代表的なものを抽出した。なお、1人が2つ以上の分類にわたる内容を記述、また同じ分類枠でも内容が大きく異なる場合は、それぞれをカウントするため、件数は延べ件数となる。

※意見は誤字・脱字、句読点等の修正のほか、意味が通じにくい部分は意見の趣旨を損なわない形で修正している場合がある。

#### ◆市の福祉施策の評価（53件）

- ・今は夫と同居していて不便や困っていることはないが、もしひとり暮らしになった場合でも、武蔵野市が色々な支援をしてくれることがわかって安心した。
- ・今年、初めて介護タクシーを利用した。ありがたかった。今後年齢も上がり、いろいろお世話になると思うが、よろしく願いたい。これまでの対応には充分満足している。
- ・障害者・児向けのイベント、スポーツ教室、公的相談窓口、各手続など、武蔵境でできることが全くないため環境を整えてほしい。市の人口が増加しているか分からないが、障害を持つ子は他市に引っ越すため減少しています。武蔵野市には学校を卒業してからの居場所がありません。私たちはこの市が気に入って、自宅を購入したこともあり、引っ越したくない。子供と我々の暮らしを「不作為」で奪わないでほしい。
- ・武蔵野市は、社会的弱者にとっても優しく、福祉もしっかりしていて暮らしやすい街で、いつも感謝している。大好きな住みやすい街である。
- ・福祉のまちと言われるのが相応しいほど、福祉に力を入れていると思う。体の不自由な方などを助けている方をよく見かける。

#### ◆相談・情報（50件）

- ・福祉課でお話を直接伺ったこと以外にも、利用できるサービスが各分野であると思う。自ら調べないと分からないことが多いので、担当される方は専門に特化して世の中の情報をひと通り知っておいてほしい。
- ・現在、対人恐怖症等があり、体調も精神的にも不安定で、他人とのコミュニケーションには難があるため、仕事もクビになった。働いて収入を得たいが、体調や他人との人間関係がつかれないので働けないし、気軽にカルチャースクールにもいけない。悩みごとがあっても、気軽に相談する人もなく、どこに相談すればいいかもわからない。
- ・手帳の等級ごとに利用できるものがわかりやすくなっているプリント等があれば配布してほしい。

- ・武蔵野市では障害者への偏見が少ないように思う。大声を出しても凝視される事もあまりなく、寄り添っていただけている事ありがたい。息子は作業所で働いていて平日はグループホームで生活している。週末のみ家に帰るので、高齢の親としては助かるが、いずれ親のどちらかに何かあったときのことを考えると面倒をみるのは困難となるため、将来は施設にと考えている。そういう場合は市役所などで相談にのっていただけるのか。
- ・どのようなサービスが受けられるのか情報が入ってこない。

#### ◆実態調査について（48件）

- ・経費をかけての調査には敬意を示すが、統計上の処理（数字%の多寡）をしてどんな意味があるのか。そこにきめこまやかさ、具体的な個々の現実に立った施策・立案へのアプローチとは本質的に相容れないものを感じる。市長のマニフェストも含め、所管部署の課題の実現度と阻害要因をこちらからアンケートしたいくらいだ。
- ・結局、この調査で何を引き出したいのか具体的に明らかではない。1つの調査票で一律に設定せざるを得ない事情は理解しつつも、当方の実態には大きく外れたピンボケの質問設定に苛立つ。「調査」としてのアンケートとしては、改善の必要があると思われる。
- ・代理で母が回答したが、質問の内容が難しい。
- ・難病や高齢、就労、教育問題など、障害者の問題をアンケートでいっしょくたに答えさせるのは無理がある。各々の問題を切り離してはどうか。
- ・高齢になると障害がでてきたり、いろいろな事をするのが大変になる。このアンケートも大量なので読むだけで面倒。月1回のケアマネジャーには色々話をして大体把握してもらっているため実態調査はそこでできている。協力依頼の葉書まで郵送されてきたので目を通して記入したがインターネットを使用せず現代生活には無縁の生活をしているため、ケアマネジャーが訪問時に代筆してくれると助かる。

#### ◆外出・バリアフリー・移動（47件）

- ・現在、レモンキャブではタクシー券が使えないが、今後使用できるようにすれば、便利だと思う。
- ・福祉タクシー券はいつもありがたく使用させていただいている。
- ・自転車が歩道を走る場合、歩行者優先にしてほしい。例えば、歩道では自転車は押して歩くとか、人を追い越す時は一旦自転車を下りるなど。
- ・ムーバスは、放置自転車対策として出発したためか駅までのアクセスしか考えられていない。高齢者の足となっている現状にあわせ、ルートや乗り継ぎシステムを再考すべき。
- ・自転車の駐輪場について、障害者（おもいやりゾーン）をつくってほしい。チャイルドブースは充実しているが、障害者ゾーンがない。障害者でも、力が弱い、片足が義足など外から普通に見えても、自転車乗れても、自転車置き場のスロープや、段差に乗せるのが辛い。武蔵野市の駐輪場はすべて乗せないといけないため辛い。平らなチャイルドゾーンに止めたくても駐輪場で他人に怒られ、説明したが「証明書を出せ」と脅された。こんなひどい駐輪場

は武蔵野市だけだ。小金井市は障害者ゾーンがあった。本当にヒドイ。アンケート取るなら、駐輪場に「おもしろゾーン」つくるべき。

#### ◆障害児（39件）

- ・児童館には行きづらい発達に不安のある子が遊びに行ったり相談できる開放日があるといい。そうした子は幼稚園や保育園にも受け入れられにくく、一時預りも利用できなかったりする。子育てが大変なのに母親がレスパイトできる場所がない。母親のためにも子供のためにも休息は必要。子供を預けられる場所がほしい。家族や親戚にも頼れない人もいる。ハビットしかないなので、もう少し気軽に行ける場所、いつでも相談しやすい場所があればいい。
- ・発達障害の療育場所が吉祥寺、三鷹に集中していて、桜堤からは遠く、幼い子を連れて、決まった時間に通うのが大変だった。またコロナ蔓延時は、中で待つ事が出来なかったのも、夏も冬も子どもと外で待つのが大変だった。ハビットも桜堤に分館が出来たが、相談は分館では出来ず、使えなかった。
- ・福祉に手厚いイメージはあるが、当事者からするとそうでもない。学校は先生が少なく保護者の不満も高い。介助員と教師をもっとフラットな関係にして、親とも連携して大人が安心できる教育を考えてほしい。学校の大人の中にトップダウンは必要ありません。（地域の学校なのに、校長先生が上から目線すぎて親は困っている。）子供の二次障害を理解できる校長を配置してほしい。もっと通常級の子供たちと自然にインクルーシブに交流してほしい。特別感、障害感が大人にあるのでなかなか自然に子供たちが交流させてもらえない。（お客さん扱いになる。）
- ・医療的ケアの必要のある人が通える施設を充実してほしい。
- ・障害児の子育ては手間とお金がかかるのに、手当は打ち切られるばかりで厳しい。これからの人生の各ライフステージでどのような暮らし方があるのか1つの窓口で案内していただくとありがたい。成人に向けての大きな課題は余暇の過ごし方である。幅広い年代、障害のタイプがあるので難しいところもあるが、多くのイベントがあると嬉しい。

#### ◆住居やグループホーム、施設入所等（35件）

- ・住宅あっせんのための決まりごとが多すぎる。
- ・30年前に転入した際に武蔵野市からは市内施設が満員なので、府中生活実習所を紹介され、以来そこに通所している。この実習所は都から民間の「あけぼの福祉会」に移管された。数年前、福祉会が「グループホーム」を開設してくれ、こちらにも御世話になっている。武蔵野市に在住しながら、市内にこのような施設がないのが残念。高齢の両親の元へは週末に帰宅しているが、母は要介護3の認知症で、85歳の父が老々介護しており、私が帰宅しても負担が増える一方で大変不安である。
- ・5年前にグループホームに入居し、職員の方々の配慮のお陰でそこでの生活にもすっかり慣れたことに感謝している。ただ、この先、高齢化に伴い日中活動が出来なくなっても、このまま住み慣れた武蔵野市で一生を送らせてやりたい。“わくらす”入所待機者名簿にも申込



済だが、ここは待機者が多いので当てにできない。現在のグループホームを終の棲家にしていただくなど、何らかの方法で武蔵野市に住み続けられるよう要望したい。

- ・病院でなんとか受け入れてもらっているが、いつまで受け入れてもらえるか心配している。退院しても問題が種々発生し、すぐ入院ということをくり返すため、今のところ長期入院をしている。精神障害で働くことのできない人の入所施設を作ってほしい。期待している。
- ・近くにグループホームがないので、つくってもらえると嬉しい。8月末に「びーと」でグループホームの講習に参加したが、武蔵野市にはあまりないので入所できるのはかなり先だと感じた。

#### ◆サービスや生活補助、施設利用（34件）

- ・障害者の困りごとに対する援助をもっと強化してほしい。
- ・日常生活用品（補助を受けられる）やIT機器を充実してほしい。
- ・他市まで通うのは、介助者が高齢になるとだんだん大変になってくるため、リハビリ施設や医療機関を武蔵野市内で作ってもらいたい。
- ・一人暮らしで頼る人もいない場合、万が一の時にサポートをお願い出来る人や機関を周知してほしい。また、万一に備えてそうしたものとスムーズに連携出来るよう日頃から交流を図れるしくみを作ってほしい。
- ・軽度の障害にも対応するサービスが既に実施されているのなら、わかりやすく繋がれるようにしてもらえるとありがたい。

#### ◆福祉全般・制度（33件）

- ・公的な機関が知的障害者の後見を担って欲しい。家族では「後見人」として不十分。膨大な手間と費用が家族に圧しかかり、家族が背負う精神的な苦痛は言葉では表現できない。また、親が期待する身の回りの世話を含めた本人の見守りを専門的な職を持つ弁護士・司法書士等の方が一体どこまでやってくれるのか。使い勝手が悪すぎる今の制度をもう一度見直して、持続可能で「死にゆく親」が安心して他界できるシステムを市町村レベルで構築していただきたいと切に希望する。
- ・障害者福祉は当事者でない限りその存在を意識する事は少ないが、必要とする人、それによって助かる人は大勢いる。福祉が削減されないよう、これからも充実されていくことを切に願う。
- ・「グレーゾーン」の人達へのサポートが本当に少なく困っている。2～3年前に訪問看護を利用しはじめるまで10年以上相談できる人や話し相手がおらず、病状が悪化した。今は週に2回、1時間ぐらい訪問看護の方がウチに来てくださり、話し相手になってもらっているので少し気が楽になった。外出も出来ず、どうしたら良いのか分からない。何か手助けしていただけないか。

- ・小、中学生のための支援や活動場所は多いが、高校生からになるとぐっと少なくなる。成長に合わせた心身の変化や性教育を受けられる機会がない。ライフステージに合わせた包括的な支援の充実を切望する。
- ・重度の人達への理解、思いやりを深めて頂くような施策をこれからもお願いしたい。

#### ◆職員・市役所（33件）

- ・受給者証の申請手続で障害福祉課の窓口へ出向いた際に、地域担当者から他の人にも聞こえるような声で、ヒアリングを受けさせられた。プライバシーの配慮をお願いしたい。
- ・境南コミュニティーセンターにおいて、各選挙の際に、駐車場が空いているのに使用させてもらえなかった。市長にも手紙を出したが、「努めてまいります」との返事であった。合理的配慮は、市役所においては過度な負担がない限り、「しなければならない」となっている。いつから武蔵野市は民間企業となったのか。なぜ民間企業に税金等負担しなくてはならないのか。合理的配慮について、市長をはじめ、市議会議員、市役所職員に研修および周知を諮っていただきくことを強く望む。
- ・就学にあたり多くの情報を集めて判断することが求められるが、ハビットの相談員には適切なタイミングで電話を通じて情報提供をいただきとても助かった。
- ・障害福祉課には手帳等の手続きで年に1、2回お世話になっている。数年間変わらず丁寧に対応していただき、不安が取り除かれるので感謝している。
- ・専門的知識をもった人材の育成を。

#### ◆経済的支援（手当・助成・各種年金等）（29件）

- ・武蔵野市の難病助成金は大変ありがたく、他の都市よりも金額は高いであろうことはわかっているが、23区並みの助成金額に近づけていただけると大変ありがたい。
- ・私は難病を2つ抱えているが、市で決められた納税額の基準を超えているため、市から手当てを受けられない。身勝手な希望だが、難病を抱える「数」によっても基準値を変えていただくと嬉しい。手当制度は「お金」面でのサポートが目的だと思うが、「精神」面では持っている難病の数で苦勞の度合いは変わってくると思う。
- ・グループホームの費用負担が収入に対して大きいため、家賃補助の増額をお願いしたい。給与がアップした事で、急に各補助がなくなり給与が少ない時より自由に使える金額が減ってしまうのはおかしい。
- ・聴力障害のため家族、隣人とのコミュニケーション不足を感じている。症状は補聴器を使用することで大分補助することが可能だが、補聴器は高額な割に市からの補助は少なく、年金収入だけでは購入に壁を感じる。耳鼻科や補聴器店と協力し斡旋してほしい。
- ・家賃補助をお願いしたいとか、福祉を利用したいとか、相談は何度かしたが、精神3級だからとか働いているからだとか(生活に困っているのに)私の言っている一部だけ切り取り、家賃補助を断られた。尚且つ働いているから福祉手帳を返せと言われたことに、とても傷ついていることをお伝えしたい。市役所内でもたらい回しにされること多く、とても辛い。

## ◆活動・交流・講座等 (24 件)

- ・本人は現在重度の認知症を患っている。近くに本人や家族が気軽に立ち寄って話をしたり、情報を得たり、意見交換をしたりできる場があると良い。もっと軽度の段階であったらとても助かったと思う。
- ・趣味の活動に対する枠をもっと広げてほしい。無料か低料金の活動場所の増加、対象者の種別をなるべくなくし、多くの人が参加できるようにしてほしい。
- ・今秋、スポーツトレーナーの方の健康セミナーに参加した。本当に素晴らしいセミナーで、力をもらった。
- ・他よりも充実しているかもしれないが、孤立を防ぐためにも、同じ障害を持つ者同士での交流会や情報交換ができる場所があると嬉しい。
- ・武蔵野市に転入して一年近くになるがコロナ禍にあってはマンション内での繋がりもないため、気楽に相談できる人が近くにいれば良いと思う。そこまでは期待できないとしてもケアマネ以外に、そのような人が近くにいれば紹介してほしい。できれば同じ悩み・病気等を持つ人との交流が持てる場所があれば併せて紹介してほしい。

## ◆不安に感じていること、困りごと (18 件)

- ・配偶者の収入だけでは生活できず、私の貯金を取り崩すしかないが、貯金は有限である。貯金が生存期限と直結している。障害者年金は認められなかった。こんな者への支援にはキリがないので、「こんな者もいる」と共有してもらえれば十分。武蔵野市が大好きである。
- ・PCやスマホ等を使いこなせないのが困ることがある。また横文字のカタカナ言葉が理解出来ないことが多く困る。コロナワクチン接種1回目の申し込みの時は電話が繋がらず困った経験をした。
- ・比較的軽い障害のため、現状ではほぼ不便を感じないが、老齢になった時の過ごし方、あるいは、施設等へスムーズに入れるかなど、多少不安を感じることもある。
- ・ご近所には障害であることを隠しているため、深い付き合いができない。あいさつもしないので、変人だと思われるので住みにくい。災害があってもこれでは助けてもらえそうもない。障害を知られたら噂にされて、それこそ住めなくなる。
- ・お金の不安がある。障害者になっても自営業の為、70才過ぎでも働いているが、段々と難病も進行して、1人暮らしに不安があり、終活が思う様に出来ず困っている。

## ◆申請・手続き (18 件)

- ・数年前に障害者手帳の申請書類をいただきに伺ったが“眼が見えないことが条件”と受け取れなかった。その時から眼の状態は変わっていないが、今日は書類を受け取れ、手帳の取得ができたが、住民票の所在の問題で受けたいサービスが資格がないとされ受けられない。当時から取得できていたら、どれほど生活の支えになったことか。理解ある人間が情報やサービスを提供する側にいてほしいと心から思う。知らない分野であるなら伝えたり、語る資格はない。

- ・市役所の出張所を設けるなど、各種申請を便利にしてほしい。
- ・各種手続の為、医者は何回も指示書を書いてもらうのに非常に手間がかかった。何かスムーズにできるように考えてほしい。
- ・各証明書を取るために1階や2階に行かなければならないのは何とかならないか。また障害者、難病者が書類のことで都度市役所に出向くのは交通費も時間も含めて大変。そのための交通費だけでもいくらか保証してほしい。
- ・医療券などの申請を郵送でできるようにしてほしい。体調悪いときなど、市役所まで行って窓口で申請するのはつらい。

#### ◆障害の理解、健常者の意識啓発（17件）

- ・健常者への啓発をもっとしてほしい。一見ではわからない障害を持っている人もいる、その為にはできないことがあるということの理解を持ってほしい。
- ・障がい者への理解や対応について、まだまだ世の中は関心や理解が足りない。
- ・精神疾患の理解が進むことは、精神疾患予備軍になってしまっている健常者やご家族のためにもなると感じる。小、中、高、大などの市内教育機関や企業に、幅広く、理解をえられるように、継続的な啓蒙活動が必要。
- ・さまざまな障害について、市民の理解を深める教育をしてほしい。
- ・特に困っていることはトイレ。自宅に洗浄用トイレを用意する必要があるが自己負担。外出先で洗浄用トイレがないことが多く、身障者用トイレが洗浄用トイレだったため利用したら、健常者は利用できませんよ！と注意されたことがあった。その後もいつ注意されてしまうかとドキドキしながら使っている。公共の施設や大きな商店では洗浄用トイレを普及してほしい。見た目は健常者と何ら変わらないので、実は難病を患っている人もいることを理解する社会になってほしい。

#### ◆就労／雇用（12件）

- ・外で働くのは困難なので、内職の仕事を斡旋してほしい。三鷹市は順番に希望者に紹介しているらしく羨ましく思う。
- ・障がい者の生活の糧＝仕事の提供であるため、企業・社会は真剣に取り組むべき。障がい者を社会のお荷物にするのではなく、社会の働き手として促えるべき。これまでの概念や仕組みを改善することで彼らもできる仕事が沢山あることを認識して欲しい。労働力として促えてほしい。
- ・私は内臓の疾患だが、現在働いている場所が遠く、在宅勤務を併用しても就労がきつく感じている。市内で働ける場所がもっとあればいいなと思う。
- ・企業や福祉の就労先をたくさん作ってほしい。武蔵野市の障がいがある人が安心して働ける環境を整えてほしい。
- ・今高校1年生だが重度の知的障害であり、作業所に勤めることになっても、希望の場所に行けるかどうか心配。

## ◆保健・医療（10件）

- ・認知症は誰でもかかる可能性がある病気であること、認知症にかかるリスクを減らすことはできても予防は難しいことなど、認知症に対する理解を深める啓発活動をしてほしい。「予防可能」と強調されるととても胸が痛む。
- ・三鷹市も含め市内に本当の意味での難病の専門医がない。この病に長年罹患している私の方が学会へ論文を発表したり、その他で勉強している。こちらの質問に対応できていない開業医・病院が現実。
- ・病院に診察に行く際、ドクターに、処置の内容について事前に説明してほしい。そうすると、見通しが持てるし、少し安心する。他の患者さんを待たせるからか、快く応じてくれないドクターもいるが、待合室に「発達障害者の診察に時間がかかります。ご協力ください」などのポスターはったりして、患者とドクター双方の理解を得られるようにしてほしい。
- ・障害者福祉そのものではないが、市の発表していたコロナ感染報告で、自身の周りや日常、ウイルス活動の視覚的目安にしていた。しかし、あの発表を全くしなくなったことで不安が増し、市への不信感が増大した。
- ・障害者の在宅医療を充実させて欲しい。訪問診療、訪問看護、訪問リハ、入院可能な2次救急病院などが少ない。障害者が地域で暮らしていくための医療福祉の連携を強化して欲しい。そのための医療職人材は障害者福祉課に必ず必要。

## ◆親なき後の不安（9件）

- ・武蔵野市は知的の障害の入所施設はあるようだが、精神障害の施設はないため、親が死んだら、だれが面倒をみてくれるのか。それが心配。
- ・現在市内グループホームを利用しているが、週末は自宅に戻ってくる。親が亡くなった後の週末の過ごし方とか、グループホームにずっと入所できるのかとか、費用は払えるのかなど不安がある。
- ・親なき後のことなども勉強したい。
- ・孫に障害があり面倒をみているが、私が動けなくなったら、と思うことがある。

## ◆学校等卒業後の受け皿や自立支援（8件）

- ・高等部卒業後の重度の自閉症には居場所も無く、自宅で過ごす時間が増え、母親の負担も増えて両者ストレスで精神もおかしくなる。その後、強度行動障害で入院しているが、退院しても行く先が見つからない。地域に受け入れる施設が無い現状をどうするのか。声に出せない不満が、実際はかなりあると考えられる。外国人より日本人の弱者に目を向けて助けてほしい。
- ・将来一人暮らしをしたいと思っている。今は父母が一緒だが、将来公的なサポートがほしい。見廻りや、毎日の生活面（配食など）の支援をしてもらえる制度を作ってもらいたい。

- ・学校卒業後、日中預かってもらえる施設がとても少ないと感じている。コロナになりさらに減った。希望を出しても枠が少なく断られてばかり。
- ・生活のスタイルが変わるとき（家族介護が難しくなってきたときなど）に、新しいライフスタイルを体験する場所がほしい。一人暮らしを体験してみたりするところを作って欲しい。
- ・両親は共働きで親戚もいないため、今まで放課後児童デイに助けられてきたが、18歳以降は居場所がないのがとても不安。作業所終了後に、作業所にて過ごせる場所をなんとかお願いしたい。

#### ◆災害時の対応（6件）

- ・災害時の障害ごとの対応をもっと深めてほしい。
- ・吉祥寺東町は、防災無線が反響して、何を言っているのか聞きとる事が出来ない。
- ・障害者福祉は積極的に他の分野と連携を取り合って欲しい。教育委員会や、防災課など。障害者の防災計画が地域福祉の会が中心になってすすめるだけでは限界がある。

#### ◆その他（11件）

- ・自身の命と向き合う日々で精一杯。
- ・これから年を重ねる内にお世話になる事と思う。元気でいられる間は利用しないが、時期が来たら宜しくお願いしたい。

## 第4章 調査票





## 武蔵野市 障害者福祉についての実態調査

### ～生活支援ニーズ調査～

日頃より武蔵野市の福祉施策にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

この調査は、武蔵野市が実施するもので、調査対象者として令和4年11月1日現在、障害者手帳をお持ちの方や医療費の助成を利用されている方などから無作為で抽出した3,000名の方へ調査票を送付させていただきました。立ち入ったことや、ご自身とは関係ないと思われる内容もあるかと思いますが、お答えいただけるものだけでも結構ですので、ぜひともご協力をお願いいたします。

調査結果は、来年度改定を予定している武蔵野市障害者計画に反映するとともに、皆様が日常生活を送る上で必要になるサービスを検討する資料とします。

なお、本調査票にお名前をお書きいただく必要はございません。また、ご記入いただいた内容はすべて統計的に処理されますので、個々の方のお名前やご回答内容が特定されたり、公表されるようなことは一切ございません。どうぞ率直なご意見、お考えをお聞かせください。

令和4年11月

武蔵野市長 **松下 玲子**

【回答のしかた】 次の2つの方法からいずれか1つを選び回答してください。

1. 調査票（この冊子）に直接記入し郵送（返信用封筒を同封しております。）  
→下記＜調査票記入上の注意事項＞をご覧くださいご記入ください。
2. パソコン・タブレット・スマートフォンでインターネット回答  
→別紙「インターネットによる回答方法」をご覧くださいご回答ください。

#### ＜調査票記入上の注意事項＞

- ◆ 封筒の宛名のご本人がお答えください。ご本人が直接回答することが難しい場合は、家族や介護をする方などが、ご本人の意向を尊重してご回答ください。
- ◆ お答えは、あてはまる答えの番号を○で囲んでください。「その他」にあてはまる場合は、（ ）内になるべく具体的に、その内容をご記入ください。
- ◆ お答えは、設問ごとに（○は1つ）（○はいくつでも）などと指定されていますので、ご確認のうえご回答ください。
- ◆ ご不明の点がございましたら、下記までお問い合わせください。なお、おひとりでの記入が難しい方もご相談ください。また、ルビ付きや、拡大版は障害者福祉課にもご用意がございます。ご希望の方はお申し出ください。

ご記入が済みました調査票は、お手数ですが同封の返信用封筒（切手不要）に入れ、

**12月16日（金）までに** ご投函ください。

#### お問合せ先

武蔵野市 健康福祉部 障害者福祉課 担当：漕上、鈴木

電話：0422-60-1904、1847 FAX：0422-51-9239 E-mail：SEC-SYUGAI@city.musashino.lg.jp

※紙の調査票でご回答いただいた方は、インターネットでご回答いただく必要はございません。

※回答の重複を避けるためにIDを付番しています。個人を特定することはありません。

※両方ご回答いただいた場合、インターネットでの回答が優先されます。

ID:

**1. 回答者についてお聞きします。**

問1 回答されている方はどなたですか。(1つに○)

- |                                   |
|-----------------------------------|
| 1 宛名のご本人が記入                       |
| 2 宛名のご本人に聞きながら家族や支援者などがご本人の代わりに記入 |
| 3 宛名のご本人の意向を考えながら家族や支援者などが記入      |
| 4 その他 ( )                         |

以下、すべての設問中の「あなた」とは、封筒の宛名のご本人です。封筒の宛名のご本人がお答えください。ご本人がお答えになれない場合は、ご家族や支援者の方がご本人のことをお答えください。

**2. あなた（封筒の宛名のご本人）についてお聞きします。**

問2 あなたの年齢、性別、お住まいをお答えください。(それぞれ1つに○)

① 年 齢 (令和4年 11月1日現在)	1 0～5歳	4 30～39歳	7 65～74歳
	2 6～18歳	5 40～49歳	8 75歳以上
	3 19～29歳	6 50～64歳	
② 性 別	1 男性	2 女性	3 その他
③居住地域	1 吉祥寺東町	6 中町	11 境
	2 吉祥寺南町	7 西久保	12 境南町
	3 御殿山	8 緑町	13 桜堤
	4 吉祥寺本町	9 八幡町	14 その他
	5 吉祥寺北町	10 関前	( )

問3 あなたは現在どこで生活していますか。(1つに○)

※週末だけご自宅に戻られている方などは、週のうち一番長く居る場所をお答えください。

- |               |           |           |
|---------------|-----------|-----------|
| 1 持ち家・ご家族の持ち家 | 4 UR都市機構  | 7 病院に入院中  |
| 2 民間の賃貸住宅     | 5 福祉型住宅   | 8 施設に入所中  |
| 3 都営・市営住宅     | 6 グループホーム | 9 その他 ( ) |

問4 あなたはどなたとお住まいですか。(あてはまるものすべてに○)

- |            |                     |
|------------|---------------------|
| 1 ひとり暮らし   | 6 子・子の配偶者(妻・夫)      |
| 2 父母       | 7 孫・孫の配偶者(妻・夫)      |
| 3 祖父母      | 8 施設やグループホームで生活している |
| 4 配偶者(妻・夫) | 9 その他 ( )           |
| 5 兄弟・姉妹    |                     |

問5 あなたが生活するためのお金（収入源）は、次のうちどれですか。

（あてはまるものすべてに○）

1 給与	6 生活保護
2 施設・作業所などの工賃	7 手当
3 障害年金	8 同居家族の収入や仕送り
4 老齢年金	9 その他（ ）
5 事業・財産収入	10 収入なし（今までの貯金を元に生活している）

問6 あなたの世帯全体の令和3（2021）年中の収入額はどのくらいでしたか。（1つに○）

※収入には福祉手当や年金を含め、世帯で同居されている方全体の収入（税金を引かれる前の金額）でお答えください。

1 収入はない	7 300～400万円未満
2 50万円未満	8 400～500万円未満
3 50～100万円未満	9 500～1,000万円未満
4 100～150万円未満	10 1,000万円以上
5 150～200万円未満	11 わからない
6 200～300万円未満	

**3. あなたの状況についてお聞きします。**

問7 あなたは、障害者手帳や愛の手帳をお持ちですか。（1つに○）

1 持っている	2 持っていない ⇒ 問8へ
---------	----------------

▶【問7で「1 持っている」と回答した方にお聞きします。】

問7-1 お持ちの手帳の種類と等級をお答えください。

（あてはまるものすべてに○をつけて記入）

1 身体障害者手帳を持っている	.....	_____級
2 愛の手帳を持っている	.....	_____度 ⇒ 問8へ
3 精神障害者保健福祉手帳を持っている	.....	_____級 ⇒ 問8へ

▶【問7-1で「1 身体障害者手帳を持っている」と回答した方にお聞きします。】

問7-2 障害の種別はどれにあてはまりますか。（あてはまるものすべてに○）

1 視覚
2 聴覚・平衡
3 音声・言語・そしゃく
4 肢体不自由（上肢・下肢・体幹・脳原性運動機能障害）
5 内部（心臓・じん臓・呼吸器・ぼうこうなど）

すべての方にお聞きします。

問8 あなたは、医療費の助成を受けていますか。(1つに○)

※医療費の助成には、自立支援医療、マル障、難病、人工透析、肝炎、小児慢性疾患医療などが含まれます。

- |                |       |          |
|----------------|-------|----------|
| 1 医療費の助成を受けている | 2 申請中 | 3 受けていない |
|----------------|-------|----------|

問9 現在、以下の診断を受けていますか。(あてはまるものすべてに○)

- |           |              |
|-----------|--------------|
| 1 発達障害    | 3 難病・特定疾患    |
| 2 高次脳機能障害 | 4 いずれも受けていない |

問10 あなたは普段の生活の中で、何らかの介助や支援を必要としていますか。(1つに○)

- |      |              |
|------|--------------|
| 1 はい | 2 いいえ ⇒ 問11へ |
|------|--------------|

▶【問10で「1 はい」と回答した方にお聞きします。】

問10-1 介助が必要な場面や、必要な支援の内容は何ですか。

(主にあてはまるもの5つまでに○)

- |                  |                 |
|------------------|-----------------|
| 1 身体介助(入浴・排せつなど) | 8 日常的なコミュニケーション |
| 2 家の中の移動         | 9 薬・服薬の管理       |
| 3 外出(通院を含む)      | 10 お金の管理        |
| 4 日常の買い物         | 11 市役所や事業者との手続き |
| 5 家事(調理、洗濯、掃除)   | 12 その他( )       |
| 6 食事の配食          | 13 特にない         |
| 7 寝具の乾燥・丸洗い      |                 |

▶ 問10-2 主に介助しているのはどなたですか。(1つに○)

- |                  |                  |
|------------------|------------------|
| 1 父母             | 6 孫または孫の配偶者(妻・夫) |
| 2 祖父母            | 7 福祉サービス事業者      |
| 3 兄弟・姉妹          | 8 その他( )         |
| 4 配偶者(妻・夫)       | 9 誰もいない          |
| 5 子または子の配偶者(妻・夫) |                  |

▶ 問10-3 あなたを主に介助・支援している方が、病気のときや外出をしなければならないときなどは、代わりにどなたが介助していますか。(あてはまるものすべてに○)

- |                 |                       |
|-----------------|-----------------------|
| 1 同居している家族      | 5 ホームヘルパー             |
| 2 同居していない家族や親せき | 6 施設に短期間入所して介助・支援を受ける |
| 3 近所の人や友人・知人    | 7 その他( )              |
| 4 ボランティア        | 8 介助・支援してくれる人がいない     |



すべての方にお聞きします。

5. 相談や情報入手についてお聞きします。

問14 日常生活において、何か困っていることがありますか。(1つに○)

1 ある

2 ない ⇒ 問15へ

▶【問14で「1 ある」と回答した方にお聞きします。】

問14-1 困っていることを相談する人はいますか。〔家族や友人を除く〕(1つに○)

1 いる

2 いない ⇒ 問14-4へ

▶【問14-1で「1 いる」と回答した方にお聞きします。】

問14-2 相談相手は、次のうちどれにあたりますか。(主にあてはまるもの3つまでに○)

- |                                      |                         |
|--------------------------------------|-------------------------|
| 1 地域生活支援センターびーと                      | 13 福祉公社                 |
| 2 ライフサポートMEW (サポミュウ)                 | 14 学校の先生                |
| 3 地域活動支援センターコット                      | 15 教育支援センター             |
| 4 市役所                                | 16 こころの健康相談室            |
| 5 障害者福祉センター (ほくと、ゆいっと)               | 17 民生委員                 |
| 6 みどりの子ども館 (ハビット)                    | 18 身体 (知的) 障害者相談員       |
| 7 通っている施設のスタッフ                       | 19 保健所                  |
| 8 相談支援専門員<br>(事業所でサービスの利用計画を立ててくれる人) | 20ペアレントメンターや<br>ピアサポーター |
| 9 医療機関 (医師、看護師、リハビリスタッフなど)           | 21 その他<br>( )           |
| 10 ケアマネジャー                           |                         |
| 11 在宅介護・地域包括支援センター                   |                         |
| 12 ホームヘルパーなど                         |                         |

▶【問14-1で「1 いる」と回答した方にお聞きします。】

問14-3 悩み事や心配事を相談する場合に不便に感じていることがありますか。

(主にあてはまるもの3つまでに○)

- |                      |                  |
|----------------------|------------------|
| 1 相談場所が遠い            | 7 訪問での相談が受けられない  |
| 2 相談する日時が合わない        | 8 じっくり話を聞いてもらえない |
| 3 プライバシーが守られるか不安     | 9 相談先が限られている     |
| 4 相談先の知識不足や対応に不満     | 10 その他<br>( )    |
| 5 実際に支援が始まるまでに時間がかかる |                  |
| 6 実際の支援につながらない       | 11 特にない          |

## 【問14-1で「2 いない」と回答した方にお聞きします。】

問14-4 相談相手がいない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- |                     |                 |
|---------------------|-----------------|
| 1 相談先がわからない         | 4 他人に相談するのが不安   |
| 2 誰にも相談したくない        | 5 その他 ( )       |
| 3 家族や友人以外に相談する必要がある | 6 相談するほどのことでもない |

## すべての方にお聞きします。

問15 市の生活支援に関するサービスの情報は、どこから聞いたり、知ったりしていますか。

(あてはまるものすべてに○)

- |                                      |                                      |
|--------------------------------------|--------------------------------------|
| 1 地域生活支援センターびーと                      | 16 こころの健康相談室                         |
| 2 ライフサポートMEW (サポミュー)                 | 17 民生委員                              |
| 3 地域活動支援センターコット                      | 18 身体(知的)障害者相談員                      |
| 4 市役所                                | 19 保健所                               |
| 5 障害者福祉センター(ほくと、ゆいっと)                | 20 ペアレントメンターやピアサポーター                 |
| 6 みどりのこども館(ハビット)                     | 21 市報                                |
| 7 通っている施設のスタッフ                       | 22 障害者福祉のしおり                         |
| 8 相談支援専門員<br>(事業所でサービスの利用計画を立ててくれる人) | 23 障害者福祉課の広報誌<br>(「つながり」・「こころのつながり」) |
| 9 医療機関(医師、看護師、リハビリスタッフなど)            | 24 市のホームページ                          |
| 10 ケアマネジャー                           | 25 市の公式SNS(Twitter・LINEなど)           |
| 11 在宅介護・地域包括支援センター                   | 26 むさしのFM、武蔵野三鷹ケーブルテレビ               |
| 12 ホームヘルパーなど                         | 27 市公式以外のインターネットやSNS                 |
| 13 福祉公社                              | 28 その他 ( )                           |
| 14 学校の先生                             | 29 特に情報を得ていない                        |
| 15 教育支援センター                          |                                      |

問16 相談でのコミュニケーションや情報取得をするうえで、どのようなことに配慮をしてほしいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- |                            |                      |
|----------------------------|----------------------|
| 1 やさしくゆっくりと話してほしい          | 6 手話・筆談・要約筆記等で伝えてほしい |
| 2 パソコンやタブレット端末を利用しやすくしてほしい | 7 身振りや表情の動きで伝えてほしい   |
| 3 音声情報や文字情報、案内表示を増やしてほしい   | 8 点訳や音訳で対応してほしい      |
| 4 簡単でわかりやすい文章表現にしてほしい ( )  | 9 絵や図で表現してほしい        |
| 5 口元が見えるように話してほしい          | 10 その他               |
|                            | 11 特にない              |

**6. 通園・通学についてお聞きします。**

問17 あなたは現在、保育園や幼稚園、学校へ通園・通学をしていますか。(1つに○)

1 通園・通学している

2 通園・通学していない ⇒ 問18へ

▶【問17で「1 通園・通学している」と回答した方にお聞きします。】

問17-1 あなたの父親、母親の就労状況についてお答えください。(それぞれ1つに○)

【父親の就労状況】	【母親の就労状況】
1 正社員として働いている	1 正社員として働いている
2 パート・アルバイトなどで働いている	2 パート・アルバイトなどで働いている
3 働いていないが、できれば働きたい	3 働いていないが、できれば働きたい
4 働いていないし、その意向もない	4 働いていないし、その意向もない
5 その他 ( )	5 その他 ( )
6 父親はいない	6 母親はいない

▶【問17で「1 通園・通学している」と回答した方にお聞きします。】

問17-2 通園・通学しているところはどこですか。(1つに○)

1 保育園	6 高等学校
2 幼稚園	7 大学
3 小学校・中学校(特別支援学級)	8 専門学校、高等専修学校、各種学校
4 小学校・中学校(通常の学級)	9 職業能力開発校
5 特別支援学校	10 その他 ( )

▶【問17で「1 通園・通学している」と回答した方にお聞きします。】

問17-3 通園・通学する上で困っていることはありますか。(主にあてはまるもの3つまでに○)

1 通うのが大変	7 通常の学級に入れない
2 障害に応じた授業のサポートが不十分	8 教育や療育に関する情報が少ない
3 段差やトイレなどの設備が不十分	9 家族への支援が少ない
4 園内・校内での介助が不十分	10 学校以外の相談先がない
5 生徒や職員の障害への理解が不十分	11 その他 ( )
6 受け入れてくれる学校の数が少ない	12 特に問題はない



【問17で「1 通園・通学している」と回答した方にお聞きします。】

問17-4 日中・放課後・休みの日などに、どんなサービスを利用していますか

①現在の利用状況、②今後の利用意向、③希望する利用回数をお答えください。

(①、②はあてはまるものすべて、③は②の「1」または「2」に○をつけた方)

	①現在、 利用して いるもの	②今後、 利用した いもの	⇒	③希望する 利用回数
(1) 放課後等デイサービス	1	1	⇒	週 __ 回
(2) 日中一時支援	2	2	⇒	週 __ 回
(3) 武蔵野市内のショートステイ 桜はうす・今泉、井の頭はうす、なごみの家(わくらす)	3	3		
(4) 市外のショートステイ	4	4		
(5) 移動支援(ガイドヘルプ)	5	5		
(6) 学童クラブ	6	6		
(7) あそべえ	7	7		
(8) 上記以外の障害者団体の活動	8	8		
(9) 民間の塾や習い事	9	9		
(10) 児童発達支援	10	10		
利用しているものはない(利用したいものはない)	11	11		

すべての方にお聞きします。

7. 仕事の状況や今後の希望についてお聞きします。

問18 あなたは、現在、どのように働いていますか。(1つに○)

- 1 会社員、団体職員などとして働いている
- 2 自営業をしている
- 3 パート、アルバイト、契約社員、派遣社員などとして働いている
- 4 内職をしている
- 5 福祉的就労（就労継続支援・就労移行支援等）を利用している
- 6 その他（ ）

7 働いていない

→ 問18-3へ

▶【問18で「1」から「6」と回答した方にお聞きします。】

問18-1 現在の職場に就職した、または現在の事業所を利用し始めたのは、疾患や障害の診断を受ける後でしたか。(1つに○)

1 診断を受けた後

2 診断を受ける前  
⇒ 問19へ

3 わからない・覚えていない  
⇒ 問19へ

▶【問18-1で「1 診断を受けた後」と回答した方にお聞きします。】

問18-2 就職する際に以下の機関を利用しましたか。(あてはまるものすべてに○)

- |                        |                |
|------------------------|----------------|
| 1 ハローワーク               | 6 通っていた学校      |
| 2 市役所                  | 7 就労移行支援事業所    |
| 3 武蔵野市障害者就労支援センター「あいる」 | 8 その他の福祉施設     |
| 4 障害者就業・生活支援センター       | 9 市内の福祉団体      |
| 5 障害者職業センター            | 10 いずれも利用していない |

▶【問18で「7 働いていない」と回答した方にお聞きします。】

問18-3 あなたは今後、どこかで働いてみたいと思いますか。

(主にあてはまるもの3つまでに○)

- 1 会社員、団体職員などとして働いてみたい
- 2 自営業をしてみたい
- 3 パート、アルバイト、契約社員、派遣社員などとして働いてみたい
- 4 内職をしてみたい
- 5 福祉的就労（就労継続支援・就労移行支援等）を利用してみたい

→ 問18-4へ

6 働きたいとは思わない

7 その他（ ）

→ 問19へ

8 わからない



**8. 災害時の対応についてお聞きします。**

問20 市の災害時要援護者対策事業に登録していますか。(1つに○)

- |          |       |           |         |
|----------|-------|-----------|---------|
| 1 登録している | 2 申請中 | 3 登録していない | 4 わからない |
|----------|-------|-----------|---------|

※災害時要援護者対策事業については同封した別紙をご覧ください。

問21 もし、大地震などの災害が発生した場合、困ることや不安なことはありますか。

(あてはまるものすべてに○)

- |                                  |
|----------------------------------|
| 1 被害の状況を知る方法がない                  |
| 2 助けを求める方法がない                    |
| 3 近くに助けてくれる人がいない                 |
| 4 医療機器(人工呼吸器や吸引器)などが作動するか不安がある   |
| 5 薬や必要な医療的ケアが受けられるかどうか不安がある      |
| 6 できるだけ自宅で避難したいが一人では不安がある        |
| 7 できるだけ自宅で避難したいが災害情報が入手できるか不安がある |
| 8 できるだけ自宅で避難したいが水や食料が入手できるか不安がある |
| 9 避難所に避難したいが一人では避難できない           |
| 10 避難所の設備や、必要な支援が受けられるか不安がある     |
| 11 避難所でほかの人と一緒に過ごすことに不安がある       |
| 12 どの避難所に行ったら良いかわからない            |
| 13 その他( )                        |
| 14 特になし                          |

**9. 外出の状況についてお聞きします。**

問22 あなたは、普段、どのくらい外出していますか。(1つに○)

- |          |                    |
|----------|--------------------|
| 1 ほぼ毎日   | 4 ほとんど外出しない ⇒ 問23へ |
| 2 週に1回以上 |                    |
| 3 月に1回以上 |                    |

▶【問22で「1」から「3」と回答した方にお聞きします。】

問22-1 外出する時に利用する移動手段は次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

- |        |        |           |              |
|--------|--------|-----------|--------------|
| 1 徒歩   | 4 ムーバス | 7 タクシー    | 10 車いす・電動車いす |
| 2 自転車  | 5 路線バス | 8 リフトタクシー | 11 その他       |
| 3 自家用車 | 6 電車   | 9 レモンキャブ  | ( )          |

## すべての方にお聞きします。

### 10. 趣味の活動や地域の活動についてお聞きします。

問23 あなたは現在、趣味などの活動に参加していますか。(1つに○)

1 参加している ⇒ 問24へ

2 参加していない

【問23で「2 参加していない」と回答した方にお聞きします。】

問23-1 参加していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- |                |                       |
|----------------|-----------------------|
| 1 参加したい活動がない   | 7 一人では参加しにくい          |
| 2 介助者がいない      | 8 健康状態、障害の状況のため参加できない |
| 3 参加の仕方がわからない  | 9 どのような活動があるのかわからない   |
| 4 経済的に余裕がない    | 10 仕事や家事・育児が忙しく時間がない  |
| 5 参加するきっかけがない  | 11 年齢的に参加するのが難しい      |
| 6 新しい場所に行くのが不安 | 12 その他 ( )            |

## すべての方にお聞きします。

問24 あなたは、特に用事のないときの過ごし方に満足していますか。(1つに○)

1 満足している

3 あまり満足していない

2 ある程度満足している

4 満足していない

問25 あなたが参加したい活動(現在参加している活動も含む)はありますか。

(あてはまるものすべてに○)

- |                    |                               |
|--------------------|-------------------------------|
| 1 スポーツ(水泳、ハイキングなど) | 6 教養講座(カルチャースクール、大学の社会人用講座など) |
| 2 音楽(合唱、楽器演奏など)    | 7 パソコン講習                      |
| 3 美術(絵画、陶芸、染物など)   | 8 ボランティア活動(福祉、環境保護、教育など)      |
| 4 料理教室             | 9 その他 ( )                     |
| 5 英会話教室            | 10 参加したい活動はない                 |

## 第4章 調査票

問26 あなたは、直近の6ヶ月間で、次の人たちとどのぐらい話をしていますか。  
(それぞれ1つに○)

	よく話す	ときどき話す	ほとんど話さない	話す機会がない
① 家族	1	2	3	4
② 学校や職場、施設の人	1	2	3	4
③ 友人・知人	1	2	3	4
④ 近所の人、地域の人	1	2	3	4
⑤ SNS・インターネット	1	2	3	4

### 11. サービスの利用等についてお聞きします。

問27 あなたは現在、障害福祉サービスを利用していますか。(あてはまるものすべてに○)

1 居宅介護(ホームヘルプ)	14 就労移行支援
2 重度訪問介護	15 就労移行支援(養成施設)
3 行動援護	16 就労継続支援A型
4 同行援護	17 就労継続支援B型
5 療養介護	18 就労定着支援
6 生活介護	19 計画相談支援
7 短期入所(ショートステイ)	20 地域移行支援
8 施設入所支援	21 地域定着支援
9 共同生活援助(グループホーム)	22 児童発達支援
10 宿泊型自立訓練	23 医療型児童発達支援
11 自立生活援助	24 放課後等デイサービス
12 自立訓練(機能訓練)	25 移動支援(ガイドヘルプ)
13 自立訓練(生活訓練)	26 日中一時支援
	27 利用していない

### 利用されているサービスを確認する方法は？

- ・お持ちの「障害福祉サービス受給者証」の「サービス種別」の欄に記載されています。

The image shows a sample of a '障害福祉サービス受給者証' (Disability Welfare Service Beneficiary Certificate) and a table of service details. The certificate has fields for recipient information and service details. The table lists service types, support levels, and payment periods.

(一) 障害福祉サービス受給者証		(二) 介護給付費の支給決定内容	
受給者証番号		障害支援区分	
所在地		サービス種別	
氏名		支給量等	
生年月日		サービス種別	
氏名		支給量等	
生年月日		サービス種別	
障害種別		支給量等	
交付年月日		サービス種別	
		支給量等	
		支給決定期間	
		手続欄	

問28 障害福祉サービスを利用した際、または利用しようとした際に、困ったり、不便だと思うことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

1 サービスに関する情報が少ない	9 サービスの質に不満がある
2 何が利用できるのかわからない	10 自分に合う事業所が見つからない
3 利用したい内容のサービスがない	11 事業所に要望を伝えづらい
4 サービスが障害の特性に合っていない	12 事業所の担当者が代わってしまう
5 サービスの利用方法がわかりづらい	13 経済的負担が大きい
6 サービスを利用するための手続きが大変	14 他人を家に入れることに抵抗がある
7 利用できる回数や日数が少ない	15 その他 ( )
8 事業所との利用日時などの調整が大変	16 特になし

**12. 感染症拡大における影響についてお聞きします。**

問29 あなたは、新型コロナウイルス感染症拡大により、感染症拡大前(2020年2月以前)と比べ、以下の時期に生活や行動に次のような変化がありましたか。(それぞれ1つに○)

	感染拡大期 (緊急事態宣言下)	現在 (感染予防対策期)
① 障害福祉サービスの利用	<input type="checkbox"/> コロナ前と比べて… 1 増えた 2 変わらない 3 減った	<input type="checkbox"/> コロナ前と比べて… 1 増えた 2 変わらない 3 減った
② ほかに人とのコミュニケーション	<input type="checkbox"/> コロナ前と比べて… 1 増えた 2 変わらない 3 減った	<input type="checkbox"/> コロナ前と比べて… 1 増えた 2 変わらない 3 減った
③ 仕事や収入	<input type="checkbox"/> コロナ前と比べて… 1 増えた 2 変わらない 3 減った	<input type="checkbox"/> コロナ前と比べて… 1 増えた 2 変わらない 3 減った
④ ほかに人にしたい相談ごと・困りごと	<input type="checkbox"/> コロナ前と比べて… 1 増えた 2 変わらない 3 減った	<input type="checkbox"/> コロナ前と比べて… 1 増えた 2 変わらない 3 減った

問30 新型コロナウイルス感染症が流行したときに、あなたの生活で経験したことを教えてください。(あてはまるものすべてに○)

- |    |                                    |
|----|------------------------------------|
| 1  | いつも利用している障害福祉サービスが思うように受けられなかった    |
| 2  | 外出が制限され、ストレスがたまった                  |
| 3  | マスクや手指の消毒など、感染症対策に対応することがむずかしかった   |
| 4  | 病院を受診することができなかった                   |
| 5  | 地域の行事や、趣味の活動ができなくなってしまった           |
| 6  | いつもと違う生活パターンに対応しなければならなかった         |
| 7  | ワクチン接種や病気の予防について、正確な情報を知りたかった      |
| 8  | 新型コロナウイルスに感染するのではないかと不安があった        |
| 9  | 仕事や作業が減って、収入が減った                   |
| 10 | 家族が新型コロナウイルスに感染して、看病などをしなければならなかった |
| 11 | 自分が新型コロナウイルスに感染した                  |
| 12 | オンラインのイベントなどに参加するようになった            |
| 13 | 外出しなくてもよくなったので、気が楽になった             |
| 14 | その他 ( )                            |
| 15 | 特にない                               |

問31 新型コロナウイルス感染症に関する情報をどこから知りましたか。(あてはまるものすべてに○)

- |   |                         |    |                 |
|---|-------------------------|----|-----------------|
| 1 | 市のホームページ                | 8  | ラジオ             |
| 2 | 市以外の公的機関のホームページ         | 9  | ニュースサイト、ニュースアプリ |
| 3 | 市報、つながりなどの市が発行する印刷物     | 10 | 家族や友達、友人から      |
| 4 | テレビ                     | 11 | 公的機関の相談窓口       |
| 5 | 新聞                      | 12 | かかりつけ医等の医療機関    |
| 6 | 市の公式SNS (LINE、Twitter等) | 13 | その他 ( )         |
| 7 | 市以外のSNS (LINE、Twitter等) | 14 | 特に情報を得ていない      |



## 13. 障害者差別についてお聞きします。

問32 あなたは、障害者差別解消法を知っていますか。(1つに○)

- |         |            |        |
|---------|------------|--------|
| 1 知っている | 2 聞いたことはある | 3 知らない |
|---------|------------|--------|

## 障害者差別解消法とは？

- ・ 障害を理由とする差別の解消を推進するための法律です。平成28年4月1日から施行されました。
- ・ この法律は、国や市町村、会社やお店などの事業者に対して、正当な理由なく、障害を理由として差別することを禁止しています。
- ・ また、障害のある人が何らかの対応を求めているときに、負担が重すぎない範囲で対応することを求めています。(このような対応を「合理的配慮」と言います)

問33 日常生活で合理的配慮が不十分だと感じた場面はありますか。

(あてはまるものすべてに○)

- |                 |                         |
|-----------------|-------------------------|
| 1 仕事や職場         | 7 医療・福祉サービスにおいて         |
| 2 公共交通機関を利用するとき | 8 学校、教育現場において           |
| 3 買い物や店舗を利用するとき | 9 Webサイト上やオンラインでの対応において |
| 4 公共施設を利用するとき   | 10 その他( )               |
| 5 住む家を探すとき      | 11 不十分と感じたことはない⇒ 問34へ   |
| 6 災害時において       |                         |

→【問33で「1」から「10」と回答した方にお聞きします。】

問33-1 合理的配慮が不十分だと感じたとき、どこかに相談をしましたか。

(家族や友人を除く)(1つに○)

- |                   |
|-------------------|
| 1 相談した ⇒ 問34へ     |
| 2 相談したかったが、できなかった |
| 3 相談しようと思わなかった    |

→【問33-1で「2」または「3」と回答した方にお聞きします。】

問33-2 どこにも相談しなかった(できなかった)のは、なぜですか。

(あてはまるものすべてに○)

- |                     |                     |
|---------------------|---------------------|
| 1 相談するほどのことではないと思った | 5 相談したことで仕返しされそうだった |
| 2 相談すべきことかがわからなかった  | 6 自分が我慢すればいいことだと思った |
| 3 相談する人がいなかった       | 7 その他( )            |
| 4 相談しても無駄だと思った      |                     |

**14. 武蔵野市地域自立支援協議会の活動についてお聞きします。**

問34 武蔵野市地域自立支援協議会について知っていますか。(1つに○)

- |         |        |
|---------|--------|
| 1 知っている | 2 知らない |
|---------|--------|

問35 あなたは、武蔵野市地域自立支援協議会の活動に参加してみたいと思いますか。  
(1つに○)

- |               |                   |
|---------------|-------------------|
| 1 当事者として参加したい | 3 参加・傍聴してみたいができない |
| 2 傍聴してみたい     | 4 特に参加したくない       |

**武蔵野市地域自立支援協議会とは？**

- ・ 障害のある方々が地域で自立した生活を送ることができるよう、相談支援事業をはじめとする地域の障害福祉に関するシステムづくりに関して中核的な役割を果たす協議の場です。
- ・ 全体を取りまとめる「親会」と、「地域生活支援拠点」「地域移行」「差別解消」「コロナ対応」「障害当事者」の各専門部会を設け、各部会で立てた年度計画に基づく様々な活動がなされています。

**「地域生活支援拠点部会」**

→武蔵野市で生活する障害のある方を支援するための拠点について話し合います。

**「地域移行部会」**

→長期入院されている方が武蔵野市に戻り、暮らしやすいような仕組みを考えます。

**「差別解消部会」**

→普段利用する公共交通機関などに差別解消等の啓発を行います。

**「コロナ対応部会」**

→新型コロナウイルスの感染拡大に対して工夫して対応したことを踏まえ、今後活かしていけることを話し合います。

**「障害当事者部会」**

→障害のある方からの視点で武蔵野市の課題をみつけます。

**15. 人々とのつながりについてお聞きします。**

問36 自分には人との付き合いがないと感じることがありますか。(1つに○)

- |         |          |        |        |
|---------|----------|--------|--------|
| 1 決してない | 2 ほとんどない | 3 時々ある | 4 常にある |
|---------|----------|--------|--------|

問37 自分は取り残されていると感じることがありますか。(1つに○)

- |         |          |        |        |
|---------|----------|--------|--------|
| 1 決してない | 2 ほとんどない | 3 時々ある | 4 常にある |
|---------|----------|--------|--------|

問38 自分は他の人たちから孤立していると感じることがありますか。(1つに○)

- |         |          |        |        |
|---------|----------|--------|--------|
| 1 決してない | 2 ほとんどない | 3 時々ある | 4 常にある |
|---------|----------|--------|--------|

## 16. 今後のことについてお聞きします。

問39 あなたは、成年後見制度を知っていますか。(1つに○)

- |         |            |        |
|---------|------------|--------|
| 1 知っている | 2 聞いたことはある | 3 知らない |
|---------|------------|--------|

※成年後見制度については同封した別紙をご覧ください。

問40 あなたは、将来どのように暮らしたいと考えていますか。(1つに○)

- |                 |              |
|-----------------|--------------|
| 1 独立して暮らしたい     | 4 入所施設で暮らしたい |
| 2 家族と一緒に暮らしたい   | 5 その他 ( )    |
| 3 グループホームで暮らしたい | 6 わからない      |

問41 あなたは、武蔵野市での暮らしに満足していますか。(1つに○)

- |             |              |
|-------------|--------------|
| 1 とても満足している | 3 あまり満足していない |
| 2 まあ満足している  | 4 満足していない    |

問42 今後、武蔵野市の障害者福祉は、特にどのようなことを充実させていけばよいと思いますか。(主にあてはまるもの3つまで○)

- |  |
|--|
| 1 住宅の整備、住宅探しの支援（グループホーム、住宅相談など）                                  |
| 2 日中の居場所の確保（大人のための）  |
| 3 趣味の活動の支援（障害者福祉センターの講習会、障害者団体の活動支援など）                           |
| 4 未就学児への支援   |
| 5 小中高生の放課後・休日に利用できるサービス<br>（放課後等デイサービス、日中一時支援、ショートステイ、ガイドヘルパーなど） |
| 6 発達障害のある方への支援   |
| 7 就労支援   |
| 8 いつでも気軽に相談できる窓口の充実  |
| 9 独立して暮らすための支援や相談窓口の充実   |
| 10 ライフステージを通じた相談ができる窓口の充実  |
| 11 障害や疾病に対する理解を深めるための啓発活動  |
| 12 障害のある方が利用しやすい移動手段の整備（リフトタクシー、レモンキャブ、ムーバスなど）                   |
| 13 地震や台風など災害時の支援体制の整備  |
| 14 疾病予防など健康づくりのための講習会などの開催                                       |
| 15 その他 ( )   |
| 16 特にない  |
| 17 わからない   |

問43 武蔵野市の障害者福祉に対するご意見・ご要望がございましたらお書きください。

記入いただいたご意見・ご要望を公開してもよろしいですか。(どちらかに○)

( 1 公開してもよい / 2 公開しないでほしい )

アンケートは以上です。ご回答いただきまして、ありがとうございました。

返信用封筒に入れ、**12月16日(金)までに** 郵便ポストに入れてください。

紙の調査票でご回答いただいた方は、インターネットでご回答いただく必要はございません

武蔵野市障害者計画・第7期障害福祉計画策定のための  
武蔵野市障害者福祉についての実態調査  
報告書

令和5年3月

【編集・発行】武蔵野市 健康福祉部 障害者福祉課  
〒180-8777 武蔵野市緑町2-2-28  
☎ 0422 (60) 1904, 1847